

# 防災総合センター一年報

第4号

Annual Report of  
Center for Integrated Research and Education of  
Natural hazards, Shizuoka University

No.4, July 2016

2016年7月

静岡大学防災総合センター



## 目 次

1 センターの概要	1
1.1 設立趣旨と沿革	1
1.2 組織及びメンバー	2
2 研究成果	5
2.1 個人研究成果	5
2.2 研究業績リスト	48
2.2.1 著書	48
2.2.2 学術論文	50
2.2.3 学会口頭発表	66
2.2.4 その他の著作物	93
2.2.5 受賞	98
2.2.6 特許等	99
3 学内教育活動	100
3.1 新入生セミナー	100
3.2 全学教育科目「地震防災」	101
3.3 全学教育科目「地域社会と災害」	102
3.4 全学教育科目「地球科学」	103
3.5 全学教育科目「社会資本マネジメント論」	104
3.6 全学教育科目「公共施設デザイン論」	105
3.7 全学教育科目「リスクコミュニケーション」	106
3.8 大学院総合科学技術研究科共通科目「津波工学特論」	107
3.9 大学院総合科学技術研究科共通科目「災害情報学特論」	108
3.10 静岡大学防災マイスター称号制度(静岡地区)	109
3.11 静岡大学防災マイスター称号制度(浜松地区)	111
4 プロジェクト・関連行事	113
4.1 「ふじのくに防災フェロー養成事業」	113
4.1.1 事業の概要	113
4.1.2 受講生の活動成果	120
(1)研究業績	133
(2)社会的活動	135

4.1.3 シンポジウム	141
4.2 自然災害科学中部地区研究集会	142
4.3 しずおか防災コンソーシアム・ふじのくに防災学講座	143
4.4 東海圏減災研究コンソーシアム	145
5 社会的活動	148
5.1 外部・公開講演会等	148
5.2 マスメディア・新聞等への掲載	183
5.3 公的な委員会等	223
5.4 学会活動	231

# 1 センターの概要

## 1.1 設立趣旨と沿革

静岡大学防災総合センターは、全学組織のひとつとして2008年7月に設置され、学内共同教育研究施設のひとつとして位置づけられている。防災総合センター設置の目的は、地域連携を通じ、静岡大学における防災教育を多面的に展開させるとともに、防災科学研究、災害時の危機管理能力を組織的に発展させ、地域の防災体制の向上に資することである。

東海地震の発生可能性が指摘されて以来、静岡大学は防災体制構築への先進的な取り組みを続けてきた。1980年代に大学内の建物の耐震診断をおこなって耐震工事を実施するとともに、全学防災対策委員会の下に地震対策検討部会を設置し、地震発生時の詳細な対応策を決定した。

さらに、防災教育の充実を目指して、2004年度から学外講師も含めた十数名の教員が担当する講義「地震防災」を開講するとともに、1年生全員の必修科目である「新入生セミナー」の中で防災の基礎知識と心得に関する講演を行うようになった。この背景には、静岡大学内の各部局に防災と密接に関係する研究テーマをもつ教員が徐々に増えてきたことがある。もともと地震防災は理学だけにとどまらず、工学、情報科学、人文・社会科学、医学などの幅広い分野にわたる総合科学の側面をもっていたからである。こうした教員たちは、各自の分野における防災研究・教育を推進するだけでなく、防災施策の検討を目的とした国や自治体の委員を委嘱されることによって、防災行政にも深く関わるようになった。また、地域社会からの講師派遣要請にも、個別的にはあるが積極的に貢献してきた。

このような防災研究・教育・地域連携の活動実績を背景として、静岡大学は、静岡県防災局（現・静岡県危機管理部）との協力の下に、文部科学省の特別教育研究経費（初年度は特殊要因経費）に「防災教育の地域連携を通じた多面的展開と拡充」を申請した結果、2008年度から4年間にわたる交付が認められることになった。そして、この経費を最大限活用しつつ、これまで各学部・各教員が個別におこなってきた防災研究・教育・地域連携活動を有機的・組織的に結びつけ、より高次かつ困難な地域防災課題の解決に取り組むために設立されたのが、静岡大学防災総合センターである。

本センターでは、2008年11月に1名、2009年に1名の計2名の専任教員を迎えるとともに、学内併任教員、学外客員教員を拡充し、防災研究・教育・地域連携に取り組んでいる。2010年には文部科学省の科学技術振興調整費による地域再生人材創出拠点の形成事業「災害科学的基礎を持った防災実務者の養成」に採択され、静岡県と協働し「ふじのくに防災フェロー養成講座」を開講した。2011年4月には大学会館内に研究室、事務室、セミナー室を集約し活動拠点も整備された。2015年4月からは、浜松地区における防災教育の拡充および東海圏国立大学の防災関係センター等の連携強化を目的として、総合科学技術研究科工学専攻が主担当の特任教員1名を採用した。また同月からは地域創造学環を主担当で当センターの専任となる教員1名を採用している。

## 1.2 組織及びメンバー

2016年4月現在の当センターメンバーは下記の通りである。

### センター長

増田俊明 (理学領域教授、構造岩石学・地球進化学)

### 副センター長

牛山素行 (専任教員、融合・グローバル領域防災総合センター教授、自然災害科学、災害情報学、豪雨災害)

小山真人 (教育学領域教授、火山学、地質学、地球物理学、地震・火山防災他)

前田恭伸 (工学領域教授、リスクアナリシス)

### 専任教員

原田賢治 (専任教員、融合・グローバル領域防災総合センター准教授、津波工学、津波防災、海岸工学、水工学)

### 副担当教員 (静岡大学内他組織所属で当センターに協力している教員)

土屋 智 (研究部門長：農学領域教授、山地水文学、土砂移動学)

村越 真 (教育部門長：教育学領域教授、統計法、リスク認知、防災教育)

川瀬憲子 (人文社会科学領域教授、地域研究)

寺村 泰 (人文社会科学領域教授、経済政策)

水谷洋一 (人文社会科学領域教授、財政・公共政策)

池田恵子 (教育学領域教授、社会地理学)

小林朋子 (教育学領域教授、学校心理学、被災者の心のケア)

岩崎一孝 (情報学領域教授、気候学、自然地理学、地理情報システム)

佐治 斉 (情報学領域教授、画像処理、交通情報解析)

西原 純 (情報学領域教授、地理学)

北村晃寿 (理学領域教授、津波堆積学、古地震の研究)

森下祐一 (理学領域教授、岩石・鉱物・鉱床学)

安村 基 (農学領域教授、木質構造学)

古橋裕子 (融合・グローバル領域保健センター教授、精神科医)

山本裕之 (融合・グローバル領域保健センター教授、代謝学、内分泌学、公衆衛生学、健康科学)

岩田孝仁 (融合グローバル領域地域創造学環教授、地方行政学 (防災))

藤井基貴 (教育学領域准教授、教育哲学、道徳教育)

橋本 岳 (工学領域准教授、画像計測工学、災害予兆検知)

今泉文寿 (農学領域准教授、砂防工学)  
生田領野 (理学領域准教授、測地学、地震学)  
石橋秀巳 (理学領域准教授、火山岩石学、実験マグマ学)  
木村浩之 (グリーン科学技術研究所准教授、地球微生物学)  
小杉素子 (総合科学技術研究科工学専攻特任准教授、社会心理学)  
井ノ口宗成 (融合・グローバル領域情報学部講師、社会・安全システム科学、社会システム工学・安全システム)  
池田昌之 (理学領域助教、層序学、堆積学)  
三井雄太 (理学領域助教、地震学、測地学)

客員教員 (他大学等所属で当センターに協力いただいている教員)

安藤雅孝 (客員教授、地震学、固体地球物理学)  
石井輝秋 (客員教授、海洋底地質、火山岩)  
石川有三 (客員教授、固体地球内部物理学、地震学)  
伊藤 潔 (客員教授、地震学、固体地球物理学)  
伊藤谷生 (客員教授、構造地質学、変動地形学、地震探査学)  
岩松 暉 (客員教授、応用地質学、自然災害科学、情報地質学)  
鶴川元雄 (客員教授、火山学、地球物理学、地震学)  
大谷栄治 (客員教授、高压地球科学、鉱物物理学)  
小澤邦雄 (客員教授、地震防災)  
笠原順三 (客員教授、地震学、地震探査、地球物理学、物理探査学他)  
風間 聡 (客員教授、水文学、河川工学、水資源学)  
片田敏孝 (客員教授、災害社会工学)  
狩野謙一 (客員教授、地質学、地質図学、地質調査法)  
柄谷友香 (客員教授、防災計画、リスク・コミュニケーション)  
唐戸俊一郎 (客員教授、地球科学、地球内部構造)  
吉川肇子 (客員教授、組織心理学、社会心理学)  
近藤昭彦 (客員教授、地理学、水文学、環境学)  
佐藤 健 (客員教授、建築構造工学、地震工学、自然災害科学、安全教育学)  
鈴木清史 (客員教授、文化人類学)  
武村雅之 (客員教授、地震学)  
千木良雅弘 (客員教授、地すべり)  
中川和之 (客員教授、災害報道、市民防災、災害救援)  
野津憲治 (客員教授、地震化学、火山化学、地球化学)  
林 拙郎 (客員教授、土砂災害、発生予測、豪雨災害、自然災害)  
林 能成 (客員教授、地震学、地震防災)

藤井直之 (客員教授、固体地球惑星物理学、火山物理学)  
増澤武弘 (客員教授、植物生態学、植生学、環境科学)  
安田 清 (客員教授、整形外科、災害医療)  
山岡泰治 (客員教授、地域医療、放射線管理)  
矢守克也 (客員教授、防災心理学、社会心理学、災害社会学、防災教育学)  
吉田明夫 (客員教授、地震学)  
吉野篤人 (客員教授、救急医学、災害医療)  
渡辺俊樹 (客員教授、構造地質学、変動地形学、地震探査)  
菅原大助 (客員准教授、地質学、堆積学)  
秦 康範 (客員准教授、災害軽減工学)  
廣井 悠 (客員准教授、都市防災、都市工学)  
本間基寛 (客員准教授、災害情報学)  
山田和芳 (客員准教授、湖沼堆積学)

#### 学術研究員

大森康智

#### 特任事務職員

松村元喜

#### パート事務職員

鈴木あゆみ

中村恵美

三浦千恵子

宮城島小百合



## 2 研究成果

### 2.1 個人研究成果

防災総合センターには2016年4月時点で2名の専任教員が所属しているが、広範な課題に対応する防災の分野を2名でカバーすることは極めて困難である。このため当センターでは、多数の学内外研究者を特任教員，兼務教員（現・副担当），客員教員というメンバーとして迎え入れ，研究・教育活動のいっそうの充実を図っている。2016年4月現在で，副担当教員，客員教員の総数は67名を数え，学内の全領域に少なくとも1名の副担当教員が所在するほか，東北地方～九州地方に渡る全国の大学・研究機関から38名の研究者に客員教員として当センターの活動に加わっていただいている。

本節では，これら当センター関係教員による最近の研究活動のトピックスを紹介する。いずれも日本の防災関係研究分野の第一人者であり，さまざまなユニークな取り組みが行われているところである。なお，論文等の研究業績は，2.2節を参照されたい。



写真 2-1 防災総合センター関係者  
(静岡県三島市で実施した研究会にて，2015年11月28日)

**教員名：増田俊明**

**所 属：副担当・学術院理学領域教授**

いつものように2年に一回の「年報」なので、2年分の当センターの変化をお知らせします。

平成26年度には、浜松キャンパスに小杉素子先生が赴任されました。所属は工学部ですが、防災総合センターの業務も半分やっただいております。

平成27年度には、それまで県庁のパートナーだった岩田孝仁さん（元静岡県危機管理監）が当センターの教員として加わりました。つまり、あっちの方からこっちの方に移った、ということです。この変化に連動して、いろいろなことが起こりましたが、あまりにわかりにくいので省略します。

また、年度末に浜松キャンパスの情報学部から井ノ口宗成先生も副担当教員として加わりました。グッドニュースです。

防災マイスター制度について、ようやく良いお知らせができます。防災マイスター制度（12単位）は、これまで静岡キャンパスだけで行われてきましたが、平成28年度からは浜松キャンパスでも、工学部と情報学部の学生を対象として行われます。ずっと中途半端でしたが、やっと一人前になりました。関係各方面の方々の連係プレーの賜物です。

このセンターは、少しずつ成長しているみたいです。

**教員名：牛山素行**

**所 属：専任教授**

自然災害科学および災害情報学を専門としています。豪雨・津波を中心に各地の災害時の現地調査に取り組み、災害情報の伝達や避難行動などの調査研究を行っています。

#### ●豪雨・津波災害による人的被害の研究

豪雨災害による犠牲者が、どのような状況で亡くなられたのかを分類する研究を進めています。一般的なイメージと実態が異なっていることを明らかにしつつあります。

##### 【主な成果】

牛山素行・本間基寛・横幕早季・杉村晃一:三陸地方における東北地方太平洋沖地震による津波犠牲者率と素因の関係, 自然災害科学, Vol.33, No.3, pp.233-248, 2014.

牛山素行・横幕早季:2014年8月広島豪雨による犠牲者の特徴, 自然災害科学, Vol.34, 特別号, pp.47-59, 2015.

牛山素行:平成27年9月関東・東北豪雨による犠牲者の特徴,土木学会論文集 B1(水工学),Vol.72,No.4,pp.I\_1297-I\_1302,2016.

#### ●避難・災害意識などの研究

豪雨災害や津波災害による被害を受けた地域などを対象に、避難行動や災害危険度認知、防災気象情報に対する考え方などについての調査を継続的に行っています。

##### 【主な成果】

牛山素行:大雨特別警報に対する洪水浸水想定区域付近の住民の認識, 自然災害科学, Vol.33, 特別号, pp.75-86, 2014.

清水修二・牛山素行:災害情報面から見た近年の市区町村防災体制の変化について, 平成26年度自然災害科学中部地区研究集会,pp.38-39,2015年3月7日.

#### ●災害情報の利活用に関する基礎的調査

災害情報と実際の被害の関係、災害情報の防災面への活用手法、災害と報道に関する基礎的調査などを進めています。

##### 【主な成果】

向井利明・牛山素行:記録的短時間大雨情報と災害との関係について, 日本災害情報学会第16回研究発表大会予稿集,pp.104-105,2014年10月26日.

塩崎竜哉・牛山素行:電話通報数に基づく災害危険度の推定—2014年広島豪雨災害事例による検証, 日本災害情報学会第16回研究発表大会予稿集,pp.208-209,2015年10月25日.

日下純・牛山素行:県域FM局における災害時の放送内容に関する事例調査, 平成27年度自然災害科学中部地区研究集会予稿集,pp.18-19,2016年3月5日.

教員名：小山真人

所 属：副担当・学術院教育学領域教授・地域創造学環教授

静岡県周辺ならびに他地域の火山噴火史、地震活動史、地震火山防災、リスク情報の伝達・教育普及、ジオパークによる地域社会の活性化と防災基盤強化などに関する研究を進めています。また、東日本大震災以降は、火山灰の拡散過程についての知識を生かした静岡県周辺地域への放射性微粒子の拡散・汚染状況についての調査研究、低頻度巨大災害リスクの定量評価と行政の意思決定方策に関する考察、噴火史研究の成果を活かした伊豆大島の土砂災害のメカニズムや歴史についての研究、箱根火山の噴火シナリオ作成と噴火リスク認知についての研究なども進めています。

こうした研究活動の一方で、静岡県防災・原子力学術会議 地震・火山対策分科会委員、富士山火山防災対策協議会委員、伊豆東部火山群防災協議会委員として、地域の火山防災体制確立のための助言活動に精力的に取り組んでいます。また、静岡県と伊豆半島7市8町が進める伊豆半島ジオパークの顧問をつとめ、活動の基本理念である「伊豆半島ジオパーク構想指針書」を書き上げるとともに、2012年9月の伊豆半島ジオパークの国内認定、2014年9月の世界ジオパーク認定候補への推薦決定などに貢献しています。

以上の作業と並行して、研究成果を一般市民にわかりやすい形で伝える書籍・資料を多数執筆するとともに、多数の講演会・公開講座の講師をつとめています。2012年4月から2015年3月までの3年間は静岡大学教育学部附属浜松小学校の校長も併任し、児童・保護者と地域社会に対して自然現象や自然災害についてのわかりやすい解説を機会あるたびに実施しました。詳しい教育・研究・地域貢献活動の全貌については、研究室のWebサイト（以下、あるいは「小山研究室」で検索）をご覧ください。

[http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/koyama/public\\_html/](http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/koyama/public_html/)

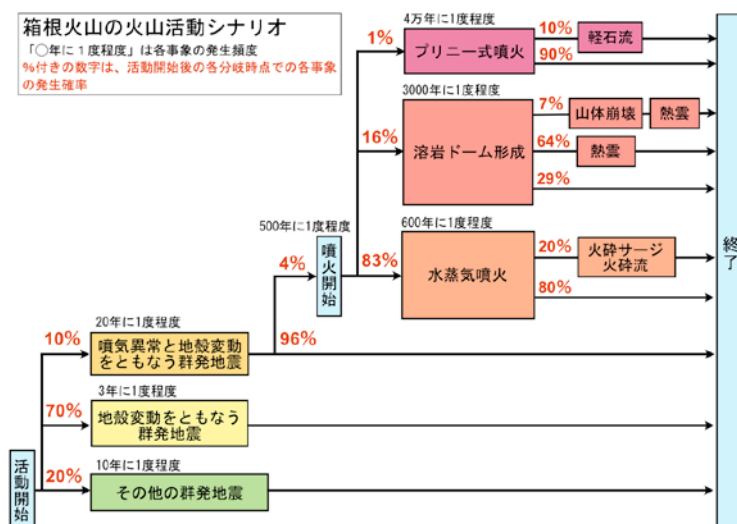


図 2-2 2015年6月に作成・公表した箱根火山の噴火シナリオ

**教員名：前田恭伸**

**所 属：副担当・学術院工学領域教授**

研究室での研究活動としては、主にリスク対応への ICT の活用について研究を進めています。ひとつは、浜松周辺地域での Twitter 情報と Google Map の組み合わせに関する研究、二つ目は、東日本大震災の被災地復興のシミュレーション、三つ目は、文書データベースをもとに新たに起こりうるリスクの推定を支援するリスクパスファインダーの研究、四つ目はバングラデシュにおける救急医療を支援する情報システムについての研究、五つ目は浜岡原子力発電所で事故が起こったと仮定した場合の放射性降下物シミュレーションです。これらの成果は、日本リスク研究学会、日本原子力学会などで発表を行ってきました。

もうひとつの研究として、日本リスク研究学会の東日本大震災調査特別委員会として、震災後のわが国に残されたリスクに関する研究を進めてきました。この成果は二つの報告書にまとめられるとともに、一般の人々向けのメッセージとしてもリリースされました。これらの成果は下記の学会ホームページからダウンロードできるようになっています。

<http://www.sra-japan.jp/cms/modules/wordpress1/>

**教員名：原田賢治**

**所 属：専任准教授**

津波の災害現象や防災対策についての研究を行っています。津波数値シミュレーションや現地調査、実験などにより災害現象の理解と対策効果の評価検討について研究を進めています。現在、津波堆積物の形成過程を明らかにするために、実験水路を用いた陸上部への津波堆積物形成過程の再現実験の検討を進めています。津波堆積物は海底や海岸の砂等が津波の流体力により運ばれて形成されますが、地形や粒径により同じ津波でも堆積分布は大きく変化することを計測により確認することができました。現地で確認される津波堆積物から、その形成過程を理解することで、どのような津波がその場所に到達したのかを推定することができる様に検討を進めて行きます。また、海岸樹木が津波により被害を受ける限界を明らかにするために、現地樹木の引倒し試験を行い津波耐力限界の評価手法についても検討をしています。海岸林の被害発生パターンに合わせて力学的な被害発生モデルを用いた検討を進めています。加えて、沿岸自治体と協力して津波防災対策を地域で進めていくための計画作りに関する検討も行っています。東日本大震災後に作られた津波防災地域づくりに関する法律に基づいた「津波防災地域づくり推進計画」の策定により、地域の津波防災対策の総合的な方針を示すことができるため、沿岸自治体における積極的な検討に向けての支援をしています。

教員名：土屋 智

所 属：副担当・学術院農学領域教授

昨年、突如発生した斜面崩落が橋桁を支えるケーブルを切断し、2名の市職員が落橋に巻き込まれ死亡する事故がありました。この事例は、斜面崩落の発生と橋の構造に起因するもので一般的な発生確率は極めて小さいと考えられますが、その防止・軽減といった観点から以下のような対応が考えられます。まずは、落石や亀裂のような小さな現象でも、災害の前兆かもしれないこと、そして対象斜面の傾斜が急であれば、目の届く範囲からさらに上方までを対象に地表状態を確認する必要があるかもしれません。さらに、地山を切り取りしたような場所では、応力解放されているので、「流れ盤構造」とされる地すべりにつながる危険性があります。また、急激かつ多量の土砂掘削は応力解放をもたらすので、工事完了後も十数年程度は、地山に動きがないかどうかの監視が必要です。2012年に静岡県内区間が全線開通した新東名高速道路の切り取り斜面では、多くの箇所ですべて斜面監視が行われています。今後、伊豆縦貫、中部横断、三遠南信という3本の高規格自動車道路の建設においても斜面对策は避けられません。とくに「流れ盤構造」を有する斜面では丁寧な対応をすることが求められます。

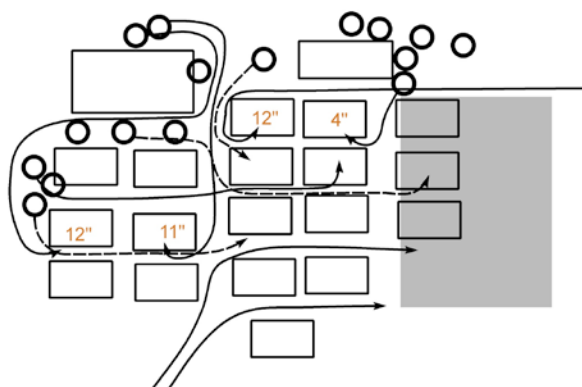
教員名：村越 真

所 属：副担当・学術院教育学領域教授

認知心理学を基礎としてリスクマネジメントと安全教育の研究をしています。ハードな防災では限界があることが、東日本以来指摘されています。学校教育の中でも臨機応変に行動でき、安全文化の構築に寄与できる次世代の育成が期待されていますが、自ら考え、判断する力を養う防災教育の展開はこれからです。附属小学校の抜き打ち避難訓練を対象とした研究を実施しました。子どもたちは素早く避難行動をとる一方で、近くにはないのに自分の机に隠れるという行動が頑健に発生することが観察されました。また、机がない場所で頭や体を守る意識が十分ではないことも示されました。こうした子どもたちの実態を踏まえて、認知心理学的な視点から「自ら考える」「判断する」とはどういうことかを検討することで、科学的な根拠を持った実践に活用できる安全教育やリスクマネジメントの教材開発を行っています。

また、自然体験活動や登山の中での危険およびそこでのリスクマネジメントの研究も行っています。自然の中には人工的空間とは異なるリスクが多くあります。それ故にケガをしたり命を落したりする人が少なくありません。リスク社会と言われながら、こうした個人的事象に対するリスクマネジメントの方法は十分に確立されているとは言えません。自然体験におけるリスクマネジメント方略の確立は、日常生活においても人々が安全に生活することに資すると考えています。平成27年度からは、究極のアウトドアとも言える南極観測隊におけるリスクマネジメントの実践知の研究も開始しました。

▼小学校抜き打ち避難訓練時（昼休み時）の児童の動き。近くの机ではなく遠くにある自分の机に隠れようとしているのが分かる。このため、長い児童だと完全に机の下に隠れるまでに10秒以上の時間がかかっている。





教員名：池田恵子

所 属：副担当・学術院教育学領域教授

地域防災の体制に、女性や多様な立場の人々の視点と参画が必要であるという考えは、防災基本計画や地域防災計画にも反映され、徐々に浸透していますが、具体的な施策と地域の自主防災活動における実践はまだこれからという段階です。とりわけ、女性の参画は、災害時避難行動要支援者、避難生活要配慮者の支援と強く関係しています。

自主防災活動、防災訓練や防災知識の普及、避難所運営などの実践に、男女共同参画参画・多様性配慮の視点が組み込まれるよう、調査や研修を行ってきました。また、自主防災組織など地域で防災活動に関わる人々、災害支援に関わる自治体職員や民間支援団体の皆さんと共に、防災・被災者支援・復興などの活動がジェンダー・多様性の視点を持って行われるために研修カリキュラムや教材の開発に携わってきました。

また、静岡県が自主防災組織向けに作成した「男女共同参画の視点からの防災手引書」が改定されましたが、そのお手伝いもさせていただきました。



(左)『男女共同参画・多様性配慮の視点で学ぶ 防災ワークブック ～地域・支援団体で使える！基本知識の解説とワークショップ教材8』(浅野幸子と共著)  
<http://gdrp.org/2015/06/438/>

(右)静岡県、『男女共同参画の視点からの防災手引書』(平成27年3月改定、第二版)  
<https://www.pref.shizuoka.jp/kenmin/km-150/bousaitebikisho.html>

教員名：岩崎一孝

所 属：副担当・学術院情報学領域教授

地理情報システムを援用した防災研究を進めています。

2014年には、浜名湖河口付近の自然環境や街道の変遷を、地理情報システムを援用して解明し、その成果を ISRS2013 論文集にて発表しましたが、この研究をさらに進め、鎌倉時代には、浜名川河口付近に浜名橋が架けられており、街道は、浜名湖の海岸沿いを東西に走っていた。1498年の明応地震により、今切が形成されたため、街道は大きく北へ変更された。江戸時代には、徳川家康が新居に関所を設置し、新居宿が発展していったが、宝永地震、安政東海地震や暴風や高潮・高波などの自然災害が起きるたびに、新居関所の場所や東海道のルートを変更せざるを得なかったことなどを地図上で明らかにしました。

2014年度の卒業研究指導により、浜松市中田島団地における津波避難ビルの実態調査を行い、人口分布の分析を加えて、中田島団地における津波避難ビルは、周辺人口を十分支えることが可能であることを明らかにしました。

2015年度年には、卒業研究指導により、焼津市の津波対策の現状と問題点を考察し、現時点では、焼津市は他の市町よりも地震・津波対策が進んではいるが、更なる充実と早期における対策の完成が求められることを明らかにしました。以下に、最近2年間の指導学生による、防災に関連した卒業論文を記載します。

酒向聖汰：「伊吹おろしの実態分析」，静岡大学情報学部卒業論文，2015年3月。

野上隼人：「浜松市の津波避難ビルの実態分析」，静岡大学情報学部卒業論文，2015年3月。

金田隆聖：「東栄町高齢者の生活動向の実態とその支援の検討」，静岡大学情報学部卒業論文，2016年3月。

橋ヶ谷六穂：「焼津市の地震・津波対策の現状」，静岡大学情報学部卒業論文，2016年3月。

森倉卓他：「自殺者数と傾向と地理的・文化的要因の関係」，静岡大学情報学部卒業論文，2016年3月。

教員名：北村晃寿

所 属：副担当・学術院理学領域教授

2011年、東北地方太平洋沖地震が発生し、それに伴う巨大津波で甚大な被害が出た。この巨大津波の発生以前に、宮城県や福島県の沿岸地域では、津波堆積物の存在と古文書記録から、西暦869年にも大津波が発生したことが判明しており、さらに、大津波が再来する可能性の高いことも指摘されていた。だが、防災には生かされなかった。このことを教訓に、国は南海トラフと駿河トラフで起こる巨大地震に伴う「あらゆる可能性を考慮した最大クラス（レベル2）の津波の高さ」を公表し、従来、防災対策の対象としてきた「東海地震、南海地震、南海地震とそれらが連動するマグニチュード8程度のクラスの地震」による津波をレベル1とした。静岡県では、レベル2の津波の想定波高は、場所によってはレベル1より20mも高く、沿岸地域で人口流出、地価下落、観光客の減少といった事態を引き起こしている。しかし、国はレベル2の想定は限られた科学的知見に基づくので、古文書調査や津波堆積物調査等の一層の促進を図り、巨大地震の全容を解明するため努力が必要と述べている。

この課題を解決するために、私は下田市・南伊豆町沿岸、清水平野、静岡平野、焼津平野で津波堆積物を調査し(1, 2)、他の研究者の先行研究と合わせて、静岡県沿岸地域の過去4000年間の津波堆積物の分布を調べた。その結果、分布範囲の最も広い津波堆積物は、約3400~3300年前に堆積し、浜名湖東岸の六間川低地、静岡平野、清水平野で検出された津波堆積物(原因となる津波を六間川一大谷津波という)であることが分かった。だが、この津波堆積物は下田市・南伊豆町沿岸地域では検出されなかった。両地域におけるレベル2の津波の想定波高は、六間川低地、静岡平野、清水平野よりも10m余り高いとされている。したがって、下田市・南伊豆町沿岸地域で六間川一大谷津波の痕跡が見られないことは、この津波はレベル2の津波には該当しないことを意味している。つまり、静岡県では、過去4000年間に、レベル2の津波の発生を示す地質学的証拠はないと結論される(3)。

六間川一大谷津波はレベル2のケース1に相当する規模ではないことは分かったが、レベル1の津波に相当するのがあるいはレベル1よりも大きい津波なのかは不明である。したがって、今後、この津波の規模を解明するために、静岡県中部・西部で津波堆積物の陸側末端を明らかにする調査を行う。

#### 研究成果

1. Kitamura, A., Mitsui, Y., Kim, H. Y., 2015. *Earth, Planets and Space*. 67:197 DOI 10.1186/s40623-015-0367-z.
2. Kitamura, A., Ohashi, Y., Ishibashi, H., Miyairi, Y., Yokoyama, Y., Ikuta, R., Ito, Y., Ikeda, M., Shimano, T., 2015. *Quaternary International*, 397, 541-554.
3. Kitamura, A. in press. *Progress in Earth and Planetary Science*.

教員名：森下祐一

所 属：副担当・学術院理学領域教授

私は金属鉱物資源の成因解明研究を専門としていますが、鉱床が生成するマグマ-熱水系では岩石や流体における元素の移動や同位体比の変化などの現象が見られます。マグマ-熱水系では高温熱水により岩石は変質しますし、鉱脈型鉱床は熱水から断層中へ鉱物が沈殿したものであるため、それら過去の現象を解析した知見が現在の地質、特に防災に適用できる可能性があると考えられます。

私は 2015 年度から副担当になったばかりですので、考え方を述べたいと思います。

#### 1 断層の鉱物学

地震は断層が動くことにより起きますが、私は地震波ではなく断層に関連した物質科学に興味があります。断層内に存在する断層岩に着目し、断層で生じた鉱物のうち方解石の炭素・酸素同位体比測定を行ない、その同位体値などに基づいて断層岩の生成環境や地震の態様について考察できればと考えています。

#### 2 変質帯の鉱物学・地球化学

岩石が変質（熱水変質や風化）すると新鮮で強固な岩石がもろくなりますが、これは粘土鉱物などが生じるためであり、変質鉱物が生じた面で地滑りを起こす事が多いと考えられています。伊豆半島には多数の金鉱床の他にマンガン鉱床なども存在しますので、多数の熱水変質帯があります。その変質帯における鉱物学や元素の移動などの地球化学に着目して地質を検討することは、防災上重要だと考えています。

教員名：岩田孝仁

所 属：副担当・学術院融合グローバル領域地域創造学環教授

静岡県などにおける長年の防災行政や危機管理の経験から、「減災」から原点である「防災社会」の構築を目指すため、地域社会や国や自治体など行政、関係機関がどうあるべきかについて、議論や考察などを行っている。特に自身が当初から直接担当してきた静岡県の地震など防災・危機管理行政については、静岡県での防災施策の展開が全国に波及した経過やその過程で出された多くの課題などについて調査を進め、その成果が今後の防災施策展開の一助になることを期待している。

さらに、2016年は東海地震説を受けて大規模地震対策特別措置法（大震法）が制定されてからちょうど40年を経過する年であり、地震予知の可能性の議論の一方で大震法そのものが防災上果たす意義について改めて検討を図っていく。

2015年度は、4月に発生したネパール・ゴルカ地震の被災地調査を通じ、現地に防災啓発拠点形成の支援を行うほか、台湾成功大学や基隆市などとの交流を通じ、日本の防災施策の海外展開などについても、今後模索していく。

2016年4月に熊本地震が発生し、その現地調査を通じ、耐震性を含め市役所などの災害拠点機能を、震災直後からどう維持させるかの課題解決について、今後も施策議論を展開していく。

教員名：藤井基貴

所 属：副担当・学術院教育学領域准教授

研究室に所属する学生たちと防災教育に関する教材及び授業開発を行っています。2014年度は、大学や日本語学校を中心として、留学生や外国人に対する防災教材の開発をすすめ、教育機関での講座実施と教材提供を行いました。2015年度は低年齢層への防災教育の教材開発と災害史に学ぶ防災教育をテーマに静岡大学附属静岡小学校、愛知県半田市立亀崎小学校、高浜市立翼小学校、浜松市立東小学校などで学生たちが授業を行いました。また、2014年は学生たちとともに宮城県気仙沼市、2015年は岩手県宮古市での巡検を行い、被災地の学校関係者とも共同研究をすすめています。その一環として、2015年12月に岩手県宮古市川井小学校にて研究室で開発した教材をもとにした研究授業が実施されました。また、宮城県登米市教育委員会のお力添えで「防災紙芝居：みずがくるぞ」（藤井研究室）が同市の全幼稚園、保育園、小学校に配布されました。これらの成果に対して学生たちが兵庫県等主催「ぼうさい甲子園」では「優秀賞」（2014年度）、「ぼうさい大賞」（2015年度）、静岡大学学長賞表彰（2014年度後期、2015年度後期）を受賞しました。これまでの活動は教員を目指す学生たちの飽くなき探究心と活動力、そして静岡大学防災総合センターを拠点とする研究ネットワークに大きく支えられています。今後も共同研究をはじめとして防災教育のネットワークづくりの構築に尽力してまいりたいと思っております。



静岡大里東小での授業：2014年12月11日



浜松市立東小での授業：2016年3月1日

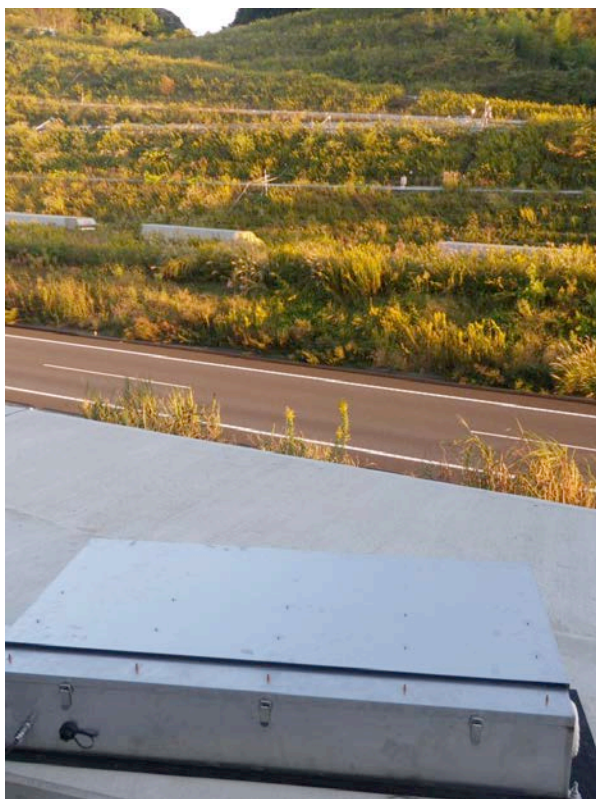
👉 NHK:Tomorrow 「命を考える防災教室」

👉 毎日新聞 「小学生が高台移転学ぶ」

教員名：橋本 岳

所 属：副担当・学術院工学領域准教授

私は画像計測を防災に生かす研究に従事しており、「屋外遠距離でも高精度な計測が可能」という特長を生かして、実用的な研究を進めています。具体的には、計測距離約 100m にて誤差 10mm 以下という特性を生かして、土砂災害の予兆検知を目的に切土法面の微小動きの計測（下図）を行っています。その他、ブロック擁壁の計測、建物の振動計測、文化財の計測等に取り組んでいます。





教員名：今泉文寿

所 属：副担当・学術院農学領域准教授

土砂災害の軽減に向け、山岳地で発生する土砂移動現象の現地調査を行っています。現地調査の結果、これまで未解明であった土石流の発生機構に関する多くの知見を得ることができました。さらに、森林の管理が土砂移動現象へ及ぼす影響の解明に向けた研究活動も行っています。



写真 2-1 静岡市大谷崩における土石流の発生域での地形計測

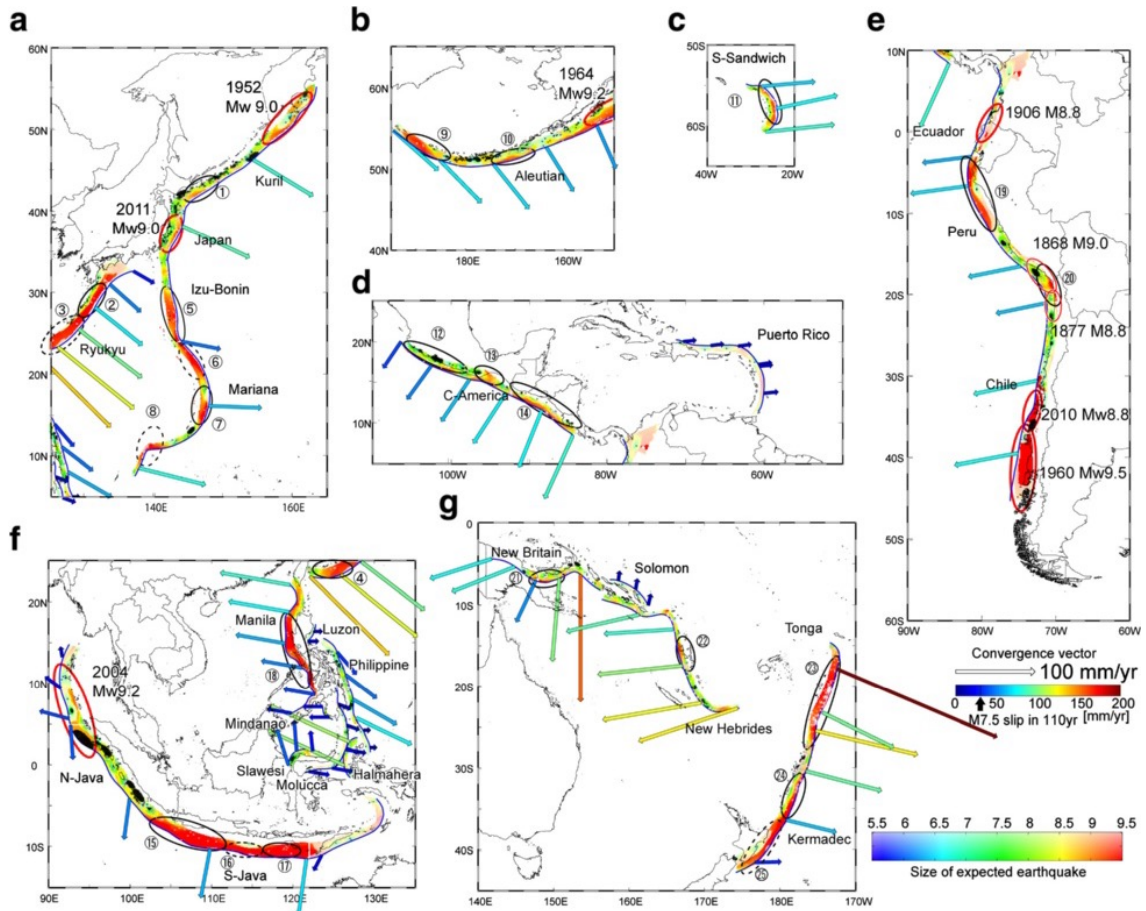


教員名：生田領野

所 属：副担当・学術院理学領域准教授

東海地震に代表されるプレート境界型地震の準備過程を調べています。人工震源装置を用いてプレートにかかっている応力を調べることで、プレート境界地震の切迫度を監視することを目指しています。また船から超音波を使ってプレート境界直上の海底の変形を調べています。プレート境界のどの部分がくっついて地震の準備をしているか知ることができます。

図は世界の沈み込み帯において、「プレート境界地震は起こったり起こらなかったりはしない」という仮定に基づいて、起こりうるプレート境界地震の規模を調べたものです。この100年間に世界中で、2011年の東北地方太平洋沖地震を含む、6つのマグニチュード9クラスの地震が発生していますが、他にも25箇所程度の地域がマグニチュード9クラスの地震を用意していてもおかしくないと考えられます。



教員名：石橋秀巳

所 属：副担当・学術院理学領域准教授

私は、マグマ物性実験と、天然の火山噴出物の観察・分析との二方向から、マグマの形成・噴火プロセスについて研究しています。

前者の研究では主に高温変形実験を行い、高粘性マグマのレオロジー的性質について調べました。2014-2015年度は、結晶・気泡をほとんど含まない北海道白滝の流紋岩質黒曜岩溶岩、気泡を含まず斜長石結晶を含む香川県五色台の安山岩質溶岩、気泡・結晶を多く含む桜島昭和溶岩などについて行った実験結果を解析し、それらのレオロジー則を定式化するとともに、結晶・気泡がマグマの物性に及ぼす影響や粘性-脆性遷移について検討しました。

後者の研究では、主に富士山や東伊豆単成火山群の火山を対象とし、噴出物の化学的・組織的特徴からマグマの噴火準備プロセスや噴火ダイナミクスを解読する試みに取り組んでいます。2014-2015年度には、富士山については1707年宝永噴火における玄武岩質マグマの火道上昇プロセスの研究（天野, 2015 卒論）、斑晶組織解析に基づく864-866年貞観噴火の溶岩噴火プロセスの研究（三輪, 2015 卒論）、数値シミュレーションに基づく富士山のマグマ分化プロセスの研究（山田, 2015 卒論）、斑晶組織解析に基づく富士山のマグマ供給系の研究（井上, 2016 卒論）、富士山地下の珪長質マグマだまり発達プロセスの研究（田中, 2016 卒論）、東伊豆単成火山群については、カワゴ平火山噴火の噴火様式変化メカニズムの研究（高島, 2016 修論）等の研究を行いました。また、静岡県外の火山ですが、大分県鶴見岳火山のマグマだまり深度についても研究しました（長崎, 2015 卒論）。

2016年度からは、低粘性の玄武岩質マグマが激しい爆発的噴火をおこすメカニズムと、火山噴火の準備過程（タイムスケール）に関する研究を進めたいと思っています。

**教員名：木村浩之**

**所 属：副担当・グリーン科学技術研究所准教授**

私は、付加体の深部帯水層に蓄えられている地下温水、メタン、微生物群集を活用した「付加体エネルギー生産システム」を創成しようとしています。そして、巨大地震や大規模な洪水といった災害時に水・ガス・電気を自家的に供給する防災ステーションとして利用する計画を進めています。

付加体の深部帯水層でのメタン生成メカニズムを解明する目的で、静岡県中西部、宮崎県、沖縄本島の温泉施設が所有する大深度掘削井から地下温水および付随ガスを採取しました。現場にて、地下温水の水温、pH、酸化還元電位、電気伝導率といった環境データを測定するとともに、地下温水に含まれる各種イオンの濃度、付随ガスの組成、付随ガスに含まれるメタンおよび地下温水の溶存態無機炭素（主に、炭酸水素イオン）の炭素安定同位体比を分析しました。さらに、地下温水に含まれる発酵細菌およびメタン生成菌を対象とした嫌気培養を試みました。一連の研究結果より、地下温水は 30℃から 60℃まで比較的高温であること、pH は弱アルカリ性であること、酸化還元電位は-200 mV 以下を示し嫌気性であることが示されました。ガス組成分析においては、ほとんどの付随ガスの 97%以上がメタンであることが明らかとなりました。また、メタンと溶存態無機炭素の炭素安定同位体比から、付加体の深部帯水層に含まれるメタンは微生物起源であることが示されました。さらに、地下温水に有機基質を添加した微生物群集の嫌気培養実験を行った結果、水素発生型発酵細菌と水素資化性メタン生成菌によって、メタンが高速に生成されることが明らかとなりました。これらの結果より、「付加体エネルギー生産システム」は付加体が分布する西南日本の太平洋側の広い地域において構築できる可能性が示されました。

現在、島田市と連携して川根温泉ガス利活用事業を推進しています。私は、川根温泉まちづくり協議会のメンバーとして、川根温泉の大深度掘削井から湧出するメタンを利用した発電事業を提案しました。その後、資源エネルギー庁による特定区域評価委員会にて付随ガスのデータおよびメタン生成メカニズムに関する研究成果を報告しました。そして、川根温泉が特定区域（目的とする特定鉱物＝可燃性天然ガス）に指定されるに至りました。さらに、島田市が川根温泉の特定区域の特定開発者に応募する際に、各種研究データを提供しました。川根温泉のメタンを活用した発電事業は 2016 年度中にスタートする予定です。

**教員名：小杉素子**

**所 属：副担当・総合科学技術研究科 特任准教授**

人々の生活の中の様々なリスクについて、社会心理学的な視点から研究をしています。特に、リスク問題について異なる利害や認知を持つ人々が、そのリスクの影響や被害の程度や範囲をどのように考え、社会全体やコミュニティとしてどのように管理することが望ましいと考えるのかについて、意見を交換したり意思決定を行うプロセスに着目しています。

2014～2015年度は、エネルギーや環境問題に関する質問紙調査から、東日本大震災前後の一般市民の自然エネルギーに対する期待や原子力発電所のリスクに対する考え、またリスク管理を行う自治体や国の行政、電力会社や専門家への信頼の変化などを調べました。また、農業従事者と非従事者を対象にしたインターネット調査を行い、気候変動による農業分野へのリスクについて、その対応策（気候変動の適応策と緩和策）に対する考え方や関わり方、望ましいと考える政策や政策決定プロセス等について調べました。

教員名：池田昌之

所 属：副担当・学術院理学領域助教

私は、主に堆積・層序学的、地球化学的手法を用いて、表層環境変動とその周期性、それらの原因となる火山活動や日射量変動、地殻変動との関連性について研究しております。

火山活動については、本邦ジュラ紀付加体中の遠洋性堆積岩の化石-天文年代層序と化学組成、鉱物組成、各種同位体比から、火山活動の開始と海洋酸性化、海洋無酸素化、大量絶滅等の地質学的イベントが同期していたことを明らかにしました。さらに、太陽活動や地球軌道要素の変化に伴う数年～数千万年スケールの日射量変動に伴って、陸域のモンスーンや氷床量の変動し、大陸風化速度や海洋生物生産量、海洋溶存酸素濃度変動を駆動したことを、遠洋性堆積岩や過去 1500 万年間の日本海堆積物等の堆積周期、各種元素組成、同位体比変動から検討しております。

また、石垣島にて安藤雅孝客員教授、北村晃寿教授らと、静岡県内各地では北村晃寿教授らと共に古地震、古津波堆積物調査を行いました。2016 年度からは欧米の大規模古地震、古津波堆積物について研究を進め、国内の研究にフィールドバックできればと考えております。

教員名：三井雄太

所 属：副担当・学術院理学領域助教

(1) 震源力学の物理シミュレーションに基づく地震発生過程の理解。特に、流体の影響による断層摩擦の非線形な振る舞いが引き起こす、地震発生過程の多様性について研究を行ってきた。マグニチュード9級の2011年東北地方太平洋沖地震の発生について、この枠組みからの説明が可能であることを示した。

(2) 地球物理学的観測データ、特にGNSSによる地表変動の連続モニタリングデータの解析から、巨大地震後の地球自由振動や津波伝播による地表の加重変形など非常に小さなシグナルを検出する試みを行った。結果、地球自由振動のスフェロイダルモードに相当するスペクトルピークを、GNSSデータから初めて検出した。

(3) 巨大地震直後に生じるゆっくりすべりの速度が地震規模に応じて増大する傾向にあることを示し、その最大速度(2011年東北地震時)は岩石摩擦の速度依存性の観点から説明できるとした。

[以下、卒業研究の代表的な成果]

(4) 過去に東日本で生じたM8以上の大地震の断層モデルから、富士山下の静的歪み/応力変化を計算した。先行研究により火山噴火を誘発しやすいとされた「マグマだまり圧縮+マグマ上昇経路の開口」という例は、一例もなかった(宝永地震+宝永噴火の例が最も近い)。一方、別種の先行研究で噴火誘発のメカニズムとされた「マグマだまりの伸張」は、2011年東北地震時に生じた。実際、東北地震後の約1ヶ月間は、富士山下の地震活動度が非常に高かったことが、余震の影響を取り除いて評価可能なETASモデルのパラメータ推定によって示された。しかし、東北地震による歪み変化の大きさが先行研究の事例に比べて1桁小さかったため、噴火には繋がらなかったと考えられる。

(5) 約10年間のGNSSデータから、伊豆衝突帯付近の地殻変動の力源を推定した。丹那断層などの内陸断層の変動や、伊豆半島衝突に伴う弾性変形を陽に考慮することで、観測データをよりよく説明できることがわかった。マイクロプレート運動やプレート沈み込み境界の固着、さらに火山性変動については、先行研究と矛盾しない結果が得られた。現在の衝突速度から計算される隆起速度は過去数十万年間の地質学的な隆起速度と大きく矛盾しないが、場所については時間変化があったと考えられることを示した。

教員名：石井輝秋

所 属：客員教授、深田地質研究所特別研究員

直接マントルの岩石を採取研究することは、人類の夢の一つである。しかし、IODP の深海掘削においても、モホ面までの掘削には、更に10年程度を要するであろう。それまでただ、待つわけにはいかない。一方、海洋底特に西太平洋の海洋底には、斑レイ岩やマントル橄欖岩が露出している箇所が、多数発見されている。この岩石を採取研究し、海洋底の地質断面構成岩石の実態解明を目指し研究を行っている。南海トラフに沈み込むフィリピン海プレートの物質科学的理解を深め、将来は防災などにも役立てたいと考えている。

研究成果は下記のように纏められる。

(A) フィリピン海（伊豆・小笠原弧, 古島弧及び背弧海盆）の火成活動を主とした地質学的・岩石学的発達史の研究：Ikeda, , Ishii, et al, 2016 (Island Arc, in press)で発表、更に口頭発表を行った。

(B) 箱根火山産火山岩等の陸上火山岩の岩石学的, 鉱物学的な基礎研究：永幡寛三・石井輝秋・大森聡一, 2015 (地質学雑誌) で発表、更に口頭発表(長野市での地質学会、石井輝秋、2015)を行った。

(C) 南鳥島海域 EEZ 内で発見されたマンガノジュールやレアアース泥等, 海底資源に関する基礎的研究：Machida, , Ishii, et al, 2016 (Geochemical Journal, in press) で発表した。

(D) 南部マリアナ海溝陸側斜面上の地質学的, 岩石学的特色：Michibayashi, , Ishii, et al, 2016, (EPSL)、及び石井輝秋, 2015 (深田研年報) で発表した。更に多数の口頭、ポスター発表を行った。

(E) 南部マリアナ海溝陸側斜面上の特異な深海生物群集を伴う深海冷湧水系 (Shinkai SeepField = SSF) の地質学的研究：石井輝秋, 2016 (高知大学のシンポジウム) をポスター発表した。更に口頭発表を行った。

(F) 太平洋域 (ヘスディープ, プチスポット) およびインド洋の火山岩, 斑レイ岩, マントル橄欖岩の地質学的岩石学的研究：Miyazaki, , Ishii, et al, 2015, (Geochem. Geophys. Geosyst.), 及び Banerjee, , Ishii, 2015, (Jour. Geol. Soc. of India) で発表。更に多数の口頭、ポスター発表を行った。

(G) 海底地質観察に基く防災, 免災に関する試論：ポスター発表 (Ishii, 2015, AGU 及び石井輝秋, 2016, JAMSTEC ブルーアースシンポジウム) を行った。

防災、免災に関連するテーマとして (G) のポスター発表 (石井輝秋, 2016, JAMSTEC ブルーアースシンポジウム) の要旨を以下に再録します。

## プレート沈み込み境界部の地質学的・岩石学的研究と掘削科学の超長期目標試案

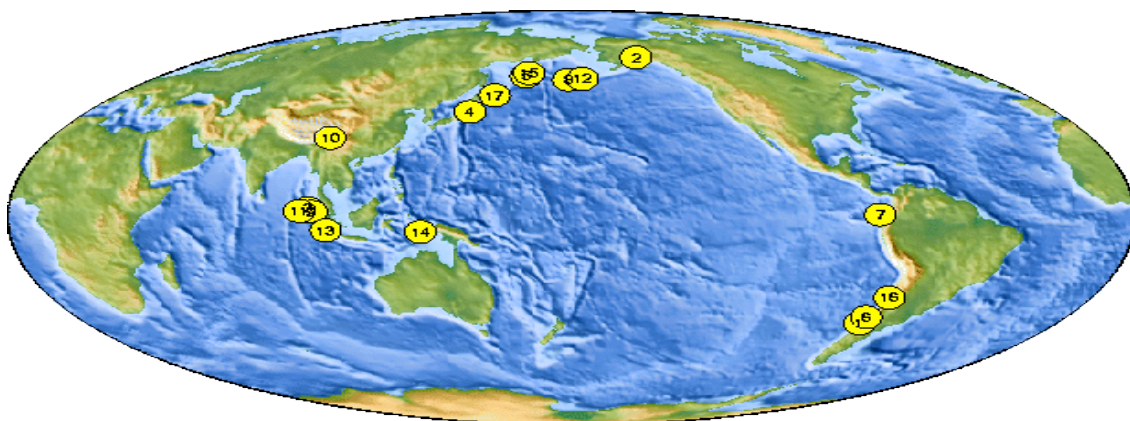
## —超巨大地震発生回避にむけて—

The geological and petrological studies of the subduction boundaries and suggestion for the geological future work during ultra-long term in Japan on Deep Sea Drilling

### -How to avoid ultra-mega-earthquakes-

○石井輝秋（深田地質研究所、[ishii@fgi.or.jp](mailto:ishii@fgi.or.jp)）

太平洋は火成活動や地震活動が活発な環太平洋活動的縁辺域に囲まれていて、時折マグニチュード8.5以上の超巨大地震が発生している（図1）。それ等の地震発生帯では、沈み込む下盤プレートの堆積岩が沈み込まれる上盤プレートの付加堆積物等の堆積岩と接している、固着域を持つ沈み込み境界を形成していると考えられている。一方超巨大地震は西太平洋の、伊豆-小笠原-マリアナ-ヤップ-パラオ-フィリピン-トンガ-ケルマデックと続く島弧-海溝系では報告されていない（図1）。地震活動の差異は、沈み込み境界の地質学的・岩石学的・物質科学的条件が重要と考えられる。



USGS National Earthquake Information Center

図1. Largest Earthquakes (M > 8.5) in the World Since 1900 (USGS)

上に示した島弧-海溝系、とりわけ南部マリアナ海溝やトンガ海溝の海溝陸側斜面では、マンテル橄欖岩が広範囲に分布している（石井 2012）。それ等の沈み込み帯では、沈み込む下盤プレートの堆積岩が沈み込まれる上盤プレートの橄欖石に富むマンテル橄欖岩に直接接触している。そのため、海洋底という水に富む環境下では、橄欖岩の蛇紋岩化作用により、沈み込み境界には蛇紋石層が容易に形成されると予想される。その結果上記沈み込み帯では固着域を形成することのない、滑りやすい沈み込み境界が形成されていると考えられる。以上がプレート境界面で超巨大地震の起こらない主要な原因と考えられる。即ち、蛇紋石層があたかも潤滑剤の様な役割を果たしていると考えられる。

以上のような天然の観察事実から日本海溝、南海トラフに沿って発生が予想される、超巨大地震回避策が考えられる。沈み込み境界への蛇紋石泥の注入により、固着域を持つ通常の沈み込み境界を、蛇紋石層を持つ滑り安い沈み込み境界に人工的に改変させる事が可能となるであろう。それには近年進歩の著しい掘削工学技術、下記 A と B の併用活用が望ま



れる。

- (A) 南海トラフの地震発生帯までの掘削能力をもつ、地球深部探査船「ちきゅう」(図2)、  
或いはより掘削能力の高い掘削船。
- (B) シェールガス開発工学において、日進月歩の進歩をみせている掘削技術(図3)。シェールガス開発に於いては1本の垂直掘削孔から、多方向への水平掘削を行い、その掘削孔に高圧水を注入しシェール岩を破砕しシェールガスを採集するフラッキング技術が開発されている。

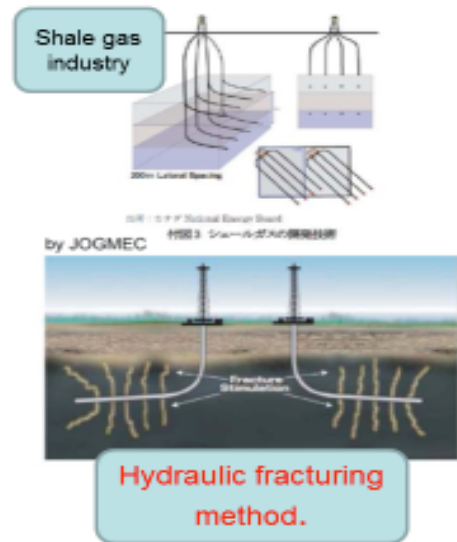
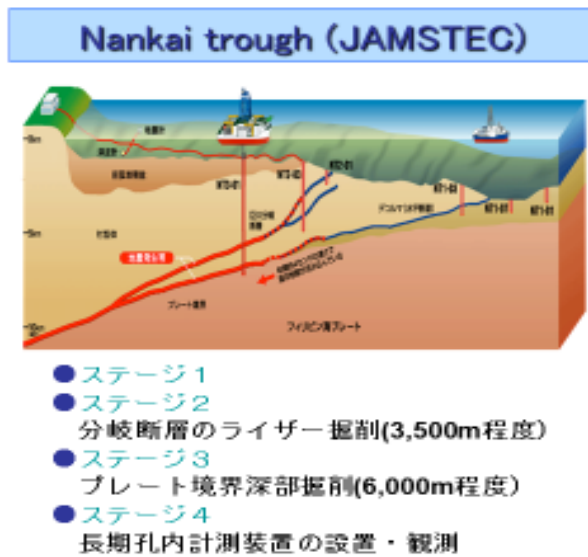


図2. 南海トラフに於ける「ちきゅう」による掘削計画

図3. シェールガス採取の模式図

上記 A と B の掘削工学技術を併用し、プレート境界の地震発生帯への蛇紋石泥注入を継続することにより、固着層を持つ沈み込み境界を、蛇紋石層を持つ滑り安い沈み込み境界へと改変が出来れば、何世代か後の我々の子孫は、超巨大地震の脅威から解放されるであろう(図4)。

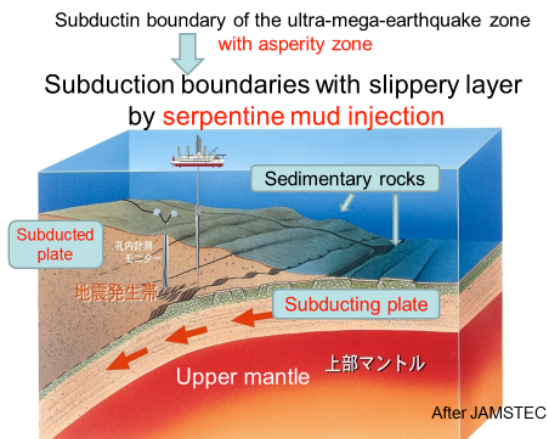


図4. 地震発生帯へ蛇紋石泥の継続的注入により、蛇紋石層を持つ沈み込み境界へ改変し、超巨大地震発生回避を図る。

参考文献；石井輝秋（2012）プレート沈み込み境界部の地質学的・岩石学的研究と今後の夢物語的提案 —  
超巨大地震発生回避にむけて—，深田地質研究所年報，No. 13，p. 45- 59.

教員名：伊藤 潔

所 属：客員教授・(株)阪神コンサルタンツ

地震の発生深度は限られていることがわかっている。地殻内の地震は 2-5km より深いところで発生し、20km より深いところではほとんど発生しない。浅部数 km は大地震の震源断層になることはない。しかし、この表層数 km は地震被害には大きな影響を与える。また、この地震発生が希な表層部と地震発生層との物理的な相違を調べることは、地震発生原因の解明に有効である。表層部は資源開発や構造物の設置などのため、深層ボーリングや物理探査など各種の調査によって、物理定数などが比較的良くわかっているからである。また、地震予知・予測などの情報は地表で得られるが、地震発生層での深部の変化のシグナルは上部の擾乱の影響が大きく、本来の情報の検出のためにも、上層部のノイズの性質の解明が必要である。表層部での変化と地震活動の関連の解明のために、シェールオイル・ガス採集のためのフラッキングのモニタリングや CCS(炭酸ガス,回収貯留)のための地震モニタリングの研究結果を収集して、地震発生の性質を調べている。その結果、フラッキングの地震誘発率は高く、CCS のそれは高くないことがわかってきた。これは有効間隙水圧の当該岩石に作用の相違によると思われるが、この相違の決定的な原因はまだ不明である。岩質の相違や液体の圧入率、圧入期間など多くの要素の相違を長期間にわたって調査する必要がある。また、圧入している浅い層ではなく、その下の基盤層に地震が発生する場合もあり、これらの違いをも考慮する必要もある。今後、日本でも温水・地熱発電が大規模になれば、そのための地震のモニターも必要になり、誘発地震の調査が必要になると思われるので、これらのデータが役立つと思われる。

教員名：岩松 暉

所 属：客員教授・鹿児島大学名誉教授

桜島のマグマは大正噴火時の9割がた回復しているといわれています。そう近い将来に大噴火があると誰もが思っています。また、南海トラフ連動型地震も想定震源域が日向灘まで延長され、鹿児島にも被害が及ぶと予想されています。しかし、一般市民も行政も、土砂災害や水害については意識しているものの、火山噴火や地震については、極めて楽観的で、とくに大規模複合災害については、ほとんど何も準備していません。そこで、各種講演会で口を酸っぱくして説いてきましたが、効き目がありませんでした。聴衆は役目から動員されてやむを得ず出席する行政マンや土建業者が多いからでしょう。建築基準法の地域係数も楽観論に影響を与えているのかも知れません。これは有史以来の地震記録から100年確率の最大加速度を求めたいわゆる河角マップに起源をもちます。京都や江戸など文書の多く残るところは当然、地震史料がたくさん残っています。九州は僻遠の地で史料が少なかつただけに過ぎません。地震に対して安全なところではないのです。かえって鹿児島の建物は一番緩い基準で建てられていますから、倒壊率も大きくなるだろうと危惧しています。

一方、私の住む団地で独居老婦人の孤独死事件がありました。40年前戸建団地に家を建てられたのは中流の上の階級、子供たちにも高等教育を受けさせ、中央へ就職させました。残されたのは老人ばかりです。限界集落は田舎の問題だけではなく、都会にもあるのです。独居老人は、即、災害弱者です。そこで、老人クラブの会長を引き受け、対策に乗り出すことにしました。内向的で家に閉じこもりがちな高齢者を食事会に誘い、そこでタブレットを使って、ミニ防災講座を実施しています。コミュニティづくりといったカタカナのハイカラなものではなく、田舎と同じ集落づくりを目指しています。なお、私の住む団地はシラス台地を切り盛りして造成したところですから、切り盛りの境界には亀裂などが観察されます。旧版地形図と現状地形図との差分をとって、盛土造成地の分布図も作成しているところです。

このようにマス相手から草の根へ方針転換をしました。

教員名：笠原順三

所 属：客員教授・東京大学名誉教授

地下構造の時間変動を ACROSS を震源として地震波を使ったモニタリングする技術開発を行っている。この技術は、石油・ガス貯留層、シェールガス開発、CO<sub>2</sub> 地中貯留に応用できるだけでなく地すべりのモニタリング、落盤、地震発生域の状態監視の応用可能である。この技術開発のため 1995 年阪神淡路大地震の発生域、栃木県宇都宮の大谷石採石場の陥没監視、サウジアラビア AlWasse 域での地下水モニタリングの時間変化観測を実施した。

技術開発応用として重質油開発に応用することを考え、サウジアラムコ社、クエート国有石油会社、イラン石油会社と協議中である。

自然地震活動・火山活動については地震活動、火山活動に注意している。2016 年 4 月 14 日、4 月 16 日の熊本地震発生に際し現地を視察し今回の地震の特徴を理解した。その結果この地震が南北張力下の横ずれ断層、正断層群からなる断裂帯で発生したこと、地下水との深い関連が示唆された。その結果、単純な前震、本震、余震で予測が不可能であることが言える。また中央構造線・赤石烈線・糸魚川静岡構造線・駿河トラフ・南海トラフとの深い関係が想定される。

教員名：風間 聡

所 属：客員教授・東北大学大学院教授工学研究科土木工学専攻

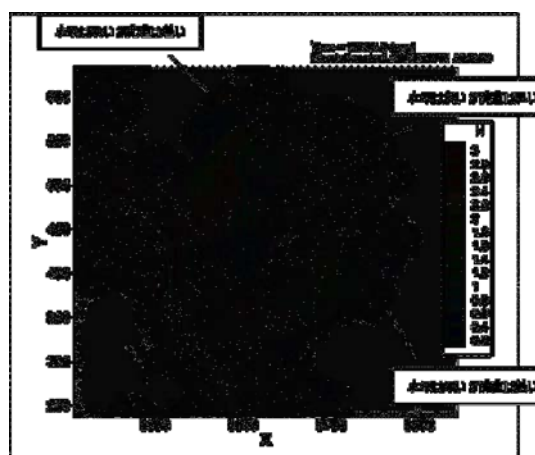
防災に関して下のような内容の研究を行っています。主に川に関するものです。

#### 1. 気候変動に伴う水災害リスクの推定

文科省気候変動適応技術社会実装プログラム（SI-CAT）の活動で気候変動による日本の水災害被害額を推定しています。複数の気候モデル（GCM）から得られた気象データを、洪水氾濫、高潮、土砂災害、海岸侵食モデルに入力して、再現確率に応じた各被害額を治水経済マニュアル（案）に従って計算します。

#### 2. H25,26年の山形県豪雨とH27年東北豪雨の災害調査

豪雨災害の調査を実施し、その報告をまとめました。H27東北豪雨では、氾濫流に巻き込まれた運転手が犠牲になった事象を数値計算で解析しました。地方の河川には治水水準が十分でないうえに、整備も思うように進まない現状があります。観測機器の更新も進んでおらず、リスクは年々高まっています。



数値計算による水位と流向（車通過時刻頃）矢印は流れベクトル 色は水深

#### 3. 海外の水災害研究

ジャカルタの洪水解析を気候変動、都市化の影響を見るとともに、建物緑化による気候緩和と洪水適応の効果を数値モデルによって評価しています。タイにおける斜面災害のリアルタイム評価や被害額推定、将来評価など、国内で培った技術移転を進めています。また、ラオスの洪水濁水ならびにバングラディッシュの地下水資源変化の推定も行っています。異なる条件下の災害を知ることから、設計に反映されていない被害を把握することができます。

#### 4. 秋田県米代川流域の洪水予測精度の向上

高精度な分布型物理流出モデルを開発しています。多くの同様のモデルはピーク流量の推定に問題があります。これを解決するための基礎研究をはじめています。降雨パターンの解析やモデルの性質などをモデル定数に反映させることを目指しています。また、山岳域の積雪分布を精度よく推定するモデルを実地観測から開発しています。

教員名： 狩野謙一

所 属： 客員教授・静岡大学名誉教授

○ 富士川河口断層帯の地下構造探査

2014年度については、前年度に引き続いて伊藤谷生・渡辺俊樹両客員教授と共同して、富士川河口断層帯において浅層高分解能反射法地震探査のために複数の探査ルートを選定を行った。これに基づき、2015年3月中旬に探査を実施した。その結果2012年度の探査で指摘された同断層帯の大宮断層および入山瀬断層が一連の低角逆断層である可能性が、より明確になってきた。地表地質の再検討をふまえたこの探査結果の概要については、2015年度中部地区自然災害研究集会において発表した。今後、さらに検討を進めて関連学会等で順次発表していく予定である。

2015年度は自然地震を用いて同断層帯の地下深部構造を探るために、富士・富士宮市内の63地点に地震計を設置し、観測を行った。設置期間は12月から2016年4月までで、観測結果は現在解析中である。

○ 長野県白馬村、2014年11月22日神城断層地震の地表地震断層視察

地震直後の11月26～27日にかけて、同地震での地震断層の示唆を行った。短期間の視察であったが、水平短縮成分が多い逆断層型の断層変位を確認できた。この視察結果はセンターMLに簡単に報告した。また、小規模ではあるが典型的な事例として、「地震防災」などの講義・講演で活用している。

○ 北部フォッサマグナ小諸陥没盆地のテクトニクス

鮮新世に形成され、更新世前～中期にかけて成長した北部フォッサマグナ地域の小諸陥没盆地について、この地で長期間にわたって調査してきた本学理学部地球科学科2期卒業生と共同して、地質とテクトニクスに関するまとめを行い、2015年7月に論文として公表した。この陥没盆地は広域的な引っ張り応力場で陥没・湖沼化し、伊豆地塊の衝突に起因する圧縮応力場で上昇した。また周辺の大型陸上火山との活動と広域地殻変動が密接に関連していることが示された。

○ 伊豆半島南部、鮮新統白浜層群に見られる海底火山活動

1980年代前半から調査を行ってきた白浜層群に見られる海底火山活動の露頭が、2016年度の日本地質学会の見学旅行(巡検)のコースの一つとなった。これに伴い、露頭の全面的な再検討を開始し、火山性島弧での浅海底火山活動を理解するために、伊豆半島南部は世界的にみても絶好の場所であることを確認した。2014年12月には、同学会関東支部のミニ巡検を行った。これらをふまえて、現在、半島南部の海岸部の好露頭をまとめたジオガイドブックが、本年7月に刊行予定となっている。また、その中の一部を抽出して簡略化した地質学会用の見学案内書を作成中である。

**教員名：佐藤 健**

**所 属：客員教授・東北大学災害科学国際研究所教授**

石巻市教育委員会、山形大学との連携研究として、石巻市立鹿妻小学校をはじめとした複数の学校現場において復興教育プログラムの開発と実践に取り組んだ。その成果は、第34回日本自然災害学会学術講演会をはじめ、アメリカ地理学会 2016（米国）、アチェ津波博物館（インドネシア）との国際交流など、国内外において情報発信を行うことができた。また、文部科学省指定研究開発学校防災安全科運営指導委員会・委員長、宮城県防災専門教育アドバイザー、石巻市学校防災推進会議・委員長などを担い、被災地の教育復興に関する社会貢献を果たした。



**教員名：千木良雅弘**

**所 属：客員教授・京都大学防災研究所教授**

私はもともと地質学を背景にしていますが、大学を出て16年間民間の研究所におり、その後京都大学防災研究所で19年間研究・教育をしています。そのため、考え方は地質ベースですが地形、地球化学、地盤工学、いろいろなものに首を突っ込んでいます。もともと、地質災害は研究分野に縛られて発生するわけではありませんから、〇〇学的に考えると、というのは「逃げ」のような気すらしています。ここ15年程度は、日本とアジアで発生した主要な地質災害の多くを調査してきました。去年は広島豪雨災害とネパール地震、今年には熊本地震関連でした。それでも、「災害のない時にこそ災害の研究を」をモットーに気の長い研究を行うことが必要で、また、学生の研究も同様に考えています。

教員名：中川和之

所 属：客員教授・時事通信社解説委員

引き続き、日本地震学会の推薦で、日本ジオパーク委員会の委員を務めています。ジオパークとは、「生きている、動いている景観」(“Geoparks are living, working landscapes.” =GGN ガイドライン) です。正面から防災と言わないで、防災意識を高めるために大いに役立つ活動です。静岡大学防災総合センターは、伊豆半島ジオパークを組織的に支援をしています。

2015年11月に、世界ジオパークがユネスコの正式プログラムになり、ガイドラインには、ジオパークが知識と理解の増大に役立つべき社会が直面している重要課題の一つとして、“geohazards”が盛り込まれました。2008年に日本でジオパークの認定がスタートして以来の念願が、ようやくかなったのです。日本のジオパーク運動が貢献した新しいジオパークの価値であり、ジオパークの活動を通じてユネスコの世界平和の実現という理念と並ぶ意義があると考えています。

日本国内には、伊豆半島ジオパークを含めて39カ所(137市町村)が日本ジオパークに認定されています。また、うち8地域がユネスコ世界ジオパークとなっています。

2016年には、修善寺に拠点施設「ジオリア」ができました。オープン前におじゃまし、伊豆半島ジオパーク事務局スタッフで、元時事の同僚であったK氏と撮った写真です。



教員名：野津憲治

所 属：客員教授・東京大学名誉教授

### 1. 火山ガス拡散放出の調査研究

伊豆東部火山群の火山ガス拡散放出研究は、2011-2013年度科学研究費助成事業、基盤研究(C)「単成火山のマグマ上昇はマグマ起源揮発性物質の拡散放出から捉えられるか」で採択された研究で、終了後の2014-2015年度も追加的な研究を行った。現地調査時に採取したガス試料の分析や現地調査結果の解析をスペイン研究機関との共同研究で進め、2016年4月にオーストリアのウィーンで開催されたEGU(European Geosciences Union)のGeneral Assembly 2016の“Volcanic gas emission”セッションでポスター発表した。

伊豆大島三原山の火山ガス拡散放出研究は、2007年以来もスペインの研究機関との共同研究で継続的に行なっている。1986年を最後に噴火が起きておらず、これまでの噴火間隔からすると、次の噴火の準備時期にさしかかってきた。2007年以降毎年夏季に火山ガス拡散放出調査を行い、伊豆大島火山直下のマグマの動きを捉えようと試みており、これまでの結果をまとめて、EGU2016の“Volcanic gas emission”セッションでポスター発表した。

### 2. 手石海丘火口から放出する揮発性物質の調査研究

2012年7月17日に漁船をチャーターし、手石海丘の揮発性物質調査を行った。火口内から採取した海水中に溶存するCO<sub>2</sub>、CH<sub>4</sub>などの濃度分析、炭素同位体比分析、放射性炭素分析ほかから、極微量の火山起源揮発性物質の検出に成功した。この結果は直後に国際学会などで発表したのち、学術論文としてJ. Volcanol. Geotherm. Res. に投稿し、2014年に掲載された。

### 3. 火山ガスの化学分析の歴史を調べる研究

火山ガスの化学分析を世界や日本で誰がいつ頃始めたかという、科学研究の歴史に関する調査研究を行ったので、その結果を以下に簡単にまとめる。

火山ガスの化学分析は18世紀末にはイタリアで行なわれていた。Breislakが1790年頃にCampi Flegrei火山のGrotta del Cane(英訳:Dog's Cave)に充満する噴気の化学分析を行ったことが、1792-1797年に出版されたSpallanzaniの研究旅行記に記されている。日本では、19世紀後半の火山調査には火山ガスの記述も見られるが、柴田(1917)による樽前山の火山ガスの化学分析が最初である。この報告ではH<sub>2</sub>SとSO<sub>2</sub>と水蒸気の混合比が噴気孔ごとに異なることを述べているが、分析法や定量値の記述がない。分析法や定量値の記述がある最古の報告は、菅沼(1929)による那須殺生石の噴気の実験的分析である。

教員名：林 拙郎

所 属：客員教授・三重大学名誉教授

激しい豪雨に伴い山地斜面や里山斜面などにおいては、しばしば表層崩壊や溪床土層の崩壊が発生する。豪雨時の土層崩壊により土石流を含む土砂移動が生じ、場合によっては大きな被害を及ぼすような土砂災害となることがある。豪雨によって斜面土層に浸入する降下浸透流は、土層底面に到達すると一部は底面に沿って移動し、一部は底面を通り抜けて基盤内に排水される。土層底面に沿う浸透水は、底面浸透流となり、土層内水分量、あるいは水貯留量を変化させる。土層崩壊の発生時刻を予測するには、崩壊する表土層の水分状態や水貯留量を知る必要がある。

そのために、実効雨量式と同義の1段タンクモデルを組み合わせたモデルを考えている。実効雨量法に必要な未知係数は、1個であり、実効雨量と同義の1段タンクモデルを設定すれば、実効雨量は表土層底面を流れる浸透流の間隙水圧を代替させることが可能である。これまで、実効雨量の係数は明確に決定できず、汎用的な使用ができなかった。

最近では、これまで求められた堆積岩地域の実効雨量の係数の他に、さらに2012年熊本県阿蘇地域の土砂災害と2013年伊豆大島の災害、2014年広島災害に対する実効雨量の係数特性について検討している。

教員名：林 能成

所 属：客員教授・関西大学社会安全学部教授

静岡から関西に引っ越して5年がたちました。こちらに来て感じたことは「ため池」がとても多いことです。私が住む北摂と呼ばれる大阪府の北部地域でも多くのため池を見かけますが、兵庫県の播磨地方へ出張で行ったり、飛行機で上空から眺める機会があると、ため池のあまりの数に驚かされます。

これでもため池は減っています。高度経済成長期以前の地形図を眺めると、北摂地域でも現在の倍以上の数のため池が記されています。その多くは現在では戸建住宅の並ぶ住宅街やマンションに変わっていることに気がつきます。

一般に海岸沿いの埋立地では地震被害が集中する傾向があります。そこで、この「ため池」埋立地でも地震動の増幅特性に違いがないかを確認すべく、常時微動測定を実施しました。関西大学社会安全学部の所在する高槻市において、新旧の地図の比較から見つけたため池跡を5箇所測定しました。ため池跡地と周囲の非埋立地の両方を含むように1箇所につき10点以上計測をして、そのH/Vスペクトルの形状変化を見ました。

H/V スペクトルの計測は上下成分と水平成分の特性が一致している地震計があれば比較的簡単に実施でき、1点10～15分ほどの時間で済むので短時間で多くのデータを集めることができます。データ処理も単純です。静岡大学の防災フェローの実習にも取り入れられています。

計測の結果、ため池跡は3種類に分類できることがわかりました。1つは平地に作られた四方を土手で囲んで作られた「皿池」と呼ばれるもので、このタイプのため池跡地は常時微動で見える限りでは周囲と識別することができませんでした。水利上の管理がなされているため池では定期的に浚渫しており未固結な堆積層は存在しない可能性が高いので、特別な弱点箇所とはならないようです。

あとの2つは谷の出口に築堤を構築して水をためる「谷池」というタイプです。このうち昭和時代に埋め立てられた池の跡地では1.2Hz付近のH/Vスペクトル比が周囲の地盤よりも大きく、埋め立ての影響が示唆される結果が得られました。一方、平成20年代に埋め立てられた新しい住宅街では、埋め立て地でも周囲の地盤とほとんど変わらないH/Vスペクトルが得られました。

この違いは埋め立て技術の進歩によるものか、埋め立てた深さの違いに起因するものか、現時点では特定できていません。学生の卒論として計測データを増やして原因を追究したいと考えています。

教員名：藤井直之

所 属：客員教授・名古屋大学名誉教授

これまで地震や火山噴火の予知予測について考えてきました。また、地下に能動的に信号を送りそれを受信して構造の変化を調べる手法の一つである通称「アクロス」の開発にも多少お手伝いをしてきました。今回は、熊本地震もさることながら、雲仙火砕流による被害発生から25年、御嶽噴火から間もなく2年を迎えて火山災害について雑感を記します。

さて、25年前の雲仙火砕流の発生は、特別に強い思い出となっている。その理由は、神戸大から名古屋大に移動してきて「火山噴火予知連絡会」に初めて出席した直後のことであったことと、被害を受けた方のほとんどが報道関係者とその案内を頼まれた地元の方であったからであった。日本の火山研究者の大部分は前日の日曜日まで火山周辺で調査していたが、奇跡的(?)に被害を免れたのであった。当時は『火砕流』という現象を体験していた研究者はほとんどいなくて皆が皆「教科書中に記載された現象」としての火砕流を知識として知っているだけであった。当の「火山噴火予知連絡会」では”5月26日の『火砕流』に巻き込まれた作業員が軽い火傷をした”という報告があつて、それは教科書で定義された『火砕流』とは違うのではなかろうか?溶岩ドームの一部が崩れて流れ下った”高温土石流”との違いについて議論があつた。僕も教科書でのみ知っていたので『火砕流』に巻き込まれた人間が軽い火傷ダケで済むのはチョット変である、という印象を持ったのである。それはともかく、火山災害には地元の住人や観光客ばかりではなく、報道関係者や火山研究者まで被害者になる、ということを改めて思い知らされ、1952年の明神礁の爆発を思い出したものであった。

一方、2014年9月の御嶽山噴火では、死者・行方不明者が63名となった戦後日本の最大規模の噴火災害であった。そして、被害に会われた方は秋の紅葉などを目的とした観光客で、御嶽山が活火山である事を知らない方も多数いたと報道された。この25年間で火山災害に対して気象庁や火山研究者の間でいろいろと議論がなされ、火山災害に関するハザードマップの作成とか、個々の火山で噴火レベルを設定して関係者に火山の活動状況を理解してもらうという努力がなされてきた。しかし、個々の火山だけでなく個々の噴火においてもその多様性が大きく、したがって想定される火山災害の様態が多岐にわたる。今回の御嶽噴火では、桜島や阿蘇山などのように『爆発的噴火が頻発する火山』と御嶽火山のような普段は全く静かな状態で『小規模な蒸気爆発の頻度が高い』火山では、その噴火レベルの中身をかなり変更されなければならないだろう。極論を言えば『噴火レベル』では災害対策として不十分で地元の方の協力を得て入山者の行動把握と緊急避難施設の増設が急務ではないか。とくに、観光客が集中する期間(観光シーズン)については、特別な配慮が必要で地元住民の方々と、気象庁・火山研究者の間での緊密な連携の重要性が再認識された。

教員名：矢守克也

所 属：客員教授・京都大学防災研究所教授

2012年度から15年度まで、文部科学省の「特別経費」の支援を受けて、私が代表者となって大型研究プロジェクト（「減災社会プロジェクト」）を実施しました。2016年3月、その成果をとりまとめた書籍『減災学—5つのフロンティア』（新曜社）を刊行しました。東日本大震災をうけて実施した減災のための社会的コミュニケーションに関する研究群の成果が詰まっています。ぜひお手にとっていただければと思います。なお、研究成果の一端は、下記のWEBサイトでもご覧いただけます。

※「減災社会プロジェクト」WEBサイト⇒<http://www.drs.dpri.kyoto-u.ac.jp/gsp/>

2014年度からは、内閣府の「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）」の支援を受けて、新たな研究プロジェクトを開始しました（18年度までの予定）。私が責任者をつとめているのは「津波避難訓練および支援ツールの開発研究」です。「減災社会プロジェクト」で新たな津波避難訓練の手法として開発した「個別訓練タイムトライアル」を、より簡易に、かつ大規模に利用可能なスマートフォンのアプリ（「逃げトレ」）として構築中です。試作版が、NHKスペシャル「巨大災害 MEGA DISASTER II（第2集）大避難～命をつなぐシナリオ～」で紹介されるなど、幸い大きな注目をいただいています。完成を目指して頑張りたいと思っています。

また、2015年度からは、高知県黒潮町と私の研究室とで「黒潮町地区防災計画策定のための共同研究」を実施中で（17年度までの予定）、さらに、2016年度からは、JSTとJICAの共同プロジェクトであるSATREPSの枠組で「メキシコ沿岸部の巨大地震・津波災害の軽減に向けた総合的研究」にも研究室として関わることになりました。いずれも、災害リスクコミュニケーション、防災教育、地域防災などを主要テーマとする研究で、研究室を構成する若手の研究員や学生たちが汗を流してくれています。

教員名：吉田明夫

所 属：客員教授・神奈川県温泉地学研究所

2015年4月に箱根山の火山活動が活発化し、6月末に微小な水蒸気噴火も観測されて、一時は気象庁より火山噴火警戒レベル3の情報が発表された。私は、2009年～2013年に所長として温泉地学研究所に勤務していたこともあって、同年の火山活動の推移を、温泉地学研究所の研究者と意見を交換しながら注意深く見守るとともに、この間、内閣府からの要請で、箱根火山防災協議会及び同幹事会にその都度、出席した。

これとは別に、同研究所の研究者とともに、箱根の温泉の起源を火山活動との関連で調査している。

また、静岡大学の生田准教授の研究に触発されて、東北地方太平洋沖地震の余震域の地震活動の特徴（減衰やM度数分布など）について考察している。



教員名：渡辺俊樹

所 属：客員教授・東京大学地震研究所教授

(2016 年度より名古屋大学大学院環境学研究科教授)

2014～2015 年度の 2 年間、東京大学地震研究所において、地震・火山噴火予知研究協議会の流動教員として、「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」の推進に携わりました。これまで理学研究が中心であった地震予知研究計画は、新たに工学、人文・社会科学の研究者を加えて、災害科学の一部としての地震火山研究として再出発を切りました。分野間の垣根を越えた共同研究の実施にはまだ戸惑いも見られますが、開始から 2 年を経て相互理解が進んできたように思われます。多分野の人材の交流は静岡大学防災総合センターが先行して取り組んでいましたので、本センターでの客員の経験も役立つように思われます。

私の関心は地球の内部を「見る」ことにあります。地球内部には光が届かないので、代わりに地震波を用いて探査します。地震が起きる場所はどのようになっている、なぜ地震が起きるのかを理解するために、まず、そこを「見て」構造を明らかにし、地震が来るまでのプロセスを「監視する」ことを目的とした研究をしています。

2013 年度には、当センターの狩野謙一特任教授、伊藤谷生客員教授らと一緒に、静岡県内の南アルプス南端部において自然地震観測を行い、静岡県下に沈み込むフィリピン海プレート の形状や地殻内の構造を明らかにしました。2015 年度には、富士川河口断層帯の構造・成因や活動を解明する調査研究の一環として、富士市および富士宮市に 60 点の地震観測点を設置し、2015 年 12 月から翌年 4 月まで約 4 ヶ月間連続で地震を記録しました。多数の観測点を面的に配置して観測した地震記録から、震源の位置を高精度に決定するとともに、遠地地震や深発地震の波形情報を解析して地殻～プレート境界の地下構造を求める研究を実施しています。

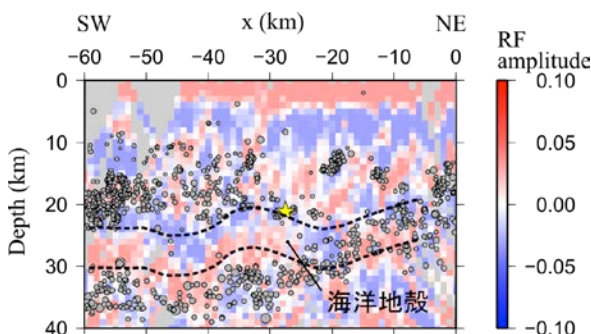


図 2-3 南アルプス南端部の地下構造断面図

図 2-4 自然地震観測点分布 (2015 年度)

**教員名：秦 康範**

**所 属：客員准教授・山梨大学地域防災・マネジメント研究センター准教授**

ポスト阪神・淡路（大震災）と呼ばれる世代の防災研究者です。最近の関心は、持続的な地域の安全安心活動をどのように展開していくかということと、長期的に災害リスクをどのように低減させるかです。いくつかの筆者の問題関心の中で、2014年度～2015年度に大きく展開したのとして、大規模地震時の電気火災対策があります。筆者自身は、1995年1月17日兵庫県南部地震を実家で経験したこともあり、地震時の電気火災（通称、通電火災）については、当時から関心を持っていました。2005年頃から着手し、東電設計の中瀬仁氏や東京理科大学の関澤愛先生らの協力を得て、取り組んで参りました。しかしながら、地震時の電気火災の問題が社会的に大きく取り上げられるには至りませんでした。

潮目が変わったのは、2013年12月に中央防災会議・首都直下地震対策検討ワーキンググループから、感震ブレーカー等の設置により火災被害を半減できることが公表されたあたりでしょうか。その後、2014年に内閣府に大規模地震時の電気火災の発生抑制に関する検討会（座長：関澤愛）が設置され、地震時の電気に起因する出火を防止するために感震ブレーカー等の普及啓発を、国を挙げて行われることとなりました。

阪神・淡路大震災21周年となる2016年1月17日には、NHKニュース7とNHKスペシャルに通電火災の問題が大きく取り上げられ、筆者らの研究成果が使用されました。

防災の問題の多くは、特定の専門分野だけからは解決することが難しい、社会問題と呼ぶべき問題が少なくありません。社会的に影響の大きい課題の解決に、引き続き取り組んで参りたいと考えています。

**教員名：本間基寛**

**所 属：客員准教授・一般財団法人日本気象協会 専任主任技師**

2013年10月から京都大学防災研究所気象・水象災害研究部門気象水文リスク情報(日本気象協会)研究分野の特定助教として、気象水文リスク情報の創出及び活用方策に関する研究に従事してきました。2015年10月からは、一般財団法人日本気象協会事業本部防災ソリューション事業部に専任主任技師として勤務する一方、京都大学防災研究所気象・水象災害研究部門気象水文リスク情報(日本気象協会)研究分野の特任助教も兼務しています。

2014～2015年度には、「不確実性を伴う災害情報の表現方法に関する研究」、「アンサンブル予測を利用したシナリオ型台風予測情報の開発」、「防災気象情報に対応した浸水予測情報の開発」に取り組みました。

## 2.2 研究業績リスト

### 2.2.1 著書

藤井基貴『道徳教育の重要項目 100』教育出版, 2016年2月(7項目全14頁を執筆).

藤井基貴「視点 32 防災教育」『教育の今とこれからの読み解く 57 の視点』教育出版, 2016年2月.

藤井基貴「ドイツにおける研究公正システムの構築—ドイツ研究振興協会 (DFG) と研究不正行為—」『研究倫理の確立を目指して—国際動向と日本の課題—』東北大学出版会, 2015年3月, 95-119頁.

Furuhashi, Y., 分担執筆, Hallucinations causes, management and prognosis Sofia Alvarez 編著, 「The effect of group cognitive behavior therapy for patients with auditory hallucinations in psychiatric disorder」Nova Science Publishes, 2014, 71-92.

Furuhashi, Y., 分担執筆, Autism Spectrum Disorder: Early Signs, Intervention Options and Family Impact. The effect of group cognitive behavior therapy on adults with high-functioning autism spectrum disorder, Nova Science Publishes, 2015, 103-127.

秦康範, (分担執筆) 日本災害情報学会編著: 災害情報学事典, 朝倉書店, 2016.3, 編集委員, 7-7 道路情報 pp.194-195, 9-1 プレビュー: 被害軽減 pp.216-217.

原田賢治: 東日本大震災合同調査報告, 共通編2, 津波の特性と被害, 東日本大震災合同調査報告書編集委員会, 土木学会, 2014, (分担執筆, 7.4 植生被害).

原田賢治: TSUNAMI-津波から生き延びるために (改訂版), 沿岸技術研究センター「TSUNAMI」改定編集委員会編, 2016, (分担執筆, 4.2(2)ハード対策, (3)1)津波避難施設).

林能成, 『企画展示・歴史にみる震災 (図録)』, 国立歴史民俗博物館, 2014 (「東南海地震の特徴・被害概要」 P.177-178, 「袋井周辺への被害集中 (東南海地震)」 P.185, 「三河地震」 P.187, 「南海地震の特徴・被害概要」 P.189, 「稲むらの火」 P.191, 「南海トラフの地震」 P.194-195).

林能成, 『現場の地震防災力を高める～東日本大震災後の取組みに学ぶ実践ノウハウ～』, 中央労働災害防止協会, 2014 (p.8-14, 「第1章 日本の地震リスク」).

林能成, 『災害フィールドワーク論 FENICS・100万人のフィールドワーカーシリーズ』, 古今書院, 2014 (p.61-77, 「第4章 理系研究者によるインタビュー調査～2004年インド洋大津波～」).

林能成, 『リスク管理のための社会安全学』, ミネルヴァ書房, 2015 (p.144-166, 「第8章 鉄道における津波避難の課題」).

林能成, 『東日本大震災 復興5年目の検証: 復興の実態と防災・減災・縮災の展望』, ミネルヴァ書房, 2016 (p.117-135, 「第5章 東日本大震災後の地震学と地震防災」).

岩松 暉: 記念碑が伝える桜島大正噴火, 高橋和雄編, 災害伝承—命を守る地域の知恵—,

- 古今書院, 2014, 111-142.
- 岩田孝仁・他, 「国難」となる巨大災害に備える (分担執筆), ぎょうせい, 2015, (第1章防災・減災 6.4 都道府県地域防災計画, p.118-123) .
- 岩田孝仁・他, 災害情報学事典 日本災害情報学会編 (共編著), 朝倉書店, 2016, (第2部メディア第5章行政用メディア, p.134-137, p.140-141) .
- Kasahara, J., and Yoko Hasada, *Time-Lapse Approach to Monitoring Oil, Gas, and CO2 Storage by Seismic Method*, Elsevier Pub., Netherland. 2016.
- 木村浩之: 第26章 地下圏微生物によるメタン生成と分散型エネルギー生産技術への応用. 難培養微生物研究の最新技術 III (シーエムシー出版), 2015.
- 小山真人: 火山がつくった伊東の風景 (第2版) -伊豆半島のジオマップ1-. 静岡新聞社, 変形A2判, 2015.
- 小山真人 著・平井和也 訳: *Geohistory of the Izu Peninsula. The Shizuoka Shimbun* 伊豆の大地の物語 英語版, 199p., 2015.
- 小山真人 (分担執筆): 世界文化遺産富士山を考える. 静岡大学イノベーション社会連携推進機構・中日新聞東海本社, 114p, 2014.
- 小山真人: 火山がつくった奥伊豆の風景-伊豆半島のジオマップ5-. 静岡新聞社, 変形A2判, 2014.
- 前田恭伸, 瀬尾佳美, 元吉忠寛: 東日本大震災後のわが国のあり方についてのシナリオ分析 2012年調査報告, 日本リスク研究学会, 2014.
- 前田恭伸, 瀬尾佳美, 元吉忠寛: 東日本大震災後のわが国のあり方についてのシナリオ分析: 2013年, 2014年調査報告, 日本リスク研究学会, 2015.
- 村越真・長岡健一 「山のリスクと向き合うために: 登山におけるリスクマネジメントの理論と実践」 東京新聞, 2015.
- 村越真・宮内佐季子 「part3 Navigation: 読図・ナビゲーションの基礎」 DO Mt.Book (編) 安全登山の基礎知識, スキージャーナル社 pp49-74. 2015.
- 中川和之, 分担執筆 「センサーショナリズムと取材の安全」, 「内閣情報集約センター」, 災害情報学会編: 『災害情報学事典』, 朝倉書店, 2016, 116-117, 174-175.
- 中井孝芳・土屋智ほか, 第8章プログラミング入門, LET'S ENJOY COMPUTING「2015」-情報処理-, 学術図書出版社, 2015.
- 佐藤健: 東日本大震災を乗り越える復興学習～宮城県石巻市立鹿妻小学校の取り組み～, まなびと, 春号, 2頁～7頁, 2016年.
- 矢守克也・GENERATION TIMES (共著): 被災地 DAYS: 時代 QUEST-災害編-, 弘文堂, 2014.
- 矢守克也 (分担執筆): 津波対策編の改訂・追加と避難対策の充実 河田恵昭・安部誠治・室崎益輝・林敏彦・計盛哲夫 (編) 「災害対策全書別巻: 国難となる巨大災害に備える」, ぎょうせい, 2015, pp.54-61.

- 矢守克也 (分担執筆) : 人間科学の試み 「災害と文明」取材班「災害と文明」, 潮出版, 2015, pp.211-216.
- 矢守克也 (分担執筆) : 社会問題の社会心理学 下山晴彦 (編集代表)「心理学辞典」, 誠信書房, 2014, pp.278-280.
- 矢守克也 (分担執筆) : 「なぜこんな大きな被害に?」「コラム:津波てんでんこ」 京都大学防災研究所 (編)「巨大地震 なぜ起こる? そのときどうする?」, PHP 研究所, 2014.

### 2.2.2 学術論文

- 天野文子, 風間聡, メコン河氾濫原におけるリン輸送モデルの構築および肥沃効果と農業への影響評価, 土木学会論文集 B1(水工学) Vol.71, No.4, pp. I\_1189-I\_1194, 2015.3.12.
- Amano, A., So Kazama, Evaluation of nutrient condition and agricultural production in the inundation areas of the Mekong River, *Environmental Hydraulics*, pp.375-378, 2014.1.9.
- Arai, R., Kei Nukazawa, So Kazama, Yasuhiro Takemon, Variation in benthic invertebrate abundance along thermal gradients within headwater streams of a temperate basin in Japan, *Hydrobiologia*, 762, pp.55-63, DOI 10.1007/s10750-015-2336-8, 2015.5.19.
- 新井涼允, 糠澤桂, 風間聡, 竹門康弘, 水温環境の変化に伴う源流域における底生動物群集の将来変化, 土木学会論文集 B1(水工学) Vol.70, No.4, pp. I\_1303-I\_1308, 2014.3.6.
- Baito, K., Satomi Imai, Makoto Matsushita, Miku Otani, Yu Sato, Hiroyuki Kimura (2015) Biogas production using anaerobic groundwater containing a subterranean microbial community associated with the accretionary prism. *Microbial Biotechnology* 8: 837-845.
- Banerjee, R., Dwijest Ray, and Teruaki Ishii, Mineral Chemistry and Alteration Characteristics of Spinel in Serpentinised Peridotites from the Northern Central Indian Ridge, *Journal Geological Society of India*, 86, 41-51, doi : 0016-7622/2015-86-1-41/, 2015 (査読有り).
- Chigira, M., Geological and geomorphological features of deep-seated catastrophic landslides in tectonically active regions of Asia and implications for hazard mapping. *Episodes* 37, 284-294, 2014.
- 千木良雅弘, 近年の地震による急激な地すべりから学ぶもの. *日本地すべり学会誌* 52, 45-50, 2015.
- 千木良雅弘, 深層崩壊の場所の予測と今後の研究展開について. *応用地質* 56, 200-209, 2015.
- Enescu, B., Shibutani, T., Ito K., Ohmi, S., Wada H.: Seismic activity and one-dimensional velocity structure along the Atotsugawa fault, from precise

- hypocenter relocations, *Earth Evolution Sciences*, University of Tsukuba, Vol.9, pp.5-14, 2015.
- 藤井基貴「ドイツの研究倫理：抄訳『DFG 提言』（2013）——一部改訂と「内部告発」項目の追加——」田中奈津子との共著『静岡大学教育研究』No.12, 2016年3月, 11-24頁.
- 藤井基貴「道德教育における内容項目『家族愛』に関する基礎的研究」中村美智太郎との共著『静岡大学教育実践総合センター紀要』24号, 2016年3月, 11-20頁.
- 藤井基貴「教育史におけるカント—大学史・教育思想史・影響作用史—」『日本カント研究』16, 2015年7月, 67-86頁.
- 藤井基貴「道德教育における内容項目「自然愛」に関する基礎的研究」中村美智郎との共著『教科開発学論集』3号, 2015年3月, 47-60頁.
- 藤井基貴「ドイツにおける研究倫理への取り組み（2）-オンブズマン制度の検討を中心に」『教育学部研究報告（人文・社会・自然科学編）』65号, 2015年1月, 115-123頁.
- 藤井基貴「災害哲学の教育—『防災道德』授業の実践と哲学教育への可能性」『文化と哲学』vol.31, 2014年8月, 21-40頁.
- 藤原 治・北村晃寿・佐藤善輝・青島 晃・小野映介・小林小夏・小倉一輝・谷川晃一郎, 静岡県西部の太田川低地で見られる弥生時代中・後期の相対的海水準上昇. *第四紀研究*, 54, 11-20. 2015.
- 舟津碧, 前堀洋子, 加治由記, 野上愛里子, 山本こず恵, 松元百合子, 古橋裕子, 太田裕一, 山本裕之:「定期健康診断におけるメンタルヘルス面談者選定方法についての検討」*CAMPUS HEALTH* 53(1), 313-315, 2015.
- Furuhashi, Y., Hikikomori in Japanese University students: A case study of 38 Hikikomori patients. *Pluralism in Psychiatry*, 127-130, 2014.
- Furuhashi, Y., Adult onset cerebral X-linked adrenoleukodystrophy in 18 cases. *Health*, 723-728, 2015.
- Furuhashi, Y., Group therapy for university students with autism spectrum disorder. *European Psychiatry*, 789-780, 2016.
- 古橋裕子, 加治由記, 松本百合子, 野上愛里子, 山本こず恵, 前堀洋子, 浅井園子, 太田裕一, 山本裕之:「大学入学後に自閉症スペクトラムと診断された自験例の検討」*CAMPUS HEALTH* 53(1), 409-410, 2014.
- 古橋裕子, 加治由記, 松本百合子, 野上愛里子, 山本こず恵, 前堀洋子, 浅井園子, 太田裕一, 山本裕之:「大学生の長期不登校について—自験例 51 例の検討—」*CAMPUS HEALTH* 52(1), 347-348, 2014.
- Gunasekara, N. K., S. Kazama, D. Yamazaki, T. Oki, Water conflict vulnerability of Mekong countries in the near future, *Southeast Asian Water Environmnet* 5, pp.205-211, 2014.1.
- Gunasekara, N. K., S. Kazama, D. Yamazaki, T. Oki, Water conflict risk due to water

- resource availability and unequal distribution, *Water Resources Management*, No.28, pp.169-184, DOI 10.1007/s11269-013-0478-x, 2014.1.1.
- 秦康範, 酒井厚, 一瀬英史, 石田浩一: 児童生徒に対する実践的防災訓練の効果測定—緊急地震速報を活用した抜き打ち型訓練による検討—, *地域安全学会論文集*, No.26, 2015.7.
- 秦康範, 原田悠平: 土木学会論文集 A1 (構造・地震工学), Vol. 70, No. 4, pp. I\_1107-I\_1117, 2014.7.
- Hasada, Y., and Kasahara, J., Simulation of time-lapse imaging for small oil/gas reservoirs at shallow and deep using a few ACROSS seismic sources and sparse receivers, *Proc. of the 134th SEGJ Conf.*, 96-99.2016.
- Hashimoto, T., Satorushi Kimura, András Rövid, Satoshi Tsuchiya, Yoichi Takebayashi: Multi-camera Based Monitoring Approach to Support the Prediction of Landslides, *IJCSN International Journal of Computer Science and Network*, Volume 3, Issue 3, pp. 92-98, 2014.
- 早川由紀夫・萩原佐知子・野村正弘・小山真人: 読めて使える美しい火山地質図を安価で市場に出す. *地図*, 53, 57-65, 2015.
- 林 拙郎・山田 孝: 豪雨による斜面表層崩壊と実効雨量—斜面内土層の浸透流からの検討—, *地盤工学電子ジャーナル*, 10(1), p.157-162, 2015.
- Hernández, P. A., Melián, G., Giammanco, G., Sortino, F., Barrancos, J., Pérez, N. M., Padrón, E., López, M., Donovan, A., Mori, T. and Notsu, K. (2015) Contribution of CO<sub>2</sub> and H<sub>2</sub>S emitted to the atmosphere by plume and diffuse degassing from volcanoes: the Etna volcano case study. *Surv. Geophys.* 36, 327-349.
- Higuchi, K., Chigira, M., Lee, D.H., J.-H., W., Rapid weathering and erosion of mudstone induced by saltwater migration near a slope surface. *ASCE*, 1-5, 2014.
- 本間基寛・新井恭子・松本健人・鈴木靖: 不確実性を伴う災害情報の表現方法に関する検討, *京都大学防災研究所年報*, No. 57B, pp. 348-356, 2014.
- 本間基寛・新井恭子・松本健人・鈴木靖: 確率情報を含む気象情報に対する住民の受容特性に関する研究, *自然災害科学*, Vol. 34, 特別号, pp.11-21, 2015.
- 本間基寛: 防災気象情報に対応した洪水ハザードマップの検討, *京都大学防災研究所年報*, No. 58B, pp.283-293, 2015.
- Hou, Y., Chigira, M., Tsou, C.Y., Numerical study on deep-seated gravitational slope deformation in a shale-dominated dip slope due to river incision. *Engineering Geology* 179, 59-75, 2014.
- 池田恵子: 減災の諸科学における多様性・ジェンダーの視点 (特集1 減災の科学を豊かに—多様性・ジェンダーの視点の主流化に向けて—), *学術の動向* 2015年4月号 10-14頁, 2015.



- 池田恵子：「災害時におけるジェンダーに基づく暴力」研究 —海外の動向と今後の展望，  
国際ジェンダー学会誌 12 巻， 5-20 頁， 2014.
- Ikeda, M., Rie S. Hori, Yuki Okada, Ryoichi Nakada, Volcanism and deep-ocean acidification across the end-Triassic extinction event. *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology*, 440, 725-733, 2015.
- Ikeda, M., Rie, S., Hori, Effects of Karoo-Ferrar Volcanism and Astronomical Cycles on the Toarcian Oceanic Anoxic Events (Early Jurassic). *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology* 410, 134-142, 2014.
- Ikeda, M. and Ryuji Tada, A 70 million year astronomical time scale of the deep-sea sequence (Inuyama, Japan): Implication for Triassic-Jurassic geochronology. *Earth and Planetary Science Letters*, 399, 30-43, 2014.
- Ikeda, Y., Keisuke Nagao, Teruaki Ishii, Daisuke Matsumoto, Robert J. Stern, Hiroo Kagami, Makoto Arima and Sherman H. Bloomer, Contributions of slab fluid and sediment melt components to magmatism in the Mariana Arc-Trough system : Evidence from geochemical compositions and Sr, Nd, and noble gas isotope systematics, *Island Arc*, 2016 (in press, 査読有り).
- Ikuta, R., Yuta Mitsui, Yuri Kurokawa, and Masataka Ando, Evaluation of strain accumulation in global subduction zones from seismicity data, *Earth Planets Space*, 67(192), 2015.
- Imaizumi, F., Tsuchiya, S., Ohsaka, O., Field observations of debris-flow initiation processes on sediment deposits in a previous deep-seated landslide site, *Journal of Mountain Science*, 13, 213-222, 2016.
- Imaizumi, F., Nishii, R., Murakami, W., Daimaru, H., Parallel retreat of rock slopes underlain by alternation of strata, *Geomorphology*, 238, 27-36, 2015.
- Imaizumi, F., Sidle, R. C., Togari-Ohta, A., Shimamura, M., Temporal and spatial variation of infilling processes in a landslide scar in a steep mountainous region, Japan, *Earth Surface Processes and Landforms*, 40, 642-653, 2015.
- Imaizumi, F., Miyamoto, K., Pore water pressure in two-dimensional slopes with multi-layer soil structure, In *Proceedings of 5th International Workshop on Multimodal Sediment Disasters*, 9-17, 2014.
- 井上尚達, 風間聡, 小森大輔, タイにおける豪雨に伴う斜面崩壊危険度の将来予測, 土木学会論文集 G(環境), Vol.70, No.5, I\_183-I\_188, 2014.9.5.
- 石橋秀巳: 斜方輝石中の Ca 含有量に基づく地質温度計の信頼性について. 静岡大学地球科学研究報告, 41, 15-22. 2014.
- 石井輝秋: 「よこすか」「しんかい 6500」YK15-11 研究航海の紹介と海洋底研究への誘 — 深層崩壊による巨大海底地滑りの 6K1429 潜航研究速報—深田地質研究所年報,15, 1-12,

- 2015 (査読なし).
- 石川芳治・池田暁彦・柏原佳明・牛山素行・林真一郎・森田耕司・飛岡啓之・小野寺智久・宮田直樹・西尾陽介・小川洋・鈴木崇・岩佐直人・青木規・池田武穂：2013年10月16日台風26号による伊豆大島土砂災害，砂防学会誌，Vol.66，No.5，pp.61-72，2014.
- 板寺一洋・吉田明夫，2015年箱根火山活動時の傾斜変動と地震活動の相関，温泉地学研究所研究報告，47，11-22，2015.
- 井浦一，森 康，石橋秀巳：福岡県津屋崎古墳群に用いられた玄武岩石材の供給地．九州考古学（印刷中），2015.
- 岩堀卓弥・城下英行・宮本匠・矢守克也：正統的周辺参加理論に基づく防災学習の実践 自然災害科学，34(2)，113-128，2015.
- 岩松 暉：「災後」のジオサイエンス，学術の動向，Vol. 21， No. 4， 78-83， 2016.
- 岩松 暉：史料にみる桜島大正噴火，地質学史懇話会会報， No. 43， 22-27， 2014.
- 加治由記，野上愛里子，山本こず恵，松元百合子，古橋裕子，太田裕一，前堀洋子，山本裕之：「大学生における出生時発育状況と生活習慣病との関連について」 CAMPUS HEALTH 53(1)， 214， 2015.
- Kameda, J., Kouketsu, Y., Shimizu, M., Yamaguchi, A., Hamada, Y., Hamahashi, M., Koge, H., Fukuchi, R., Ikeda, M., Kogure, T., Kimura., G., The influence of organic-rich shear zones on pelagic sediment deformation and seismogenesis in a subduction zone. *Journal of Mineralogical and Petrological Sciences*. 109, 228-238, 2014.
- Kamimura, A., Kasahara, J., Murase, K., Tazawa, O., Nishiyama, E., Kubota, R., Fujimoto, O., Ohmura, T., Noguchi, S., and Ohnuma, H., A seismic wave simulation to evaluate heterogeneities for time lapse studies ,in *Proc. of 8th Asian Rock Mechanics Symposium*, 1-9, 2014.
- Kaneko, M., Yoshinori Takano, Yoshito Chikaraishi, Susumu Asakawa, Takeshi Watanabe, Seigo Shima, Nanako O. Ogawa, Martin Krüger, Makoto Matsushita, Hiroyuki Kimura, Naohiko Ohkouchi (2014) Quantitative analysis of coenzyme F430 in environmental samples: a new diagnostic tool for methanogenesis and anaerobic methane oxidation. *Analytical Chemistry* 86: 3633-3638.
- Kang, J. H., and So Kazama, Development and application of hydrological and geomorphic diversity measures for mountain streams with check and slit-check dams, *Journal of Hydro-environment Research*, Vol.8, Iss.1, pp.32-42, DOI:10.1016/j.jher.2013.05.002, 2014.3.
- 狩野謙一・伊藤圭太：南アルプス南部，大井川上流部のジオサイト・ジオツアーガイド．静岡大学地球科学研究報告，42，85-107，2015.

- Kasahara, J., Aldamegh K., Al-anezi, G. T., AlYousef, K., Lafouza, O., Alhumaizi, A., Almalki, F. and Kubota, R., The interpretation of time lapse data obtained by seismic ACROSS source operated in Al Wasse water pumping field in Saudi Arabia, 2nd International KACST-KAUST-JCCP Workshop on Surface and Subsurface 4D Monitoring King Abdullah University of Science and Technology (KAUST), Saudi Arabia, 2014.
- Kasahara, J., Kubota, R., Kanai, Y., Tazawa, O., Fujimoto, O., Nishiyama, E., Kamimura, A., Murase, K., Noguchi, S., Ohmura, T. and Hasada, Y., A time lapse test of seismic waveform changes during several days at a tuff area in Japan using a seismic vibrator, 2nd International KACST-KAUST-JCCP Workshop on Surface and Subsurface 4D Monitoring, King Abdullah University of Science and Technology (KAUST), Saudi Arabia, 2014.
- 笠原順三, 久保田隆司, 金井豊, 田澤教, 藤本理, 西山英一郎, 上村彩, 村瀬敬, 羽佐田葉子, Time Lapse おける著しい表層の影響の観測結果と考察, 第 130 回物理探査学会講演集, 212-215, 2014.
- Kasahara, J., Ryuji, K., Kanai, Y., Tazawa, O., Fujimoto, O., Nishiyama, M., Kamimura, A., Murase, K., Noguchi, S., Ohumra, T. and Hasada, Y., A time lapse test of seismic waveform changes during several days at tuff area in Japan using a seismic vibrator, Proc. of the 130th SEGJ Conf., 216-219, 2014.
- Kasahara, J., Hasada, Y., Al-Damegh, K., Al-anezi, G., and Nishiyama, E., Seismic interferometry using data during CROSS operation, Proc. of the 131th SEGJ Conf., 147-149, 2014.
- Kasahara, J., Kubota, R., Kanaia, Y., Tazawa, O., Fujimoto, O., Nishiyama, E., Kamimura, A., Murase, K., Noguchi, S., Ohmura, T., and Hasada, Y., Continuous Monitoring of Seismic Waveform Changes during several Days at the Green Tuff Area in Japan using a seismic vibrator, Proc. of 8th Asian Rock Mechanics, Sapporo, Japan. 1615-1624, 2014.
- Kasahara, J., Aldamegh, K., Alanezib, G.T., AlYousef, K., Almalki, F., Lafouza, O., Hasada, Y., and Murase, K., Simultaneous time-lapse data acquisition of active and passive seismic sources at Al Wasse water pumping field in Saudi Arabia Energy Procedia, 76, 512-518, 2015.
- Kasahara, J., Hasada, Y. and Tsuruga, K., Active monitoring of earthquake focal zone using ultra-stable seismic source, Proceedings of ICSEE, May 2015, 1-7, 2015.
- Kasahara, J. Naoyuki, Fujii, Hasada, Y., Kamimura A. and Ushiyama, M., Seismic time lapse experiments in the old quarry and the relation to the past subsidence area, Proc. of the 132th SEGJ Conf., 207-210, 2015.

- Kasahara, J., Hasada, Y., Kamimura, A., Fujii, N. and Ushiyama, M., Source signature changes using conventional seismic sources, Proc. of the 132th SEGJ Conf., 203-206, 2015.
- Kasahara et al., Results of two time-lapse experiments in Al Wasse, Saudi Arabia using ACROSS source, Proc. of the 133th SEGJ Conf., 2015.
- Kasahara et al., Results of time-lapse experiment in Saudi Arabia using ACROSS seismic source during April and June, 2015, Proc. of the 134th SEGJ Conf., 2015.
- Kasahara, J., Al Damegh, K., Al-Anezi, G., Murase, K., Kamimura, A., Fujimoto, O., Ohnuma, H. & Hasada, Y., Time-lapse observation in Al Wasse field in Saudi Arabia using ACROSS seismic source and its interpretation, Proc. of the 134th SEGJ Conf., 104-110, 2016.
- Kasahara, J., Al Damegh, K., Al-Anezi, G., Murase, K., Kamimura, A., Fujimoto, O., Ohnuma, H. & Hasada, H., ACROSS Refraction study for the interpretation of time-lapse data in Al Wasse field, Saudi Arabia, Proc. of the 134th SEGJ Conf., 100-103, 2016.
- 河合美保・村越真:小学校高学年児童における学校内の危険な場所の評価と特定について  
教科開発学論集, 4号, 23-32, 2016.
- 菊池秀哉, 風間聡, 朝岡良浩, 月最少降水量と無降雨期間に着目した渇水期の流出特性評価,  
土木学会論文集 B1(水工学) Vol.70, No.4, pp. I\_439-I\_444, 2014.3.5.
- 岸 伸恵・岩崎一孝: 気象台が提案する児童・生徒を対象とした防災授業構成の枠組みについて,  
情報学ワークショップ 2014 (WiNF2014) 論文集, pp.100~104, 2014.
- Kitamura, A. and Kobayashi, K., Geologic evidence for prehistoric tsunamis and coseismic uplift during the AD 1854 Ansei-Tokai earthquake in Holocene sediments on the Shimizu Plain, central Japan. The Holocene, 24, 814-827. DOI: 10.1177/0959683614530447, 2014.
- 北村晃寿・大橋陽子・宮入陽介・横山祐典・山口寿之, 静岡県下田市海岸から発見された津波石.  
第四紀研究, 53, 259-264. 2014.
- 北村晃寿・小林小夏, 静岡平野・伊豆半島南部の中・後期完新世の古津波と古地震の地質学的記録.  
地学雑誌. 123, 813-834. 2014.
- Kitamura, A., Koyama, M., Itasaka, K., Miyairi, Y., and Mori, H., Abrupt Late Holocene uplifts of the southern Izu Peninsula, central Japan: Evidence from emerged marine sessile assemblages. Island Arc, 23, 51-61. DOI: 10.1111/iar.12059, 2014.
- 北村晃寿・鈴木孝和・小林小夏, 静岡県焼津平野における津波堆積物の調査. 静岡大学地球科学研究報告, 42, 1-14. 2015.
- 北村晃寿・川手繁人, 静岡県南伊豆・吉佐美の海岸低地における津波堆積物の有無の調査.  
静岡大学地球科学研究報告, 42, 15-23. 2015.

- Kitamura, A., Mitsui, Y., Kim, H. Y., Examination of an active submarine fault off the southeast Izu Peninsular, central Japan, using field evidence for co-seismic uplift and a characteristic earthquake model. *Earth, Planets and Space*. 67:197 DOI 10.1186/s40623-015-0367-z, 2015.
- Kitamura, A., Ohashi, Y., Ishibashi, H., Miyairi, Y., Yokoyama, Y., Ikuta, R., Ito, Y., Ikeda, M., and Shimano, T., Holocene geohazard events on the southern Izu Peninsula, central Japan. *Quaternary International*. 397, 541-554, doi:10.1016/j.quaint.2015.04.021, 2016.
- Kitamura, A., Yuta Mitsui, Shigeto Kawate, and Haeng Yoong Kim, Examination of an active submarine fault off the southeast Izu Peninsula, central Japan, using field evidence for co-seismic uplift and a characteristic earthquake model, *Earth Planets Space*, 67(197), 2015.
- Kubota, R., Kanai, Y., Uchiyama, A., Tazawa, O., Fujimoto, O., Nishiyama, E., Murase, K., Kamimura, A., Noguchi, S., Ohmura, T. and Kasahara, J., The interpretation of time lapse data obtained by seismic ACROSS, 2nd International KACST-KAUST-JCCP Workshop on Surface and Subsurface 4D Monitoring, King Abdullah University of Science and Technology (KAUST), Saudi Arabia, 2014.
- 國友孝洋・山岡耕春・渡辺俊樹・吉田康宏・勝間田明男・生田領野・加藤愛太郎・飯高 隆・津村紀子・大久保慎人, 弾性波アクロスによる東海地域地殻の P 波および S 波速度構造の推定, *地震* 2, 67, 1, 1-24, 2014.
- Kuri, M., Miyahara, M., Sato, S., Watanabe, M., Nakagawa, K., Report of "Geopark on Stricken Area: Disasters and Gifts of Geo", *Journal of Disaster Research*, 11(3), 425-436, 2016.
- Lee, F., Yamori, K., and Miyamoto, T., The relationship between local residents and media during recovery: Lessons from "Star disaster-affected areas" in Taiwan. *Journal of Natural Disaster Science*, 36, 1-11, 2015.
- 李勇昕・宮本匠・近藤誠司・矢守克也 : 「羅生門問題」からみた被災地の復興過程—茨城県大洗町を例に. *質的心理学研究*, 14, 38-54, 2015.
- Liao, X., Chigira, M., Matsushi, Y., Wu, X., Investigation of water-rock interactions in Cambrian black shale via a flow-through experiment. *Applied Geochemistry* 51, 65-78, 2014.
- Machida, S., Koichiro Fujinaga, Teruaki Ishii, Kentaro Nakamura, Naoto Hirano, and Yasuhiro Kato, Geology and geochemistry of ferromanganese nodules in the Japanese Exclusive Economic Zone around Minamitorishima Island, *Geochemical Journal*, 2016 (in press, 査読有り).
- Maeda Y., K. Yamaoka, H. Miyamachi, T. Watanabe, T. Kunitomo, R. Ikuta, H. Yakiwara,

- M.Iguchi, A subsurface structure change associated with the eruptive activity at Sakurajima Volcano, Japan, inferred from an accurately controlled source. *Geophysical Research Letters*, 42, 5179-5186, doi:10.1002/2015GL064351, 2015.
- 前田恭伸, 瀬尾佳美, 元吉忠寛: 東日本大震災後のわが国のあり方についてのシナリオ分析 (予備調査・抄), *日本リスク研究学会誌*, Vol.24, No.1, 61-66, 2014.
- 前堀洋子, 山本裕之, 浅井園子, 石塚泰世, 舟津碧, 加治由記, 山本こず恵, 野上愛里子, 森田純仁, 古橋裕子 太田裕一: 「健診時体重増加に伴い実施した血清生化学的肝機能検査の有用性と生活習慣病予防」 *CAMPUS HEALTH* 52(1), 273-275, 2014.
- Manandhar S., Pratoomchai W., Ono K., Kazama S., Komori D., Local people's perceptions of climate change and related hazards in mountainous areas of northern Thailand, *International Journal of Disaster Risk Reduction*, 11, pp.47-59, DOI:10.1016/j.ijdrr.2014.11.002. 2015.3.1.
- 増井健志・今泉文寿・土屋智・逢坂興宏, 2015年8月6日の短時間強雨により大谷崩一の沢で発生した石礫型土石流, *中部森林研究*, 64, 115-116, 2016.
- 松富英夫・原田賢治・鴨澤明志・決得元基・嶋津朋: 力の作用高さ, 生存・枯死, 生育場所からみた三陸海岸黒松の被害条件, *土木学会論文集 B2 (海岸工学)*, Vol.70, No.2, I\_366-I\_370, 2014.
- 松澤真, 千木良雅弘, 土志田正二, 中村剛, 岩石の風化程度および削剥前線に支配された表層崩壊発生場-和泉層群の例. *応用地質* 55, 64-76, 2014.
- 松元百合子, 古橋裕子, 加治由記, 野上愛里子, 山本こず恵, 森田純仁, 太田裕一, 前堀洋子, 浅井園子, 山本裕之: 「事後指導における体重変化に見た健診結果の変化の比較」 *CAMPUS HEALTH* 52(1), 160-161, 2014.
- Michibayashi, K., Mainprice, D., Fujii, A., Uehara, S., Shinkai, Y., Kondo, Y., Ohara, Y., Ishii, T., Fryer, P., Bloomer, S. H., Ishiwatari, A., Hawkins, J. and Ji, S., Natural olivine crystal-fabrics in the western Pacific convergence region: a new method to identify fabric type, *Earth and Planetary Science Letters*, 443, 70-80, 2016(査読有り).
- 三澤公希, 風間聡, 鈴木武, 有働恵子, 手塚翔也, 気候変動下の洪水と高潮の複合災害リスク推定, *土木学会論文集 G(環境)*, Vol.70, No.5, I\_95-I\_100, 2014.9.3.
- Mitsui, Y. and Kosuke Heki, Report on a characteristic oscillation about 38 mHz (26 s) in Northeastern Japan following surface wave of the 2011 Tohoku megathrust earthquake, *Geophys. J. Int.*, 202, 419-423, 2015.
- Mitsui, Y., Interval modulation of recurrent slow slip events by two types of earthquake loading, *Earth Planets Space*, 67(56), 2015.
- 三井 雄太・平原 和朗, 断層ガウジ内の摩擦発熱・ダイラタンシー・間隙シーリングによる間隙流体圧変動を実装した1自由度バネ-ブロックモデル —2つの空間スケール—, *静岡大学地球科学研究報告*, 41, 7-14, 2014.

- 三井 雄太, 速度・状態依存摩擦則を用いた地震サイクル計算における dip angle および動的応力伝播の効果, 静岡大学地球科学研究報告, 41, 1-6, 2014.
- 宮坂 晃・狩野謙一: 北部フォッサマグナ南東部, 小諸陥没盆地の鮮新世～中期更新世のテクトニクス 静岡大学地球科学研究報告, 42, 63-83, 2015.
- Miyazaki, T., J.-I. Kimura, R. Senda, B. S. Vaglarov, Q. Chang, T. Takahashi, Y. Hirahara, F. Hauff, Y. Hayasaka, S. Sano, G. Shimoda, O. Ishizuka, H. Kawabata, Naoto Hirano, S. Machida, T. Ishii, K. Tani, and T. Yoshida, Missing western half of the Pacific Plate: Geochemical nature of the Izanagi-Pacific Ridge interaction with a stationary boundary between the Indian and Pacific mantles, *Geochem. Geophys. Geosyst.*, 16, 3309-3332, doi:10.1002/2015GC005911, 2015 (査読有り).
- Mori, K., Atsushi Yamazoe, Akira Hosoyama, Shoko Ohji, Nobuyuki Fujita, Jun-ichiro Ishibashi, Hiroyuki Kimura, Ken-ichiro Suzuki (2014) *Thermotoga profunda* sp. nov., and *Thermotoga caldifontis* sp. nov., anaerobic thermophilic bacteria isolated from terrestrial hot springs. *International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology* 64: 2128-2136.
- Morishita, Y. and Usui, A., Microanalysis of platinum in hydrogenetic ferromanganese crust using SIMS. *Geochemical Journal*, 49, e21-e26, 2015.
- 森俊明, 前堀洋子, 山本裕之, 浅井園子, 石塚泰世, 舟津碧, 加治由記, 山本こず恵, 野上愛里子, 古橋裕子, 太田裕一: 「新入生における体型別にみた月経異常の特性について」 *CAMPUS HEALTH* 53(1), 204-205, 2015.
- 森保文, 前田恭伸, 根本和宜, 浅野敏久, 伊藝直哉: 環境配慮行動に与えた東日本大震災の影響とその機構, *環境共生* Vol.24, 43-53, 2014.
- 森保文, 前田恭伸, 浅野 敏久: 清掃活動とスポーツの組み合わせがボランティア募集に与える影響, *環境科学会誌*, Vol.28, No.3, 230-240, 2015.
- 村越 真・中村 美智太郎・河合美保: 高所登山は「死と隣り合わせ」か: 高所登山家のリスクの捉えとリスク対処方略を明らかにする, *体育学研究*, 59(2), 177-191, 2014.
- 村越真: KYT シートによる危険予知トレーニングは、リスク特定・対応スキルを向上させるか 教科開発学論集, 3号, 35-46, 2015.
- Murakoshi, S. & Higashi, H. Cognitive component of navigation behavior and map reading skills. *International Cartographic Journal* (published online), 2016.
- 永幡寛三・石井輝秋・大森聡一,(2015),山梨県富士河口湖町毛無山周辺産ザクロ石酸性火山岩の分布と岩石学的特徴,地質学雑誌,121,141-146, Doi : 10.5575/geosoc. 2015. 0003 (査読有り).
- Nakai, F., Hatahana, M., and Yamori, K. 2015. Integrating computer simulation and the filedwork to discover possible alternatives for tsunami evacuation. *Proceedings of the 48th. Internatinoal Conference on Systems Science.*

- 中村譲治・原田賢治：企業による東日本大震災被災地支援—被災後3年以降の支援についてのアンケート調査—, 自然災害科学, vol.34, no.2, pp.143-150, 2015.
- 中村譲治・原田賢治：企業の社会的責任（CSR）の側面からみた企業の地域防災への取り組みに関する調査, 地域安全学会論文集, No.24, pp.53-60, 2014.
- 中島秀明・田中耕司・中北英一・竹之内健介・矢守克也・養老伸介・羽生雅則：中小河川群における内外水氾濫過程を踏まえた地区別の避難判断・行動に関する研究 河川技術論文集, 20, 425-430, 2014.
- 野坂大樹・今泉文寿・西井稜子・上野健一, 山岳域における植生条件 微気象が土砂移動に与える影響, 中部森林研究, 64, 111-114, 2016.
- Notsu, K., Sohrin, R., Wada, H., Tsuboi, T., Sumino, H., Mori, T., Tsunogai, U., Hernandez, P.A., Suzuki, Y., Ikuta, R., Oorui, K., Koyama, M., Masuda, T., and Fujii, N., Leakage of magmatic-hydrothermal volatiles from a crater bottom formed by a submarine eruption in 1989 at Teishi Knoll, Japan. *J.Volcanol.Geotherm.Res.*, 270, 90-98, 2014.
- Nukazawa, K., So Kazama, Kozo Watanabe, A hydro-thermal simulation approach to modelling spatial patterns of adaptive genetic variation in four stream insects, *Journal of Biogeography*, 42(1), pp.103-113, DOI:10.1111/jbi.12392, 2015.1.1.
- 糠澤桂, 新井涼允, 風間聡, 竹門康弘, 複数の全球気候モデルを用いた流域における底生動物個体数密度の将来変化, 土木学会論文集 G(環境), Vol.70, No.5, I\_271-I\_276, 2014.9.5.
- 糠澤桂, 風間聡, 高瀬陽彦, 渡辺幸三, 水生生物の生息場適性度と遺伝的多様性の関係, 土木学会論文集 B1(水工学) Vol.70, No.4, pp. I\_1405-I\_1410, 2014.3.6.
- 岡田有希, 堀利栄, 池原実, 池田昌之:パンサラッサ海深海堆積物における三畳紀-ジュラ紀境界層の地球化学的検討. 大阪微化石研究会誌, 15, 219-232, 2015.
- Omori, Y., Ikei, H., Kugimiya, Y., Masuda, T., Nanometre-scale faulting in quartz under an atomic force microscope. *Journal of Structural Geology*, 79, 75-79. 2015.
- Omori, Y., Barresi, A., Kimura, N., Okamoto, A., Masuda, T., Contrast in stress-strain history during exhumation between high- and ultrahigh-pressure metamorphic units in the Western Alps: Microboudinage analysis of piemontite in metacherts. *Journal of Structural Geology*, 89, 168-180, 2016.
- Ono, K., So Kazama, Chaiwat Ekkawatpanit, Assessment of rainfall-induced shallow landslides in Phetchabun and Krabi provinces, Thailand, *Natural Hazards*, 74, pp.2089-2107, DOI:10.1007/s11069-014-1292-3, 2014.6.20.
- Ono, K., S. Kazama, Extreme daily rainfall in Thailand using a gridded daily rainfall dataset: A frequency analysis with 6 types of plotting position formula, *Southeast Asian Water Environmnet* 5, pp.221-228, 2014.1.



- 太田裕一, 太田祐子, 古橋裕子, 里村澄子, 山本裕之, 前堀洋子, 加治由記, 松元百合子, 野上愛里子: 「5年間の学生相談利用学生の転帰調査」 *CAMPUS HEALTH* 53(1), 402-403, 2015.
- 太田裕一, 太田祐子, 古橋裕子, 里村澄子, 山本裕之, 森田純仁, 前堀洋子, 浅井園子, 加治由記, 松元百合子, 野上愛里子: 「障害学生修学支援における学生支援機関と学部の連携について」 査読なし *CAMPUS HEALTH* 52(1), 412-414, 2014.
- Padrón, E., Pérez, N.M., Rodríguez, F., GMelián, G., Hernández, P.A., Sumino, H., Padilla, G., Barrancos, J., Dionis, S., Notsu, K. and Calvo, D. (2015) Dynamics of diffuse carbon dioxide emissions from Cumbre Vieja volcano, La Palma, Canary Islands. *Bull. Volcanol.* 77, 1-15.
- Patabendige, S., Chaminda and So Kazama, Climate change impact on surface water flow variation in Sri Lanka during past decades *Environmental Hydraulics*, pp.232-235, 2014.1.8.
- Pratoomchai, W., So Kazama, Sujata Manandhar, Chaiwat Ekkawatpanit, Somkid Saphaokham, Daisuke Komori, Jaray Thongduang, Sharing of people's perceptions of past and future hydro-meteorological changes in the groundwater use area, *Water Resources Management*, 29, pp.3807-3821, DOI 10.1007/s11269-015-1030-y, 2015.5.15.
- Pratoomchai, W., So Kazama, Chaiwat Ekkawatpanit, Daisuke Komori, Opportunities and constraints in adapting to flood and drought in the Upper Chao Phraya River basin in Thailand, *International Journal of River Basin Management*, Vol.13, Iss.4, pp.413-427, DOI:10.1080/15715124.2015.1013036, 2015.3.3.
- Pratoomchai, W., So Kazama, Naota Hanasaki, Chaiwat, Ekkaawatpanit, Daisuke Komori, An evaluation of groundwater resources for the agricultural water requirements in the lower Yom and Nan River Basins in Thailand, *Environmental Hydraulics*, pp.118-121, 2014.1.7.
- Pratoomchai, W., So Kazama, Naota Hanasaki, Chaiwat Ekkawatpanit, Daisuke Komori, A projection of groundwater resources in the Upper Chao Phraya River basin in Thailand, *Hydrological Research Letters*, Vol.8, No.1, pp.20-26, DOI:10.3178/hrl.8.20, 2014.1.22.
- 佐橋 潤・逢坂興宏・土屋 智・今泉文寿, 立木境界に分布するヒノキの水平根量の推定, *中部森林研究*, 63, 121-122, 2015.
- 桜井愛子, 濱岡恭太, 佐藤健: 津波被災地における災害復興・防災教育プログラムのモデル構築に向けて-2014年度の石巻市での実践展開事例を踏まえて-, 第34回日本自然災害学会学術講演会講演梗概集, 155頁~156頁, 2015年.
- Sakurai, A., Takeshi Sato, Yoshiyuki Murayama: Application of Town-Watching and

- Map Making Approach to Disaster Recovery Education Program at School in the Affected City by the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami, Proc. of 2016 American Association of Geographers Meeting, 2016.
- 佐藤健・桜井愛子：第 3 回国連防災世界会議パブリックフォーラム開催報告～防災教育交流国際フォーラム～, 安全教育学研究, 14 巻, 1 号, 53 頁～61 頁, 2015 年.
- 佐藤健：東日本大震災時の保健医療活動のための情報共有システムの緊急構築, 地域安全学会東日本大震災特別論文集, 4 巻, 29 頁～32 頁, 2015 年.
- 佐藤健・増田 聡・柴山明寛, 仙台地域防災リーダーの養成プログラムの開発, 日本地震工学会論文集, 15 巻, 7 号, 474 頁～484 頁, 2015 年.
- 佐藤健：地域に根差した学びを通じたマンションの自主防災活動モデル, 日本地震工学会大会-2015 梗概集, CD-R(4 頁～22 頁), 2015 年.
- 佐藤健, 桜井愛子：防災教育交流国際フォーラム概要, 日本安全教育学会第 16 回東京大会プログラム・予稿集, 15 頁～16 頁, 2015 年.
- 佐藤 健:防災に関する技術とマネジメント, 平成 28 年電気学会全国大会講演論文集, 2016 年.
- 瀬尾直樹・原田賢治・嶋原良典・小西康彦・山崎宣良・松本貴久・砂坂善雄・小黑明・石野好彦・長谷川浩市・鈴木一仁：下水道施設における地震・津波対策の効果的な対策規模の基礎的検討, 土木学会論文集 A1(構造・地震工学), Vol.70, No.4, pp. I\_666- I\_679, 2015.
- Shirahama, Y., Miyairi, Y., He, H., Fu, B., Echigo, T., Kano, K., Yokoyama, Y. Ikeda, Y., Climate-induced changes in sediment supply revealed by surface exposure dating of Sijiquan River terraces, northwestern Tibet. *Geomorphology*, 235, 15-26, 2015: .
- 曾田勝仁, 尾上哲治, 池田昌之:九州東部津久見地域に分布する秩父帯中部三疊系層状チャートのサイクル層序学的検討. 地質学雑誌 121, 147-152, 2015.
- 杉山高志・矢守克也：「Days-Before」の語りの可能性についての一考察：阪神・淡路大震災、新潟県中越地震、昭和南海地震の語りの比較分析 復興, 13, 34-41, 2015.
- 角哲也・田中茂信・本間基寛：京都・滋賀における 2013 年台風 18 号の豪雨の特徴と桂川流域被害調査, 京都大学防災研究所年報, No. 57A, pp. 1-16, 2014.
- Sun, H., He, H., Ikeda, Y., Kano, K., Shi, F., Echigo, T. and Okada, S., Holocene paleoearthquake history on the Qingchuan fault in the northeastern segment of the Longmenshan Thrust Zone and its implications, *Tectonophysics*, doi:10.1016/j.tecto/2015.08.022, 2015.
- 孫英英・中居楓子・矢守克也・畑山満則：2014 年伊予灘地震における高知県沿岸住民の避難行動に関する調査 自然災害科学, 33, 53-63, 2014.
- Sun, Y., Yamori, K., and Kondo, S., Single-person drill for tsunami evacuation and disaster education. *Journal of Integrated Disaster Risk Management*, 4, 2014.

[Doi10.5595/idrim.2014.0080].

- 孫 英英・近藤誠司・宮本 匠・矢守克也 2014 新しい津波減災対策の提案―「個別訓練」の  
実践と「避難動画カルテ」の開発を通して 災害情報, 12, 76-87.
- Sun, Y., Yamori, K., Tanisawa, R. & Kondo, S. 2014 Consciousness of disaster risk and  
tsunami evacuation: A questionnaire survey in Okitsu, Kochi Prefecture, *Journal of  
Natural Disaster Science*, 34(2). (Online).
- 鈴木靖・本間基寛・佐藤喜展・道広有理・竹門康弘：水温の将来変化がアユの遡上時期に  
及ぼす影響について, 土木学会論文集 B1 (水工学), Vol. 70, No. 4, pp. I\_1213-I\_1218,  
2014.
- 鈴木靖・本間基寛・佐藤喜展・道広有理・竹門康弘：長良川におけるアユの遡上と水温の  
関係について, 京都大学防災研究所年報, No. 57B, pp. 524-536, 2014.
- 高梨将, 加藤文人, 笠原順三, 羽佐田葉子, 常設震源アクロスデータ観測時における受動的  
地震波データの取得, 第130回物理探査学会講演集, 209-211, 2014.
- Takanashi, M., Y. Kato, and J. Kasahara, Towards a new approach for time-lapse  
seismic using permanent seismic source ACROSS and elastic full waveform  
inversion, SEG extended abstract, 2014.
- Takanashi, M., Kato, A., Kasahara, J. and Yoko Hasada, Time-lapse Data Acquisition  
of Passive Seismic and Active Seismic at the Same Time, SPE 171908, 1-8.
- 高瀬陽彦, 糠澤桂, 風間聡, 渡辺幸三, 分布型水文モデルと確率密度関数を用いた底生動物の  
生息環境および種多様性評価, 土木学会論文集 B1(水工学) Vol.70, No.4, pp.  
I\_1297-I\_1302, 2014.3.6.
- Takenouchi, K., Kawata, Y., Nakanishi, C., and Yamori, K., Collaboration on local  
weather information between weather forecasters and weather information users.  
*Journal of Natural Disaster Science*, Volume 35, 67-80, 2014.
- 竹之内健介・中島秀明・田中耕司・中北英一・矢守克也・養老伸介・羽生雅則：中小河川  
群の氾濫解析と気象情報を利用した地域防災計画が想定する災害イメージの事前構築  
土木学会論文集 F6 (安全問題), Vol.70, No.2, pp.I\_37-I\_44, 2014.
- 竹之内健介・河田慈人・中西千尋・矢守克也 2014 気象情報の共同構築―災害リスクに対  
する共同意識の醸成の視点から 災害情報, 12, 100-113.
- 竹之内健介・中西千尋・矢守克也・澤田充延・竹内一男・藤原宏之：地域気象情報の共同  
構築の試行～伊勢市中島学区における取組～ 自然災害科学, 34, 243-258, 2015.
- 田中耕司・中島秀明・中北英一・竹之内健介・矢守克也・養老伸介・羽生雅則：市街地の  
変遷を踏まえた洪水氾濫リスク評価による防災計画 歴史都市防災論文集, 8, pp.91-98,  
2014.
- S. Tezuka, H. Takiguchi, S. Kazama, A. Sato, S. Kawagoe, R. Sarukkaliged, Estimation  
of the effects of climate change on flood-triggered economic losses in Japan,

- International Journal of Disaster Risk Reduction, Vol.9, pp.58-67, DOI:10.1016/j.ijdrr.2014.03.004, 2014.9.1.
- 手塚翔也, 小野桂介, 風間聡, 小森大輔, 極値降雨, 流出量に基づく洪水被害推定およびその将来変化, 土木学会論文集 B1(水工学) Vol.70, No.4, pp. I\_1501-I\_1506, 2014.3.5.
- Tsou, C.Y., Chigira, M., Matsushi, Y., Chen, S.-C., Fluvial incision history that controlled the distribution of landslides in the Central Range of Taiwan. *Geomorphology* 226, 175-192, 2014.
- Tsou, C.-Y., Chigira, M., Matsushi, Y., Chen, S.-C., Deep-seated gravitational deformation of mountain slopes caused by river incision in the Central Range, Taiwan: Spatial distribution and geological characteristics. *Engineering Geology* 196, 126-138, 2015.
- 経隆悠・堀田紀文・今泉文寿・早川裕弼, 大規模崩壊地における土石流の流下と地形変化の関係, 中部森林研究, 64, 117-120, 2016.
- Uehara, T., Kazunori Sato, Satoru Morita, Yasunobu Maeda, Jin Yoshimura, Kei-ichi Tainaka: A simple model for factory distribution: Historical effect in an industry city, *Physica A*, Vol. 444, 213- 219, 2015.
- Ueno, K., Kurobe, K., Imaizumi, F., Nishii, R., Effects of deforestation and weather on diurnal frost heave processes on the steep mountain slopes in south central Japan, *Earth Surface Processes and Landforms*, 40, 2013-2025, 2015.
- 牛山素行:大雨特別警報に対する洪水浸水想定区域付近の住民の認識, 自然災害科学, Vol.33, 特別号, pp.75-86, 2014.
- 牛山素行・本間基寛・横幕早季・杉村晃一:三陸地方における東北地方太平洋沖地震による津波犠牲者率と素因の関係, 自然災害科学, Vol.33, No.3, pp.233-248, 2014.
- 牛山素行: 第 7 章 津波災害による人的・社会的影響 2 人的被害, 東日本大震災合同調査報告 共通編 2 津波の特性と被害, pp.175-181, 2014.
- 牛山素行:2014 年末時点の資料にもとづく東日本大震災死者・行方不明者の特徴,津波工学研究報告,No.32,pp.61-70,2015.
- 牛山素行:2004~2014 年の豪雨災害による人的被害の原因分析,東北地域災害科学研究,No.51,pp.1-6,2015.
- 牛山素行・横幕早季:2014 年 8 月広島豪雨による犠牲者の特徴, 自然災害科学, Vol.34, 特別号, pp.47-59, 2015.
- 牛山素行:平成 27 年 9 月関東・東北豪雨による犠牲者の特徴,土木学会論文集 B1(水工学),Vol.72,No.4,pp.I\_1297-I\_1302,2016.
- Vu, T. T., Satoshi Tsuchiya: Estimation of the groundwater level rising in the western site of Mt. Mihara caused by the typhoon Wipa (Oct. 2013) in Izu-Oshima island, *Chubu forest research*, 63, 127-131, 2015.

- Vu, T. T., Tsuchiya, S., Imaizumi, F., Ohsaka, O., Estimate of groundwater in the western site of Mt.Mihara by the 2013 Typ. Wipha, Chubu Forest Research, 63, 127-131, 2015.
- Watanabe, K., So Kazama, Tatsuo Omura, Michael T. Monaghan, Adaptive Genetic Divergence along Narrow Environmental Gradients in Four Stream Insects, PLoS ONE, 9(3), e93055, 2014.3.28. DOI:10.1371/journal.pone.0093055, 2014.3.28.
- 山田早記, 石橋秀巳: 富士火山で過去 2000 年間に噴出したマグマの分化メカニズム: 熱力学的相平衡シミュレーター“PELE”を用いた検討. 静岡大学地球科学研究報告, 42, 37-49. 2015.
- 山本裕之, 本間里緒, 舟津碧, 前堀洋子, 加治由記, 野上愛里子, 山本こず恵, 松元百合子, 古橋裕子: 「男子大学生の習慣的健康と背景にある生活習慣との関連」 CAMPUS HEALTH 53(1), 251-253, 2015.
- 山本正嘉・大西浩・村越真: 全国規模での高校生山岳部員の実態調査—体力科学的な観点からの検討. 登山医学, 35(1), 134-141, 2016.
- Yamao, M, Sidle, R. C., Gomi, T., Imaizumi, F. , Characteristics of landslides in unwelded pyroclastic flow deposits, southern Kyushu, Japan, Natural Hazards and Earth System Sciences, 16, 617-627, doi:10.5194/nhessd-3-6351-2015, 2016.
- Yamaoka, K., H. Miyamachi, T. Watanabe, T. Kunitomo, T. Michishita, R. Ikuta and M. Iguchi, Active monitoring at an active volcano: amplitude-distance dependence of ACROSS at Sakurajima Volcano, Japan, Earth Planets Space, 66:32, doi:10.1186/1880-5981-66-32, 2014.
- Yamaoka, K., H. Miyamachi, T. Watanabe, T. Kunitomo, T. Michishita, R. Ikuta, M. Iguchi, Active monitoring at an active volcano: amplitude-distance dependence of ACROSS at Sakurajima Volcano, Japan, Earth, Planets and Space, 66, 32, DOI:10.1186/1880-5981-66-32, 2014.
- 矢守克也: 量的データの質的分析—質問紙調査を事例に, 質的心理学研究, 14, 166-181, 2015.
- 矢守克也・杉山高志: 「Days-Before」の語りに関する理論的考察, 質的心理学研究, 14, 110-127, 2015.
- 矢守克也 2014 これからのこれから—近未来の防災気象情報 災害情報, 12, 47-51.
- Yamori, K. 2014. Revisiting the concept of tsunami tendenko: Tsunami evacuation behavior in the Great East Japan Earthquake. (In) Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University (eds.). Natural disaster science and mitigation engineering: DPRI Reports (Vol.1), Studies on the 2011 off the Pacific Coast of Tohoku Earthquake. Springer Verlag pp.49-63. DOI:10.1007/978-4-431-54418-0\_5.

Yasuda, K., K. Tadokoro, R. Ikuta, T. Watanabe, S. Nagai, T. Okuda, C. Fujii, and K. Sayanagi, Interplate locking condition derived from seafloor geodetic data at the northernmost part of the Suruga trough, Japan, *Geophysical Research Letters*, 41, No.16, DOI: 10.1002/2014GL060945, 2014.

吉澤一樹, 朝岡良浩, Pablo Fuchs, 風間聡, 氷河融解・質量収支モデルを用いた熱帯 Huayna Potosi West 氷河の将来展望, *土木学会論文集 G(環境)*, Vol.70, No.5, I\_219-I\_226, 2014.9.5.

宥免憲樹・経隆 悠・今泉文寿・土屋 智・逢坂興宏, インターバルカメラを用いて撮影した大谷崩「一の沢」における砂礫型土石流, *中部森林研究*, 63, 137-140, 2015.

宥免憲樹・土屋 智ほか: 大谷崩「一ノ沢」における溪床砂礫の流動特性とその考察, *中部森林研究*, 63, 137-140, 2015.

### 2.2.3 学会口頭発表

Al-Anezi, G., Kasahara, J., AlDamegh, K., Lafouza, O., AlYousef, K., Almalki, F., and Nishiyamah, E., time lapse experiment in Al Wasse water pumping field in Saudi Arabia by an ultra-stable seismic source (ACROSS), *EGU General Assembly*, 2015.

天野大和, 石橋秀巳, 外西奈津美, 安田 敦: 富士山宝永噴火末期におけるマグマ上昇過程の変化; 斜長石マイクロライトからの制約. *日本地球惑星科学連合大会 2015 年大会 (口頭)*, 2015.

Arai, N., Chigira, M., Rain-induced rock avalanches with a sliding surface along an out-of-sequence thrust, *10th IAEG Asian regional conference, Kyoto*, p. 6p, 2015.

Arai, N., Chigira, M., Rain-induced rock avalanches with sliding surfaces along low-angle-thrusts in accretionary prisms, *Japan Geosciences Union Meeting 2015, Makuhari*, 2015.

浅野幸子・池田恵子, ジェンダー視点による市町村の防災政策～その実践状況と課題, *日本社会学会 第2回「東日本大震災研究交流会」*, 2016年3月14日.

浅野幸子・池田恵子, ジェンダー視点による防災と地域の持続可能性との接続 東日本大震災の被災状況を踏まえて, *日本社会学会 第1回「東日本大震災研究交流会」*, 2015年3月15日.

Chakraborty, A., Suzuki, Y., and Koyama, M.: Geotourism and Geoconservation: Prospects and Challenges. *6th International UNESCO Conference on Global Geoparks, Session 2: Engaging Communities, Sait John (Canada), September*, 2014.

Chigira, M., Geohazards in Asian countries, in: *Geology, J.S.o.E. (Ed.)*, 10th Asian Regional Conference of IAEG, Kyoto, p. 1-7, 2015.

Chigira, M., Sakashima, T., Minagawa, J., Funayama, A., Shibuya, K., Precursory topographic features of deep-seated rock avalanche in accretion complexes, 2014

- International Workshop on Large-scale Landslide, Tainan, 2014.
- Chigira, M., Suzuki, T., Wang, G., Tobita, T., Debris avalanches of pyroclastic fall deposits induced by the 1949 Imaichi earthquake, Japan Geosciences Union Meeting 2015, Makuhari, 2015.
- Chigira, M., Tsou, C.Y., Matsushi, Y., Hiraishi, N., Preceding topographic features of catastrophic landslides in an accretion complex in the Kii Mountains, Japan Geosciences Union Meeting 2014, Yokohama, pp. HDS05-17, 2014.
- 千木良雅弘, 2014 年広島豪雨土砂災害について, Japan Geosciences Union Meeting 2015, Makuhari, 2015.
- 千木良雅弘, 坂島俊彦, 船山淳, 皆川淳, 渋谷研一, 深層崩壊発生場予測と危険度評価, 日本地球惑星科学連合大会, 横浜, pp. HDS29-06, 2014.
- 千木良雅弘, 鈴木毅彦, 王功輝, 飛田哲男, 1949 年今市地震による降下火砕物の崩壊の地質的特徴, 平成 27 年度日本応用地質学会研究発表会, 京都, 2015.
- Doi, I., Wang, G., Kamai, T., Chigira, M., Seismic observation in a large, incipient rockslide on an anacinal slope, Japan Geosciences Union Meeting 2015, Makuhari, 2015.
- Motoki, Fujii, A Study of Disaster Prevention Education to Develop the Ability to Think, Inter-academia Asia, co-presenter Takashi Shimura, 3rd December 2015.
- 藤井基貴「教育学におけるカント」日本カント協会「共同討議 1 : カントと教育の問題」, 於岡山大学, 2014 年 11 月 22 日.
- 古橋裕子, その他:「大学生の長期不登校について—自験例 51 例の検討—」第 52 回全国大学保健管理研究集会, 2014.
- Furuhashi, Y., et. al : Hikikomori in Japanese University Students. 16th World Congress of Psychiatry(Madrid), 2014.
- 古橋裕子, その他:「大学入学後に自閉症スペクトラムと診断された自験例の検討」第 53 回全国大学保健管理研究集会 (東京), 2015.
- Furuhashi, Y., et. al :Group therapy for university students with ADHD. 5th World Congress of ADHD (Glasgow), 2015.
- 秦康範, 小澤太一: 花火大会を事例とした大規模観光イベントにおけるゲリラ豪雨時の避難誘導, 第 17 回日本災害情報学会研究発表大会予稿集, pp.164-165, 2015.10.
- 秦康範, 多賀純夫, 五味愛美, 増田由香子, 渡辺千明: 成人未婚者への防災啓発の一アプローチ 防災婚活の事例報告, 地域安全学会梗概集, No.36, pp.167-169, 2015.5.
- 秦康範, 坂口和則: 地方紙の報道から見た 2014 年 2 月豪雪の社会的影響, 自然災害科学中部地区研究集会, 2015.3.
- 秦康範: 緊急地震速報システムを活用した「自ら考える」防災訓練, 第 16 回日本災害情報学会研究発表大会予稿集, 2014.10.

- 原田昌武・行竹洋平・渡辺俊樹・狩野謙一・伊藤谷生・野田克也・河内善徳・里村幹夫, 南アルプス南端部地域における詳細な震源分布と微細構造の推定, 日本地震学会 2014 年度秋季大会, 2014 年 11 月.
- 原口 悟・藤永 公一郎・中村 謙太郎・山口 飛鳥・石井 輝秋:SEM-EDS を用いたマッピング分析で解析する四国海盆北部 IODP EXP333 C0012 基盤岩のアルカリ元素濃集作用, 日本地球惑星科学連合大会, 幕張メッセ, 千葉市, 口頭発表, SCG59-28, 2016 年 5 月 26 日.
- HARAGUCHI, S., J.-I. Kimura, R. SENDA, K. FUJINAGA, K. NAKAMURA, AND T. ISHII, Across-arc variations of felsic and basaltic volcanisms in the southern Izu arc, Japan, Goldschmidt 2016, Pacifico Yokohama, (oral, accepted), 2016/6/29. .
- Hasada, Y., and Kasahara, J., Simulation of time-lapse imaging for small oil/gas reservoirs at shallow and deep using a few ACROSS seismic sources and sparse receivers, 2016 年物理探査学会春期大会, 2016 年 5 月.
- Hashimoto, T., Shohei Takayanagi, András Rövid: Correspondence Matching for Stereo Vision Based Outdoor Measurement, ISCI/ASME 2014 International Symposium on Flexible Automation (ISFA2014), 14 - 16 July 2014.
- Hatayama, M., Nakai, F., and Yamori, K. 2014. Tsunami evacuation evaluation system for plan development of community based evacuation. The 5th Conference of the International Society for Integrated Disaster Risk Management. Western Univ, Canada, 2014/10/31.
- 畑山満則, 中居楓子, 矢守克也 2014 避難シミュレーションによる地区ごとの避難計画策定の検討, 地理情報システム学会講演論文集, Vol.23, CDROM.2014/11/7.
- Hayakawa, Y. S., Imaizumi, F., Hotta, N., Tsunetaka, H., Toward long-lasting disaster mitigation after huge landslide: high-definition topographic measurements of sediment production by debris flows in a steep headwater channel, The Inaugural conference of IGU commission, Taipei(2014/9).
- Hayakawa, Y. S., Imaizumi, F., Hotta, N., Tsunetaka, H., Terrestrial laser scanning and structure from motion for analysis of landform changes by debris flows in Ohya-kuzure landslide, central Japan, AOGS 11th Annual Meeting. IG12-A012, 札幌市(2014/7).
- 林一成・八木浩司・佐藤剛・今泉文寿・檜垣大助:地すべり危険度評価に用いる地形量としての山体釣鐘形状度の修正, 第 53 回(公社)日本地すべり学会研究発表会, P-21, つくば市 (2014/8).
- 林 拙郎・山田 孝: 火山地域における豪雨の土砂災害発生時刻への影響-阿蘇と大島被害地との対比-, 平成 26 年度砂防学会研究発表会, 2014 年 5 月.
- 林 拙郎・山田 孝: 伊豆大島と阿蘇土砂災害発生時における実効雨量式の係数特性, 第 33 回日本自然災害学会学術講演会, 2014 年 9 月.



- 林 拙郎, 菅沼忠嗣(2014):改良法による大規模崩壊の発生予測法—四万十帯を中心に—, 第 53 回日本地すべり学会研究発表会, 2014 年 8 月.
- 林 拙郎・山田 孝:土砂災害発生予測に関する広島災害・防府災害における実効雨量の係数特性, 平成 27 年度砂防学会研究発表会, 2015 年 5 月.
- 林 拙郎・山田 孝:土砂災害発生に関する実効雨量の係数特性と豪雨のスケールファクター, 第 34 回日本自然災害学会学術講演会, 2015 年 9 月.
- 林能成・政丸泰樹, ため池埋立地における常時微動の比較計測, 日本地震学会講演予稿集, B21-07, 2014 年 11 月 25 日.
- Hayashi, Y., and Munasri, Earthquake and Tsunami booklet based on two Indonesia earthquakes, AGU Fallmeeting, ED53C-3498, San Francisco Moscone Center, 2014 年 12 月 19 日.
- 林能成・山田俊弘・栗田敬・野内玲, 地球科学における学際的分野への参入過程～島津康男教授・熊沢峰夫教授のオーラルヒストリーから～, 日本地球惑星科学連合大会, 2015 年 5 月 24 日.
- Higuchi, K., Chigira, M., Lee, D.H., Wu, J.H., Rapid Weathering and Salt Water Migration Processes near a Slope Surface in Plio-Pleistocene Mudstone Areas in Taiwan, Japan Geosciences Union Meeting 2015, Makuhari, 2015.
- 平野直人・岩野英樹・清水健二・森下泰成・田村明弘・角野浩史・坂田周平・町田嗣樹・石井輝秋・檀原徹・荒井章司・平田岳史:南鳥島周辺海域のプチスポット, 日本地球惑星科学連合 2015 年大会, 幕張メッセ, 千葉市, 口頭発表, SCG64-24, 2015 年 5 月 28 日.
- Hirata, Y., Chigira, M., 2011 年台風 12 号豪雨による花崗斑岩の斜面崩壊—和歌山県那智勝浦町妙法山の事例—, 日本地球惑星科学連合大会 2014, 横浜, pp. HDS29-P09, 2014.
- Hirata, Y., Chigira, M., Geological and geomorphological features of landslides induced by 2011 Typhoon Talas in a granite porphyry area, 10th Asian Regional Conference of IAEG, Kyoto, p. 8p, 2015.
- Hirata, Y., Chigira, M., Chin, T., Spheroidal weathering process of granite porphyry with columnar joints to form corestones covered with rindlets, Japan Geosciences Union Meeting 2015, Makuhari, 2015.
- Homma, M., Motoyuki Ushiyama: Verification of Reproduction Simulation of the 2011 Great East Japan Tsunami Using Time-Stamp Data, Geophysical Research Abstracts, EGU General Assembly 2014, Vol. 16, EGU2014-6090, 2014.04.
- Homma, M., Kosei Yamaguchi: Runoff-Inundation Simulation of Typhoon 1318 in the Katsura-Gawa River in Japan, AOGS 2014 Abstracts, HS15-A002, 2014.08.
- 本間基寛, 山口弘誠:桂川流域を対象とした平成 25 年台風 18 号の降雨流出氾濫シミュレーション, 第 33 回日本自然災害学会学術講演会講演概要集, pp. 167-168, 2014 年 9 月.
- 本間基寛, 新井恭子, 松本健人, 鈴木靖:不確実性を伴う災害情報の表現方法に関する検

- 討一大雪情報を事例として一，日本災害情報学会第 16 回研究発表大会予稿集，pp. 176-177，2014 年 10 月.
- 本間基寛，新井恭子，松本健人，鈴木靖：幅のある気象情報の表現方法に関する基礎的検討，日本気象学会 2014 年秋季大会講演予稿集，Vol. 106，p. 187，2014 年 10 月.
- 本間基寛：リアルタイム降雨情報に対応した浸水予測手法の検討，日本地球惑星科学連合 2015 年大会予稿集，H-SC24-05，2015 年 5 月.
- Homma, M., Minoru Inoue, Yasushi Suzuki, Takeshi Maesaka, Shin-ichi Suzuki, Hisashi Nakagaki and Azumi Goto: Development of high wind now-casting system using X-band radar network and its implementation, 26th IUGG General Assembly Abstract, M22p-310, 2015.06.
- Homma, M., Kyoko Arai, Kento Matsumoto and Yasushi Suzuki: Research for Expression Method of Disaster Information with Uncertainty, AOGS 2015 Abstracts, IG22-06-09-15-A001, 2015.08.
- 本間基寛：気象情報に対応した浸水予測情報の開発，水文・水資源学会 2015 年度研究発表会要旨集，p.100005，2015 年 9 月.
- 本間基寛：防災気象情報対応型浸水予測図の提案，日本災害情報学会第 17 回研究発表大会予稿集，pp. 10-11，2015 年 10 月.
- 本間基寛，増田有俊，吉開朋弘，辻本浩史：アンサンブル予測を利用したシナリオ型台風予測情報の検討，日本災害情報学会第 17 回研究発表大会予稿集，pp. 180-181，2015 年 10 月.
- 細野将希，三井雄太，石橋秀巳：大地震が富士山周辺のダイクシステムに及ぼす静力学的影響の評価．日本地球惑星科学連合大会 2015 年大会（口頭），2015.
- 福山泰治郎・平松晋也・今泉文寿・宮田秀介:2013 年台風 26 号による伊豆大島斜面崩壊発生要因の検討，平成 26 年度砂防学会研究発表会概要集，B100-101，新潟市（2014/5）.
- 飯尾能久・矢守克也 2015 内陸地震の謎と防災教育 日本地球惑星科学連合 2015 年大会「総合的防災教育」セッション 2015/5/24.
- Ikeda, Keiko, Rethinking ‘Disaster Risk Reduction’ in the context of ESD, JIN-ESD International Conference on Educational Technology for Implementation of Education for Sustainable Development, 17 March 2016, Indonesia University of Education, Bandung, Indonesia.
- 池田恵子，減災・災害対応にジェンダー多様性配慮の視点を定着させるための課題，国際ジェンダー学会 2015 年大会 個人発表，2015 年 9 月 6 日.
- Ikeda, Keiko, Supporting Community for Disaster Risk Reduction in Super Aging Society: Role of higher educational institutions, ESD Forum : Promoting Sustainable Development through University and School Education: Good Practices, Gadj Mada University, Indonesia, 6, March, 2015.

- Ikeda, Keiko, Community-Based Disaster Management in Super Aging Society: How Age and Gender Interacted to Shape Disaster Response in 2011 Tohoku Disaster, XVIII ISA World Congress of Sociology, International Sociological Association, Yokohama : Pacifico Yokohama, 18, July, 2014.
- Ikeda, Keiko, Masai Reiko, and Yunomae Tomoko, Gender-Based Violence Following the Great East Japan Disasters, XVIII ISA World Congress of Sociology, 17, International Sociological Association, Yokohama : Pacifico Yokohama, July, 2014.
- 池田 昌之, 堀利栄, Peter Baumgartner, 宮下怜, 千野将史, 中生代のミランコビッチサイクルを用いた天文学的年代層序と古環境学的示唆:犬山地域層状チャートの例, 第1回地球環境史学会年会, 2015年11月.
- 池田 昌之, 地球環境史におけるミランコビッチサイクルと天文年代層序, 第1回地球環境史学会年会, 2015年11月.
- 池田 昌之, 堀利栄, 中田 亮一, 岡田 有希, 三疊紀-ジュラ紀境界絶滅における深海酸性化と火山活動, 日本地球惑星科学連合 2015年大会, 2015年5月.
- 池田 昌之, 堀利栄, 多田隆治, 中生代のミランコビッチサイクルを用いた天文学的年代層序と古環境学的示唆:犬山地域層状チャートの例. 日本地質学会鹿児島大会, 2014年9月.
- Ikeda, M., Orbital-scale Changes in the Silica Cycle Dynamics of Panthalassa Superocean, Asia Oceania Geosciences Society, 2014年8月.
- 池田 昌之, 堀利栄, ミランコビッチ・サイクルと炭素循環が Toarcian 海洋無酸素事変に与えた影響, 日本地球惑星科学連合 2014年大会, 2014年4月.
- 池田達紀・辻 健・渡辺俊樹・山岡耕春, 弾性波アクロスによる浅部構造モニタリングのための表面波解析, 物理探査学会第132回(平成27年度春季)学術講演会, 2015年5月.
- 生田領野・山岡耕春・渡辺俊樹・國友孝洋, ACROSS による東海地方下の地震波速度変動の観測, 日本地震学会 2014年度秋季大会, 2014年11月.
- 生田領野, 桑原雅典, 村上裕記, 三井雄太: 日本海溝における余震減衰特性の空間分布, 日本地球惑星科学連合大会, 2014年5月.
- Ikuta, R., Yuta Mitsui, Y. Kurokawa, and M. Ando, Probability Assessment of Mega-thrust Earthquakes in Global Subduction Zones -from the View of Slip Deficit-, American Geophysical Union fall meeting, 2014年12月.
- 生田領野, 向山遼, 田所敬一, 安田健二, 千葉春奈, 佐柳敬三: 複数ブイを用いた海底地殻変動観測手法の開発, 日本地球惑星科学連合大会, 2015年5月.
- Imai Takafumi, Kitamura Akihisa, Yokoyama Yusuke, Miyairi Yosuke, Ito Mami, 2015. Uplift of Shikine Island on the northern Zenisu Ridge off Central Japan during the past 1000 years: Evidence from analyses of emerged marine sessile assemblages. The XIX International Union for Quaternary Research Congress 名古屋国際会議場 (2015

- 年 7 月).
- 今井啓文・北村晃寿・伊藤真実・宮入陽介・横山祐典・山口寿之・杉原 薫・安藤雅孝・三井雄太・金 幸隆・中村 衛, 2015. 式根島における隆起貝層からみた後期完新世の隆起:1498・1605 年の大津波の波源域に関する含蓄. 日本地球惑星科学連合大会予稿集, SGL44-05 (2015 年 5 月).
- 今井啓文・北村晃寿・伊藤真実・宮入陽介・横山祐典・山口寿之・杉原 薫, 2015. 式根島における隆起貝層からみた後期完新世の隆起. 日本古生物学会第 164 回例会講演予稿集, 53. (2015 年 1 月).
- 今泉文寿・堤 大三・福山泰治郎・宮田秀介:資料・文献調査による深層崩壊の発生場の特徴と抽出手法の整理, 平成 27 年度砂防学会研究発表会概要集, A170-171, 宇都宮市 (2015/5).
- Imaizumi, F. Miyamoto, K., Ishikawa, Y., Triggering mechanism of shallow landslides in Izu-Ohshima Island, Japan. 日本地球惑星科学連合 2014 年度連合大会, HDS06-03, 千葉市 (2015/5).
- Imaizumi, F., Hayakawa, Y.S., Hotta, N., Tsunetaka, H., Tsuchiya, S., Ohsaka, O., Interactions between accumulation conditions of sediment storage and debris flow characteristics in a debris-flow initiation zone in Ohya landslide, Japan, EGU General Assembly 2015, Vienna(2015/4).
- Imaizumi, F., Tsuchiya, S., Ohsaka, O., Field observations of debris-flow initiation processes on sediment deposits in a deep-seated landslide, In Proceedings of the 2014 International Debris-Flow Workshop, T01-2(2014/10) .
- Imaizumi, F., Monitoring of deep-seated landslides in Southern Japanese Alps, 2014 International Workshop on Large-scale Landslide, Tainan, 招待講演(2014/10) .
- 今泉文寿・逢坂興宏・権田豊・堤大三・宮田秀介・中谷加奈・篠原慶規・福山泰治郎:2013 年台風 26 号による伊豆大島での土砂移動の影響範囲, 平成 26 年度砂防学会研究発表会概要集, A12-13, 新潟市 (2014/5).
- Imaizumi, F., Miyamoto, K., Pore water pressure in slopes composed of multi-layer geological structure, 日本地球惑星科学連合 2014 年度連合大会, HDS-0501, 横浜市 (2014/4).
- 今泉文寿・西井稜子・上野健一・黒部皓生:山岳域における森林伐採が冬季の微気象・土砂移動へ及ぼす影響, 日本地球惑星科学連合 2014 年度連合大会, ACG33-P02, 横浜市 (2014/4).
- 瀧瀬一起・翠川三郎・矢守克也・大木聖子・藤原広行・大島光貴・強震動評価部会地震動予測地図高度化ワーキンググループ:一般向けハザード情報としての確率論的地震動予測地図 日本災害情報学会第 16 回研究発表大会, 2014.
- 伊勢正・矢守克也・磯野猛・藤原広行・臼田裕一郎・新井伸夫 2015 分散相互運用型の

- 災害情報システムが利用者に与える影響に関する考察 第 17 回災害情報学会研究発表大会 2015/10/25 .
- 石橋秀巳, 三輪学央, 三井雄太: 桜島昭和溶岩のレオロジー則と脆性-粘性遷移. 日本火山学会 2015 年秋季大会 (口頭), 2015.
- 石橋秀巳: 硫黄の脱ガスが玄武岩質メルトの酸素フュガシティに及ぼす影響; 平衡脱ガスモデルによる試算. 日本鉱物科学会 2015 年年会 (口頭), 2015.
- 石橋秀巳\*: 斜長石を含むマグマのレオロジー遷移: サヌカイト溶岩の高温一軸変形実験. 日本地球惑星科学連合大会 2014 年大会 (口頭), 2014.
- 石井輝秋: 火成岩研究における 造岩鉱物解析の重要性---箱根火山の岩石学的研究を例に---. 日本地質学会第 122 年学術大会 (2015 長野大会, 信州大学, 長野市), (口頭発表), R1-O-10, 2015 年 9 月 11 日.
- ISHII, T., The geological and petrological studies of the subduction boundaries and suggestion for the geological future work in Japan - How to avoid ultra-mega-earthquakes -, America Geophysical Union Fall Meeting 2015, San Francisco, Poster V52A-07, 2015/12/18.
- 石井輝秋・小原泰彦・大家翔馬・Fernando Martinez,(2016),南部マリアナ海溝で発見された巨大海底地滑り: 6K-1429 潜航調査速報, 日本地球惑星科学連合大会, 幕張メッセ, 千葉市, 2016 年 5 月 26 日, 口頭発表, SCG59-14.
- 石井輝秋・奥村知世・小原泰彦・Ignacio Pujana・高橋聡: 南部マリアナ海溝陸側斜面冷湧水域 (Shinkai Seep Field = SSF)産チムニーの内部構造, 平成 27 年度高知大学海洋コア総合研究センター 全国共同利用・共同研究成果発表会, 高知大学, ポスター発表, P-16, 2016 年 2 月 29 日.
- 石井輝秋: 沈み込み境界部の地質学的・岩石学的研究と掘削科学の超長期目標試案ー超巨大地震発生回避にむけてー, ブルーアース 2016, 東京海洋大学 (品川キャンパス), ポスター発表, 2016 年 3 月 8 日.
- 石川晃・仙田量子・鈴木勝彦・谷健一郎・石井輝秋: 太平洋マントルのオスミウム同位体不均質性について, 日本地球惑星科学連合大会, 幕張メッセ, 千葉市, 口頭発表, BPT23-05, 2015 年 5 月 25 日.
- Ishikawa, A., Senda, R., Tani, K., Suzuki, K., and Ishii, T., Re-Os Isotope and highly siderophile element constraints on the origin of ancient depleted domains in the modern convecting mantle, Goldschmidt 2016, Pacifico Yokohama, (oral, accepted), 2016/6/29.
- 石川修伍, 松下 慎, 眞柄健太, 木村浩之. 九州南東部の深部帯水層に存在するメタン生成メカニズムの解明. 第 17 回静岡ライフサイエンスシンポジウム, 静岡, 2016 年 3 月.
- 石川 修伍, 松下 慎, 眞柄 健太, 木村浩之. 九州南東部の深部帯水層に存在するメタン生成メカニズムの解明. 日本微生物生態学会第 30 回大会, 土浦市, 2015 年 10 月.

- 石川修伍, 松下 慎, 長井一茂, 木村浩之. 九州南東部の付加体の深部地下圏にて起こるメタン生成メカニズムの解明. 第 16 回静岡ライフサイエンスシンポジウム, 静岡, 2015 年 3 月.
- 石川修伍, 松下 慎, 木村浩之. 九州南部の付加体深部地下圏におけるメタン生成メカニズム. 環境微生物系学会合同大会 2014, 浜松, 2014 年 10 月.
- 伊藤仁・逢坂興宏・土屋 智・今泉文寿:寸又川上流域の森林地帯によける崩壊地の分布とその特徴, 平成 26 年度砂防学会研究発表会概要集, B314-315, 新潟市 (2014/5).
- 伊藤真実・北村晃寿・安藤雅孝・生田領野・池田昌之・今井啓文, 2015. 津波堆積物中の貝化石に基づく石垣島の古津波の規模の評価. 日本古生物学会第 164 回例会講演予稿集, 52. (2015 年 1 月).
- Iwahori, I, and Yamori, K. 2015. Mamten earthquake recording project collaboration with elementary school students. The 9th Dealing with Disasters International Conference. Northumbria University, Newcastle upon Tyne, UK. Sep, 18, 2015.
- 岩堀卓弥・矢守克也・飯尾能久・米田格・城下英行 2015 参加型防災教育における知識共有についての考察ー満点計画学習プログラムの役割継承をめぐってー 第 17 回災害情報学会研究発表大会 2015/10/25.
- 岩堀卓弥・矢守克也・飯尾能久・米田格 2015 小学校における地震観測への参加による防災教育ー地震計メンテナンスの役割継承と知識の共有についてー 平成 26 年度京都大学防災研究所研究発表講演会 2015/2/24.
- 岩堀卓弥・城下英行・矢守克也・飯尾能久・米田格・平林英二:阿武山観測所サイエンス・ミュージアム構想とオープン・ラボの取り組み 日本災害情報学会第 16 回研究発表大会, 2014.
- 岩堀卓弥・城下英行・矢守克也・宮本匠・飯尾能久・米田格 2014 地震観測への参加による防災教育の取り組み 第 33 回日本自然災害学会学術講演会 2014/9/24.
- 岩松 暉:史料にみる桜島大正噴火, 日本地質学会学術大会地質学史懇話会, 2014 年 9 月.
- 岩田孝仁:地震予知は防災対策の一項目として位置付けを, 日本災害情報学会, 2015.10.
- Kagi, H., Hidemi, Ishibashi, Hiroaki Ohfuji, Zedgenizov Dmitry, Ragozin Alex (2014) Goldschmidt Conference 2014 (口頭).
- Kagi, H., Hidemi, Ishibashi, Hiroaki Ohfuji, Zedgenizov Dmitry, Ragozin Alex, Chemical composition of nano-inclusions in super-deep diamonds and implications to the growth. Japan Geoscience Union Meeting 2014 (Oral in International Session), 2014.
- 上村 彩, 笠原 順三, 村瀬 圭, 田澤 教, 西山 英一郎, 久保田 隆二, 藤本 理, 大村 猛, 野口 静雄, 大沼 寛, 人工震源による震動実験を想定した二次元波動伝搬シミュレーションによる, 不均質媒質と地表の影響の時間変化モニタリング, 2014 年地球惑星連合大会, 2014 年 5 月.

- Kamimura, A., Kasahara, J., Murase, K., Tazawa, O., Nishiyama, E., Kubota, R., Fujimoto, O., Ohmura, T., Noguchi, S., and Ohnuma, H., A seismic wave simulation to evaluate heterogeneities for time lapse studies ,in Proc. of 8th Asian Rock Mechanics Symposium, Sapporo, Japan, 2014 年 10 月.
- 金田義行・久田嘉章・矢守克也・田村圭子・池内淳子・大佛俊泰 2015 SIP 課題⑦「地域連携による地域災害対応アプリケーション技術の研究開発」 日本地震工学会年次大会・国際シンポジウム 2015 横断セッション(D)「SIP セッション」 2015/11/20.
- 金子雅紀, 高野淑識, 大河内直彦, 木村浩之. メタン生成補酵素 F430 の超高感度定量分析法: 環境中のメタン生成および嫌氣的メタン酸化ポテンシャルへの応用. 環境微生物系学会合同大会 2014, 浜松, 2014 年 10 月.
- 狩野謙一・宮坂 晃, 北部フォッサマクナ南東部,小諸陥没盆地の鮮新世~中期更新世 のテクトニクス. 日本地質学会, 2015 年 9 月.
- 狩野謙一・伊藤谷生・渡辺俊樹・小田原 啓・阿部 進・藤原 明: 富士川河口断層帯浅層高分解能パラレルライン反射法地震探査(熊手作戦)の結果概要.自然災害科学中部地区研究集会, 2016 年 3 月.
- Kasahara, J., Aldamegh, K., Al-Anezi, G., Latouza, O., AlYousef, K., Alhumaizi, A., and Kuboa, R., The time lapse test in Al Wasse water pumping field in Kingdom of Saudi Arabia to detect the movement of aquifer using seismic ultra-stable seismic source called ACROSS, GEO2014, 2014 年 3 月.
- Kasahara, J., Kubota, R., Kanai, Y. Tazawa, O., Fujimoto, O., Kamimura, A., Nishiyama, E., Murase, K., Noguchi, S., Ohmura, T., Ohnuma, H., and Hasada, Y., A time lapse test of seismic waveform changes during several days at the green tuff area in Japan using a seismic vibrator, 2014 年地球惑星連合大会, 2014 年 5 月.
- 笠原他, Time Lapse における著しい表層の影響, 2014 年物理探査学会春期大会, 2014 年 5 月.
- 笠原他, 地震波震源を用いた数日間の波形変化のタイムラプス, 2014 年物理探査学会春期大会, 2014 年 5 月.
- Kasahara, J., Aldamegh, K., AlYousef, K., Al-anezi, G., Alfouza, O., Alhumaizi, A., Almalki, F., Kubota, R., and Hasada, Y., Time-lapse Studies using Ultra Stable Seismic Source for EOR, CCS and Reservoirs, at SEG Forum, “Reservoir characterization and monitoring with advanced geophysical technology”, Santa Rosa, California, 2014, 2014 年 7 月.
- Kasahara, J., Aldamegh, K., Al-anezi,, G., Hasada, Y., and Kubota, R., Seismic time lapse approach for the CCS, EOR and reservoir monitoring and the significance of near-surface effects, Advances in Active + Passive“Full-Wavefield” Seismic Imaging: From Reservoirs to Plate Tectonics, Joint SEG/AGU Summer Research Workshop,

- July, Vancouver, BC, Canada, 2014 年 7 月.
- Kasahara, J., Hasada, Y., Al-Damegh, K., Al-anezi, G. and Nishiyama, E., Seismic interferometry using data during ACROSS operation, 2014 年物理探査学会秋期大会, 2014 年 10 月.
- Kasahara, J., Kubota, R., Kanai, Y., Tazawa, O., Fujimoto, O., Nishiyama, E., Kamimura, A., Murase, K., Noguchi, S., Ohmura, T., and Hasada, Y., Continuous Monitoring of Seismic Waveform Changes during Several Days at the Green Tuff Area in Japan Using a Seismic Vibrator, 8th Asian Rock Mechanics, Sapporo, Japan, 2014 年 10 月.
- Kasahara, J., Hasada, Y., Al-Damegh, K., Al-Alanezi, G., Nishiyama, E., Application of seismic interferometry to the data acquired in seismic ACROSS observation, 地震学会, 2014 年 11 月.
- Kasahara, J., Aldamegh, K., Alanezi, G., Hasada, Y., and Kamimura, A., Seismic time-lapse approach for the EOR and reservoir monitoring and the significance of near-surface effects, Gulf Seismic Forum, Kuwait, 2015, 2015 年 4 月.
- 笠原他, タイムラプスにおける再現性の考察, 2015 年理探査学会春期大会, 2015 年 5 月.
- 笠原他, 電磁式新家の用いた採石地域における時間変動の検知と変動場所の特定, 2015 年物理探査学会春期大会, 2015 年 5 月.
- 笠原順三, 羽佐田葉子, 地下深部の地震学的タイムラプスイメージング, 2015 年地球惑星連合大会, 2015 年 5 月.
- 笠原順三, 藤井直之, 羽佐田葉子, 上村彩, 牛山素行, 陥没地域における時間変動イメージング, 2015 年地球惑星連合大会, 2015 年 5 月.
- Kasahara, J., Hasada, Y., and Tsuruga, K., Active monitoring of earthquake focal zone using ultra-stable seismic source, Proceedings of ICSEE, Iran. May 2015.
- Kasahara et al., Results of two time-lapse experiments in Al Wasse, Saudi Arabia using ACROSS source, 2015 年物理探査学会秋期大会, 2015 年 9 月.
- Kasahara et al., Results of time-lapse experiment in Saudi Arabia using ACROSS seismic source during April and June, 2015, 2015 年物理探査学会秋期大会, 2015 年 9 月.
- 笠原順三, ハレッド・アルダメ, グナウム・アルアネジ, 村瀬圭, 上村彩, 藤本理, 大沼寛, 羽佐田葉子, 超安定震源を用いたサウジアラビア Al Wasse におけるタイムラプス観測とそのデータの解析, 2016 年地球惑星連合大会, 2016 年 5 月.
- 笠原順三, グナウム・アルアネジ, ハレッド・アルダメ, 村瀬圭, 大沼寛, 藤本理, 上村彩, 羽佐田葉子, サウジアラビア Al Wasse 地域におけるタイムラプスデータの解釈のためのアクロス屈折法調査, 2016 年地球惑星連合大会 2016, 2016 年 5 月.
- Kasahara, J. and Hasada, Y., Time-lapse imaging simulations using a few ACROSS



- seismic sources and sparse receiver spacing for oil/gas reservoirs, 2016 年地球惑星連  
合大会, 2016 年 5 月.
- Kasahara, J., Al Damegh, K., Al-Anezi, G., Murase, K., Kamimura<sup>1</sup>, A., Fujimoto<sup>1</sup>, O.,  
Ohnuma, H. & Hasada, Y. (2016a). Time-lapse observation in Al Wasse field in  
Saudi Arabia using ACROSS seismic source and its interpretation, 2016 年物理探査  
学会春期大会, 2016 年 5 月.
- Kasahara, J., Al Damegh, K., Al-Anezi, G., Murase<sup>1</sup>, K., Kamimura<sup>1</sup>, A., Fujimoto<sup>1</sup>, O.,  
Ohnuma, H. & Hasada, H. (2016b). ACROSS Refraction study for the interpretation  
of time-lapse data in Al Wasse field, Saudi Arabia, 2016 年物理探査学会春期大  
会,100-103, 2016 年 5 月.
- 川崎悠介・渡辺俊樹・狩野謙一・伊藤谷生・阿部 進・野田克也・河内善徳, 稠密アレイ自  
然地震観測記録のレスーバ関数解析による南アルプス南端部地域のフィリピン海プレー  
トの形状, 日本地震学会 2014 年度秋季大会, 2014 年 11 月.
- 川崎悠介・渡辺俊樹・加藤愛太郎・狩野謙一・伊藤谷生・阿部 進・野田克也・河内善徳・  
山岡耕春, 稠密アレイ自然地震観測による南アルプス南端部地域のフィリピン海プレー  
トの構造, 日本地球惑星科学連合 2015 年大会, 2015 年 5 月.
- 風間聡, G Sahoo, SG Schladow, 天野文子, 数値計算によるメコン河氾濫原の栄養塩の時  
空間変化, 土木学会東北支部技術発表会, 八戸, 2014 年 3 月 8 日.
- Kazama, S., Reflection of activities in the 2nd phase of WEPA, 9th WEPA annual  
meeting, Hayama, Japan, 2014.1.21.
- Kazama, S., LCM application for the Mekong inundation water, Water Environmental  
Group meeting, Davis, USA, 2013.8.23.
- 木村浩之. 付加体の地下圏でのメタン生成メカニズムの解明と分散型エネルギー生産シス  
テムの創成. 第 2 期中期目標期間における重点研究 4 分野の成果発表会, 浜松, 2016 年  
3 月.
- 木村浩之, 松下 慎, 石川修伍, 眞柄健太. 付加体の地下圏微生物を利用した分散型エネ  
ルギー生産システムの創成. 日本微生物生態学会第 30 回大会シンポジウム企画 地下圏微  
生物の工学的利用, 土浦, 2015 年 10 月, 招待講演.
- 木村浩之. 付加体エネルギー生産システム. 第 9 回再生可能エネルギー世界展示会, 東京,  
2014 年 7 月.
- 北村晃寿, 三井雄太, 滝川陽紀, 2016, 静岡県焼津平野の完新統の貝化石群集解析・堆積相  
解析に基づく安政型地震の平均発生間隔の推定. 日本古生物学会第 165 回例会. (2016 年  
1 月).
- 北村晃寿, 2015. 後期完新世における南海・駿河トラフの巨大地震・津波の履歴. 2015 年  
度地球環境史学会年会. (2015 年 11 月).
- 北村晃寿, 2015. 駿河湾西岸・伊豆半島南部の完新統の津波堆積物調査・南海トラフの「最大

- クラスの津波（レベル 2）」に関する検討 日本地質学会第 122 年学術大会（2015 年 9 月）.
- Kitamura Akihisa, Ito Mami, Ando Masataka, Ikuta Ryoya, Ikeda Masayuki, 2015. Evaluating the magnitude of late Holocene mega-tsunamis on Ishigaki Island based on an analysis of molluscan assemblages. The XIX International Union for Quaternary Research Congress 名古屋国際会議場（2015 年 7 月）.
- Kitamura Akihisa, Ohashi Yoko, Ikuta Ryoya, Ishibashi Hidemi, Yokoyama Yusuke Holocene geohazard events on the southern Izu Peninsula, central Japan. The XIX International Union for Quaternary Research Congress 名古屋国際会議場（2015 年 7 月）.
- 北村晃寿, 伊藤真実, 坂井三郎, 2015. 二枚貝化石の酸素同位体比変動に基づく津波の発生季節の推定. 日本古生物学会 2015 年大会（2015 年 6 月）.
- 北村晃寿, 伊藤真実, 安藤雅孝, 生田領野, 池田昌之, 2015. 貝類群集解析に基づく石垣島を襲った後期完新世の大津波の規模の評価. 日本地球惑星科学連合大会（2015 年 5 月）.
- 北村晃寿, 川手繁人, 三井雄太, 金 幸隆, 2015. 地震性隆起の証拠と断層モデルに基づく伊豆半島南東沖の海底活断層の検討. 日本地球惑星科学連合大会（2015 年 5 月）.
- 北村晃寿, 2015. 南海トラフの「最大クラスの津波」に関する古津波堆積物の調査. 日本地球惑星科学連合（2015 年 5 月）.
- KITAMURA, A., Yosuke MIYAIRI, Yusuke YOKOYAMA, Late Holocene Coseismic Uplifts of the Southern Izu Peninsula, Central Japan. AOGS, SE17-D5-PM2-P-029, Sapporo, 1, August, 2014.
- 北村晃寿・小林小夏・大橋陽子・横山祐典・宮入陽介, 伊豆半島南端と清水平野沿岸部の地震性隆起. 日本地球惑星科学連合大会予稿集, SSS34-05, 2014 年.
- 北村晃寿, 伊藤真実, 安藤雅孝, 生田領野, 池田昌之, 貝類群集解析に基づく石垣島を襲った後期完新世の大津波の規模の評価, 日本地球惑星科学連合 2015 年大会, 2015 年 5 月.
- 北村晃寿, 伊藤真実, 安藤雅孝, 生田領野, 池田昌之, 貝類群集解析に基づく石垣島を襲った後期完新世の大津波の規模の評価, 日本古生物学会, 2015 年 1 月.
- 北村晃寿, 安藤雅孝, 大橋陽子, 伊藤真実, 池田昌之, 石垣島の津波堆積物に関する古生物学的・堆積学的・年代学的研究, 日本古生物学会, 2014 年 6 月.
- 北村和輝, 今泉文寿, 佐藤剛, 林一成, 若井明彦: 伊豆大島近海地震(1978)により発生した斜面災害の広域的再現, 第 53 回(公社)日本地すべり学会研究発表会, P-7 つくば市(2014/8).
- 小林 峻平, 栗田 正光, 手塚 誉介, András Rövid, 橋本 岳: 新型建物モデルの加振応答の画像計測の基礎的研究, 平成 27 年電気学会全国大会, 3-051, 2015/3/24.
- 小林 峻平, 栗田 正光, 橋本 岳: 画像を用いた地震時の人体の動き計測の基礎的研究, 平成 27 年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会, O3-7, 2015/9/29.

- 小杉素子(静岡大学)・馬場健司(法政大学)・田中充(法政大学) 地域の環境や農業への気候変動リスクの管理主体に対する信頼 日本リスク研究学会第 28 回年次大会, 2015 年 11 月.
- 小杉素子(静岡大学)・馬場健司(法政大学)・田中充(法政大学) 災害による地域社会リスクの評価—9 都市における質問紙調査結果より—, 環境科学会 2015 年会, 2015 年 9 月.
- 小山真人・鈴木雄介: ジオパークは地域の防災にどのように貢献すべきか? 2016 年日本地理学会春季学術大会, シンポジウム S04: ジオパークで考える科学と社会の関係 (招待講演), S0403, 東京, 2016 年 3 月.
- 小山真人・村越 真: 箱根火山の活動シナリオ試案と噴火確率に対する危険度認知. 日本火山学会 2015 年秋季大会, A1-05, 富山, 2015 年 9 月.
- 小山真人: 原子力発電所の「新規制基準」とその適合性審査における火山影響評価の問題点. 日本地球惑星科学連合 2015 年大会, SCG56-07, 千葉市, 2015 年 5 月.
- 小山真人: 富士山には世界自然遺産の価値がないのか? 「落選」理由への誤解とジオパークの可能性. 日本地球惑星科学連合 2015 年大会, MIS23-09, MIS23-09, 2015 年 5 月.
- 小山真人: 原発の新規制基準の「火山評価ガイド」と適合性審査の問題点. 日本火山学会 2014 年秋季大会, A1-26, 福岡, 2014 年 11 月.
- Koyama, M., Chakraborty, A., and Suzuki, Y.: History and role of the Izu Peninsula Geopark in developing social understanding of geological hazards for mitigation of natural disasters. 6th International UNESCO Conference on Global Geoparks, Session 2: Engaging Communities, Sait John (Canada), September, 2014.
- 小山真人・鈴木雄介: 伊豆大島の噴火史からみた 2013 年 10 月 16 日の台風 26 号にともなうラハール災害. 日本地球惑星科学連合 2014 年大会, H-DS29-P07, 横浜, 2014 年 4 月.
- 國井良子, 前田恭伸: 通所介護事業所における防災講座の実践と課題, 平成 26 年度自然災害科学中部地区研究集会プログラム, 2015 年 3 月.
- 國友孝洋・山岡耕春・渡辺俊樹, 東北地方太平洋沖地震以降の土岐弾性波アクロス信号の変化, 日本地震学会 2014 年度秋季大会, 2014 年 11 月.
- 國友孝洋・山岡耕春・渡辺俊樹, 弾性波アクロス土岐送信による東海地域の地震波速度変化, 日本地球惑星科学連合 2015 年大会, 2015 年 5 月.
- 國友孝洋・山岡耕春・渡辺俊樹・浅井康広・石井 紘, 弾性波アクロスの S 波走時変化観測による地下坑道閉鎖後の再冠水のモニタリング, 日本地震学会 2015 年度秋季大会, 2015 年 10 月.
- 日下純・牛山素行: 県域 FM 局における災害時の放送内容に関する事例調査, 平成 27 年度自然災害科学中部地区研究集会予稿集, pp.18-19, 2016 年 3 月 5 日.
- 李フシン・矢守克也 2015 被災における弱さの情報を公開する意味〜「クロスロード: 大洗編」を例に〜 第 17 回災害情報学会研究発表大会 2015/10/25.

- 李勇昕・矢守克也 2015 「鯨絵」から見る東日本大震災の復興～茨城県大洗町の事例を通じて～ 日本グループ・ダイナミクス学会第 62 回大会 2015/10/11 .
- 李勇昕・矢守克也 2015 被災地における防災教育の展開～「クロスロード：大洗編」の事例を通じて～ 第 34 回自然災害学会学術講演会 2015/9/24.
- 李 勇昕・宮本 匠・矢守克也：「クロスロード：大洗編」の作成を通じた被災地住民とマスメディアの関係性の再構築 日本災害情報学会第 16 回研究発表大会, 2014.
- 李勇昕・宮本匠・矢守克也 2014 「当事者研究」の視点からみる災害復興過程の実践—「クロスロード：大洗編」の開発を例に 日本質的心理学会第 11 回大会 2014/10/19.
- 李勇昕・宮本匠・矢守克也 2014 ポスト 3.11 の復興と防災へのアプローチ～「クロスロード(大洗編)」を通じて～ 日本グループ・ダイナミクス学会第 61 回大会 2014/9/7.
- 前田恭伸, 浅野敏久, 森保文, 犬塚裕雅, 藤原圭佑：環境ボランティア獲得のための ICT 活用についての研究, 環境科学会 2014 年会, 2014 年 9 月.
- 前田恭伸, 瀬尾佳美, 元吉忠寛：2011 年東日本大震災後におけるわが国のリスク研究者のリスク認知, 日本リスク研究学会 第 27 回大会 (2014 年度), 2014 年 11 月.
- Maeda, Y., Kami Seo, Tadahiro Motoyoshi: Scenario analysis of Japanese society after the 2011 earthquake, tsunami, and nuclear disaster, Society for Risk Analysis 2014 Annual Meeting, 2014 年 12 月.
- Maeda, Y., Kami Seo, Tadahiro Motoyoshi: Scenario analysis of Japanese society after the 2011 disasters, World Congress on Risk 2015, 2015 年 7 月.
- 前田恭伸, 瀬尾佳美, 元吉忠寛：2011 年東日本大震災後のわが国の社会についてのシナリオ分析, 日本リスク研究学会 第 28 回大会 (2015 年度), 2015 年 11 月.
- Maeda, Y., Ryosuke Marui: Discovery of thresholds of nursing accidents by analysis of open data, Society for Risk Analysis 2015 Annual Meeting, 2015 年 12 月.
- 前田裕太・山岡耕春・宮町宏樹・渡辺俊樹・國友孝洋・生田領野, アクロスを用いた桜島火山噴火前後の伝達関数変化の抽出, 日本火山学会 2014 年秋季大会, 2014 年 11 月.
- 前田裕太・山岡耕春・宮町宏樹・渡辺俊樹・國友孝洋・生田領野・井口正人, アクロスによる桜島火山活動に伴う地震波伝播特性の変化の推定, 日本地球惑星科学連合 2015 年大会, 2015 年 5 月.
- 眞柄健太, 松下 慎, 石川修伍, 平田悠一郎, 木村浩之. 沖縄地方に分布する付加体の深部帯水層におけるメタン生成メカニズムの解明. 第 17 回静岡ライフサイエンスシンポジウム, 静岡, 2016 年 3 月.
- 眞柄健太, 松下 慎, 石川修伍, 平田悠一郎, 木村浩之. 沖縄本島南部に分布する付加体の深部帯水層におけるメタン生成メカニズムの解明. 日本微生物生態学会第 30 回大会, 土浦, 2015 年 10 月.
- 眞鍋明宏, 前田恭伸：2 月関東甲信越降雪による自動車/部品企業サプライチェーン寸断に関する調査, 日本リスク研究学会 第 27 回大会 (2014 年度), 2014 年 11 月.

- 増田遼麻, 前田恭伸: 東北三県の東日本大震災からの復興シミュレーション, 日本リスク研究学会 第 28 回大会 (2015 年度), 2015 年 11 月.
- 増井健志・小林春樹・今泉文寿・土屋 智: 2015 年 8 月 6 日の短時間強雨により大谷崩「一の 沢」で発生した石礫型土石流, 第 5 回中部森林学会大会, 2015 年 10 月.
- 松村太郎次郎, 増田俊明. 花崗岩体貫入時のマイクロブーディン構造形成中の応力一歪の関係: 東ピルバラ、Mt. Edger 花崗岩複合岩体の場合. 日本地球惑星科学連合大会 2014 年大会, 2014 年 5 月.
- 松村太郎次郎, 増田俊明. 三次元剛体回転シミュレーションによる形体定向配列の再現. 日本地質学会学術大会第 121 年学術大会. 2014 年 9 月.
- 松村太郎次郎, 増田俊明. マイクロブーディン地質古応力計における赤池情報量規準を用いたモデル選択. 日本地球惑星科学連合大会 2015 年大会. 2015 年 5 月.
- 松村太郎次郎, 増田俊明. 褶曲していない変形変成岩サンプルから複雑な変形史が読み取れる例: 四国東部三波川変成帯のメタチャートの場合. 日本地質学会学術大会第 122 年学術大会. 2015 年 9 月.
- 松村太郎次郎, 増田俊明. East Pilbara 地域に産するメタチャート中の電気石形体定向配列と応力場の関係: 初期太古代における純粋剪断が支配的な変形の存在. 日本地質学会第 122 年学術大会. 2015 年 9 月.
- 松下 慎, 石川修伍, 平田悠一郎, 眞柄健太, 木村浩之. 付加体の深部帯水層におけるメタン及び窒素ガス生成プロセスの地域特性. 第 17 回静岡ライフサイエンスシンポジウム, 静岡, 2016 年 3 月.
- 松下 慎, 石川修伍, 眞柄健太, 平田悠一郎, 木村浩之. 付加体の深部帯水層におけるメタン生成及び窒素ガス生成メカニズムの地域特性. 日本微生物生態学会第 30 回大会, 土浦, 2015 年 10 月.
- 松下 慎, 石川修伍, 長井一茂, 眞柄健太, 平田悠一郎, 木村浩之. 付加体の深部地下圏における微生物メタン生成と炭素・窒素循環. 第 16 回静岡ライフサイエンスシンポジウム, 静岡, 2015 年 3 月, 優秀ポスター賞.
- Mastusita, M., Shugo Ishikawa, Kazushige Nagai, Hiroyuki Kimura. Microbial methane production and carbon and nitrogen cycles in deep aquifer associated with the accretionary prism. Shizuoka University 4th International Symposium for Promotion of Interdisciplinary Domain Research. Shizuoka. 2014.12.
- Matsushita, M., Hiroyuki Kimura. Microbial methane production and carbon cycle in deep aquifer associated with the accretionary prism. 9th International Symposium on Subsurface Microbiology (ISSM 2014). California, USA. 2014. 10.
- 松下 慎, 石川修伍, 長井一茂, 木村浩之. 西南日本の付加体深部地下圏における微生物ポテンシャルと炭素・窒素循環. 環境微生物系学会合同大会 2014, 浜松, 2014 年 10 月.
- 松下 慎, 木村浩之. 西南日本の付加体深部帯水層における微生物ポテンシャルと物質循環.

- 日本地球惑星科学連合 2014 年大会, 横浜, 2014 年 4 月.
- 道林克禎・小原泰彦・石井輝秋・大家翔馬・道林研究室学生一同・針金由美子・藤江剛・尾鼻浩一郎:西太平洋プレート収束域のマントルかんらん岩～前弧マントル掘削に向けて～,ブルーアース 2016, 東京海洋大学 (品川キャンパス), 口頭発表, BE16-33, 2016 年 3 月 9 日.
- 養田健一・牛山素行:登録型防災メールの活用状況に関する調査, 平成 27 年度自然災害科学中部地区研究集会予稿集,pp.16-17,2016 年 3 月 5 日.
- 三橋麻衣・杉村晃一・牛山素行・横幕早季・大森康智:津波被害想定が激変した地域における住民の防災意識について, 平成 26 年度自然災害科学中部地区研究集会,pp.28-29,2015 年 3 月 7 日.
- 三井 雄太, 絶対応力がコントロールする巨大海溝型地震-津波地震-浅部がすべらない地震, 日本地震学会 2015 年度秋季大会, 2015/10/27 .
- 三井 雄太・日置 幸介, 東北地震の表面波に続く一時的な 38mHz の振動 -GNSS による検出-, 日本測地学会第 124 回講演会, 2015/10/14.
- 三井 雄太, 間隙流体の thermal pressurization と津波地震, 東京大学地震研究所シンポジウム「沈み込み帯」, 2015/5/29.
- 三井 雄太, 2 種類の地震性ローディングによる SSE 発生間隔変化, 日本地球惑星科学連合 2015 年大会, 2015/5/28 (招待講演).
- 三井 雄太, 断層運動中の間隙流体圧変化と摩擦係数変化、どんな条件のときどちらが卓越するか? 場合分けの試み, 岡山大学耐災安全・安心センター公開講座・ミニシンポジウム 地震・断層・粘土そして水 -地震と断層の理解のために-, 2015/3/17.
- 三井 雄太, SSE 発生間隔変化と隣接域での大地震準備過程と外的応力擾乱と - 決定論的な視点から-, 日本地震学会 2014 年度秋季大会, 2014/11/26.
- 三井 雄太, 海洋プレート沈み込みの挙動と流体: 秒スケール-年スケール, 京都大学防災研究所研究集会「断層強度と地殻深部流体の物理化学的特性にかんする新たな学際的取り組み」, 2014/8/25.
- 宮町宏樹・有門那津美・八木原寛・山岡耕春・渡辺俊樹・國友孝洋・井口正人・為栗 健・三ヶ田均・竹中博士・清水 洋・生田領野, 桜島火山におけるアクロスを用いた能動的モニタリングー観測報告 3ー, 日本地球惑星連合 2014 年大会, 2014 年 4 月.
- 宮本匠・矢守克也 2015 人間科学のデータを活性化する 4 つの視点ー探る・曝す・交わる・すごすー 日本グループ・ダイナミクス学会第 62 回大会 2015/10/11 .
- 宮本匠・矢守克也・城下英行・近藤誠司 2015 「現代社会の存立構造」から考えるー3.11 後の社会構想論のためにー 日本グループ・ダイナミクス学会第 62 回大会 2015/10/12.
- 宮本匠・矢守克也 2014 「当事者研究」としての人間科学のデータ 日本グループ・ダイナミクス学会第 61 回大会 2014/9/7 .

- 宮本匠・矢守克也・日比野愛子 2014 人間科学のデータ (ワークショップ) 日本グループ・ダイナミックス学会第 61 回大会 2014/9/7 .
- 水谷 茜, 高橋 聡, 石田 潤, 多田隆治, 山本信治 (東京大学), 池田昌之 (静岡大学), 尾崎和海 (大気海洋研究所), ペルム紀/三畳紀境界の完全連続深海層序の復元と黄鉄鉱を用いた海洋環境の解明, 第 1 回地球環境史学会年会, 2015 年 11 月.
- Morishita, Y., Shimada, N. and Shimada, K., Invisible gold and arsenic in pyrite of the high-grade Hishikari gold deposit, 25th V. M. Goldschmidt Conference, Prague, Czech, 2015.8.18, 2015.
- 森 康則, 中村 仁美, 常 青, 谷水雅治, 仲井 涼, 小林裕基, 木村浩之, 山本昌宏, 西中隆道. 三重県中南部域に湧出する多様性に富んだ塩類泉・二酸化炭素泉の分布と主溶存元素組成. 日本温泉科学会第 68 回大会 , 山形, 2015 年 9 月.
- 諸星大輔・杉村晃一・牛山素行: 沼津市における東日本大震災前後の人口変化, 平成 27 年度自然災害科学中部地区研究集会予稿集, pp.36-37, 2016 年 3 月 5 日.
- 向井利明・牛山素行: 記録的短時間大雨情報と災害との関係について, 日本災害情報学会第 16 回研究発表大会予稿集, pp.104-105, 2014 年 10 月 26 日.
- 向井利明・牛山素行: 記録的短時間大雨情報と災害との関係について, 平成 26 年度自然災害科学中部地区研究集会, pp.6-7, 2015 年 3 月 7 日.
- 向井利明・矢守克也・牛山素行: 「クロスロード防災気象情報編」の作成と防災啓発の取り組み, 平成 27 年度自然災害科学中部地区研究集会予稿集, pp.26-27, 2016 年 3 月 5 日.
- 武藤俊, 高橋聡, 山北聡, 池田昌之, 尾上哲治, 大分県津久見地域に分布する下部三畳系 Spathian 深海堆積物層序復元, 第 1 回地球環境史学会年会, 2015 年 11 月.
- 中川和之・松本翔太・第 14 回地震火山こどもサマースクール実行委員会: 南から来た大地の物語を読み解く. 日本地球惑星科学連合 2014 年大会, O06-P25, 横浜, 2014 年 4 月.
- 中居楓子・畑山満則・矢守克也 2015 マルチエージェントシミュレーションを用いた歩車混合の津波避難に関する検討 第 34 回自然災害学会学術講演会 山口大学 2015/9/24 .
- 中居楓子・畑山満則・矢守克也 2015 マルチエージェントシミュレーションを用いた津波避難時の車利用にかかわる問題の分析 第 51 回土木計画学研究発表会 2015/6/7.
- 中居楓子・畑山満則・矢守克也 2015 地域住民の避難行動意向の時系列分析による津波避難計画づくりの評価 平成 26 年度京都大学防災研究所研究発表講演会 2015/2/24.
- Nakai, F., Hatayama, M., and Yamori, K. 2014. Impact analysis of sampling error on the behavior model of human concerning evacuation. The 5th Conference of the Internatinal Society for Integrated Disaster Risk Mnagement. Western Univ, Canada, 2014/10/31.
- 中居楓子・畑山満則・矢守克也 2014 エージェントシミュレーションを用いたコミュニティ避難計画の評価モデルに関する一考察 情報処理学会研究報告 (情報システムと

- 環境研究報告 2014-IS-127(6), 1-9, 2014-03-10.)
- 中居楓子・畑山満則・矢守克也 2014 津波避難計画評価システムの導入による災害リスク・コミュニケーション支援 情報処理学会第 76 回全国大会 .
- 中居楓子・畑山満則・矢守克也：津波避難計画における実行可能性の検討 日本災害情報学会第 16 回研究発表大会, 2014.
- 中居楓子・畑山満則・矢守克也 2014 避難シミュレーションを用いた沿岸地域の津波避難ルール作りの支援 社会情報学会 2014 年社会情報学会大会 2014/9/21.
- Nakano, M., Chigira, M., Geomorphological and geological features of the collapsing landslides induced by the 2009 Padang earthquake, Japan Geosciences Union Meeting 2014, Yokohama pp. HDS05-10, 2014.
- Nakano, M., Chigira, M., ChounSian, L., Sumaryono, G., Geomorphological and geological features of the collapsing landslides induced by the 2009 Padang earthquake., 10th Asian Regional Conference of IAEG, Kyoto, pp. 1-5, 2015.
- 中谷 加奈, 水山 高久, 小杉 恵, 今泉文寿, 里深好文:平成 25 年 10 月台風 26 号により伊豆大島で発生した土石流災害の検討, 土木学会第 69 回年次学術講演会, 豊中市(2014/9).
- 中谷内一也・矢守克也・井上敦嗣・関谷直也・広瀬幸雄 2014 災害を生き抜くために(シンポジウム) 日本心理学会第 78 回大会 2014/9/11.
- 西井稜子・今泉文寿: 南アルプスにおける過去 40 年の大規模崩壊の発生状況と土砂生産, 日本地球惑星科学連合 2014 年度連合大会, HDS29-P02(2014/4).
- 西口尚希・今泉文寿:InSAR による赤石山脈南部井川地区の地すべり変動の抽出, 日本地球惑星科学連合 2014 年度連合大会, HDS25-P12, 千葉市 (2015/4).
- 野坂大樹・今泉文寿・西井稜子・上野健一:山岳域の人工林、天然林および皆伐地における土砂移動の比較, 平成 27 年度砂防学会研究発表会概要集, B282-283, 宇都宮市(2015/5).
- Ohara, Y., R.J. Stern, F. Martinez, and T. Ishii, Young basaltic volcanism as a key for understanding serpentinite-hosted vents in the Challenger Deep Forearc, 日本地球惑星科学連合大会, 幕張メッセ, 千葉市, 口頭発表, SIT05-02, 2015 年 5 月 24 日-28 日.
- Ohara, Y., Robert J. Stern, Fernando Martinez, Teruaki Ishii, Shoma Oya and Katsuyoshi Michibayashi, (2016), Lithospheric structure and composition of the Southern Marianas, 日本地球惑星科学連合大会, 幕張メッセ, 千葉市, 口頭発表, SIT11-11, 2016 年 5 月 23 日.
- 小原泰彦・Robert J. Stern・Fernando Martinez・石井輝秋・奥村知世・布浦拓郎・渡部裕美・川口慎介・矢吹彬憲・平井美穂・高井研・大西雄二・宮嶋佑典・大家翔馬・道林克禎・南澤智美:南部マリアナ前弧しんかい湧水域の地質学的背景, ブルーアース 2016, 東京海洋大学(品川キャンパス), 口頭発表, BE16-51, 2016 年 3 月 9 日.
- 奥村知世・石井輝秋・小原泰彦・高井研・YK13-08 及び YK14-13 乗船研究者一同:南部マリアナ前弧しんかい湧水域で発達するチムニーの鉱物組成と堆積組織, 日本地質学会第



122 年学術大会 (2015 長野大会,信州大学,長野市) , R9-O-1, (招待講演) ,2015 年 9 月 11 日-13 日.

奥村知世・高井研・渡部裕美・Chong Chen・大西雄二・山中寿朗・石井輝秋・小原泰彦・YK13-08・YK14-13・YK15-11 乗船研究者:しんかい湧水域で発見された炭酸塩・ブルーサイトチムニーの特徴, ブルーアース 2016, 東京海洋大学 (品川キャンパス) ,口頭発表, BE16-52, 2016 年 3 月 9 日.

刑部晶彦, 前田恭伸, 小林正人:「津波避難計画作成手引き」の策定について ~浜松市の事例 (中間報告)~, 日本リスク研究学会 第 27 回大会 (2014 年度), 2014 年 11 月. 大家翔馬・道林克禎・小原泰彦・石井輝秋・水野那希・萬年一剛:南部マリアナ海溝最西端のかんらん岩はパレスベラリフト起源? 日本地球惑星科学連合大会,幕張メッセ, 千葉市, ポスター発表,2015 年 5 月 24 日-28 日.

大家翔馬・道林克禎・小原泰彦・石井輝秋・水野那希・萬年一剛:マリアナ海溝最西端で採取された海溝かんらん岩の地質学的研究,日本地質学会第 122 年学術大会 (2015 長野大会,信州大学,長野市) ,ポスター発表, R4-O-2,2015 年 9 月 11 日-13 日.

Oya, S., Shigeki Uehara, Katsuyoshi Michibayashi, Yasuhiko OHARA, Teruaki Ishii, and Kazutaka Mannen (2016), Peridotites outcropped in the southern Mariana Trench,日本地球惑星科学連合大会幕張メッセ,千葉市,2016 年 5 月 23 日,ポスター発表,SIT09-P03.

大家翔馬・道林克禎・小原泰彦・石井輝秋・水野那希・萬年一剛:南部マリアナ海溝最西端のかんらん岩はパレスベラリフト起源? 日本地質学会中部支部 2015 年支部年会,黒田科学館,富山市,ポスター発表,2015 年 6 月 13 日.

大家翔馬・道林克禎・小原泰彦・石井輝秋・水野那希・萬年一剛:マリアナ海溝最西端で採取された海溝かんらん岩の地質学的研究, 東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会, 東京大学大気海洋研究所, 千葉県柏市,口頭発表,2015 年 12 月 3 日.

大家翔馬・道林克禎・小原泰彦・石井輝秋・水野那希・萬年一剛:マリアナ海溝最西端で採取された海溝かんらん岩の地質学的研究, ブルーアース 2016, 東京海洋大学 (品川キャンパス) , ポスター発表 BE16-P49, (研究奨励賞受賞), 2016 年 3 月 9 日.

Pratap, D., Yasunobu Maeda: Analyzing Risk on Emergency Medical Service of Bangladesh, 日本リスク研究学会 第 28 回大会 (2015 年度) , 2015 年 11 月.

佐橋 潤・逢坂興宏・土屋 智・今泉文寿・富永晃平:胸高直径比を用いたヒノキの水平根量の評価の検討, 平成 27 年度砂防学会研究発表会概要集, B358-359, 宇都宮市(2015/5).

齊藤誠一・矢守克也・宅香菜子・氏家達夫・坂野雄二: 大災害に対して心理学はこれまで何をしてきたのか? これから何をすべきなのか? 日本教育心理学会第 56 回総会準備委員会企画公開パネルディスカッション, 2014.

坂口和則, 秦康範: 地方紙に着目した非豪雪地域における 2014 年 2 月豪雪の社会的影響の分類とその特徴, 第 70 回土木学会年次学術講演概要集, 2p (CD-ROM), 2015.9.

- 佐藤健：地域に根差した防災教育のための教材開発-大崎市立岩出山小学校の事例-, 平成 27 年度東北地域災害科学研究集会, 2016 年 1 月.
- 佐藤健：東日本大震災時の保険医療活動のための情報共有システムの緊急構築, 地域安全学会東日本大震災連続ワークショップ in 気仙沼, 2015 年 10 月.
- 佐藤 悠, 藤原健智, 木村浩之. GC 含量の異なる 2 種類の 16S rRNA 遺伝子を有するアーキアの生理生態～温度変化への適応～. 第 17 回静岡ライフサイエンスシンポジウム, 静岡, 2016 年 3 月, 優秀ポスター賞.
- Sato, Y., Taketomo Fujiwara, Hiroyuki Kimura. Adaptation to temperature change in halophilic archaea which harbor two types of 16S rRNA genes. 2016 International Symposium toward the Future of Advanced Researches in Shizuoka University. Shizuoka. 2016. 2.
- 佐藤 悠, 藤原健智, 木村浩之. 塩基配列の異なる 2 種類の 16S rRNA 遺伝子を有する好塩性アーキア *Haloarcula* の環境温度変動への適応戦略. 日本微生物生態学会第 30 回大会, 土浦, 2015 年 10 月.
- 佐藤 悠, 藤原健智, 木村浩之. ゲノム上に G+C 含量の異なる 2 種類の 16S rRNA 遺伝子を有する好塩性古細菌の生理生態. 第 16 回静岡ライフサイエンスシンポジウム, 静岡, 2015 年 3 月, 優秀ポスター賞.
- Sato, Y., Taketomo Fujiwara, Hiroyuki Kimura. Ecology of *Haloarcula* strains which express two types of 16S rRNA genes in response to temperature change. Shizuoka University 4th International Symposium for Promotion of Interdisciplinary Domain Research. Shizuoka. 2014. 12.
- 佐藤 悠, 木村浩之. G+C 含量の異なる 2 種類の 16S rRNA 遺伝子を使い分ける好塩性古細菌 *Haloarcula* の生態. 環境微生物系学会合同大会 2014, 浜松, 2014 年 10 月.
- Sato, Y., Hiroyuki Kimura. *Haloarcula* strains regulate transcription of multiple 16S rRNA genes in response to environmental temperatures. 15th International Symposium on Microbial Ecology (ISME-15). Seoul, South-Korea. 2014. 8.
- 佐藤 悠, 木村浩之. 好塩性古細菌 *Haloarcula* は生育温度によって 2 種類の 16S rRNA 遺伝子の転写を制御する. 日本地球惑星科学連合 2014 年大会, 横浜, 2014 年 4 月.
- 志賀翔太・中村衛・藤田和彦・松本剛・山城咲貴・安藤雅孝・北村晃寿・生田領野・大橋陽子, 2014. 石垣島東海岸における津波堆積物調査, 日本地震学会講演予稿集秋季大会, 171. (2014 年 11 月).
- 嶋田達郎, 鍵裕之, 小松一生, 石橋秀巳, 前田竜郎: NaCl-H<sub>2</sub>O 系における氷の粒成長の低温下その場観察. 日本鉱物科学会 2015 年年会 (口頭), 2015.
- 嶋田優香・道林克禎・照峰直伸・上原茂樹・大家翔馬・小原泰彦・石井輝秋・針金由美子・布浦拓郎・宮崎惇一・高井研・萬年一剛: マリアナ海溝チャレンジャー海淵の超枯渇したオリビンサンド, 日本地球惑星科学連合大会, 幕張メッセ, 千葉市, 口頭発表, 2015 年 5 月

24日-28日.

清水修二・牛山素行：災害情報面から見た近年の市区町村防災体制の変化について，平成26年度自然災害科学中部地区研究集会,pp.38-39,2015年3月7日.

塩崎竜哉・牛山素行：土砂災害に対する避難勧告等の実用的な基準の検討，日本災害情報学会第16回研究発表大会予稿集,pp.106-107,2014年10月26日.

塩崎竜哉・牛山素行：電話通報数に基づく災害危険度の推定—2014年広島豪雨災害事例による検証—，日本災害情報学会第16回研究発表大会予稿集,pp.208-209,2015年10月25日.

Ishikawa, A., Senda, R. Suzuki, K., Tani, K., and Ishii, T., Osmium isotope variations in the Pacific mantle: implications for the distribution of heterogeneity in the convecting mantle, America Geophysical Union Fall Meeting 2015, San Francisco, V52A-07 (invited, oral), 2015/12/18.

進士裕介, 前田恭伸：自主防災組織の「担い手確保」に関する調査，平成26年度自然災害科学中部地区研究集会プログラム，2015年3月.

白木佑典, 前田恭伸, 犬塚裕雅, 森保文, 杉浦正吾：柏市内の市民活動団体のボランティアのニーズと情報システム利用状況調査，環境科学会2015年会，2015年9月.

Soda, K., Tetsuji Onoue, Masayuki Ikeda, Cyclostratigraphy of the Middle Triassic bedded chert sequence in the Chichibu Belt, Southwest Japan, American Geophysical Union Fall Meeting, 2014年12月.

曾田勝仁, 尾上哲治, 池田昌之, 秩父帯津久見地域に分布する中部三畳系層状チャートのサイクル層序，日本地質学会鹿児島大会，2014年9月.

杉村晃一・牛山素行：東日本大震災後の沿岸部住民における津波と洪水の危険度認知，平成27年度自然災害科学中部地区研究集会予稿集,pp.20-21,2016年3月5日.

杉山高志・矢守克也・孫英英・野嶋太加志・千々和詩織・伊勢正 2015 夜間における津波避難の課題（その2）—伊予灘地震の実態調査と夜間避難訓練の分析 第17回災害情報学会研究発表大会 2015/10/25.

杉山高志・矢守克也 2015 「Days-Before」の語りの質的・量的分析：阪神・淡路大震災の額体験の語りを例に 日本グループ・ダイナミックス学会第62回大会 2015/10/11).

杉山高志・矢守克也 2015 「Days-Before」の語りの質的分析～ウェブ投稿記事『震災の前日』を例に～ 日本質的心理学会第12回大会 2015/10/3 .

杉山高志・矢守克也 2015 気象庁震度階級に関する人間科学的考察 第34回自然災害学会学術講演会 2015/9/24.

杉山高志・矢守克也・畑山満則・近藤誠司・鈴木進吾 2015 エージェントシミュレーションを用いた津波避難評価システムに関する考察 平成26年度京都大学防災研究所研究発表講演会 2015/2/24.

- 杉山高志・矢守克也：「Days-Before」の視点を中心とした被災遺族の語りの分析-阪神淡路大震災の遺族の語りを例に- 日本災害復興学会 2014 長岡大会, 2014.
- 杉山高志・近藤誠司・矢守克也・畑山満則・鈴木進吾：都市域における social involvement effect の検討-アーティファクトに着目した津波防災実践- 日本災害情報学会第 16 回研究発表大会, 2014.
- 杉山高志・矢守克也 2014 Days Before の視点から紡ぐ被災遺族の語りの研究 日本質的心理学会第 11 回大会 松山大学 2014/10/19.
- 杉山将太, 前田恭伸：相関分析を用いた原子力に関する将来シナリオ支持の要因の発見, 日本リスク研究学会 第 28 回大会 (2015 年度), 2015 年 11 月.
- 孫英英・矢守克也・杉山高志・野嶋太加志・千々和詩織・伊勢正 2015 夜間における津波避難の課題 (その 3) - 「個別避難訓練」を用いた昼夜の比較研究 第 17 回災害情報学会研究発表大会 2015/10/25.
- Sun Y., Kondo,S., and Yamori, K. 2014. Ethnographic approach to enhance disaster education and tsunami evacuation. The 5th Conference of the Internatinal Society for Integrated Disaster Risk Mnagement. Western Univ, Canada, 2014/10/31.
- 孫 英英・矢守克也・谷澤亮也：津波防災における個別事例研究の意義 日本災害情報学会 第 16 回研究発表大会 アオーレ長岡, 2014.
- 孫英英・矢守克也 2014 津波減災のアクションリサーチ-個別避難訓練の実践から- 日本質的心理学会第 11 回大会 2014/10/19.
- Suzuki, Y., Y. Maeda, Y. Sakai: Craftsmanship Training for Elementary and Junior High School Students and Their Parents through Regional Collaboration, 4th Asian Conference on Engineering Education, 2014 年 10 月.
- 鈴木雄介・小山真人・上西智紀：大地の成り立ちへの理解を通じた自然災害への理解度向上を目的としたプログラムの効果検証. 日本地球惑星科学連合 2014 年大会, MIS35-P04, 横浜, 2014 年 4 月.
- 高橋 浩, 半田宙子, 石川修伍, 木村浩之. 水試料の炭素同位体分析のための試料保管：ろ過の効果とゴムセプタムの影響. 日本地球化学会年会, 横浜, 2015 年 9 月.
- 高橋聡, 山口飛鳥, 池田昌之, 尾崎和海, 多田隆治, ペルム紀末-最前期三畳紀の遠洋域深海相黒色粘土岩層の堆積速度, 日本地球惑星科学連合 2014 年大会, 2014 年 4 月.
- 高梨, 笠原他, 常設震源アクロスデータ観測時における受動的地震波データの取得, 2014 年物理探査学会春期大会口頭発表, 2014 年 5 月.
- Takanashi, M., Y. Kato, and J. Kasahara, 2014, Towards a new approach for time-lapse seismic using permanent seismic source ACROSS and elastic full waveform inversion, SEG, 2014 年 6 月.
- Takanashi, M., Kato, A., Kasahara, J., and Yoko Hasada, Time-lapse Data Acquisition of Passive Seismic and Active Seismic at the Same Time, SPE 171908, Abu Dhabi,

- UAE, 10-13 November 2014, 2014 年 11 月.
- 高柳翔平, 笠井将司, 小野友輔, 橋本岳, 土屋智, 竹林洋一: 防災応用を目的とした切土法面の三次元画像計測の実験的研究, 平成 27 年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会, O3-6, 2015/9/29.
- 武井諒, 増田俊明. 超高压変成岩の微細構造解析: ギリシャ, Rhodope 高压変成帯. 日本地質学会学術大会第 122 年学術大会. 2015 年 9 月.
- 竹本 真佑里, 山北 聡, 鈴木紀毅, 高橋 聡, 池田 昌之, 後期石炭紀~中期ペルム紀の放射虫化石模式地において産出したコノドント化石とその年代: 大森セクションの“下部ペルム系”. 大阪微化石研究会・会津大会 (第 12 回放散虫研究集会), 2014 年 11 月 (最優秀賞 (口頭発表)).
- 竹之内健介・矢守克也 2015 生活防災タイムラインを通じた災害対応に対する住民意識の変化 第 17 回災害情報学会研究発表大会 2015/10/25.
- Takenouchi, K., Kawata, Y., Nakanishi, C., and Yamori, K. 2015. A Trial of Collaboration on Local Weather Information 防災・減災に関する国際研究のための東京会議 東京大学 伊藤国際学術研究センター 2015/1/15.
- 竹之内健介・河田慈人・中西千尋・矢守克也・藤原宏之・林裕一郎: 地域気象情報の実装と連携した防災気象情報のレベル化学習ツール「セルフウェザーゲーム」の開発日本災害情報学会第 16 回研究発表大会, 2014.
- 竹内優太, 前田恭伸: 医学文献データベースを用いたリスクシナリオ発見支援システムの構築, 日本リスク研究学会 第 28 回大会 (2015 年度), 2015 年 11 月.
- 滝嵐・平野直人・山本順司・町田嗣樹・石井輝秋, (2015), プチスポット溶岩中のかんらん石捕獲結晶, 日本地球惑星科学連合 2015 年大会, 幕張メッセ, 千葉市, 2015 年 5 月 27 日, ポスター発表, SCG64-P07.
- 谷水雅治, 仲井 涼, 小林裕基, 森 康則, 木村浩之, 青 常, 中村仁美.  $\delta^{11}\text{B}$ - $\delta^{7}\text{Li}$  値からみた三重県温泉水の地球化学的特徴. 日本地球化学会年会, 横浜, 2015 年 9 月.
- 寺田光輝, 前田恭伸, 松井魁図: Twitter とグーグルマップを用いた情報収集支援システムの構築と改良, 日本リスク研究学会 第 28 回大会 (2015 年度), 2015 年 11 月.
- Tsou, C.Y., Chigira, M., Ho, T.-C., Gravitational slope deformation due to river rejuvenation in the Laonung River catchment, Taiwan, 10th Asian Regional Conference of IAEG, Kyoto, p. 4p, 2015.
- Tsou, C.Y., Chigira, M., Matsushi, Y., Chen, S.C., Fluvial incision history that controlled the distribution of landslides in the Central Range of Taiwan, Japan Geosciences Union Meeting 2015, Makuhari, 2015.
- Tsou, C.-y., Chigira, M., Feng, Z., Higuchi, K., Changes in particle size distribution of clayey material at a catastrophic landslide base, Japan Geosciences Union Meeting 2014, pp. HDS05-15, 2014.

経隆悠, 後藤優弥, 堀田紀文, 正岡直也, 今泉文寿, 山川陽佑:鉛直一次元浸透計算と斜面安定解析を用いた火山地域の表層崩壊発生プロセスの検討, 第 127 回日本森林学会大会概要集, P1-235, 藤沢市(2016/3).

Tsunetaka, H., Hotta, N., Imaizumi, F., Hayakawa, Y. S:Influence of topography on debris flow development in Ichino-sawa subwatershed of Ohya-kuzure landslide, Japan, AGU(2015/12).

経隆悠・堀田紀文・今泉文寿・早川裕弐・宥免憲樹・土屋 智:流域源頭部における土石流の発生および発達への影響要因, 平成 27 年度砂防学会研究発表会概要集, B80-81, 宇都宮市(2015/5).

Tsunetaka, H., Hotta, N., Imaizumi, F., Hayakawa, Y. S., Yumen, N., Interaction between riverbed condition and characteristics of debris flow in Ichino-sawa subwatershed of Ohya-kuzure landslide, Japan, EGU General Assembly 2015, Vienna(2015/4) .

経隆悠・田名網浩貴・正岡直也・今泉文寿・堀田紀文・山川陽祐・小杉賢一朗: 多層構造に着目した火山地帯での間隙水圧の鉛直分布に関する検討, 第 126 回日本森林学会大会概要集(2015/3).

経隆悠・堀田紀文・今泉文寿・早川裕弐・宥免憲樹・土屋 智:大規模崩壊地における土石流の流下による河床の地形と材料特性の変化, 平成 26 年度砂防学会研究発表会概要集, B68-69, 新潟市 (2014/5).

経隆悠・堀田紀文・今泉文寿・早川裕弐:大規模崩壊地における土石流の流下と河床条件の相互作用, 日本地球惑星科学連合 2014 年度連合大会, HDS05-P03, 横浜市(2014/4).

津島俊介・牛山素行: 1951~2014 年の台風の強さと死者・行方不明者の関係, 平成 27 年度自然災害科学中部地区研究集会予稿集, pp.12-13, 2016 年 3 月 5 日.

Tu, Y., ANDO Masataka, CHIEN, Chih-wei, KITAMURA Akihisa, SHISHIKURA Masanobu, NAKAMURA Mamoru, ARASHIRO Yasuhisa, The assemblages of foraminifera in paleo-tsunami sediments on Ishigaki island. Japan Geoscience Union Meeting, MIS23-15, 2014.

上野健一・黒部皓生・今泉文寿・西井稜子:中部山岳域の急斜面における森林伐採が凍結融解に及ぼす影響, 雪氷研究大会 (2014・八戸), 八戸市 (2014/9).

内田光哉, 高橋聡 (東京大学), 鈴木紀毅, 竹本真佑里, 渡邊絵美 (東北大学), 山北聡 (宮崎大学), 池田昌之 (静岡大学), 臼井洋一 (JAMSTEC), 古生代氷室期に堆積した深海チャートの環境史解読にむけて, 第 1 回地球環境史学会年会, 2015 年 11 月.

牛山素行: 平成 26 年 7 月豪雨広島市における犠牲者の特徴, 第 33 回日本自然災害学会学術講演会,(臨時セッションのため概要集無し), 2014 年 9 月 25 日.

牛山素行・塩崎竜哉・杉村晃一: 防災気象情報に対する市町村防災担当者の認識, 日本災害情報学会第 16 回研究発表大会予稿集, pp.112-113, 2014 年 10 月 26 日.

- 牛山素行,2004~2014年の豪雨災害による人的被害の原因分析,平成26年度東北地域災害科学研究集会 講演予稿集,(ページ無し),2015年1月9日.
- 牛山素行・横幕早季:2013年伊豆大島および2014年南木曾町での豪雨災害時の犠牲者の特徴,平成26年度自然災害科学中部地区研究集会,pp.10-11,2015年3月7日.
- 牛山素行:2014年8月広島豪雨災害時の犠牲者の特徴,自然災害研究協議会中国地区部会研究論文集, No.1, pp.51-54, 2015年3月21日.
- 牛山素行:土砂災害危険箇所と犠牲者発生位置の関係について,日本災害情報学会第16回研究発表大会予稿集,pp.52-53,2015年10月24日.
- 渡壁卓磨,松四雄騎,千木良雅弘,ツォウ・チンイン,平田康人,2015.花崗岩およびホルンフェルスを基盤とする斜面における表層崩壊と土層構造の特徴,日本地球惑星科学連合大会2015,幕張.
- 渡邊絵美,山北 聡,鈴木紀毅,高橋 聡,池田昌之,日本における上部石炭系~下部ペルム系の標準化石帯設定セクションにおける放散虫層位分布の再検討.大阪微化石研究会・会津大会(第12回放散虫研究集会,2014年11月).
- 渡辺俊樹・小林雅実・山岡耕春・伊藤谷生・狩野謙一・阿部 進,反射法データの波形インバージョンと断層構造調査への適用,日本地球惑星科学連合2014年大会,2014年4月.
- 渡辺俊樹・小林雅実・山岡耕春・伊藤谷生・狩野謙一・阿部 進,広角反射法データの波形インバージョンとその断層構造調査への適用,物理探査学会第130回(平成26年度春季)学術講演会,2014年5月.
- Watanabe, T., K. Yamaoka, R. Ikuta, T. Kunitomo, H. Miyamachi, M. Iguchi, Active seismic monitoring of Earth's interior using ACROSS, a signal system with highly-accurate permanent seismic sources, The 1st Conference of Chinese Geoscience Union, Beijing (China), 2014年10月.
- 渡辺俊樹・国松 直・山岡耕春・太田賢治・飯沼 博幸・葛尾 拓也・梶原 透,孔内用回転型精密制御振源の開発と性能試験,物理探査学会第132回(平成27年度春季)学術講演会,2015年5月.
- 八木浩司・林一成・今泉文寿・佐藤剛・檜垣大助:重力性山体クリープ変形の限界領域を示す地形量としての起伏度,山体釣鐘形状度,山体歪み度,日本地球惑星科学連合2014年度連合大会, HDS29-P05(2014/4).
- 山北聡,堀利栄,高橋聡, Hamish Cambell, 池田 昌之, ニュージーランド,アローロックスにおける深海相 Smithian~lowest Anisian の岩相層序・コノドント生層序:Spathian 海洋底無酸素事変,日本地質学会鹿児島大会,2014年9月.
- 山岡耕春・鈴木和司・國友孝洋・渡辺俊樹,仕様標準化をめざした新型アクロス震源装置の開発,日本地震学会2014年度秋季大会,2014年11月.
- 矢守克也 2015 「温故知新」ー廣井先生の言語行為論の論文から 災害情報学会「廣井賞(学術的功績)」受賞記念講演 第17回災害情報学会研究発表大会 2015/10/24.

- 矢守克也・孫英英・伊勢正・杉山高志・野嶋太加志・千々和詩織 2015 夜間における津波避難の課題（その 1）－避難訓練の死角 第 17 回災害情報学会研究発表大会 2015/10/25.
- 矢守克也・杉山高志 2015 Days-Before の語りに関する理論的考察（その 2） 日本グループ・ダイナミックス学会第 62 回大会 2015/10/11.
- 矢守克也・鈴木進吾・孫英英・李勇昕・伊勢正・杉山高志・西野隆博・ト部兼慎 2015 スマホ版個別避難訓練支援ツールの開発研究（その 1） 第 34 回自然災害学会学術講演会 2015/9/25.
- 矢守克也 2015 アクション・リサーチの方法 日本発達心理学会第 26 回大会チュートリアル 2015/3/20.
- 矢守克也 2015 パネルディスカッション「女性と子供が育む地区防災計画」（パネリスト），地区防災計画学会第 1 回大会 2015/3/14.
- 矢守克也 2015 パネルディスカッション「コミュニティからみた東日本大震災と世界の大規模広域災害」（コーディネーター） 地区防災計画学会第 1 回大会 2015/3/14.
- Yamori, K. 2014 Facing the giant forecasts: The current state of tsunami disaster prevention in Japan. The 5th Conference of the International Society for Integrated Disaster Risk Mngement. Western Univ, Canada, 2014/10/31.
- 矢守克也・杉山高志：「Days-Before」－災害について語るための新しい視角－ 日本災害復興学会 2014 長岡大会，2014.
- 矢守克也：災害に関するサーベイデータを深読みする 日本災害情報学会第 16 回研究発表大会，2014.
- 矢守克也 2014 災害の「想定」をめぐる考察 第 33 回日本自然災害学会学術講演会 2014/9/25.
- 矢守克也 2014 Days-Before の語りに関する理論的考察（その 1） 日本グループ・ダイナミックス学会第 61 回大会 2014/9/7.
- 矢守克也 2014 夢みる防災教育～防災に関する教育／防災を通じた教育～（基調講演） 日本安全教育学会第 15 回大会 2014/9/13.
- 矢守克也 2014 アクションリサーチの成果を地域貢献へ～阪神・淡路大震災と東日本大震災を踏まえて 日本地域看護学会 第 17 回学術集会教育講演 2014/8/3.
- 安野格史・岩崎一孝：浜松市における降水地域特性，平成 26 年度自然災害科学中部地区研究集会，2015 年 3 月 7 日.
- 横幕早季・牛山素行・大森康智・増田俊明：防災実務者を対象とした人材育成講座の構築－修了一年後アンケート結果を踏まえて－，日本災害情報学会第 16 回研究発表大会予稿集，pp.182-183，2014 年 10 月 26 日.
- 横幕早季・牛山素行：2003 年の豪雨災害の人的被害の原因分析，日本災害情報学会第 16 回研究発表大会予稿集，pp.198-199，2015 年 10 月 25 日.



横幕早季・牛山素行：2003年の豪雨災害の人的被害の原因分析(続報)，平成27年度自然災害科学中部地区研究集会予稿集,pp.14-15,2016年3月5日。

吉川 馨・堀野順章・石井千春・佃 弘巳・小山真人：南から来た火山の贈りもの 伊豆半島ジオパーク．日本地球惑星科学連合2014年大会，O06-06，横浜，2014年4月。

吉永佑一・岩松 暉・原口 強：斜面災害現場におけるオンサイト三次元地形可視化，日本応用地質学会，2014年10月。

#### 2.2.4 その他の著作物

藤井基貴「防災教育と食育を通じた道德教育」『道德教育』692号，明治図書，68-71頁，2016年2月。

藤井基貴「書評 別府昭郎著『近代大学の揺籃：一八世紀ドイツ大学史研究』」『日本の教育史学』，147-150頁，2015年10月。

藤井基貴「これからの防災教育の考え方」『教師の広場』184号，出文，8-11頁，2015年6月。

藤井基貴「静岡県の道德授業」『道德教育』681号，明治図書，2015年2月，86-87頁。

Harada, K., Study on dynamic system model of coastal tree damaged by tsunami, the 26th General Assembly of the International Union of Geodesy and Geophysics/IUGG2015, JP05p-033, Prague, 29/June, 2015.

Harada, K., Study on the numerical simulation of tsunami by debris avalanche – Case study of Mt. Fuji and Suruga Bay, International symposium: S2. Tsunami hazards and risks: using the geological record, The 121st Annual Meeting of the Geological Society of Japan, S2-O-11, Kagoshima, 14/September, 2014.

原田賢治，嶋原良典，瀬尾直樹，小西康彦，山崎宣良，松本貴久，砂坂善雄，小黑明，石野好彦，長谷川浩市，鈴木一仁，下水道施設における地震・津波対策の効果的な対策規模の基礎的検討，土木学会第34回地震工学研究発表会講演論文集，A13-662，13p，長岡市，2014.10.

林春男・矢守克也・牧紀男・鈴木進吾:防災問題における資料解析研究(41) 京都大学防災研究所年報A(CD版)，57, 35-43, 2014.

本間基寛:情報利用者の立場から見た防災気象情報の「改善」，災害情報, No. 12, pp. 35-40, 2014.

池田恵子:男女共同参画の視点で学ぶ防災ワークブック(第一部A, C, 第二部教材5, 6, 参考1, 4, 5, 6, コラムを執筆)，減災と男女共同参画 研修推進センター，2014.

池田恵子:自然災害とジェンダー，外務省平成25年度NGO研究会「ジェンダーとNGO」編集，ジェンダーハンドブック，17-22ページ，2014.

伊藤英之・小山真人・村越真・吉川肇子:誤報(いわゆる「オオカミ少年効果」)を考慮した災害情報の最適化に関する研究.平成26年度砂防地すべり技術研究成果報告会講演論文

- 集, 95-111, 2014.
- 岩松 暉:私のジオパーク像, *GEOPARK magazine*, Vol. 1, 8-9, 2014.
- 岩松 暉:桜島大正噴火の後に起きた二次災害, *地理*, Vol. 59, No. 5, 52-60, 2014.
- 岩松 暉:書架『関東大震災と土砂災害』(井上公夫著), *地理*, Vol. 59, No. 5, 51, 2014.
- 岩松 暉:紹介『鑛のきらめきー秋田大学鉱業博物館解説書ー』(秋田大学大学院工学資源学  
研究科附属鉱業博物館編), *日本地質学会 News*, Vol. 17, No. 5, 4, 2014.
- 岩松 暉:ジオパークと地域おこし, *経営倫理*, No. 77, 30-31, 2015.
- 岩田孝仁:減災から改めて防災へ 静岡県の地震対策 36年の現場から (1), 月刊フェスク  
412号, p.2-9, 日本消防設備安全センター, 2016.2.
- 岩田孝仁:防災は想像力と実行力から, 防災ハンドブック 2016年度保存版, p.2-5, 日刊工業新  
聞社, 2016.2.
- 岩田孝仁:「調査報告」2015年ネパール地震から1か月の被災地事情(速報), 静岡大学防  
災総合センターHP, 2015.5.
- 木村浩之 (2015) 付加体のメタンと地下圏微生物を利用した分散型発電システム.  
*Electronics Communications* No. 31, 2-8.
- 木村浩之, 松下 慎, 梅藤恭平, 今井里弥, 津島一平, 大谷実来, 佐藤 悠 (2014) 陸上掘  
削による地域資源革命 ~付加体の地下圏微生物を利用したメタン・水素ガス生産~. 月  
刊地球 Vol. 36, No. 2, p. 101-108. (海洋出版).
- 小山真人・村越 真:箱根山の火山活動シナリオ試案とそこに付された噴火確率に対する危険  
度認知. 火山噴火予知連絡会報, no.121, 2015 (印刷中).
- 小山真人:富士山南東山麓の噴火痕跡. 地図中心, no.516, 12-13, 2015.
- 小山真人・藤井敏嗣・匿名2名:火山学者緊急アンケートー一川内原発差止仮処分決定の記載  
に関連して. *科学*, 85, 574-580, 2015.
- 小山真人:原子力発電所の「新規制基準」とその適合性審査における火山影響評価の問題点.  
*科学*, 85, no.2, 182-193, 2015.
- 小山真人:附属浜松小学校舎の耐震性能. 楷樹, no.56, 1, 2014.
- 小山真人:富士山での突発的噴火の可能性と登山者対策. *科学*, 84, no.12, 1236-1242, 2014.
- 小山真人:300年の沈黙を破る富士山大噴火の脅威. 中央公論, no.1573 (2014年12月号),  
154-157, 2014.
- 小山真人:富士山には世界自然遺産の価値がないのか. *地質と調査*, no.140, 1-10, 2014.
- 小山真人・鈴木雄介:伊豆大島の噴火史からみた2013年10月の火山泥流災害. *地理*, 59,  
no.5, 34-41, 2014.
- 前田恭伸:日本リスク研究学会と国際学会の関係性, *日本リスク研究学会誌*, Vol.24, No.3,  
175-183, 2015年.
- 村越真・渡邊雄二・東秀則・山本一登:山のひやりはっと 登山研修, 29, 46-53, 2014.
- 村越真・山本正嘉・舟戸駿・金田朋子・渡邊雄二・山本一登・星野真則:北アルプスにおけ

- る登山中のヒヤリハットの実態 登山研修,30,9-17, 2015.
- 村越真:イギリスの national navigation award scheme(NNAS)について 登山研修,31,11-17, 2016.
- 村越真・渡邊雄二・星野真則・山本一登: 2012~2013年の登山目的による山岳遭難の実態 登山研修,31,4-10, 2016.
- 中川和之, 被災地のニーズに応えたもう一つの災害情報=調査研究成果を伝える大島での住民セミナー, 災害情報学会ニュースレター第 56 号 特集:「伊豆大島の衝撃」を受けて・2014年1月.
- 中川和之, シリーズ「つながる力で地域防災力向上」その3 ジオパークとの連携術(中編)~観光やまちづくりとつながる, 月刊フェスク・2014年4月号.
- 中川和之, この星で幸せに暮らすための地球科学, 外部リンク・NPO 法人地学オリンピック日本委員会ニュースレター Chiorin! no. 12・2014年4月.
- 中川和之, シリーズ「つながる力で地域防災力向上」その4 ジオパークとの連携術, 後編)~観光やまちづくりとつながる, 月刊フェスク・2014年8月号.
- 中川和之, 大震災におけるマスメディアの役割-伝え手からみたリスク・コミュニケーションの在り方, セキュリティタイム・2014年9月.
- 中川和之, 対談・阪神・淡路大震災から 20年=試行錯誤で成長 災害ボランティアのいまを探る, 赤十字NEWS・2015年1月.
- 中川和之, 不確実な予知を前提に、火山防災協議会を機能させよ, 災害情報学会ニュースレター第 60 号 特集:御嶽山噴火・2015年1月.
- 中川和之, シリーズ「つながる力で地域防災力向上」その5 大学との連携術~担い手を育てるために、知識や智恵、経験とつながる, 月刊フェスク・2015年5月号.
- 中川和之, 地震や火山の『なぜ?』を引き出す-地震火山こどもサマースクールの実践 共著/林信太郎秋田大学教授, 学校運営誌平成27年7月号, 特集「なぜ?」を引き出す, 2015.
- 中川和之, シリーズ「つながる力で地域防災力向上」その6 学会・専門組織との連携術~足りない部分を補うために「餅屋」とつながる, 月刊フェスク・2015年9月号.
- 中川和之, SNS で分かりやすく発信、印刷して観光関係者にも配布-桜島ミュージアム, 災害情報学会ニュースレター第 63 号 特集:火山災害と住民とのリスクコミュニケーション・2015年10月.
- 野津憲治 (2016) 火山ガスの化学分析は世界や日本で誰が最初に行なったか?, 火山 61, 253-258.
- 佐藤博明, 嶋野岳人, 石橋秀巳: 噴火の終わり方. 火山, 60, 257-263. 2015.
- 佐藤健: 自然災害に対して安全・安心な研究・教育の創生技術の開発, 大学紀要「翠巒」, 30 巻, 31 頁~34 頁, 2016 年.
- 牛山素行:平成 25 年台風 26 号による伊豆大島豪雨災害の特徴,消防科学と情報,2014 年春号

- (No.116),pp.37-42,2014.
- 牛山素行:豪雨災害による人的被害, 2015 年度水工学に関する夏季研修会講義集 A コース, pp.A-2-1~A-2-19, 2015.
- 矢守克也:諦めない気持ちを育む—一人ひとりへの個別避難訓練— Science Window 2015 夏号 14-15, 2015.
- 矢守克也:矢守先生の語る防災ゲームと出前授業 人と防災未来センター資料室ニュース,57,1, 2015.
- 矢守克也:「～して下さい」と「～します」 地区防災計画学会梗概集, 1, 4, 2015.
- 矢守克也:1,000 人のクロスロード 防災研究所ニュースレター, 76, 10, 2015.
- 矢守克也:災害時 正解なき二択～あなたは どうしますか～ URBAN, 49, 19, 2015.
- 矢守克也:気象災害情報を防災教育に活かそう 連載「新しい防災教育を実現していくために」(第 7 回) 安全教育ニュース (2015 年 10 月 8 日号) No.1422, 2-3, 2015.
- 矢守克也:思わぬとき、思わぬところで—効果的な避難訓練 連載「新しい防災教育を実現していくために」(第 6 回) 安全教育ニュース (2015 年 9 月 8 日号) No.1419, 2-3, 2015.
- 矢守克也:日常事故の防災 連載「新しい防災教育を実現していくために」(第 5 回) 安全教育ニュース (2015 年 8 月 8 日号) No.1417, 2-3, 2015.
- 矢守克也:個別避難訓練タイムトライアル 連載「新しい防災教育を実現していくために」(第 4 回) 安全教育ニュース (2015 年 7 月 8 日号) No.1415, 2-3, 2015.
- 矢守克也:助かること=助かること 連載「新しい防災教育を実現していくために」(第 3 回) 安全教育ニュース (2015 年 6 月 8 日号) No.1412, 2-3, 2015.
- 矢守克也:「クロスロード」—正解のない防災教材 連載「新しい防災教育を実現していくために」(第 2 回) 安全教育ニュース (2015 年 5 月 8 日号) No.1409, 2-3, 2015.
- 矢守克也:「あの日」の避難訓練 連載「新しい防災教育を実現していくために」(第 1 回) 安全教育ニュース (2015 年 4 月 8 日号) No.1406, 2-3, 2015.
- 矢守克也・西澤雅道:特別対談:意欲的に取り組める防災教育 C+Bousai/地区防災計画学会誌, 2, 2-5, 2015.
- 矢守克也:解説 NHK プラネット近畿「NHK 防災サバイバル」開催概要紹介 DVD, 2015.
- 矢守克也:防災教育の歴史とぼうさい甲子園 1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」10 周年記念事業実行委員会「ぼうさい甲子園～未来の奇跡を育みはじめた 10 年間～」 p.10-11, 2015.
- 矢守克也:変わるもの/変わらないもの 杉山高志(編)「語り部 KOBE1995 のあゆみ～現在・過去・未来～」, 2015.
- 矢守克也:津波災害から身を守るために 地域と取り組む「防災ふれあいウォーク」NPO 法人日本災害救援ボランティアネットワーク p.13, 2015.
- 矢守克也:有効な減災対策「早期避難」— 実現する方法は「避難訓練」, Yahoo ニュースサイト THE PAGE (2015 年 3 月 11 日 15 時 00 分配信) <http://osaka.thepage.jp/detail/20>

150311-00000009-wordleaf, 2015.

矢守克也:20 回目の 1.17:10 年+10 年としての 20 年 Yahoo ニュースサイト THE PAGE (2015 年 1 月 17 日 9 時 00 分配信) <http://osaka.thepage.jp/detail/20150117-00000003-wordleaf>, 2015.

矢守克也 (監修):大阪府津波高潮ステーションガイダンス映像「みんなで考える防災・みんなで行動する防災」, 2014.

矢守克也:南海トラフ地震・津波に備えた学校防災教育 アイ・スパン, 4, 8-9, 2014.

矢守克也:地震経過時間カウントアップー「その時」までのカウントダウン Yahoo ニュースサイト THE PAGE (2014 年 12 月 14 日 12 時 00 分配信) <http://osaka.thepage.jp/detail/20141214-00000003-wordleaf>, 2014.

矢守克也:阿武山観測所サイエンス・ミュージアム構想 防災研究所ニュースレター, 74, 10-11, 2014.

矢守克也:学校施設の津波対策「逃げ出す学校」「逃げ込む学校」, Yahoo ニュースサイト THE PAGE (2014 年 10 月 31 日 13 時 00 分配信) <http://osaka.thepage.jp/detail/20141031-00000014-wordleaf>, 2014.

矢守克也:2 つの短歌に見る津波巨大想定受けとめ方の違いは?, Yahoo ニュースサイト THE PAGE (2014 年 10 月 9 日 12 時 00 分配信) <http://osaka.thepage.jp/detail/20141009-00000011-wordleaf>, 2014.

矢守克也:災害情報のプレポスト・テスト 災害情報学会ニュースレター, 59,3, 2014.

矢守克也:「地区防災計画」の 3 つのポイント C+Bousai/地区防災計画学会誌, 1, 53-54, 2014.

矢守克也:全国一の津波高予想の町が「缶詰」生産、マイナス材料を逆手に取って前進 Yahoo ニュースサイト THE PAGE (2014 年 8 月 29 日 14 時 31 分配信) <http://osaka.thepage.jp/detail/20140829-00000016-wordleaf?page=1>, 2014.

矢守克也:地震動体験シミュレータ「地震ザブトン」を使った地震・津波防災学習会ー高知県四万十町興津地区にて, 防災研究所ニュースレター, 73, 5, 2014.

矢守克也:地区防災計画の先取りと後押し 災害情報学会ニュースレター, 58,2, 2014.

矢守克也:自著を語る「巨大災害のリスク・コミュニケーション」 心理学ワールド, 66, 41, 2014.

矢守克也:「地区防災計画ガイドライン」の革新性 内閣府 (防災担当)「地区防災計画ガイドライン」, p.9, 2014.

矢守克也:「正当にこわがる」/「正しく恐れる」 CoSTEP10 周年記念文集, 64, 2014.

矢守克也:直前の雨量が地震に与える影響とは? 災害誘発の危険性も, Yahoo ニュースサイト THE PAGE (2014 年 7 月 5 日 8 時 00 分配信) <http://thepage.jp/detail/20140705-00000002-wordleaf?page=1>, 2014.

矢守克也:愛媛で震度 5 強 3 月の「伊予灘地震」から見えた避難の課題とは, Yahoo ニュー

- ウェブサイト THE PAGE (2014年6月8日10時00分配信) <http://thepage.jp/detail/20140608-00000003-wordleaf?page=1>, 2014.
- 矢守克也:安全の持つ大切な2つの性質 高知県安全教育プログラム 高知県教育委員会, 2014.
- 矢守克也:想定外のクロスロード/クロスロードの想定外 公益財団法人大阪府市町村振興協会おおさか市町村職員研修研究センター「クロスロード研究会」報告書, 70-71, 2014.
- 矢守克也:防災・減災ななつばなし JOYOARC,14(5), 4-11, 2014.
- 矢守克也:津波避難の第一歩とは——南海トラフなどの巨大地震に備えて, Yahoo ニュースウェブサイト THE PAGE (2014年4月28日(月)18時00分配信) <http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20140428-00000015-wordleaf-so ci>, 2014.
- 矢守克也:巨大な想定に立ち向かうー高知県における津波防災の現状ー 日本地震工学会誌,21, 22-25, 2014.
- 矢守克也:巨大災害のリスク・コミュニケーション 第36回ATI公開フォーラム記録, 5-41, 2014.
- Yamori, K., Gaming & Simulation for Disaster Damage Reduction: Developing new disaster education materials: “Crossroad” & “Individual Drill” Kyoto University Research Activities, 3(4), 31, 2014.
- 矢守克也:災害情報三大用語を再考するー「オオカミ少年」・「倍半分」・「正常性バイアス」ー 月刊民放 2014-1, 18-21, 2014.
- 矢守克也:「個別訓練タイムトライアル」と3つの対話 心理学ワールド, 64, 17-20, 2014.

### 2.2.5 受賞

- 藤井基貴研究室, 1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」:「ぼうさい大賞」(2016年1月).
- 藤井基貴研究室, 1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」:「優秀賞」(2015年1月).
- 藤井基貴, 静岡大学若手重点研究者(2013年度~2015年度).
- 古橋裕子, 52回全国大学保健管理研究集会優秀演題, 2014年9月.
- 秦康範, 山梨科学アカデミー奨励賞, 2014年5月.
- 林能成, 科学ジャーナリスト賞2014「巨大地震の科学と防災」(金森博雄, 瀬川茂子氏と共同), 2014年.
- 本間基寛, 2014年日本災害情報学会奨励賞「阿部賞」, 第16回日本災害情報学会 学会大会, 2014年10月26日.
- 木村浩之, 静岡大学産学連携奨励賞, 2014年4月14日.
- 小山真人, 富士箱根伊豆国立公園指定80周年記念功労者表彰, 2016年3月.
- 三井 雄太, 2015年度日本地震学会若手学術奨励賞, 2015年.
- 森保文・根本和宜・前田恭伸・浅野敏久・伊藝直哉, 日本環境共生学会 論文賞(環境配慮行動に与えた東日本大震災の影響とその機構, 環境共生 vol.24 ,PP43-53,2014), 2014

年 9 月.

竹本 真佑里, 山北 聡, 鈴木紀毅, 高橋 聡, 池田 昌之, 第 12 回放散虫研究集会最優秀賞  
(口頭発表), 2014 年 11 月 22 日.

矢守克也, 日本災害情報学会 学会賞『廣井賞』(学術的功績部門), 2015 年 10 月.

矢守克也, 受賞対象論文名『『津波てんでんこ』の 4 つの意味』, 日本自然災害学会 学会賞  
(学術賞), 2015 年 9 月.

#### **2.2.6 特許等**

位置計測システム及び位置計測方法, 日本国特許第 5581612 号, 発明者: 橋本 岳, 特許  
権者: 国立大学法人静岡大学, 登録日: 2014/7/25.

### 3 学内教育活動

#### 3.1 新入生セミナー

静岡大学では新入生全員を対象として、「大学生活における健康管理に関する啓発」、「キャンパスや学外での安全な過ごし方の習得」、「防災意識の涵養と防災教育に関する啓発」、及び「ハラスメントに関する啓発」を目的として、「健康・安全・安心・快適な大学生活講座」を実施している。同講座は、全新入生が受講する「新入生セミナー」という科目の一部として実施されている。

当センターでは、同講座の一部として、「地震防災のすすめ」というタイトルで、1回45分の講義を分担している。主な内容は下記の通りである。

防災のすすめ	地震とは
地震と震災	東北地方太平洋沖地震（地震）
震度と揺れの状態	日本付近のプレート
プレート境界地震と内陸地震	東海地震・南海地震の発生史
静岡県第四次地震被害想定	パソコン上で見られる第4次被害想定
津波発生のメカニズム	南海トラフ巨大地震による想定津波高
南海トラフ巨大地震想定津波到達時間	静岡・浜松の津波浸水予測
東海地震の予知	緊急地震速報
自然災害の分類	洪水ハザードマップ
土砂災害	大災害発生時に一番大事なこと
地震で死なないために	静岡大学安否情報システム
「万能な備え」なんてない	「備え」は自分で考える
これだけは記憶にとどめて	

図 3-1 平成 27 年度新入生セミナーで使用した主なスライドのタイトル

平成 27 年度は、静岡キャンパス 1,235 名、浜松キャンパス 735 名が受講している。講義は、静岡地区 5 回、浜松地区 4 回で、生田講師(兼任)、牛山教授、原田准教授の 3 名で分担実施した。各日とも、45 分×2 回を担当している。



### 3.2 全学教育科目「地震防災」

地震防災は、さまざまな分野にまたがる総合科学であり、東海地震の発生が危惧されている静岡県で生活する学生にとってこれを学ぶことは必要不可欠である。地震に備えて普段から何をしておくべきなのか、また地震発生時には何をすべきなのか、地震発生時に生き延びるための基礎知識など地震防災科学を総合的に学ぶことを目標にかかげ平成16年度から本講義が開講されている。全学部の学生が受講可能な「学際科目」の一つとなっている。講師陣は大学の研究者ばかりでなく、行政やメディア関係者など幅広い分野で地震防災に関係している人が担当している。平成21年度からは浜松キャンパスでの開講もはじまり、平成26年、平成27年度は前期に静岡と浜松で各1講座、後期に静岡（昼間および夜間）の2講座、年間で合計4講座が開講された。受講者は計約550人におよんでいる。

以下に一例として平成27年度・静岡地区（前期）の講義内容一覧を掲げる。

	開講日	タイトル	担当者	所属
1	2015/4/10	地震学と東海地震の基礎 1	生田領野	静大
2	2015/4/17	地震学と東海地震の基礎 2	三井雄太	静大
3	2015/4/24	地震予知	長尾年恭	東海大
4	2015/5/1	活断層と地震発生長期予測	狩野謙一	静大
5	2015/5/15	地震による災害：津波災害	原田賢治	静大
6	2015/5/22	地震による災害：建物災害	安村基	静大
7	2015/5/29	地震による災害：土砂災害	土屋智	静大
8	2015/6/5	地震災害史	武村雅之	名古屋大
9	2015/6/12	災害報道	荒川修平	テレビ東京
10	2015/6/19	地震防災行政	岩田孝仁	静大
11	2015/6/26	災害時の心のケア	小林朋子	静大
12	2015/7/3	市民防災	横幕早季	静大
13	2015/7/10	地震災害のリスク認知	村越真	静大
14	2015/7/17	災害時の医療	山本裕之	静大
15	2015/7/24	防災を学ぶ(講義のおわりに)	牛山素行	静大

### 3.3 全学教育科目「地域社会と災害」

学際科目「地震防災」は、科目立ち上げ時の経緯や、静岡において特に地震災害に対する関心が高いこともあり、内容が地震関係に偏ってしまっていることが課題となっていた。静岡県においても災害は地震だけではなく、また、学生が卒業後に全国、全世界に活躍の場を移すことを考えれば、地震以外の災害に対する教育が必要であることは当然のことである。そこで、地震災害については「地震防災」で学ぶこととして、地震以外の様々な災害を対象に、災害を考えるための基礎的な考え方や、災害をもたらす現象のメカニズム、災害による被害を軽減するための技術や制度について理解し、社会の一員として、当事者意識を持って災害に備える事ができる人材の育成を目的として、平成 22 年度から静岡キャンパスで新科目「地域社会と災害」を開講した。「地震防災」と同様、全学部の学生が受講可能な学際科目の一つとしての開講である。受講者は、平成 26 年度約 160 人、平成 27 年度約 140 人などとなっている。「地震防災」は 15 回すべてで担当者が代わるオムニバス形式だが、「地域社会と災害」では、防災総合センター専任教員 2 人、兼任教員 1 人、客員教員 2 人、教育研究支援員(以下の一覧では「支援員」)2 人の計 7 名が分担する形式としている。

以下に平成 27 年度の講義内容一覧を掲げる。

	開講日	タイトル	担当者	所属
1	2015/10/5	自然災害科学概論 1	牛山素行	静大
2	2015/10/19	地震災害	原田賢治	静大
3	2015/10/26	自然災害科学概論 2	牛山素行	静大
4	2015/11/2	火山災害	石橋秀巳	静大(兼任)
5	2015/11/9	津波・高潮災害	原田賢治	静大
6	2015/11/16	豪雨災害	牛山素行	静大
7	2015/11/26	洪水・土砂災害	牛山素行	静大
8	2015/11/30	緊急被ばく医療	山岡泰治	浜松医大(客員)
9	2015/12/7	地域社会と災害	矢守克也	京都大(客員)
10	2015/12/14	災害情報	牛山素行	静大
11	2015/12/21	警報と避難	牛山素行	静大
12	2016/1/4	行政と災害対応	牛山素行	静大
13	2016/1/18	防災行政実務	杉村晃一	静岡市(支援員)
14	2016/1/25	ハザードマップ	牛山素行	静大
15	2016/2/1	災害と身近な暮らし	横幕早季	静大(支援員)

### 3.4 全学教育科目「地球科学」

全学教育科目「地球科学」では、地球をシステムととらえ、地球の活動を理解するとともに、地球の活動により人間社会へもたらされる災害のメカニズムや地球上に暮らす我々の社会と自然の関わりについて理解し、その課題について考えることを目的としている。主な内容は下記のとおりである。「地球科学」は全学教育科目-現代教養科目-個別分野科目（自然科学分野）として、静岡キャンパスの全学生を対象に開講されており、平成 26 年度 106 人、平成 27 年度 114 人の受講者であった。全学教育科目「地球科学」は、平成 24 年度より防災総合センター原田准教授が全 15 回を担当している。

- ・ 地球科学概論
- ・ 地球システム（気圏，水圏，地圏，生物圏，人間圏）
- ・ 流体地球，固体地球
- ・ 物質循環
- ・ サブシステムの相互作用
- ・ 人間社会と地球環境
- ・ 地球システムと自然災害
- ・ 防災・減災

### 3.5 全学教育科目「社会資本マネジメント論」

防災の地域づくりには私たちが暮らす社会が持続的に発展しかつ安全で暮らしやすい社会であることが重要である。静岡大学には都市計画や防災まちづくりを専門的に学ぶ既存コースがなく、このため街づくりなど中長期を見据えた視点で防災施策を議論する基礎的な学習が困難であった。本講座では静岡県交通基盤部の全面的な協力の下で開講するものであり、私たちの生活を支える道路や公園など社会資本の意義、それに関する行政・関連産業の仕組みと役割及び事業の企画から完成後の維持管理に至る一連の流れを理解し、どのようなマネジメントが必要か、また、社会資本を利用する住民などとの合意形成に何が必要か、さらに安全な地域社会づくり、街づくり、防災施設としての事前復興の考えなどを学び、社会資本整備に関わるマネジメントやまちづくりを実践していく上での考え方や基礎的知識を習得することができる。科目として「社会資本マネジメント論」を平成28年度後期から開講するものである。

以下に平成28年度の講義内容の一覧を掲げる。

開講日	タイトル	担当者（所属）
1. 2016/10/03	社会資本マネジメント論概要	岩田孝仁（静大）
2. 2016/10/17	社会資本概要	山崎 浩（静岡県）
3. 2016/10/24	社会資本整備計画	木村丈尚（静岡県）
4. 2016/10/31	社会資本の維持管理計画	山崎 浩（静岡県）
5. 2016/11/07	住民参加と合意形成	山崎 浩（静岡県）
6. 2016/11/14	社会資本整備における広報	木村丈尚（静岡県）
7. 2016/11/21	景観形成	鈴木安由美（静岡県）
8. 2016/11/28	建設現場における社会的環境	主田義成（静岡県）
9. 2016/12/05	防災対策概論Ⅰ（事前復興）	山崎 浩（静岡県）
10. 2016/12/12	防災対策概論Ⅱ（静岡方式）	山田真史（静岡県）
11. 2016/12/19	防災対策概論Ⅲ（緊急輸送）	西原宏昌（静岡県）
12. 2017/01/10	新技術と活用(GIS、ITS等)	増田慎一郎（静岡県）
13. 2017/01/16	都市計画区域マスタープラン	海野智之（静岡県）
14. 2017/01/23	交通ネットワークとまちづくり	木村丈尚（静岡県）
15. 2017/01/30	全体総括	岩田 孝仁（静大）

### 3.6 全学教育科目「公共施設デザイン論」

静岡大学には土木・建築を専門に学ぶ既存コースがなく、このため防災施策の中でもハード面での耐震工学や土木工学、水利工学などを学生が学ぶ機会は限定的である。この解消のため、静岡県交通基盤部の全面的な協力のもとで、私たちの暮らしを支える道路、橋梁、河川、海岸、港湾、砂防など様々な公共施設の整備にあたっての計画段階から設計、施工に関する考え方、さらに都市計画や交通計画の手法について実践事例を交えて学ぶことにより、耐震や防災、安全なまちづくりなどをデザインする上での基礎を身につける科目として「公共施設デザイン論」を平成 28 年度より開講した。

講師は、静岡県交通基盤部の各分野で実務を扱う専門家が専門分野ごとにオムニバス形式で講義を行う。平成 28 年度前期の受講生は定員 50 名で 48 名が受講中である。受講生は、理学部、農学部、人文社会科学部、教育学部と大谷キャンパスの全学部にまたがっている。

以下に平成 28 年度の講義内容の一覧を掲げる。

開講日	タイトル	担当者（所属）
1. 2016/04/08	公共施設デザイン論概要	岩田孝仁（静大）
2. 2016/04/15	公共事業の概要	山崎 浩（静岡県）
3. 2016/04/22	道路計画と設計 I	財津 博（静岡県）
4. 2016/05/06	道路計画と設計 II	岡村 徹（静岡県）
5. 2016/05/13	橋梁設計 I	松岡宏典（静岡県）
6. 2016/05/20	橋梁設計 II	松岡宏典（静岡県）
7. 2016/05/27	舗装計画と設計	塩澤孝洋（静岡県）
8. 2016/06/03	河川計画と設計 I	長谷川欣之（静岡県）
9. 2016/06/10	河川計画と設計 II	岡村修幾（静岡県）
10. 2016/06/17	海岸保全計画と設計	山田真史（静岡県）
11. 2016/06/24	砂防・治山施設計画と設計	西川 茂（静岡県）
12. 2016/07/01	急傾斜地崩壊対策計画と設計	杉山一仁（静岡県）
13. 2016/07/08	港湾・漁港計画と設計	田中 治（静岡県）
14. 2016/07/15	都市計画	海野智之（静岡県）
15. 2016/07/22	交通計画	日野原武（静岡県）

### 3.7 全学教育科目「リスクコミュニケーション」

本科目は、浜松地区で「静岡大学防災マイスター称号制度」をスタートさせるにあたり、必修科目として平成28年度より開講するものである。

#### (1) 科目概要

本科目は、自然災害を含む日常生活の中のリスクについて、個人や家庭や社会としてどのように対処するかを受講生が主体的に考えられるようになることを目指す。

現代社会は、直接的・局所的・短期的なリスクだけでなく、間接的・広域・長期的かつ複雑な因果関係を伴うリスクが増大してきている。それらのリスクを理解し、適切に管理するためには、科学的なリスク評価の視点だけでなく、多様な利害関係者の視点が必要とされる。本科目は、講義と演習を通して多様なステークホルダーが関与してリスク問題を考えるためのリスクコミュニケーションに関する知識を習得し、その社会的機能やリスクマネジメントへの寄与についても理解を深めることを目標としている。そのため、この科目は、理学や工学分野におけるリスク管理やリスク評価に関する内容、人間の認知や情報処理の特徴やバイアスに関する心理学や認知科学分野の内容、地域コミュニティや利害関係者とのコミュニケーションのあり方に係わる内容などから構成される。

平成28年度の講義内容一覧(予定)は、以下の通りである。

1	10月7日	生活の中のリスク	小杉素子(静大)
2	10月14日	リスクガバナンス	小杉素子(静大)
3	10月21日	リスクコミュニケーション	小杉素子(静大)
4	10月28日	災害・防災とコミュニティ	笹原恵(静大)
5	11月4日	災害とインフラ整備	鈴木康之(静大)
6	11月11日	地震・津波の災害評価と防災対策計画	原田賢治(静大)
7	11月18日	火山のハザードマップの作られ方を学ぶ	村越真(静大)
8	11月25日	災害への備え-南三陸の現場から	太齋彰浩(南三陸町)
9	12月2日	人間の情報処理とコミュニケーション	小杉素子(静大)
10	12月9日	コミュニケーションと社会的現実	小杉素子(静大)
11	12月16日	社会問題としてのリスク	小杉素子(静大)
12	1月6日	リスクの管理	小杉素子(静大)
13	1月13日	地殻変動とテクトニクス	増田俊明(静大)
14	1月20日	災害リスクコミュニケーション	前田恭伸(静大)
15	1月27日	リスクを社会でどう扱うか-総括	小杉素子(静大)

### 3.8 大学院総合科学技術研究科目共通科目「津波工学特論」

「津波工学特論」は、平成 27 年度より大学院総合科学技術研究科（修士課程）で開講されており、研究科コースに係わらず選択することができる研究科共通科目となっている。本科目は、防災総合センター原田准教授が全 15 回を担当している。主な内容は下記のとおりである。「津波工学特論」では、現象としての津波、津波災害の特徴、津波防災対策について理解することを目的としている。平成 27 年度は、総合科学技術研究科理学専攻、農学専攻から 12 人の受講者であった。

1. 津波の特性と理論
  - 1.1 津波の波源，規模，強度
  - 1.2 津波の発生メカニズム，地震と津波
  - 1.3 津波の伝播・遡上特性
2. 津波の被害
  - 2.1 津波による被害の分類
  - 2.2 津波の波力，流水力，浮力，揚圧力，漂流物衝突力
3. 津波の予測
  - 3.1 津波発生モデルの理論
  - 3.2 津波伝播モデルの理論
  - 3.3 津波の数値解析手法
4. 津波対策
  - 4.1 津波対策の手法と歴史
  - 4.2 現在の総合的な津波対策

### 3.9 大学院総合科学技術研究科共通科目「災害情報学特論」

「災害情報学特論」は、当センター専任教員(牛山素行教授)が担当する大学院総合科学技術研究科共通科目として、平成 27 年度から開講された。防災のために必要とされる情報が「災害情報」であり、幅広いものが含まれる。現代は多くの災害情報が存在しているが、実際の災害時に十分活用されていないことがしばしば問題となる。本講では、自然災害に関わる様々な情報を読み解き、活用する上で知っておくべき「災害情報の性質」を理解することを目標としている。災害情報を活用する上で必要な基礎知識を、主に講義形式で解説している。後半では各自事例地を設けて調査レポートをとりまとめる課題を出題し、最終回を報告会とした。

以下に平成 27 年度の主な講義内容を掲げる。

- 災害と防災の基礎
- ある災害研究から学ぶこと
- 災害情報のあらし
- 防災気象情報の現状
- 情報整備が被害軽減につながらない
- 東日本大震災
- 根拠のある情報改善に向けて
- 豪雨災害による人的被害



### 3.10 静岡大学防災マイスター称号制度（静岡地区）

#### (1) 防災マイスター称号認定とは

地震その他の天災による被害を減じるためには、ハード面のみならずソフト面の充実が欠かせず、教育機関が果たす役割は大きい。本学では地域の防災力向上に貢献するため、これまでも全学を対象に地震防災の授業や新入生セミナーにおける防災についての講演会を実施してきた。「防災マイスター称号付与制度」はこうした防災に関する授業を有機的に結びつけ、一定レベルの防災知識を備えた学生を養成して社会に送り出す事業であり、平成23年度よりスタートした。初年度は波及効果が高いと考えられる教員養成を念頭におき、教育学部で試行的に実施した。おりしも、2011年は東日本大震災が発生し、防災に対する教育の有効性が強く意識された。本制度は、防災についての大学の取り組みの先進的事例として、全国的にも関心を集めた。

さらに平成24年度からは、静岡キャンパスの人文社会科学部、理学部、農学部にも対象を広げた。27年度終了時点で、静岡大学防災マイスターは54名、ふじのくに防災マイスター（後述）は48名となった。マイスターを社会に送り出してから4年がたち、修了生たちの今後教育・行政その他の現場での活躍が期待されるとともに、防災総合センターとしてその活動を支援したり、活用を考えることが、今後の課題だと考えられる。

#### (2) 防災マイスター称号付与の条件

防災マイスター称号取得のためには、必修3単位、選択必修4単位以上、選択5単位以上の計12単位以上の履修が求められている。必修は教育学部で開講している「学校におけるリスク管理」「防災科学実習」、選択必修は共通科目の「地震防災」「地域社会と防災」「地球科学」「災害時におけるリスク危機マネジメント」が指定されている。これらの科目では、地震発生に関する自然科学的な知識のみでなく、自然災害のリスクや防災について広く考えるための人文社会系の授業も含まれている。

選択科目は表3-1のとおりで、教育学部の自然科学、地理学、心理学などの科目が広く指定され、2012年からは農学部、理学部の科目も指定されている。また、修了時には、受講した授業などを踏まえ、卒業後の職場や地域で、得た知識やスキルをどう生かすかをまとめたレポートを義務づけ、学習内容の整理を促している。

#### (3) 平成27年度の実施状況と今後

27年度には、新たに12名の登録があり、27年度の全登録数は55名であった。内訳は教育学部13名、理学部11名、人文・人文社会科学部14名、農学部2名、教育学研究科7名、人文社会科学研究科4名であった。このうち、27年度修了予定は28名であったが、実際に修了したのは11名であった。

1月には28年度の抽選科目に関連するガイダンスを実施した。

(4) 県知事認証について

静岡県では、これまでも一定の受講条件を満たす市民に対して、「静岡県ふじのくに防災マイスター」の称号を与えてきた。静岡大学防災マイスターも概ねこの条件を満たすので、本学防災マイスター取得後、県が主催する1日の講習を受講することで、上記の認証も受けられることとなった。27年度は11名全員が受講し、全員が「静岡県ふじのくに防災マイスター」を得た。

表 3-1 「防災マイスター」の取得科目リスト

対応学部等	科目名
全学共通（静岡）	進化と地球環境
	静岡県の防災・減災と原子力
教育学部・ 人文学部・ 人文社会科学部	自然災害と現代社会
	自然災害学
	科学ジャーナリズム論
	地球システム
	心理学入門
	学校カウンセリング論
	認知心理学
	地誌学
	地理学研究法
博物館情報・メディア論	
理学部	地球ダイナミクス概論Ⅰ
	地球ダイナミクス概論Ⅱ
	生物環境科学概論Ⅰ
	生物環境科学概論Ⅱ
	放射線計測・管理学概論
	放射線管理実習
農学部	溪流環境学
	森林環境水文学
	地質学概論
	山地保全学
	リモートセンシング学
	測量学

### 3.11 静岡大学防災マイスター称号制度(浜松地区)

浜松地区では、平成 28 年度から「防災マイスター称号制度」をスタートさせる準備として、称号取得のための科目リストを作成した。なお、称号付与の条件は静岡地区と同一であり、12 単位以上（必修単位 3 単位以上，選択必修 4 単位以上，選択 5 単位以上）の履修が必要である。

履修科目は表 3-2 の通りである。必修科目の「リスクコミュニケーション」については、平成 28 年度より新規科目として設定し、「防災科学実習」は静岡地区の教育学部で開講されているものとはほぼ同一の構成で、浜松地区では学際科目として設定した。選択必修および選択科目については、情報学部および工学部から、自然災害の現象やメカニズムだけでなく、防災や減災に関わる技術や地域コミュニティや政策まで幅広い分野の科目が指定されている。また静岡地区と同様、修了時には、受講した授業などをふまえ、卒業後の職場や地域で、得た知識やスキルをどう活かすかをまとめるレポートを義務づける予定である。

表 3-2 「防災マイスター」の取得科目リスト

学部・学科	科目名
必修(3 単位)	
学際	リスクコミュニケーション
学際	防災科学実習
選択必修(4 単位以上)	
全学(浜松)	地震防災
学際	静岡県の防災・減災と原子力
全学(浜松)	地球科学
工学部	安全工学
選択(5 単位以上)	
工・機械工学	材料力学 I (必) 確率・統計 (必) 環境工学 (選) 経営システム工学 (選)
工・電気電子	確率統計 <情報エレクトロニクス(必)>， <エネルギー・電子制御(選)> > 数値シミュレーション <情報エレクトロニクス(必)> 経営システム工学 (選) 技術者倫理 (旧カリ：必，新カリ：選) センサ工学 <情報エレクトロニクス(選)> 電気法規および施設管理 <エネルギー・電子制御(選)>
工・電子物質	環境工学 <電子物理デバイス(選)>， <材料エネルギー化学(選必)> 経営システム工学 (選) 数値計算法 <電子物理デバイス(選必)>

	技術者倫理 <材料エネルギー化学(選)>
工・化学バイオ	経営システム工学 (選) 技術者倫理 (必) 移動現象論 I <バイオ応用工学(選)>, <環境応用化学(必)> 環境化学 <環境応用化学(必)>
工・数理システム	確率統計 (選) リスク分析 (選) 経営システム工学 (選) 技術者倫理 (選)
情報学部	統計学入門
	社会モデルおよびシミュレーション (新カリ: 社会モデル)
	社会調査論 (新カリ: 社会調査法)
	地理情報システム論 (新カリ: 環境・地理情報システム論)
	コミュニティ・デザイン論
	web デザイン論
	都市デザイン論
	都市・地域政策論
自治体行政論	
学際	わが街・浜松の市政

## 4 プロジェクト・関連行事

### 4.1 「ふじのくに防災フェロー養成事業」

#### 4.1.1 事業の概要

##### (1)はじめに

近年、様々な形での防災関係の人材育成の取り組みが各地で行われつつある。静岡県では、平成8年から防災士養成講座を実施し、これまでに静岡県ふじのくに防災士（平成22年度に「静岡県防災士」を改名）を1250名輩出している。この講座の受講生は自治体・企業等での防災に関する実務に従事している防災実務者が多いことが特徴で、ふじのくに防災士取得者は相当数が実務にあたっている。

一方、同講座では講師による講義を聴く座学が中心で「広く浅い」基礎知識の習得にとどまる。防災実務の現場では地域特性・時代特性等、個々の状況にあわせた科学的・技術的知見の応用力が要求されるが、対応できる人材もその育成の場も少ない。そこで、静岡大学は静岡県と連携して平成22(2010)年度より、文部科学省の科学技術戦略推進費(平成25年度からは「社会的システム改革と研究開発の一体的推進事業」)による地域再生人材創出拠点の形成事業「災害科学的基礎を持った防災実務者の養成」として「ふじのくに防災フェロー養成講座」構築に着手した。

なお、本項の一部は牛山ら(2016)の文章、図表の一部をもとに書き改めたものである。

##### 引用文献

牛山素行・横幕早季・大森康智・増田俊明：防災実務者を対象とした人材育成講座の構築—「ふじのくに防災フェロー養成講座」の実践—、災害情報、第14号、(印刷中)、2016。

##### (2)講座の概要

この講座では自治体や企業等で災害・防災に関する実務に従事している者を対象にする。災害発生後の危機管理ノウハウにとどまらず、災害の事前予防を目指して、地域の特性を理解し、科学的専門知識とその情報を読み解ける実践的応用力の習得を目標とする。

それぞれ原則1科目1日の形で開講される22科目(年度により若干変動する)の「講義・実習」と、担当教員による指導により個別の研究テーマの結果をとりまとめる「修了研修」を本講座のカリキュラムの主軸とした。講座修了は、(1)10科目以上の講義・実習の履修、(2)学会等の専門的な研究発表の場で修了研修の内容を発表すること、(3)講座全体の「ゼミ」である地域防災セミナーに1回以上出席することの3条件を満たすことで判定する。講義・実習はインターネット経由で視聴できるシステムを用意し、開講日に出席できない場合、3科目まではネット経由の受講を出席と認めた。受講期間は1年間を基本とし、最長で1年間の期間延長(合計で2年間)は認めるものとした。

募集人数は10名程度で、応募資格として「静岡県ふじのくに防災士」、日本防災士機構

「防災士」またはそれに準ずる資格を持ち、防災に関わる業務に従事していることとした。受講者の選考は提出された出願書類の内容を元にした一次選考、口頭試問及び面接を行う二次選考による。なお、入学料及び受講料は平成 27 年度までは無料として来たが、平成 28 年度より有料化した。毎年 12 月下旬～1 月上旬に応募を受け付け、2 月中旬に選考、3 月より講座開始のスケジュールとしている。

講義・実習は、下表のような科目をほぼ隔週土曜日の終日に開講している。話を聞くだけの形式ではなく、計算・作図等数値や物理的・質的データを用いた作業を伴い、毎回課題提出をもとめている。

**表 4-1 防災フェロー養成講座講義・実習科目開講スケジュール(平成 27 年度)**

科目名	担当者	開講日
自然災害科学概論	牛山素行	2015/4/4
水理学	林 拙郎	2015/5/2
統計学演習	村越 真	2015/5/9
気候学(浜松開催)	岩崎一孝	2015/5/23
地震計測実習	林 能成	2015/5/30
河川工学	風間 聡	2015/6/13
火山学	小山真人・鶴川元雄	2015/6/27
リスク論	鈴木清史	2015/7/11
地震工学	秦 康範	2015/7/25
地震学	笠原順三	2015/8/8
治山砂防工学	林 拙郎	2015/8/22
地球化学	野津憲治	2015/9/5
強震動・地震災害史	武村雅之	2015/9/12
社会調査演習	柄谷友香	2015/9/26
地理学演習	近藤昭彦	2015/10/10
地質学演習	狩野謙一	2015/10/17
防災気象学	牧原康隆	2015/10/31
建築防災学	佐藤 健	2015/11/7
地域調査演習	牛山素行	2015/11/28
災害社会学	矢守克也	2015/12/5
津波工学	原田賢治	2015/12/19
防災法制度	中川和之	2016/1/9
防災実務実習	牛山素行・岩田孝仁	(開講日未定)

修了研修では、受講生と担当教員間のディスカッションにより、特定の研究テーマを

決めて取り組む。平成 26、27 年度に発表されたテーマを下記に列挙する。受講生の居住地や実務に関連したものが多い。

#### 2015 年 3 月修了者

- 「津波避難計画作成手引き」の策定について ～浜松市の事例（中間報告）～
- 気象台が提案する児童・生徒を対象とした防災授業構成の枠組みについて
- 通所介護事業所における防災講座の実践と課題
- 災害情報面から見た近年の市区町村防災体制の変化について
- 「静岡県第 4 次地震被害想定」について Q&A の作成と効果について
- 南アルプス南端部地域における詳細な震源分布と微細構造の推定
- 津波被害想定が激変した地域における住民の防災意識について
- 市町村の津波避難計画の設定条件に関する特徴の比較検討
- An experiment of subsidence monitoring in the quarry area by a seismic source during two months: near source observation
- 新型建物モデルの加振応答の画像計測の基礎的研究
- 自主防災組織の「担い手確保」に関する調査
- 介護施設等における防災への取り組みについて
- SNS を活用した津波等の歴史災害記録の情報共有手法の試行
- 静岡県地震防災センターの現状分析と今後のあり方の検討
- 2 月関東甲信越降雪による自動車/部品企業サプライチェーン寸断に関する調査
- 記録的短時間大雨情報と災害との関係について
- 浜松市における降水地域特性

#### 2016 年 3 月修了者

- 1951～2014 年の台風の強さと死者・行方不明者の関係
- 沼津市における東日本大震災前後の人口変化
- ローカル放送局の気象情報に求められるもの
- 藤枝市避難所・防災拠点の特徴
- 県域 FM 局における災害時の放送内容に関する事例調査
- 高校生を対象とした保健委員会を活用した防災教育
- 登録型防災メールの活用状況に関する調査
- 掛川市が目指す海岸防災林強化事業における整備条件の検討について

#### (3)応募・終了の状況

2016 年 3 月末現在で、6 期生までの募集・選考が終了している。1 期 53 名、2 期 43 名、3 期 35 名、4 期 34 名、5 期 28 名、6 期 16 名の応募者があり、それぞれ 22 名、20 名、21

名、20名、17名、11名を受講生として受け入れた。このうち4期までは2016年3月末時点で最長受講期間が終了しており、1期20名、2期17名、3期14名、4期13名が修了認定された。5期はすでに5名が終了、12名が受講中である。2016年3月末時点で、のべ111名が受講し、うち69名が修了、23名が受講中となっている。

最長受講期間が終了した4期までの受講生について、受講生の居住地を大別すると図1となる。各年共に静岡県内にとどまらず、むしろ県外からの受講生がやや増えつつあるとも言える。これまで、秋田県、宮城県、東京都、神奈川県、愛知県、岐阜県からの受講生を受け入れ、広い範囲から受講生が集まっている。受講生の所属を大別すると、図2のようになる。市町村、国、県といった行政機関からの受講生が各年とも概ね半数を占めるが、企業等からの受講生も少なくない。

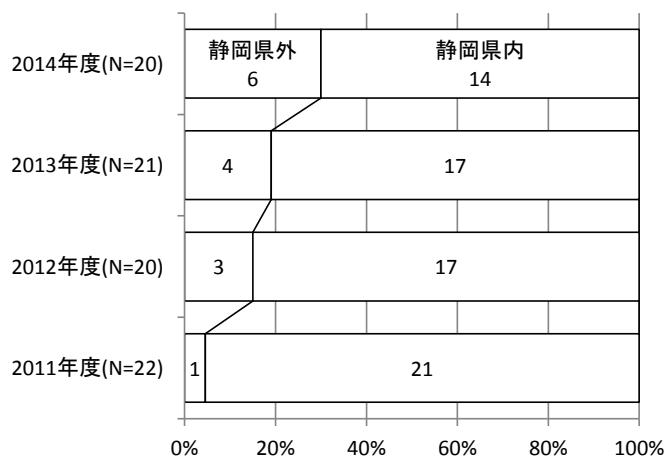


図 4-1 受講者の居住地

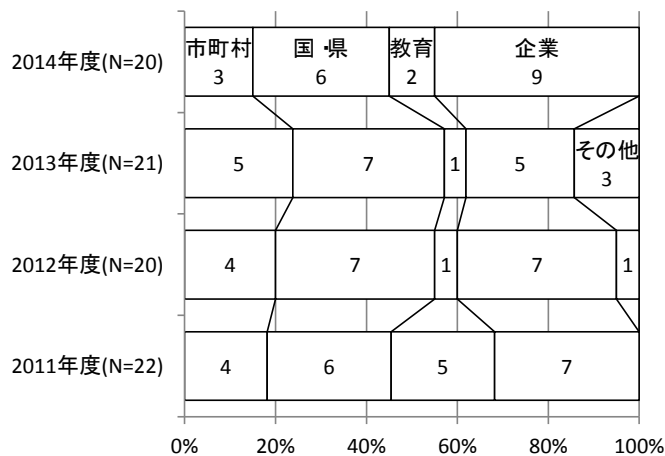


図 4-2 受講者の所属



#### (4)受講生対象アンケート結果

受講生を対象としたアンケートを実施している。まず講義等の受講が概ね終了した時期に、受講生に対するアンケート調査を行っている。平成 23 年度に受講開始した受講生に対しては、2012 年 1 月に実施し、対象者 22 人中 20 人から回答を得た。同様に平成 24 年度受講生には 2013 年 3 月に実施し、20 人中 15 人から、平成 25 年度受講生には 2014 年 6 月に実施し、21 人中 10 人から回答を得た。

講義・実習科目が 10 科目以上必修となっていることについては、各年度とも回答者の 8 割以上が「丁度よい」と回答し、「多すぎた」との回答はごくわずかだった(図 3)。最低条件として課した講義・実習科目数は、量的に特に支障はなかったようである。講義・実習科目の難易度については年度によりやや違いがあるが、各年度共に「丁度良かった」の回答が多数派である(図 4)。一方、修了研修については、各年度とも講義・実習科目に比べ「難しかった」という回答が多く、概ね 5 割以上となっている(図 5)。自由回答で、「この講座で非常に苦勞したこと」についても質問しているが、その中では、「講義・実習で必須のレポート提出」、「修了研修の学会での発表が義務づけられている」など、一般的な防災人材育成講座ではあまり見られない本講座固有の「必修の課題」、「学会発表」、「修了研修」などが挙げられており、初歩的な「研究」を経験することが、受講生にとってはやや難しく感じられたようである。

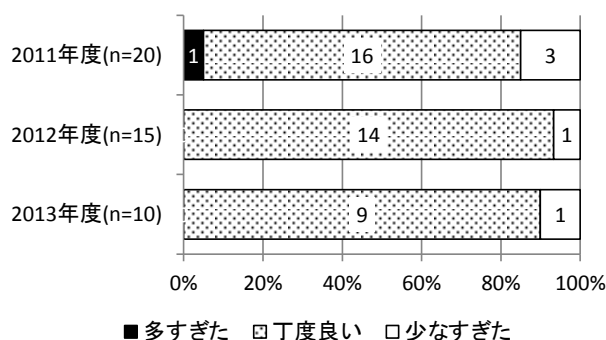


図 4-3 10 科目以上が必修であることについて

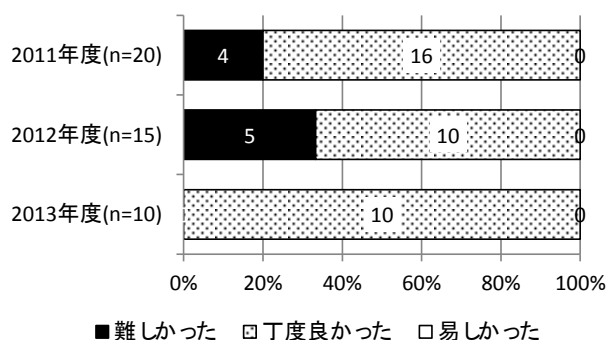


図 4-4 講義・実習科目の難易度

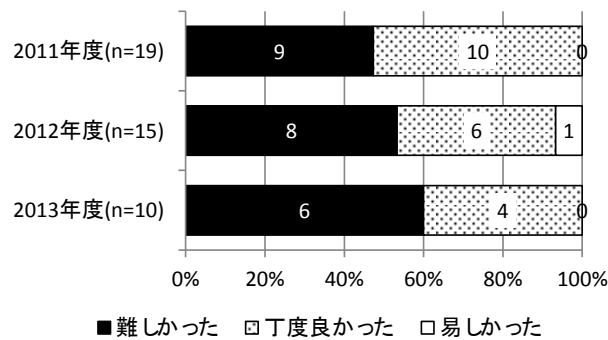


図 4-5 修了研修の難易度

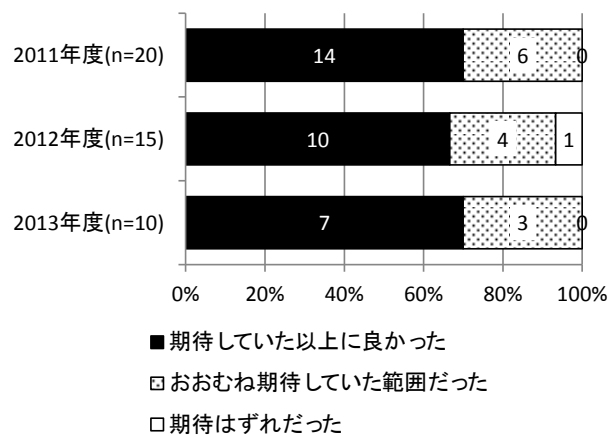


図 4-6 講座全体への満足度

しかし、講座全体の満足度については各年度とも「期待していた以上に良かった」が概ね7割を占め、「期待外れだった」はごくわずかである(図6)。「やや難しかったが、受講して良かった」といった充足感が平均的な受講生の印象ではなかろうか。

なお自由回答として、本講座による発展的な効果として「この講座の受講を通じて、講義や修了研修以外のご自身の防災関連業務の中で講義担当の教員や受講生との人的な連携がありましたか」と尋ねたところ、主な回答として次のようなものが得られた。

- 所属機関が実施する危機管理演習の評価者として、修了研修担当教員に参加いただいた。
  - 所属機関が組織した委員会に、修了研修担当教員や、講義担当教員に委員を依頼した。
  - 地すべり災害現場の再滑動が工事中に発生したとき、その原因を講義担当教員に教えていただいた。
  - 勤務先の管理する土地を、教員の調査研究のためのサンプリング地点として提供した。
- これらの回答からは、この講座を受講したことで、いわゆる「顔の見える関係」となっ

た本講座関係教員に対して、様々な依頼をしている様子うかがえる。本講座の実施を通じて、地域社会に対する実効的な「相談窓口」が構築された可能性がある。

#### (5)修了後の対応

まず、受講生および関係教員間の連絡を図る目的で、メーリングリストを講座開始直後から運用している。修了後も特に本人からの申し出が無い限りリストから削除していない。修了生から、防災関係の行事案内などが流されるケースもあり、関係者の連絡網として機能しつつある。

当初は、修了後に開講の講義・実習科目は受講できないこととしていたが、受講生からの意見を参考にリカレントの狙いも含め、平成26年度から「科目受講制度」を新設し、講義内容を紹介するブログ記事を作成することを条件に、年間3科目までの受講を認める事になった。なお、地域防災セミナーについては、開講当初から修了生も自由に出席できることとしている。また、各担当教員によっては、開講しているゼミに修了生の出席を認めているケースもある。

平成26年度からは、本講座修了生らと静岡大学のさらなる連携を図ることを目的として、「静岡大学教育研究支援員」の制度を新設し、これまでに修了生ら6人を任命し、修了研修や講義・実習科目の実施に協力してもらっているほか、研究、普及活動を教員と共同実施している。

#### (6)今後の展望

本講座では、受講対象を現役の防災実務者に限定したが、開講後5年間にわたり1年当たり10人程度と想定した受講者数をはるかに上回る旺盛な応募が広域から続いており、防災実務者に対してある程度の魅力を持った内容となっていることが示唆される。修了生はすでに69人に上り、修了後も継続的に本講座関係教員、修了生らとの交流が行われ、静岡大学を拠点とする防災に関する人的ネットワークが構築されつつあると見ていい。

現在、喫緊かつ重大な課題は、文部科学省の助成終了に伴う運営資金の確保策である。2015年時点では、静岡県および静岡大学からの予算拠出と、運営経費の見直しなどによって急場をしのいでいるが、平成28年度からはさらに1年間12万円の受講料徴収を行う予定である。今後、さらに本講座の具体的な成果を示す取り組みを続け、講座の継続、発展を目指したいと考えている。

#### 4.1.2 受講生の活動成果

氏名：青島 晃

所属：静岡県立磐田南高等学校

県立高等学校の地学の教員として理科教育，防災教育に取り組んでいます．1981年から中遠行政センターの委託を受け，「昭和19年東南海地震に学ぶ」（1981）を始め，「昭和19年東南海地震の記録」（1982），「写真で見る東南海地震」（1994）などの冊子の編集を中心になって行いました．

また，磐田北高校では静岡県地震予知観測学習モデル校，浜松北高校，磐田南高校では地学部顧問として地震観測や歴史地震の研究を指導し，日本学生科学賞で内閣総理大臣賞を受賞するなど，指導力を発揮しました．研究活動では東南海地震の約40,000件にも及ぶアンケート調査を静岡県西部地域や三重県南部地域で実施したり，歴史地震の液状化や津波の痕跡を地質学的手法により研究を行ってきました．また，2011～2012年には袋井市の液状化対策委員として，ハザードマップ作成のために，昭和東南海地震で発生した液状化の記録を提供しました．

現在，太田川河口で発見された歴史地震による津波堆積物や遠州灘の海浜の礫や砂の起源について，岩石学的，鉱物学的手法を用いて解明しています．

氏名：諸橋 良

所属：静岡県建設技術監理センター 技術支援第2班

私は、2014年度に東日本大震災の復興技術支援で静岡県交通基盤部河川砂防局から岩手県沿岸広域振興局へ派遣され、発注者の監督員として、岩手県釜石市嬉石地区で計画された津波対策水門の整備事業を担当し、大型公共工事の着手時における施工管理や、釜石港等の隣接地で展開されている様々な災害復旧・復興事業との協議調整等に従事した。この津波対策水門は、背後地の復興まちづくりと一体的な整備を図り、かつ津波防災機能の早期発現が地域社会から求められていた。

2015年度に岩手県から静岡県建設技術監理センターに異動し、2014年度に従事した復興技術支援の概要や、災害科学的知見を踏まえた岩手県釜石市における復興まちづくりの事例比較等の講演を静岡県内各地で行った。

また、ふじのくに防災フェローとして、静岡市南部の巴川流域で防災ウォーキングのガイドを務め、地形に起因した災害リスクや大谷川放水路による治水効果等を一般参加者（約15名）に現地解説した。

平成27年12月 第124回だすけ会ウォーキング  
**巴川流域の地形と治水**  
大谷川放水路を歩く ~縄文から平成まで~

清水池  
日本平  
巴川  
大谷川放水路  
静岡駅  
かわなび  
安倍川

**開催日…平成27年12月20日(日)**

9:00…集合：静岡駅北口 ロータリーの竹千代像前  
9:16…バス乗車（美和大谷線8番乗場・大谷行き）  
9:41…大谷バス停下車 ※運賃350円

10:00…静岡市治水資料館かわなび見学 ※無料

10:40…ウォーキング午前の部（約3.5km）  
大谷川水門→（古大谷湾）→ 小鹿沢川

12:00…昼食：とり福 ※日替わり定食700円くらい  
（静岡市駿河区小倉2-40-20 ☎054-281-1029）

13:00…ウォーキング午後の部（約3.5km）  
小鹿沢川の分水地形→ 池田公園の雨水貯留→ 長沼大橋→ 巴川の分流堰→ 長尾川の堤防

15:20…静鉄：古庄駅→新静岡駅 ※運賃130円  
15:40…駿府城の地勢と利水  
16:30…解散

連絡先：鈴木 寛  
ガイド：諸橋 良（ふじのくに防災フェロー）

企画：車や  
静岡市葵区常盤町2-2-16

かわなび「巴川シアター」

図4-7 第124回だすけ会ウォーキング「巴川流域の地形と治水」, 2015年12月20日

氏名：塩崎竜哉

所属：多治見市役所

本市が経験した豪雨災害時の降水量や河川水位の状況、被害記録などから、避難勧告などに利用できる指標についての研究を行うとともに、その結果を活用して実運用に役立てるためのマニュアル作成などに取り組んでいます。

特に、2011年9月に台風第15号が接近することで発生した豪雨災害時の記録から、行政機関への電話通報数と降水量にはある程度のある関係があることが判明したため、災害危険度を示す指標として利用できるものと考えています。こうしたことを受け、他の豪雨災害における電話通報数の推移と、災害危険度の関係についての研究をしています。

**氏名：有友春樹**

**所属：日本ミクニヤ株式会社**

私は、民間の建設コンサルタント会社に勤務し、主にソフト防災の分野である計画策定（災害時の行動計画、避難計画、事業継続計画等）支援業務に従事しています。民間企業の事業継続計画（BCP）策定支援業務では、作成手順の提案からワークショップの実施、訓練支援までトータルで行っています。

最近の業務は、自治体の防災訓練支援（下水道部門・大規模土砂災害・帰宅困難者対策）を行っています。下水道部門では、災害時の下水道機能の早期復旧のための被害情報収集、大規模土砂災害では、国・県・市町村等の情報伝達・役割分担、帰宅困難者対策では、都市部の主要駅において市・警察消防・鉄道・商業施設等の情報伝達・役割分担をそれぞれ検討しています。

氏名：栗田正光（防災フェロー養成講座修了・第四期生）

所属：株式会社ハートワークスデザインオフィス

2016年4月二度にわたり起きた震度7の熊本地震はこれまでの地震対策の特に建築木構造の規範を覆すものであった。地震国日本に住み続ける為の住まいについてシェルター機能を持たせた全く新しい組立方の研究開発の試験実証を2014年12月静岡大学大学院電子電気工学専攻橋本岳研究室の協力を得て行った。通常の建築であれば2次元に単純化した部位別試験のデータ集積による評価が一般的であるのに対し、一気に3次元解析することで時間の短縮、実体としての振動のビジュアル化を優先させた。組み立てた構築物に地震動を与えその揺れを解析することとした。従来の建築と全く異なる構造のため実際の揺れを画像計測によって解析した。起震車にセットアップした二つの試験体は震度6強、震度7で加振させ、KUM+（クムプラス）構法（平成15年5月特許出願・平成20年3月特許取得）と名付けた試験体は同一部材を格子状の床天井に組みかつその隙間に柱を列柱状に差し込む方法を基本とし成立している。2015年3月追加特許出願、より開放的で簡便に組立出来る方法とした。

2009年静岡県森林木材研究センターでの壁倍率性能試験、2012年静岡県工業技術センターでの集中荷重試験を経て静岡大学防災フェロー養成講座での試験実証結果を2015年3月平成27年日本電気学会全国大会にて発表した。続いて人が中に入って実施、人に与える加振応答の様子を計測した結果を2015年9月平成27年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会にて発表した。



(a) Model A-type (b) Model B-type

Fig. 1. Two types of target model (actual size)



Fig. 2. Experimental scene





氏 名：津島俊介

所 属：水戸地方気象台

普段は、水戸地方気象台にて防災気象情報の作成、ならびに予報ならびに観測作業を行っています。

ふじのくに防災フェロー講座第 4 期生として、牛山素行教授のご指導のもと、台風の強さと被害の比較をするために、台風の強さを「工率」という単一の指標で見積もり、死者・行方不明者数との関係を調査し、「1951～2014 年の台風の強さと死者・行方不明者の関係」という題で、平成 27 年度自然災害科学中部地区研究集会に口頭発表を行いました。

今後も台風の強さの指標については工率以外のものも含め調査・検討を行っていき、各指標の比較、それぞれの被害との関係を調査していきたいと考えます。

氏 名：真鍋明宏

所 属：株式会社 小糸製作所米州部米州課主事補

私は自動車照明機器メーカー(株)小糸製作所に勤務しており、主業務は米国地域関係会社の体質強化支援を実施しておりますが、一部 防災・危機管理業務にも従事しております。又、企業危機管理研究会、事業継続推進機構に所属し、自然災害リスク、社会リスクの対応、及びBCP、BCMの勉強を行なっています。

自身のスキル向上を目的に2014年「ふじのくに防災フェロー」を受講し、前田恭伸先生のご指導の下、「2014年2月関東甲信越大雪による自動車、部品産業の寸断と対応調査」として、アンケート調査及び中日本高速道路へのヒアリング調査を行ない、その結果を2014年11月 日本リスク研究学会で発表しました。その後、2015年2月所属会社部署及び2015年4月企業危機管理研究会、2016年2月事業継続推進機構静岡地域勉強会においてもその後の自動車、部品産業、中日本高速道路の対応状況も踏まえ、加筆し、発表しました。

又、所属の企業危機管理研究会では2015年10月 社会リスク対応が中心になりますが、「日本人リーダーは、なぜ危機管理に失敗するのか～リーダーは悲観主義者、実働部隊は楽観主義者であれ～」大泉光一/大泉常長/企業危機管理研究会著 晃洋書房を出版しました。

更に、2015年4月から毎月DIGセミナーに参加、ふじのくに防災士会清水区委員会に参加、ふじのくに防災士会静岡支部設立に協力する等、地域/地区防災の勉強、活動も進めています。

氏 名：向井利明

所 属：名古屋地方気象台（平成 28 年 4 月～長野地方気象台）

ふじのくに防災フェロー養成講座第 4 期受講生として、平成 26 年度に牛山素行教授のご指導のもと、気象庁が発表する「記録的短時間大雨情報」と災害との関係について調査しました。その成果は、2014 年 10 月の日本災害情報学会第 16 回学会大会及び 2015 年 3 月の平成 26 年度自然災害科学中部地区研究集会において口頭発表しました。

また、同養成講座の講義「災害社会学」（講師：京都大学 矢守教授）において「クロスロード」のことを学んだのをきっかけに、名古屋地方気象台の普及啓発教材として、「クロスロード防災気象情報編」を作成しました。「クロスロード防災気象情報編」の体験会や講習会等を通して愛知県内の自治体や防災ボランティア団体等にその活用を勧めたところ、多くの機関・団体で、研修会や市民向け防災講座などに活用していただきました。これらの取り組みについては、2016 年 2 月に気象庁で行われた「平成 27 年度 地域防災力アップ支援プロジェクト ミーティング」（気象台が行っている普及啓発の全国発表会）に選抜されて発表し高い評価を受けるとともに、2016 年 3 月の平成 27 年度自然災害科学中部地区研究集会において口頭発表しました。

これからも、気象庁の防災情報の利用促進や改善につながる調査や気象防災に関する普及啓発に取り組んでいきたいと思ひます。

氏 名：吉井明子

所 属：NHK静岡放送局

NHK静岡放送局の夕方ニュース番組「たっぷり静岡」の気象キャスターの仕事に就き、ことしで5年目になります。平日は毎日前半約2分半（週末は約6分）、後半約3分40秒のコーナーを担当し、「正確」かつ「よりわかりやすい」放送を目指す中で、視聴者や関係者からは多様な要望やニーズが寄せられます。

ふじのくに防災フェローでは、藤井基貴先生のご指導のもと、気象キャスターに期待されている役割について検討した上で、担当した放送のうち平成24年4月から平成27年3月までの656回について放送内容の分析、気象予報士資格を持つ者へのアンケート等を通じ、ローカル放送局における気象報道の課題について考察しました。

また、当講座によって得た知識と先生や受講生の方々のご縁は、講座の終了後も実務や個人活動の研鑽に大変役立っております。

氏名： 小椋 明

所属： 藤枝市役所 環境水道部 上水道課

私は上水道職員として、市民の方々へ水道水を供給する業務を行っています。

普段、市民の生活に欠かせないライフラインですが、災害時には避難所等に水道水を届ける作業を行います。業務としては直接防災に関する事は行っていませんが、ふじのくに防災フェロー5期生として講義を受け、知識として得られた事を地元のために生かして行きます。

藤井直之先生、石川有三先生の指導のもと、藤枝市の避難地・防災拠点を訪れ、その特徴を常時微動計測等を行い調査しました。これからも時間が許す限り、続けていきます。

また、南海トラフの地震が発生すると言われ、静岡県でも津波対策等が進められていますが、4月14日・16日に発生した熊本地震はとても衝撃的なことでした。私の住む静岡県周辺の中部地方には活断層が多数あることが、文献により分かりました。実際にその地を訪れ周辺の状況を調査したいです。

教員名：日下 純

所 属：静岡エフエム放送 株式会社

　　県域エフエム放送局である K-mix のお昼のワイドプログラム「K-mix おひるま協同組合」パーソナリティ・プロデューサー。2013 年から担当番組における防災特集・コーナー・防災グッズの企画・プロデュースを実施。2015 年度は静岡大学牛山教授ゼミにて「県域 FM 局における災害時の放送内容に関する事例調査」として、K-mix の災害時の情報発信を具体的に調査し、自然災害科学中部地区研究集会にて成果を発表。

氏名：養田健一

所属：株式会社 SBS 情報システム ソリューション事業本部

公共機関、医療機関、民間企業等に情報システムや付随するサービスを提供する企業に所属しています。私の所属部署では、公共機関の災害対応活動を支援するためのシステム、登録型防災メール・安否確認メールのシステム等について、導入作業や保守作業を担当しています。

そのうち、登録型防災メールのシステムは、気象庁や自治体から発表される情報をメール形式で住民に伝達するサービス基盤として、静岡県内の8自治体で活用されています。それらのサービス内容を整理・比較すると共に、システム内に保持している配信登録者やメール配信履歴等の情報から登録者推移の傾向について調べました。

氏名：村上将士

所属：掛川市役所 都市建設部土木課

掛川市職員として土木行政に従事しており、平成27年度の「ふじのくに防災フェロー養成講座」第5期生として講座に参加をした。

現在、掛川市では、地震・津波による死者ゼロを目指した「掛川市地震・津波アクションプログラム2014」を策定し、市民の生命、身体や財産の保護、早期の復旧に繋げる地震津波対策を推進している。その施策の一つとして、レベル2津波が越えない高さに対応した防潮堤を整備し、抵抗性クロマツや広葉樹を植栽する海岸防災林強化事業に着手しており、講座修了研修では、原田教授の御指導を受け、掛川市が今後進めていく海岸防災林強化事業における防災林の成育目標や植樹に必要な覆土の検討を行なった。



## (1)研究業績

### ●著書

青島 晃, 福田町史 通史編, 別冊福田地域の自然 (分担執筆), 磐田市, 2016.

### ●学術論文

青島 晃・紫尾麻子・上野俊夫:高等学校における産学連携の事例紹介, 化学と教育, 62,7,326-329,2014.

有友春樹, 原田智也:下水道 BCP 訓練における評価方法の改善,2014 年地域安全学会梗概集 vol35,pp.45-46, 2014 年 11 月.

有友春樹, 原田賢治:市町村の津波避難計画の設定条件に関する特徴の比較検討,平成 26 年度自然災害科学中部地区研究集会予稿集,pp.36-37, 2015 年 3 月.

有友春樹, 原田賢治:市町村の津波避難計画の設定条件に関する特徴の比較検討,2015 年地域安全学会梗概集 vol37,pp.31-32, 2015 年 11 月.

有友 春樹,井面 仁志,白木 渡 :災害時のレジリエントな対応力向上のための参加型避難シミュレーションの活用,土木学会論文集 F6(安全問題)Vol.71,No.2 特集号,I\_27-I\_32, 2015 年 11 月.

藤原 治・北村晃寿・佐藤善輝・青島 晃・小野映介・小林小夏・小倉一輝・谷川晃一郎:静岡県西部の太田川低地で見られる弥生時代中・後期の相対的海水準上昇,第四紀研究,54,1,11-20,2015.

原田昌武・板寺一洋・行竹洋平:2011 年東北地方太平洋沖地震によって励起された芦ノ湖のセイシュ (静振), 神奈川県温泉地学研究所報告, 46, 9-16, 2014.

原田昌武・板寺一洋・本多亮・行竹洋平・道家涼介:2015 年箱根火山活動に伴う地震活動と地殻変動の特徴 (速報), 神奈川県温泉地学研究所報告, 47, 1-10, 2015.

中村譲治・原田賢治:企業の社会的責任 (CSR) の側面からみた企業の地域防災への取り組みに関する調査, 地域安全学会論文集, No.24, 53-60, 2014.

中村譲治・原田賢治:企業による東日本大震災被災地支援一被災後 3 年以降の支援意向についてのアンケート調査一, 自然災害科学, Vol.34, No.2, 143-150, 2015.

野嶋宏二・青島 晃・増田耕一・糸魚川淳二:静岡県中部更新統下部谷下層の地質年代と古植生,福井県立恐竜博物館紀要,13,37-45,2014.

### ●学会口頭発表

青島晃:静岡県磐田市太田川河口付近で見られる歴史地震による津波堆積物の礫と砂の組成, (演旨), 第四紀学会講演要旨集, 75, 2014.

Fujiwara, O., Akira Aoshima, Akihisa Kitamura, Yoshiki Sato, Eisuke Ono, Koichiro Tanigawa, Reconsideration of the Megathrust Seismic Cycle Along the Eastern Nankai Trough, AOGS2014, Japan, 2014.

- 原田久仁一・原田賢治，静岡県地震防災センターの現状分析と今後のあり方の検討，平成 26 年度自然災害科学中部地区研究集会，2015 年 3 月 7 日。
- 原田昌武・宮岡一樹・道家涼介・本多亮・行竹洋平・板寺一洋・竹中潤・里村幹夫：スタッキング手法を用いた群発地震活動のモニタリング，日本地震学会 2014 年秋季大会，2014 年 11 月。
- 原田昌武・行竹洋平・渡辺俊樹・狩野謙一・伊藤谷生・野田克也・河内善徳・里村幹夫：南アルプス南端部地域における詳細な震源分布と微細構造の推定，日本地震学会 2014 年秋季大会，2014 年 11 月。
- 原田昌武・板寺一洋・行竹洋平：芦ノ湖で発生したサイスミック・セイシュ，日本地球惑星科学連合 2015 年大会，2015 年 5 月。
- 原田昌武・道家涼介・本多亮・行竹洋平・板寺一洋・萬年一剛・竹中潤・里村幹夫・宮岡一樹：2015 年箱根火山活動に伴う地殻変動とその変動源の推定，日本火山学会 2015 年秋季大会，2015 年 9 月。
- 原田昌武・道家涼介・宮岡一樹・本多亮・行竹洋平・板寺一洋：2015 年箱根群発地震活動とその地殻変動，日本地震学会 2015 年秋季大会，2015 年 10 月。
- 上村彩・笠原順三・藤井直之・牛山素行，採石場地域における，人工震源を用いた 2 か月間の陥没モニタリング実験：震源近傍における観測，日本地球惑星科学連合 2015 年大会，2015 年 5 月。
- 小林正人，金子光夫，森田敏徳，村上亮：津波防災地域づくり推進計画の策定～浜松市の事例～，災害情報学会第 16 回学会大会予稿集，pp.200-201，2014 年 10 月 25 日。
- 向井利明・牛山素行，記録的短時間大雨情報と災害との関係について，日本災害情報学会第 16 回学会大会，2014 年 10 月 26 日。
- 向井利明・牛山素行，記録的短時間大雨情報と災害との関係について，平成 26 年度自然災害科学中部地区研究集会，2015 年 3 月 7 日。
- 向井利明・矢守克也・牛山素行，「クロスロード防災気象情報編」の作成と防災啓発の取り組み，平成 27 年度自然災害科学中部地区研究集会，2015 年 3 月 5 日。
- 村上将士，掛川市が目指す海岸防災林強化事業における整備条件の検討について，平成 27 年度自然災害科学中部地区研究集会，2016 年 3 月 5 日。
- 中村譲治・原田賢治：企業の社会的責任（CSR）の側面からみた企業の地域防災への取り組みに関する調査，地域安全学会，2014 年 11 月。
- 小椋明，藤枝市避難所・防災拠点の特徴，平成 27 年度自然災害科学中部地区研究集会，2016 年 3 月 5 日。
- 塩崎竜哉・牛山素行，土砂災害に対する避難勧告等の実用的な基準の検討，日本災害情報学会第 16 回研究発表大会予稿集，2014 年 10 月 26 日。
- 塩崎竜哉・牛山素行，電話通報数に基づく災害危険度の推定－2014 年広島豪雨災害事例による検証－，日本災害情報学会第 16 回研究発表大会，2015 年 10 月 25 日。

Shirahata, F., Taturu Yokoyama, Yuya Takada, Akira Aoshima, Sumito Okamoto, Terunori Miyoshi, Masa-Yuki Yamamoto, Kazuo Shiokawa, Striped Structure Observed in the Elves: Relation to Turbulences in the Upper Atmosphere, AOGS2014, Japan, 2014.

杉山徹,「静岡県第4次地震被害想定」についてのQ&Aの作成と効果等について,平成26年度自然災害科学中部地区研究集会,2015年3月7日.

杉村晃一・牛山素行:東日本大震災後の沿岸部住民における津波と洪水の危険度認知,平成27年度自然災害科学中部地区研究集会,2016年3月5日

鈴木崇,介護施設等における防災への取り組みについて,平成26年度自然災害科学中部地区研究集会,2015年3月7日.

豊田淳史・原田賢治,SNSを活用した津波等の歴史災害記録の情報共有手法の試行,平成26年度自然災害科学中部地区研究集会,2015年3月7日.

津島俊介・牛山素行:1951~2014年の台風の強さと死者・行方不明者の関係,平成27年度自然災害科学中部地区研究集会,pp12-13,2016年3月5日

吉井明子,ローカル放送局の気象情報に求められるもの,第8回日本気象予報士会研究成果発表会,2016年2月.

### ●その他の著作物

原田昌武・松沢親悟・小田原啓・板寺一洋・道家涼介・天野勇・竹中潤・山崎瑞穂・酒井 柊:大涌谷の北側斜面を対象とした熱赤外カメラによる観測結果とその傾向,神奈川県温泉地学研究所報告,46,31-36,2014.

原田昌武:地学の豆知識第5回 ~火山活動の見方~,神奈川県温泉地学研究所観測だより,64,21-26,2014.

原田昌武・片山真・佐野充:桜島と新燃岳を訪ねて~火山防災と降灰対応の見聞録~,神奈川県温泉地学研究所観測だより,65,15-20,2015.

原田昌武・板寺一洋・道家涼介:神奈川県西部地域における2014(平成26)年の地殻変動観測結果,神奈川県温泉地学研究所観測だより,65,55-62,2015.

原田昌武:箱根における火山活動の観測と最近の状況,温泉,第83巻4号,24-25,2015.

原田昌武:箱根における火山活動と2015年の水蒸気噴火,判定士だより,23,1-4,2016.

### ●受賞

諸橋良,平成26年度岩手県沿岸広域振興局長表彰「東日本大震災津波による河川海岸災害復旧工事等にかかわる復興事業推進の功績」,2014年11月4日.

## (2)社会的活動

### ●外部・公開講演会等

青島 晃, 磐田市南御厨地区防災講演会, 磐田市南御厨地区自治会, 南御厨公民館, 2015年12月19日.

原田昌武, 神奈川県で想定される地震と箱根の火山活動について, 旭丘高等学校, 温泉地学研究所, 2014.4.3.

原田昌武, 温泉地学研究所の概要と防災について, 大磯高等学校, 温泉地学研究所, 2014.7.15.

原田昌武・小田原啓, 液状化実験, 中井町立井ノ口公民館, 中井町立井ノ口公民館, 2014.8.7.

原田昌武, 温泉地学研究所の概要と小田原周辺で想定される地震災害, 小田原市動く市政教室, 温泉地学研究所, 2014.10.8.

原田昌武・里村幹夫, 神奈川県地震(と火山)とその対策, 松田良昭県議会議員, 温泉地学研究所, 2014.12.15.

原田昌武, 神奈川で想定される地震と箱根火山の現状について, 開成町中家村自治会, 温泉地学研究所, 2014.12.16.

原田昌武, 神奈川県で想定される地震と津波, 鎌倉市自主防災組織連合会, 温泉地学研究所, 2015.2.27.

原田昌武, 神奈川県で想定される地震と津波, 鎌倉市自主防災組織連合会, 温泉地学研究所, 2015.2.27 および 2015.3.18.

原田昌武, 箱根火山の活動モデルと予測に向けた最新の取り組み, 湘南地球科学の会, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 2015.4.25.

原田昌武, 箱根火山の概要と火山活動, 箱根町消防本部, 箱根町消防本部, 2015.8.28.

原田昌武・道家涼介, 箱根火山の最近の状況について, 名古屋大学減災連携研究センター, 温泉地学研究所, 2015.9.5.

原田昌武, 危機管理講習会「神奈川県に影響を及ぼす火山について」, 大和市, 大和市保健福祉センター, 2015.11.10.

原田昌武, 箱根火山活動について, 東京私立工業高等学校長会, ホテル河鹿荘, 2016.1.25.

原田昌武, 箱根火山について, 小田原市安全運転管理者会, 温泉地学研究所, 2016.2.12.

小林正人, 津波防災地域づくりの先進事例(静岡県浜松市), 平成27年度専門課程「海岸・津波防災地域づくり研修」, 国土交通大学校, 小平市, 2015年6月17日.

小林正人, 津波防災地域づくりの実例～浜松市の取り組み～, 第616回建設技術講習会(災害に強い安全な国土づくり), 徳島市, 2015年10月8日.

小林正人, 大規模地震に備えて, 第21回遠州病院学術講演会「地域で支える減災対策」, 浜松市, 2015年9月23日.

諸橋良, 第77回ふじのくに防災学講座「岩手県釜石市における平成26年度復興技術支援報告」, 主催:静岡県, 開催地:静岡県地震防災センター(静岡市葵区), 2015年5月16日.

諸橋良, (一社)静岡県土木施工管理技士会 技術研修会(西部地区)「岩手県釜石市におけ

る平成 26 年度復興技術支援報告」,主催：(一社) 静岡県土木施工管理技士会,開催地：可美公園総合センター(浜松市南区),2015 年 8 月 19 日.

諸橋良,(一社) 静岡県土木施工管理技士会 技術研修会(中部地区)「岩手県釜石市における平成 26 年度復興技術支援報告」,主催：(一社) 静岡県土木施工管理技士会,開催地：もくせい会館(静岡市葵区),2015 年 8 月 26 日.

諸橋良,(一社) 静岡県土木施工管理技士会 技術研修会(東部地区)「岩手県釜石市における平成 26 年度復興技術支援報告」,主催：(一社) 静岡県土木施工管理技士会,開催地：沼津労政会館(沼津市),2015 年 9 月 1 日.

諸橋良,第 124 回だすけ会ウォーキング「巴川流域の地形と治水 ～大谷川放水路を歩く 縄文から平成まで～」,主催：車やグループ,開催地：静岡市治水資料館「かわなび」他(静岡市駿河区),2015 年 12 月 20 日.

諸橋良,(公社) 日本技術士会静岡支部 中部地区例会「岩手県釜石市における津波対策と復興まちづくり概要報告」,主催：(公社) 日本技術士会中部本部静岡支部,開催地：ペガサート(静岡市葵区),2016 年 3 月 5 日.

向井利明,名古屋港管理組合研修会,名古屋港管理組合,愛知県名古屋市,2014 年 5 月 14 日.

向井利明,瑞穂区生涯学習センター公開講座,愛知県名古屋市瑞穂区,愛知県名古屋市,2014 年 6 月 6 日.

向井利明,名古屋国道事務所研修会,中部地方整備局名古屋国道事務所,愛知県名古屋市,2014 年 6 月 29 日.

向井利明,平成 26 年防災教育指導者研修会,愛知県教育委員会,愛知県名古屋市,2014 年 10 月 31 日.

向井利明,日本防災士会愛知県支部スキルアップ研修,日本防災士会愛知県支部,愛知県名古屋市,2014 年 11 月 8 日,29 日.

向井利明,防災に関する講演会,東海農政局,愛知県名古屋市,2015 年 3 月 9 日.

向井利明,自治体職員防災研修,名古屋大学減災連携研究センター,愛知県名古屋市,2015 年 10 月 9 日,12 月 3 日.

向井利明,第 5 回防災人材交流セミナー,名古屋大学減災連携研究センター,愛知県名古屋市,2015 年 12 月 19 日.

柴田達哉,家族防災教室「土砂災害のお話」,静岡県地震防災センター,静岡県地震防災センター,2014/11/25.

柴田達哉,こども地震防災教室「液化化ってなんだろう」,静岡県地震防災センター,静岡県地震防災センター,2015/8/9.

柴田達哉,テクノロジー・カフェ「模型・画像を使った土砂災害のお話」,日本技術士会静岡県支部,シニアライフカフェくれば,2015/02/17.

柴田達哉,テクノロジー・カフェ「地盤調査と建物基礎のはなし」,日本技術士会静岡県支

部, シニアライフカフェくれば, 2015/12/25.

塩崎竜哉, 2014年8月広島豪雨に関連した意見交換会, 広島市, 広島市役所, 2015年10月8日

吉井明子, 平成27年度沼津市防災講座, 沼津市危機管理課, 沼津市第五地区センター, 2015年11月7日.

吉井明子, 沼津市第五地区連合自治会視察研修, 沼津市危機管理課, NHK 静岡放送局, 2015年11月19日.

吉井明子, CAREER×MORAL, 静岡大学道德研究会 キャリア教育・若者支援部会, 静岡市葵区, 2015年12月3日

### ●マスメディア・新聞等への掲載

青島 晃, 静岡県袋井土木事務所広報誌, てくてく太田川 No14, てくてく地質学講座, 昔の太田川流域は海だった, 2015年4月1日.

青島 晃, 朝日新聞出版ジュニアエラ, 高校生が1300年前の津波を発見, 2015年1月15日.

青島 晃, 毎日新聞静岡版, ひとしずおか, 在野で歴史地震を研究, 2015年1月4日.

青島 晃, 朝日新聞静岡版, 宇宙の光, 地学部追求, 2014年12月31日.

青島 晃, 静岡県袋井土木事務所広報誌, てくてく太田川 No13, てくてく地質学講座, 東南海地震による橋の被害, 2014年4月1日.

原田昌武, 静岡新聞, 箱根山群発地震兆候グラフ化, 2014.11.26.

原田昌武, 神奈川新聞, 噴火の前兆をつかむ, 2015.4.30.

原田昌武, 神奈川新聞, 箱根火山のモデル化, 2015.5.15.

原田昌武, 神奈川新聞, 箱根山「レベル3」の対応確認 火山性地震は2500回, 2015.5.15.

原田昌武, NHK総合・クローズアップ現代, 火山列島・日本で何が 箱根山の最新分析, 2015.5.20.

原田昌武, フジテレビ・Mr.サンデー, 浅間山も異変・・・箱根で”ある変化“が, 2015.5.24.

原田昌武, 神奈川新聞, 火山性地震が最多 箱根山、01年の4230回超え, 2015.5.25.

原田昌武, 神奈川新聞, 東日本大震災で芦ノ湖に波 水位20センチ変動, 2015.6.25.

諸橋良, 建通新聞(静岡), 「静岡県からの派遣職員が岩手県局長表彰」, 2014年11月12日.

諸橋良, 建通新聞(静岡), 「県との技術研修会に約150人参加 県土木施工管理技士会」, 2015年9月9日.

向井利明, 静岡新聞, 記録的短時間大雨情報 発表自治体4割で土砂災害 浸水半数、道路損壊63%, 2014年12月24日.

向井利明, 山梨日日新聞, 大雨情報出た自治体4割で土砂災害発生 全国調査 防災に活用期待, 2014年12月24日.

向井利明, 山陽新聞, 大雨情報 土砂災害が4割で発生 防災上、重要性示す, 2014年12

月 24 日.

向井利明, 中国新聞, 気象庁が大雨情報発表の自治体 4 割で土砂災害発生, 2014 年 12 月 24 日.

向井利明, 岩手日報, 記録的大雨情報発表⇒4 割で土砂災害発生, 2014 年 12 月 24 日.

向井利明, 新潟日報, 発表時 4 割で土砂災害 記録的大雨情報 警報意義裏付け, 2014 年 12 月 24 日.

向井利明, 京都新聞, 大雨情報 4 割土砂災害, 2014 年 12 月 24 日.

向井利明, 四国新聞, 「大雨情報」侮るな! 発表自治体 4 割で土砂災害, 2014 年 12 月 24 日.

向井利明, 長崎新聞, 記録的大雨情報、4 割で土砂災害, 2014 年 12 月 24 日.

向井利明, 琉球新報, 短時間大雨情報の発表自治体 4 割が土砂災害, 2014 年 12 月 24 日.

向井利明, 東京新聞, 「記録的短時間大雨情報」約 4 割で土砂災害 情報活用に期待, 2014 年 12 月 24 日.

向井利明, 神奈川新聞, 「大雨情報」発表の自治体 4 割で土砂災害発生, 2014 年 12 月 24 日.

向井利明, 日本経済新聞, 土砂災害 4 割発生 記録的大雨 発表の自治体, 2014 年 12 月 24 日.

向井利明, 産経新聞, 「記録的短時間大雨情報」発表 自治体 4 割で土砂災害, 2014 年 12 月 24 日.

向井利明, 上毛新聞, 気象庁「短時間大雨情報」発表自治体 4 割で災害, 2014 年 12 月 24 日.

向井利明, 東奥日報, 大雨情報 出たら危険 発表受けた自治体 4 割で土砂災害 防災に活用期待, 2014 年 12 月 24 日.

向井利明, 宮崎日日新聞, 「記録的短時間大雨情報」発表 自治体 4 割で土砂災害, 2014 年 12 月 24 日.

向井利明, 中日新聞, 対象の 4 割で土砂災害「記録的大雨情報」名古屋地方気象台「危機感を」, 2014 年 12 月 24 日.

向井利明, 信濃毎日新聞, 「記録的短時間大雨情報」発表の自治体 4 割で土砂災害発生 防災面での重要性示す, 2014 年 12 月 24 日.

向井利明, 秋田さきがけ, 「記録的短時間大雨情報」前後 4 割で土砂災害発生, 2014 年 12 月 24 日.

向井利明, 秋田さきがけ, 「記録的短時間大雨情報」前後 4 割で土砂災害発生, 2014 年 12 月 24 日.

向井利明, NHK 名古屋放送局ラジオ第 1 「夕刊ゴジらじ」, 気象防災情報にこう注意!, 2015 年 6 月 18 日.

向井利明, 読売新聞 (中部版), 記録的短時間大雨情報 土砂・浸水 災害発生に直結, 2015

年 9 月 3 日.

向井利明, 毎日新聞 (中部版), 風水害カードゲームで避難判断 名古屋気象台が作製, 2015 年 12 月 11 日.

柴田達哉, あさひテレビ「報道ステーション・SUNDAY 土砂災害の前兆」, 水槽内に斜面模型を作成し, 降雨による地山変化や崩壊の様子をジッケンにより解説した, 2016/06/14.

杉村晃一, 静岡朝日テレビ「とびっきり!しずおか」, 防災シリーズ避難勧告, 2015 年 9 月 2 日.

杉村晃一, 毎日新聞, 浸水区域、津波避難には警報必要, 2016 年 3 月 6 日.

#### ●公的な委員会等

青島 晃, 福田町史調査委員 (2014, 2015).



#### 4.1.3 シンポジウム

本事業の成果や今後の展望について議論するため、定期的にシンポジウムを開催している。平成 26～27 年度の間には、下記 2 回のシンポジウムを実施した。

##### (1)平成 26 年度 シンポジウム「防災フェローのあゆみ」

日時：2015 年 3 月 14 日(土) 13:30～16:00

場所：静岡県地震防災センター ないふるホール

内容：

##### ●基調講演「防災行政 36 年」

静岡県危機管理監兼危機管理部部長 岩田 孝仁

##### ●パネルディスカッション「ふじのくに防災フェローのあゆみ」

コーディネータ：牛山素行(静岡大学防災総合センター教授)

パネリスト： 岩田孝仁(静岡県危機管理監兼危機管理部部長)  
中村光宏(修了生・静岡県中央特別支援学校)  
中村守孝(修了生・浜松市南区役所区振興課)  
山本健介(修了生・湖西市危機管理課)

##### (2)平成 27 年度 シンポジウム

日時：2016 年 3 月 19 日(土) 13:30～16:00

場所：静岡県地震防災センター ないふるホール

内容：

##### ●ふじのくに防災フェロー養成講座平成 27 年度の概況報告

静岡大学防災総合センター教授

(ふじのくに防災フェロー養成講座主担当者) 牛山 素行

##### ●基調講演「防災を担う人づくり 課題と戦略」

山梨大学地域防災・マネジメント研究センター准教授

静岡大学防災総合センター客員准教授 秦 康範

##### ●ふじのくに防災フェロー 活動報告会

報告者(1)：貝沼征嗣(静岡県)

報告者(2)：松浦好樹(株式会社ジーベック)

報告者(3)：三橋麻衣(牧之原市)

## 4.2 自然災害科学中部地区研究集会

京都大学防災研究所を事務局とする自然災害研究協議会は、各地区に部会をおいている。同協議会中部地区部会では、平成 23 年度から毎年度末に「自然災害科学中部地区研究集会」を開催している。この集会は、中部地区の災害、防災関係研究者、技術者、学生などが研究成果を発表するもので、一般的な学会に準ずる集会である。発表に際して、会員登録等の必要はなく、中部地区に在勤していない者でも参加、発表が可能である。静岡大学防災総合センターは、この研究集会の実施事務局となっており、毎年 3 月上旬に静岡市内で開催している。

平成 26、27 年度には下記の概要で開催された。

### 平成 26 年度自然災害科学中部地区研究集会

主催：自然災害研究協議会中部地区部会・静岡大学防災総合センター

期日：2015 年 3 月 7 日(土)

場所：静岡県地震防災センター

発表件数：18 件

### 平成 27 年度自然災害科学中部地区研究集会

主催：自然災害研究協議会中部地区部会・静岡大学防災総合センター

共催：東海圏減災研究コンソーシアム

期日：2016 年 3 月 5 日(土)

場所：静岡県地震防災センター

発表件数：17 件

### 4.3 しずおか防災コンソーシアム・ふじのくに防災学講座

静岡県では県危機管理部，教育委員会および静岡大学，浜松医科大学，静岡県立大学，静岡文化芸術大学，東海大学，常葉大学の県内 6 大学，气象台，報道機関各社を加えた「しずおか防災コンソーシアム」が平成 21 年 4 月に発足した。

このコンソーシアムは，県内の防災に携わる研究者と専門家等の多面的な交流や情報発信を目的としており，その一環として，静岡県地震防災センターを会場として，市民向け公開講座「しずおか防災コンソーシアム地域連携土曜セミナー」を，おおむね 1 ヶ月に 1 回のペースで定期的で開催している。コンソーシアムの準備段階からこのセミナーは始まり，平成 20 年度から平成 23 年度までに 45 回開催し，平成 23 年度からは「ふじのくに防災学講座」と名称を変え，今後も継続の予定である。防災総合センターでは，静岡県地震防災センターと連携してこのセミナーの運営に当たっている。平成 22 年度からは，参加 6 大学と静岡県がそれぞれ持ち回りで担当回を持つ形で運営している。静岡県の防災研究者，防災行政関係者，市民の定期的な交流の場として定着しつつある。

#### ●平成 26 年度～平成 27 年度までのセミナー一覧

第 67 回「富士川河口断層帯の地下構造を探る-プレート境界の実態解明と地震リスク評価の再検討-」，「地震の危険度とマグニチュードとは」 H26.5.24

第 68 回「静岡県から東日本大震災で被災した自治体に派遣された職員による報告会」  
H26.6.21

第 69 回「2000 年有珠山噴火の教訓-噴火の再来に備えた壮瞥町の取組-」 H26.7.19

第 70 回「常時微動観測による表層地盤地震動特性の評価-静岡市清水区市街地を例として」  
H26.9.20

第 71 回「災害ボランティア活動のススメ～東日本大震災の被災地支援を通して～」  
H26.10.18

第 72 回「家庭における LCP（生活継続計画）作りのススメ」 H26.12.6

第 73 回「市民が行う災害救護について」 H26.12.20

第 74 回「地震・津波に関する情報とその技術的基盤」 H27. 1.17

第 76 回「災害弱者のためのリスクマネジメント」 H27.3.14

第 77 回「静岡県から東日本大震災で被災した自治体に派遣された職員による報告会」  
H27.5.16

第 78 回「津波避難行動-東日本大震災から得られた教訓と避難シミュレーションからわかること」 H27.6.20

第 79 回「2014 年広島豪雨災害時の人的被害の特徴とその影響」 H27.7.18

第 80 回「知って、備える「津波のしくみ」」 H27.9.19

第 81 回「“水” から考える災害と防災」 H27.10.17

第 82 回「災害と史料保存」 H27.11.21

第 83 回「企業人として阪神・淡路大震災を語り継ぐ」 H28.1.16

第 84 回「災害医療における地域住民の役割」 H28.1.30

第 85 回「岩手復興カメラ in 静岡」 H28.2.20

第 86 回「災害にどう備えるかーリスクコミュニケーションの視点から」 H28.3.19

#### 4.4 東海圏減災研究コンソーシアム

##### (1) 東海圏減災研究コンソーシアムとは

東海圏減災研究コンソーシアムとは、南海トラフ巨大地震、巨大台風や集中豪雨による風水害、洪水などの災害による被害を最小限に抑えることを目標に掲げ、東海圏に位置する6つの国立大学法人の防災・減災関連センターが協力・協働する場として、平成25年3月3日に設立されたものである。

本コンソーシアムに参加する各大学はそれぞれ得意な研究・教育分野を持ち、また各大学はそれぞれが位置する地域や市民と密接な関わりを持っている。このような各大学の特質や長所を有機的に連携させ、東海圏全体の防災・減災力を総合的に向上させるため、本コンソーシアムでは各大学の代表者による幹事会、実務委員会に加え、ハザード評価専門部会、被害予測専門部会、減災技術開発専門部会、地域防災力向上専門部会、人材育成・活用専門部会、そして情報基盤整備専門部会の6つの専門部会を設置している。

防災総合センターは、本コンソーシアムに参画し、地域社会における防災・減災について大学の枠を越えて各大学と連携して研究を推進している。

##### (2) コンソ-シアム参加の各大学のセンター

岐阜大学工学部附属インフラマネジメント技術研究センター

静岡大学防災総合センター

名古屋大学減災連携研究センター

名古屋工業大学高度防災工学センター

豊橋技術科学大学安全安心地域共創リサーチセンター

三重大学地域圏防災・減災研究センター

##### (3) 平成27年度の活動実績

平成27年度の幹事会3回、実務委員会13回、および各専門部会（ハザード評価専門部会3回、被害予測専門部会・減災技術開発専門部会4回、地域防災力工場専門部会2回、人材育成・活用専門部会2回、情報基盤整備専門部会3回）を開催し、研究や災害事例についての情報交換や連携を行った。また、活動一覧を表4-2に示す（コンソーシアムの共催、後援を含む）。より詳細な成果報告は、H27東海圏減災研究コンソーシアム活動報告書を参照いただきたい。

表4-2 活動一覧

活動内容	概要
第1回コンソーシアム研究会「ゼロメートル地帯の広域防災対策の現状と課題」	日時：2015年4月22日 場所：名古屋大学減災館1階減災ホール
第2回シンポジウム：コンソーシアム活動報告，パネルディスカッション	日時：2015年5月10日 場所：三重大学 講堂小ホール
名古屋工業大学高度防災工学センター活動報告「巨大自然災害に立ち向かうADPECの挑戦」	日時：2015年5月30日 場所：名古屋工業大学4号館1階ホール
清流の国ぎふ 防災・減災センター 設立記念シンポジウム「減災社会実現のために私たちができること」	日時：2015年6月9日 場所：岐阜大学
第2回コンソーシアム研究会「ゼロメートル地帯の広域防災対策の現状と課題（その2）」	日時：2015年9月30日 場所：愛西市内，津島市内，および永和地区防災コミュニティセンター
当会地域連携防災・減災シンポジウム「広域災害に対応した広域連携のかたちを考える」	日時：2015年10月4日 場所：ぎふ清流文化プラザ
CIAMインフラマネジメント講演会第5回「紹介します！岐阜大土木の研究シーズ 防災・減災に資する研究開発および社会実装に関する研究紹介」	日時：2015年10月26日 場所：岐阜大学工学部講義室
第3回コンソーシアム研究会「関東・東北豪雨災害報告会」	日時：2015年10月29日 場所：名古屋大学減災館1階減災ホール
つながる防災・減災シンポジウム「震災に学び，地域がつながる，未来につながる」	日時：2015年12月8日 場所：穂の国とよはし芸術劇場プラットアートスペース
高度防災工学センターシンポジウム「災害からインフラを護り続ける構造工学の耐震技術－*2D現在から5D未来へ」	日時：2015年1月28日 場所：名古屋工業大学4号館1階ホール
中核事業にかかわるシンポジウム「安全・安心な国土形成から元氣な地方を！・続・安全な“みち”のために」	日時：2016年1月29日 場所：中電ホール

<p>第4回コンソーシアム研究会「三河湾の臨海工業用地の見学会」</p>	<p>日時：2016年2月3日 場所：昭和電線ケーブルシステム(株)，前芝校区市民会館見学先，穂の国とよはし芸術劇場プラット研修室</p>
<p>平成27年度自然災害科学中部地区研究集会</p>	<p>日時：2016年3月5日 場所：静岡県地震防災センター</p>
<p>CIAMインフラマネジメント講演会第6回「中津川市神坂地区 地域協働型インフラ管理 実施報告会－住民とMEによる協働点検」</p>	<p>日時：2016年3月18日 場所：岐阜大学サテライトキャンパス 多目的講義室（大）</p>

## 5 社会的活動

### 5.1 外部・公開講演会等

千木良雅弘, 近年の土砂災害の教訓—表層崩壊と深層崩壊—, 中国地質調査業協会 岡山支部 平成 26 年度技術講演会, 2014.

千木良雅弘, 近年の土砂災害の教訓—表層崩壊と深層崩壊—, 静岡地質調査業協会, 静岡, 2014.

千木良雅弘, 最近の土砂災害に学ぶ—表層崩壊と深層崩壊—, 京都府消防団長 OB 会, 京都, 2014.

千木良雅弘, 深層崩壊 - どこが崩れるのか, 平成 25 年度斜面防災対策技術講演会, 富山, 2014.

千木良雅弘, 近年の土砂災害の教訓—表層崩壊と深層崩壊—, 中国地質調査業協会 岡山県支部 平成 26 年度技術講習会, 岡山大学, 2014.

千木良雅弘, 近年の土砂災害の教訓—表層崩壊と深層崩壊—, ジオフォーラム 2014, 静岡, 2014.

千木良雅弘, 近年の土砂災害の教訓—表層崩壊と深層崩壊—, 消防科学総合センター特別講演, 2014.

千木良雅弘, 深層崩壊はどこで起こるのか, 第 102 回名古屋大学防災アカデミー, 名古屋, 2014.

千木良雅弘, 深層崩壊の発生場所予測, 京都大学品川セミナー, 京都大学東京オフィス, 2014.

千木良雅弘, 世界遺産「熊野」—悠久の自然史と滝と深層崩壊—, 大阪高等学校地学教育研究会, 大阪, 2014.

千木良雅弘, 土砂災害の地域性, 自主防災組織研修会, 山科区役所, 2015.

千木良雅弘, 豪雨および地震による深層崩壊, 斜面防災対策技術フォーラム高松, 高松, 2015.

千木良雅弘, 最近の土砂災害に学ぶ, 京都市総合防災訓練, 京都市山科区役所, 2015.

千木良雅弘, 表層崩壊発生場の地質—風花帯構造から—, 2015 年 11 月 16 日森林土木技術研修会, 長崎, 2015.

千木良雅弘, 雨による斜面崩壊の発生場所予測の現状, 第 21 回日本集団災害医療学会学術集会, 山形, 2016.

藤井基貴, 岩手県教育委員会・教育研究発表会「いきる・そなえる・かかわる」分科会, 基調講演『「復興・防災を通じた教育」の意義と展開』, 助言者・シンポジスト, 2016 年 2 月 10 日.

藤井基貴, 高浜市立翼小学校・校内研修, 講演『「思考力・判断力・表現力」を育てる授業アプローチ』 2015 年 11 月 11 日.



藤井基貴，沼津市立大岡中学校・校内研修，講演「これからの防災教育」2015年10月14日。

藤井基貴，長泉町立北中学校・校内研修，講演「防災道德の考え方」2015年8月。

藤井基貴，岩手県教育委員会・教育研究発表会，基調講演・助言『『生きる力』を育む防災教育のあり方—学校・家庭・地域の連携を通して—』2015年2月13日。

藤井基貴，愛媛県教育委員会・学校防災教室講習会『『防災道德』の取り組み—学校における防災教育』2014年10月3日。

秦康範，新防災教育リーダー研修会，山梨県総合教育センター，笛吹市，2014年6月24日。

秦康範，長野県防災・危機管理トップセミナー，長野県危機管理部，塩尻市，2014年7月2日。

秦康範，初任者研修，山梨県総合教育センター，北杜市，2014年8月1日。

秦康範，災害ボランティアスクール，山梨県立甲府昭和高等学校，昭和町，2014年8月4日。

秦康範，防災講演会，高根女性の会，北杜市，2014年8月23日。

秦康範，PTA研修会，久那土中学校PTA，身延町，2014年11月5日。

秦康範，北西中学校地域懇談会，北西中学校PTA，甲府市，2014年11月6日。

秦康範，情報交換会，山梨科学アカデミー，甲府市，2014年12月1日。

秦康範，自主防災組織活性化推進事業，山梨県，甲府市，2015年1月18日。

秦康範，自主防災組織活性化推進事業，山梨県，身延町，2015年3月1日。

秦康範，新防災教育リーダー研修会，山梨県総合教育センター，笛吹市，2015年6月23日。

秦康範，現代的課題講座，山梨県生涯学習推進センター，甲府市，2015年7月24日。

秦康範，防災教室，文部科学省・長野県教育委員会・長野県，塩尻市，2015年7月27日。

秦康範，防災教育研修講座，神奈川県教育委員会，藤沢市，2015年7月30日。

秦康範，初任者研修，山梨県総合教育センター，北杜市，2015年7月31日。

秦康範，防災講演会，須坂市，須坂市，2015年8月29日。

秦康範，出前講義，多摩大学附属聖ヶ丘高等学校，多摩市，2015年10月6日。

秦康範，自主防災組織活性化推進事業，山梨県，北杜市，2015年10月10日。

秦康範，地域教育フォーラム，峡中・峡北地区地域教育推進連絡協議会，韮崎市，2015年10月28日。

秦康範，自主防災組織活性化推進事業，山梨県，都留市，2015年11月1日。

秦康範，防災教育研究会，名古屋大学減災連携研究センター，名古屋市，2016年2月3日。

秦康範，防災講演会，南箕輪村，南箕輪村，2016年2月18日。

秦康範，出前講座，びゅあ富士，富士吉田市，2016年3月13日。

秦康範，災害科学的基礎を持った防災実務者の養成，静岡大学，静岡市，2016年3月19日。

日.

秦康範, 防災市民学習会, 国立市立公民館, 国立市, 2016年3月27日. 原田賢治, 「防護レベルを超えた津波の被害軽減策」, 巨大浸水災害に対する面的防御のあり方に関する研究会, 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所, 2015年12月14日.

原田賢治, 下水道施設における地震・津波対策の効果的な対策規模の基礎的検討, 第3回地震・津波に関するシンポジウム, 土木学会地震工学委員会・水循環施設の合理的な災害軽減対策研究小委員会, 常翔学園大阪センター, 2015年11月27日.

原田賢治, 平成27年度ふじのくに防災士養成講座Bコース, 「津波防災, 静岡県第4次地震被害想定における津波被害想定状況とその対策」, 静岡県地震防災センター, 2015/11/7.

原田賢治, 豊橋技術科学大学安全安心地域共創リサーチセンター, 2015年度「地域地震防災コース」エクスカージョン, 特別講演「津波による災害と津波防災対策について」, 静岡大学浜松キャンパス, 2015/11/6.

原田賢治, 南伊豆町津波対策講演会, 「津波の想定と津波防災対策について」, 南伊豆町役場, 2015/10/15.

原田賢治, 平成27年度ふじのくに防災士養成講座Aコース, 「津波防災, 静岡県第4次地震被害想定における津波被害想定状況とその対策」, 静岡県立大学, 2015/9/10.

原田賢治, 松崎町津波防災まちづくりシンポジウム, 基調講演「津波の想定と津波防災対策について」, パネルディスカッション「松崎町の津波対策と防災まちづくりを考える」, 松崎町環境改善センター, 2015.9.5.

原田賢治, 西伊豆町津波対策講演会, 「津波の想定と津波防災対策について」, 西伊豆町役場健康増進センター, 2015.7.16.

原田賢治, 河津町津波対策講演会, 「津波の想定と津波防災対策について」, 河津町保健福祉センターふれあいホール, 2015.7.9.

原田賢治, 下田市津波対策講演会, 「津波の想定と津波防災対策について」, 下田市文化会館小ホール, 2015.7.9.

原田賢治, 東伊豆町津波対策講演会, 「津波の想定と津波防災対策について」, 東伊豆町役場大ホール, 2015.7.8.

原田賢治, ヤマハ発動機第3回静岡大学技術展, 「津波災害と防災対策」, ヤマハ発動機コミュニケーションプラザ, 2015.3.17.

原田賢治, ヤマハ発動機第3回静岡大学技術展, 「浮体式津波避難施設への津波による係留力の検討」, ヤマハ発動機コミュニケーションプラザ, 2015.3.17.

原田賢治, 第1回津波対策熱海市地区協議会, 「相模湾で想定される津波と津波防災」, 熱海市マリンホール, 2015.2.26.

原田賢治, 静岡大学教育学部同窓会榛原支部研修会, 「津波防災」, 牧之原市総合健康福祉

- センターさざんか, 2015.2.1.
- 原田賢治, 静岡県学校防災アドバイザー事業, 学校防災計画等への指導助言, 下田総合庁舎, 2014.11.21.
- 原田賢治, 静岡県学校防災アドバイザー事業, 学校防災計画等への指導助言, 静岡県立下田高校, 2014.11.20.
- 原田賢治, 静岡地方裁判所, 裁判官等実務研究会, 「津波防災」2014.11.6.
- 原田賢治, 土木学会津波防災フォーラム 2014, 「伊豆西海岸の津波防災を考える」, パネルディスカッションコーディネーター, 伊豆市立土肥小学会, 2015.11.2.
- 原田賢治, 静岡県学校防災アドバイザー事業, 学校防災計画等への指導助言, 静岡県立土肥高校, 2014.10.23.
- 原田賢治, 静岡県学校防災アドバイザー事業, 学校防災計画等への指導助言, 焼津中央高校, 2014.10.16.
- 原田賢治, 大学ネットワーク静岡, “静岡学”出張講座, 防災「南海トラフ巨大地震・津波」, 磐田東高校, 2014.9.8.
- 原田賢治, 平成 26 年度ふじのくに防災士養成講座, 「津波防災, 静岡県第 4 次地震被害想定における津波被害想定状況とその対策」, 静岡県立大学大講堂, 2014 年 9 月 8 日.
- 原田賢治, (公社)浜松東法人会講演会, 「想定地震・津波と今後の防災対策について」, ホテルクラウンパレル浜松, 2014 年 6 月 23 日.
- 林能成, 地震と火山噴火にどう備えるか, 関西大学社会安全学部連続セミナー, 関西大学東京センター, 2014 年 4 月 24 日.
- 林能成, 津波からの避難～東海地震と南海トラフ巨大地震～, 静岡県学校防災アドバイザー事業, 静岡県立湖西高校, 2014 年 10 月 16 日.
- 林能成, 地しんにそなえる, 静岡県学校防災アドバイザー事業, 藤枝特別支援学校焼津分校, 2014 年 10 月 30 日.
- 林能成, 津波からの避難～東海地震と南海トラフ巨大地震～, 静岡県学校防災アドバイザー事業, 牧之原市相良総合センターいーら, 2014 年 11 月 4 日.
- 林能成, 地震に備える～何を「想定」するべきか～, 静岡県学校防災アドバイザー事業, 静岡県東部総合庁舎会議室, 2014 年 11 月 18 日.
- 林能成, 地震に備える～何を「想定」するべきか～, 静岡県学校防災アドバイザー事業, 静岡県藤枝総合庁舎会議室, 2014 年 12 月 2 日.
- 林能成, 地震に備える～何を「想定」するべきか～, 静岡県学校防災アドバイザー事業, 磐田市竜洋公民館, 2014 年 12 月 4 日.
- 林能成, 直下型地震がもたらす災害の実相～上町断層がひきおこす地震とは～, 大阪まちなかカレッジ 大阪歴史博物館・研修室, 2015 年 1 月 17 日.
- 林能成, 地震と火山噴火にどう備えるか, 関西大学社会安全学部連続セミナー, 関西大学東京センター, 2015 年 4 月 23 日.

林能成, 災害事例から学ぶ地震への備え, 近畿ブロック臨床心理士会共催 被害者支援合同  
研修, 北野病院 5階 きたのホール, 2015年4月26日.

林能成, 巨大地震に備える地域防災, 中部電力原子力安全技術研究所研究発表会・基調講演,  
御前崎市民会館, 2015年6月13日.

林能成, 災害の伝承を考える ～1999年台湾集集地震の事例から～, 日本金属プレス工業協  
会理事会, リーガロイヤルホテル大阪, 2015年11月20日.

林能成, 地震に備える基礎知識 ～被害軽減・事業継続・事業承継～, 関西大学校友・父母  
会館 2階会議室, 2015年11月28日.

林能成, 地震と津波に備える～事前準備の重要性～, 木津川市立木津南中学校・防災講演会,  
2015年12月1日.

林能成, 地震速報で、揺れる前に地震を知り行動する ～緊急地震速報の仕組み～, 初芝立  
命館高校, 2016年1月21日.

林能成, 地震・津波発生メカニズムと実態(事例), 防災スペシャリスト養成研修・平成27  
年度第2期 有明の丘基幹的広域防災拠点施設, 2016年1月26日.

林能成, 地震に備えてやるべきことは何か?, 高槻市ものづくり企業交流会 高槻市民会館  
(現代劇場), 2016年1月27日.

林能成, 大阪府民のための巨大地震への備え, 大阪はなてん榎本地区・防災講演会, 榎本福  
祉会館, 2016年2月4日.

林能成, 巨大地震への備え～防災専門家から見た事業継続計画～, 日本金属プレス工業協  
会第6回安全・環境シンポジウム イオンコンパス名古屋駅前会議室 5F, 2016年2月  
10日.

林能成, 地震と鉄道, あぶやま・まんてん地球子屋, 京都大学防災研究所阿武山観測所,  
2016年3月26日.

本間基寛, 地域防災リーダー養成講座, 多治見市, 岐阜県多治見市消防本部(岐阜県多治  
見市), 2015年3月7日.

本間基寛, 伏見防災講演会, 京都市伏見区自主防災会連絡会, 京都市伏見消防署(京都市),  
2015年3月14日.

本間基寛, 土木学会東北支部土木の日特別行事防災に関するシンポジウム「地球温暖化に  
伴う豪雨災害に備える」, 土木学会東北支部, 仙台市情報・産業プラザ「多目的ホール」  
(仙台市), 2015年11月9日.

本間基寛, 平成27年度非常通信セミナー, 東北地方非常通信協議会事務局, ホテル法華クラ  
ブ仙台1階「ハーモニーホール」(仙台市), 2015年11月25日.

飯尾能久・矢守克也, 「満点計画」ー地震研究と防災教育のコラボー 阿武山観測所最終見  
学会 京都大学防災研究所阿武山観測所 2014.7.5.

池田恵子, 女性・多様な人々の参加で災害に強い地域づくりを, 津市防災研修会, 津市自  
主防災協議会津支部, 津市役所, 三重県, 2016年3月26日.

池田恵子, 男女共同参画の視点で考える地域防災, いざという時のために! パート2 ~助け合える地域づくりで命を守る~, (公財) あいち男女共同参画財団, ウィルあいち, 愛知県, 2016年3月13日.

池田恵子, 男女双方の視点で考える防災~共に支え, 助け合う避難所運営のために~, 男女(みんな)の視点を取り入れ実践する地域防災力UP講座, 岩手県釜石市役所総務企画部, 釜石市立中妻公民館, 岩手県, 2016年3月5, 6日.

池田恵子, JICA 公開シンポジウム 「ジェンダー多様性と DRR: アジアの現場から」, JICA, JICA 研究所, 東京都, 2016年3月3日.

Ikeda, Keiko, Keynote presentation: Gender-related Dimensions of Disaster Risk Reduction and Climate Change, Half-Day of General Discussion on Gender-related Dimensions of Disaster Risk Reduction and Climate Change, 63rd Session UN Committee on the Elimination of Discrimination against Women, Geneva, Swiss Confederation, 29 Feb., 2016.

Ikeda, Keiko, Introduction to Gendering Disaster Risk Reduction, JICA Invitation Program Gender and Diversity in DRR, JICA, JICA Tokyo, Tokyo, 23,24 Feb. 2-4, March, 2016.

池田恵子, 防災・減災になぜジェンダーの視点が必要か, FASID 2015年度第2回ジェンダー分析コース(テーマ: 防災・減災分野), FASID, 東京都, 2016年2月22日.

池田恵子, 防災を通して考えよう! 男女が共に担う地域づくり, 平成27年 地域における女性の活躍推進モデル事業報告会, 福岡県・福岡県男女共同参画センターあすばる, 福岡県, 2016年2月19日.

池田恵子, 男女共同参画の視点で考える防災, 茨城県「男女共同参画リーダーセミナー」, 茨城県・茨城県女性プラザ, 茨城県西生涯学習センター, 茨城県, 2016年2月17日.

池田恵子, 災害時における女性(ボランティア)の役割~もしあなたが避難所生活を送るとしたら~, 第38回静岡県ボランティア研究集会, 静岡県ボランティア協会, 沼津市プラザヴェルデ, 沼津市, 2016年2月14日.

池田恵子, 女性に配慮した被災者支援について~現状と課題~, 分科会6「多様性に配慮した被災者支援: 課題と展望」, 災害時の連携を考える全国フォーラム, JVOAD 全国災害ボランティア支援全国ネットワーク準備会, 東京都, 2016年2月13日.

池田恵子, 災害に備えた組織分析の結果と今後の連携に向けて, 平成27年度第2回静岡県ふじのくに男女共同参画防災ネットワーク会議, 静岡県男女共同参画課, 静岡県男女共同参画センターあざれあ, 静岡市, 2016年2月10日.

池田恵子, 女性・多様な人々の視点を生かした災害対応と防災体制, 第20回「震災対策技術展」横浜, 「震災対策技術展」事務局, バシフィコ横浜, 神奈川県, 2016年2月5日.

池田恵子, 災害時に必要な支援を受ける/するための連携, 団体力パワーアップ講座 日ごろの活動を防災に活かす, 静岡市女性会館, 静岡市女性会館, 静岡市, 2016年1月

31日.

池田恵子, 災害時に自分と家族を守る～家庭・地域からできること～, 平成27年度長野県男女共同参画セミナー, 安曇野市, 安曇野市役所, 長野県, 2015年12月21日.

池田恵子, 男女で異なる被災経験と対策の方向性(ほか), 災害(復興)・防災と男女共同参画に関する講師育成研修, 全国女性会館協議会, エセナ大田, 東京都, 2015年12月18日, 19日.

池田恵子, 男女双方の視点で災害に強い地域づくりを, 平成27年度尾張旭市防災講演会, 尾張旭市, スカイワードあさひ, 愛知県, 2015年12月12日.

池田恵子, 地域の防災力=災害時の多様性配慮を学ぶ=, 平成27年度高山市男女共同参画講演会, 高山市, JAひだ農業管理センター, 岐阜県, 2015年12月5日.

池田恵子, <東日本大震災の経験に学ぶ> すべての人が使いやすい避難所運営を 考えよう!, 浜松市浅田南学区防災集会, 浜松市浅田南自治会, 浜松市, 2015年11月25日.

池田恵子, みんなで担う防災～性別や多様な人々の視点で考える地域の防災体制～, 講座「災害対策 いざという時の心構え」(3回目), 清水区不二見生涯学習交流館, 清水区不二見生涯学習交流館, 静岡市, 2015年11月20日.

**Ikeda, Keiko, Gendering Disaster Risk Reduction: Lessons learned from the 2011 East Japan Disaster, JICA Training course: Promotion of Mainstreaming Disaster Risk Reduction, JICA, JICA Tokyo, Tokyo, 20, Nov. 2015.**

池田恵子, 男女双方の視点で 災害に強い地域づくりを, 平成27年度佐賀県防災啓発研修, 佐賀県, 唐津市民交流プラザ, 佐賀県, 2015年11月14日.

池田恵子, みんなで担う防災～男女で異なる被災と対策～, 平成27年度岐阜市自主防災組織活性化研修会, 岐阜市自主防災組織連絡協議会, 岐阜市文化センター, 岐阜県, 2015年11月9日.

池田恵子, 男女・多様な人々の視点で考える～災害に強い地域とは?, 平成27年度いなざわ地域防災リーダー養成講座 第1回目, 稲沢市, 稲沢市勤労福祉会館, 愛知県, 2015年11月7日.

池田恵子, 男女共同参画の視点で考える防災・減災～近年の大災害から学ぶ～, 姫路市男女共同参画推進員研修, 姫路市, 姫路市役所, 兵庫県, 2015年11月4日.

池田恵子, 性別による被災の困難の違いと 支援の必要性～支援ネットワークの可能性と課題～, 平成27年度第1回 静岡県ふじのくに男女共同参画防災ネットワーク会議, 静岡県男女共同参画課, 静岡県男女共同参画センターあざれあ, 静岡市, 2015年10月19日.

池田恵子, 避難所で生活するって?, 北名古屋市男女共同参画セミナー「地域力×○○力=安心」, 北名古屋市文化勤労会館, 愛知県, 2015年10月17日.

池田恵子, 地域でのリソース分析研修・講座を連携のきっかけに!, 「まちを守るのは私。防災力パワーアップ講座」フォローアップ研修会, 静岡県男女共同参画交流会議, 静岡

- 県男女共同参画センターあざれあ，静岡市，2015年10月12日。
- 池田恵子，防災の視点で地域を考えるワークショップ，地域デザインカレッジ2015（コミュニティーコース）第6回目，アイセル21，静岡市，2015年10月10日。
- 池田恵子，女性の視点で考える 災害時に必要な支援とは，静岡県助産師会研修会，静岡労働政会館，静岡市，2015年10月4日。
- 池田恵子，コメント「減災」・「災害リスク削減」におけるリスク理解に向けて，国立大学附置研究所・センター長会議 第3部会シンポジウム「リスクとどうつきあうか：ポスト3.11の知恵」，東京都，2015年10月2日。
- 池田恵子，現場に学ぶ，女性・多様な人々の ニーズにこたえる，平成27年度女性のための防災・減災リーダー養成講座，御前崎災害支援ネットワーク，浜岡原子力広報研修センター，御前崎市，2015年9月26日。
- 池田恵子，「女性専用スペース」についての検討，平成27年度長泉町総合防災訓練における女性の視点による避難所立ち上げ訓練，長泉町立長泉小学校，駿東郡長泉町，2015年8月30日。
- Ikeda, Keiko, Women' s Leadership for Disaster Risk Reduction: Japanese experience since 3.11, International Workshop “Advancing Women' s Leadership and Participation in Peace-building and Disaster Risk Reduction”, JICA, Tokyo, 27, Aug., 2015.
- 池田恵子，ジェンダーの視点から考える防災・減災～より災害に強い社会の創生に向けて～，茨城県男女共同参画推進事業「男女共同参画ネットワーク講座」，茨城県北生涯学習センター，茨城県，2015年8月5日。
- 池田恵子，地域に暮らす多様な人々の視点を活かして地域の防災力を高めよう，焼津市平成27年度市民防災リーダー育成講座，焼津市消防防災センター，焼津市，2015年8月4日。
- 池田恵子，いざという時のために！～男女共同参画の視点で，誰もが安心・安全な避難所を作るために～，平成27年度さんかく塾 課題編第2回講座，滋賀県立男女共同参画センター G-NETしが，滋賀県，2015年7月26日。
- 池田恵子，多様な人々の視点で災害に強い地域づくりを，“あいとびあ”男女共同参画フォーラム「男女そしてさまざまな人が集い地域の防災を考えましょう」，長野県男女共同参画センター“あいとびあ”，長野県，2015年7月11日。
- 池田恵子，男女共同参画について～湖西市男女共同参画条例を踏まえて～，「男女共同参画」（静岡県湖西市職員研修），湖西市健康福祉センター，湖西市，2015年7月2日。
- 池田恵子，男女で共に考える防災～避難所運営を成功させるカギ～，平成27年度男女共同参画週間イベントさんかく楽集会，安城市交流センター，愛知県，2015年6月27日。
- 池田恵子，地域に暮らす多様な人々の視点で災害に強い地域づくりを，浜松市江西地区防災フェスティバル in 2015，浜松市立浅間小学校，浜松市，2015年6月21日。

Ikeda, Keiko, Gender Mainstreaming in Disaster Risk Reduction, JICA Training course:  
Gender Mainstreaming Policies for Government Officers 2015, JICA, JICA Tokyo, 20,  
June, 2015.

池田恵子, 基礎知識: 性別・立場で異なる被災経験と対策の方向性, 仙台版防災ワークショップ『みんなのための避難所作り』ファシリテーター養成講座, せんだい女性財団,  
エル・ソーラせんだい, 宮城県, 2015年5月30日.

池田恵子, 防災における男女共同参画の視点 ~必要な体制づくりと連携~, 公開講座 平成27年度 小牧市民大学こまきみらい塾 テーマ学習コース①防災・減災を多様性配慮の視点から考える1回目, 小牧市まなび創造館, 愛知県, 2015年5月27日.

池田恵子, 「第3回国連防災世界会議」を振り返る, イコールネット仙台セミナー, エルパークせんだい, 宮城県, 2015年5月10日.

池田恵子, 「第3回国連防災世界会議」を振り返る, 「女性防災リーダー」フォローアップ研修, イコールネットせんだい, エルパークせんだい, 宮城県, 2015年4月25日.

池田恵子, 「第3回国連防災世界会議」を振り返る, あしたから始めの一步が踏み出せる~女性のための防災入門講座, 福島県男女共生センター, 女性未来館, 福島県, 2015年4月24日.

池田恵子, 災害と男女共同参画, 伊勢市「女性の視点による防災」研修会(伊勢市職員研修), 伊勢市観光文化会館, 三重県, 2015年3月24日.

池田恵子, みんなが安心できる 避難所運営のために, 小山町防災講座, 小山町生涯学習センター, 駿東郡小山町, 2015年3月22日.

池田恵子, 基調報告者へのコメンテータ, シンポジウム 国連防災世界会議パブリック・フォーラム 「女性の力で変革をー男女共同参画と災害リスク削減」, 男女共同参画と災害・復興ネットワーク, エルパーク仙台, 宮城県, 2015年3月18日.

池田恵子, 災害に強い社会づくり~男女共同参画の視点を根づかせる~, シンポジウム 国連防災世界会議パブリック・フォーラム「女性と防災」テーマ館主催シンポジウム「女性と防災 ~仙台発 東日本大震災4年後の視座」, エルパーク仙台, 宮城県, 2015年3月16日.

池田恵子, 地域における災害への備えを 生活者の多様な視点で考えてみよう!, 浜松市防災講演会, 浜松市雄踏文化センター, 浜松市, 2015年2月28日.

池田恵子, 男女双方の視点で取り組む地域防災, 御殿場市防災講座, 御殿場市民会館, 御殿場市, 2015年2月18日.

池田恵子, 男女で異なる被災経験と支援のあり方, いざという時のために!~男女共同参画と誰もが安心・安全な避難所を作るために~, あいち男女共同参画財団, ウィルあいち, 愛知県, 2015年2月15日.

池田恵子, 女性の視点とチカラで 家族を, 職場を, 地域を守る, 平成26年度女性防災リーダー育成事業「防災パワーアップ講座」東部地区, NPO 法人あざれあ交流会議, 東部



総合庁舎，沼津市，2015年2月13日。

池田恵子，女性の視点とチカラで 家族を，職場を，地域を守る，平成 26 年度女性防災リーダー育成事業「防災パワーアップ講座」中部地区，NPO 法人あざれあ交流会議，静岡県地震防災センター，静岡市，2015年2月8日。

池田恵子，災害とジェンダーにおける講演と災害時における暴力防止・対応のワークショップ，平成 26 年度「女性関連施設相談員研修」，国立女性教育会館，国立女性教育会館，埼玉県，2015年2月6日。

池田恵子，地域防災における女性の役割，平成 26 年度北部生涯学習センター主催「北部女性学級～暮らしのエッセンス～」2 回目，静岡市北部生涯学習センター，静岡市，2015年2月6日。

池田恵子，災害時における暴力とその対策，災害(復興)・防災と男女共同参画に関する人材育成研修，全国女性会館協議会，エセナ大田，東京都，2015年1月31日，2月1日。

池田恵子，男女双方の視点で災害に強い地域づくりを，防災セミナー「～男女双方の視点で防災を考える～」，愛知県，日進市，一般財団法人消防科学総合センター，日進市民会館，愛知県，2015年1月25日。

池田恵子，多様な視点で地域の防災力アップ，「多様な視点で地域の防災力アップ」講座（アイセル女性カレッジ修了生），静岡市女性会館，静岡市女性会，静岡市，2015年1月24日。

池田恵子，防災力をアップする男女共同参画，安心・安全なまちは男女がつくる 地域防災講演会，島田市，島田市プラザおおるり，島田市，2015年1月22日。

池田恵子，多様な視点で地域の防災力アップ，「多様な視点で地域の防災力アップ」講座，生活情報交換会，静岡市女性会館，静岡市，2015年1月16日。

池田恵子，女性の視点とチカラで 家族を，職場を，地域を守る，平成 26 年度女性防災リーダー育成事業「防災パワーアップ講座」西部地区，NPO 法人あざれあ交流会，中遠総合庁舎，磐田市，2015年1月10日。

池田恵子，多様な視点で地域の防災力アップ，藤枝市男女共同参画に関する管理職研修，藤枝市，藤枝市役所，藤枝市，2015年1月9日。

池田恵子，減災・災害対応におけるジェンダー・多様性の視点の定着のために，International Workshop “Gender and Disaster Reduction”，神戸大学，兵庫県，2014年12月17日。

池田恵子，ジェンダーの視点から考える防災・減災～災害により強い社会の創生に向けて，第 209 回 FASID BBL セミナー，国際開発機構，東京都，2014年12月12日。

池田恵子，みんなで担う防災～男女で異なる被災経験と支援の在り方～，第 9 回みんなきんしゃ～い 「かま～んフェスタ」，かま男女共同参画推進ネットワーク，嘉麻市山田生涯学習館，福岡県，2014年12月7日。

池田恵子，誰もが安心できる避難所づくり，菊川市 東日本大震災から学ぶ女性の防災講演

会，菊川文化会館アエル，菊川市，2015年12月4日。

池田恵子，性別による被災の困難の違いと支援の必要性～支援ネットワークの可能性と課題～，内閣府男女共同参画推進連携会議 「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組み指針」チーム 第3回勉強会，内閣府，東京都，2015年12月1日。

池田恵子，男女共同参画の発想で一步先行く自主防災活動を，裾野市男女共同参画推進講演会，裾野市生涯学習センター，裾野市，2014年11月27日。

池田恵子，暴力の傾向分析と必要な対策，「男女共同参画の視点を活かした避難所運営マニュアル作成」講座 第4回目，平成26年度内閣府地域防災における男女共同参画の推進事業，もりおか女性センター，岩手県，2014年11月26日。

池田恵子，東日本大震災から学ぶ防災講座～避難所のあり方を考えよう～，掛川市社会福祉協議会防災講座，掛川市総合福祉センター，掛川市，2014年11月22日。

池田恵子，災害とジェンダー～男女共同参画の視点からの防災対応について～，平成26年度 啓発学習事業 第3回ている講座，沖縄県男女共同参画センター，沖縄県，2014年11月15日。

池田恵子，男女双方のリーダーシップでたかめよう，地域の防災力，第23回男女共同参画全国都市会議 in やまぐち 第4分科会「多様な人々に配慮した地域防災～暮らしを守る防災リーダーを目指して～」，男女共同参画全国都市会議，山口市男女共同参画センター，山口県，2014年11月13-14日。

池田恵子，男女共同参画の発想で一步先行く自主防災活動を，静岡県自治会連合会西部支部研修会，可睡斎，袋井市，2014年11月5日。

池田恵子，男女で異なる被災経験と対策の方向性，災害・防災と男女共同参画に関する人材養成研修事業 男女の視点で考える地域防災，全国女性会館協議会，あいとぴあ，長野県，2014年10月29日・30日。

池田恵子，誰もが安心できる避難所づくり ～みんなで考える避難所運営～，湖西市避難所運営研修，湖西市，湖西市健康福祉センター（おぼと），湖西市，2014年10月25日。

池田恵子，男性を対象とした男女共同参画に関する講義，男性リーダー養成セミナー，静岡県，男女共同参画センターあざれあ，静岡市，2014年10月24日。

池田恵子，男女で異なる被災経験と対策の方向性，男女共同参画の視点から防災を考える人材養成講座，全国女性会館協議会，ウィングス京都，京都府，2014年9月14日・15日。

池田恵子，男女双方の視点で防災を！—これから地域でできること—，男女共同参画講演会，伊東市女性連盟，伊東市役所，伊東市，2014年9月10日。

池田恵子，国際動向と人道支援に関する国際基準，平成26年度もりおか女性センター主催講座 多様な人々の視点を生かす，女性防災リーダー養成講座，もりおか女性センター，岩手県，2014年8月30日。

池田恵子，「もしも」のときに大切な人を守る為の 女性が考える防災講座，おじま女性学

級・親子ですくすく教室合同事業，小島生涯学習交流館，静岡市，2014年8月2日。

池田恵子，男女で異なる被災経験と対策の方向性，災害（復興）・防災と男女共同参画に関する人材育成研修，全国女性会館協議会，クレオ大阪中央，大阪府，2014年7月31日，8月1日。

池田恵子，地域に暮らす多様な人々の視点を活かして 地域の防災力を高めよう，焼津市平成26年度市民防災リーダー育成講座，焼津市消防防災センター，焼津市，2014年7月29日。

池田恵子，男女双方の視点で災害に備えよう，静岡市中田学区自主防災会講演会，静岡市馬淵公民館，静岡市，2014年7月17日。

池田恵子，男女双方の視点で災害に備えよう，清水町生涯学習講座，清水町地域交流センター，駿東郡清水町，2014年7月4日。

池田恵子，災害に強い社会づくりとは，第3回国連防災世界会議に向けた勉強会『ジェンダー視点から考える復興・防災～東北での支援活動の成果と教訓～』，国連開発計画，国連大学本部ビル，東京都，2014年7月3日。

池田恵子，男女共同参画の視点を活かした防災対策，平成26年度 地域防災指導員養成講習，藤枝市役所，藤枝市，2014年6月26日。

池田恵子，災害と男女共同参画（自治体危機管理担当職員向け研修），平成26年度春期 災害対策専門研修マネージメントコース エキスパート A，人と防災未来センター，兵庫県，2014年6月11日。

池田昌之，石灰石鉱山協会地質講演会，石灰石鉱山協会，東京都千代田区九段下，2016年1月29日。

池田昌之，CUSO Doctoral Programs and Courses, Lausanne Univerisity, Lausanne University, 2014年9月1日。

生田領野，静岡理工科大学公開講座，静岡理工科大学，静岡県菊川市，2015年5月。

生田領野，静岡サイエンススクール夏期講座，静岡大学理学部，静岡県静岡市，2015年8月。

井上奈緒・矢守克也，阪神・淡路大震災のお話 岩手県野田村小学校 2014.3.10。

伊藤剛・矢守克也，シブヤ大学 <時代 QUEST> 被災地デイズ～復興のジレンマな分岐点～ Shibuya Hikarie クリエイティブスペース 8 2015.3.15。

岩松 暉，土砂災害防止の集い2014，鹿児島県・鹿児島県建設技術センター，鹿児島市，2014年4月23日。

岩松 暉，日本技術士会鹿児島県支部CPD技術研鑽会，日本技術士会鹿児島県支部，2014年10月18日。

岩松 暉，桜島・錦江湾ジオパークジオ講座，桜島・錦江湾ジオパーク推進協議会，鹿児島市，2015年1月15日。

岩松 暉，防災士研修講座，日本防災士機構，2015年1月31日および2月1日。

岩松 暉, 鹿児島県建設業協同組合講習会, 鹿児島県建設業協同組合, 2015年3月26日.

岩松 暉, 鹿児島県地質調査業協会研修会, 鹿児島県地質調査業協会, 鹿児島市, 2015年4月13日.

岩松 暉, 鹿大防災センター噴煙・火山灰研究会, 鹿児島大学地域防災教育研究センター, 鹿児島市, 2015年10月16日.

岩田孝仁: たんぽぽ保育園 保母・保護者の防災講演会, たんぽぽ保育園, 静岡市, 2015/04/24.

岩田孝仁: 静岡新聞・SBS 局部長会「減災から防災社会へ」, 静岡新聞社, 静岡市, 2015/05/21 .

岩田孝仁: 災害復興制度研究会「津波防災警戒区域指定の諸課題」, 関西学院大災害復興制度研究会, 西宮市, 2015/05/25.

岩田孝仁: 藤枝市地域防災研修会「減災から防災社会へ」, 藤枝市, 藤枝市, 2015/06/20.

岩田孝仁: 異業種交流会「減災から防災社会へ」, 静岡商工会議所, 静岡市清水区, 2015/06/25.

岩田孝仁: セルコ共栄会防災講習「減災から防災社会へ」, セルコ共栄会, 浜松市, 2015/06/29.

岩田孝仁: 政策研究大学院大学講義「減災から防災社会へ」, 政策研究大学院大学, 東京都, 2015/07/16.

岩田孝仁: 伊豆ジオパークガイド養成講座「犠牲者ゼロを目指して」, 伊豆ジオパーク推進協議会, 伊豆の国市, 2015/09/29.

岩田孝仁: 焼津市防災講演会「犠牲者ゼロの津波防災まちづくり」, 焼津市, 焼津市, 2015/10/01.

岩田孝仁: 東海地域防災・減災シンポジウム パネラー, 岐阜県, 岐阜市, 2015/10/04.

岩田孝仁: 静岡県警察災害警備研修, 静岡県警察本部, 静岡市, 2015/10/08.

岩田孝仁: 2015年度自然災害リスクセミナー「富士山噴火への社会的対応」, 東京海上日動, 東京都, 2015/11/04.

岩田孝仁: 下田高校防災研修「火山防災」, 下田高等学校, 下田市, 2015/11/06.

岩田孝仁: 白山火山防災協議会学習会・ワークショップで講演「火山防災対策」, 白山火山防災協議会, 石川県, 2015/11/26.

岩田孝仁: 土木学会地盤工学セミナー 講演「富士山の広域避難 検討過程と課題」, 土木学会, 東京都, 2015/12/14.

岩田孝仁: シンポジウム「今後必要となる火山災害対策とは」パネラー, 損害保険協会, 熊本市, 2015/12/20.

岩田孝仁: 日本学術会議公開講演会「強靱で安全・安心な都市を支える地質地盤の情報整備—あなたの足元は大丈夫?—」, 日本学術会議地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会「防災に役立つ基盤情報」, 東京都, 2016/01/23.

岩田孝仁: 愛知県市長村長防災危機管理ラボ「大規模災害時の避難勧告・指示の判断 その時に備え」, 愛知県, 名古屋市, 2016/02/03.

岩田孝仁: 災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究成果報告シンポジウム特別講演「減災から防災社会へ 地震・火山噴火予測研究への期待」, 東京大学地震研究所, 東京

- 都,2016/03/14.
- 岩田孝仁：日本 QA 研究会総会特別講演「減災から防災へ 災害リスクと対策」, 日本 QA 研究会,静岡市,2016/03/17.
- 狩野謙一, 土曜防災学講座, 静岡県危機管理部, 富士市, 2014 年 5 月 24 日.
- 狩野謙一, 地盤技術講習会, 静岡県地質調査業境界, 静岡市, 2014 年 7 月 25 日.
- 狩野謙一・伊藤谷生・鈴木雄介・小田原 啓, 伊豆半島南部地質巡検案内, 日本地質学会関東支部, 2014 年 12 月 8~9 日.
- 狩野謙一, 静岡理工科大学公開講座, 静岡理工科大学, 袋井市, 2015 年 5 月 9 日.
- 狩野謙一, オープンセミナー 南アルプス学概論+, NPO 法人静岡山の文化交流センター, 静岡市, 2016 年 2 月 13 日.
- 笠原順三, 2014 年度 横須賀市生涯学習講座「地震」, 横須賀市, 2014 年 4 月 7 日.
- 笠原順三, 2014 年度 横須賀市生涯学習講座「地震」, 横須賀市, 2014 年 4 月 21 日.
- 笠原順三, 2014 年度 横須賀市生涯学習講座「地震」, 横須賀市, 2014 年 4 月 28 日.
- 笠原順三, 2014 年度 横須賀市生涯学習講座「地震」, 横須賀市, 2014 年 5 月 12 日.
- 笠原順三, 2014 年度 横須賀市生涯学習講座「地震」, 横須賀市, 2014 年 5 月 19 日.
- 風間聡, 気候変動と水問題：影響と適応, 気候変動の身近な影響と適応策を考える～IPCC 第 38 回総会に向けて in 仙台～, 環境省, 2014.2.22.
- Kazama, S., Overall concepts of Ecohydrology - Application of Hydrological models to Ecology-, The 23 IHP Training course, 宇治, 2013.12.2.
- Kazama, S., Estimation of water disaster damages after climate change and an adaptation concept in Japan, AIJ-JSCE Joint Workshop on Natural Disaster Mitigation, Tsudanuma, 2013.9.4.
- Kimura, H., Makoto Matsushita, Shugo Ishikawa. Regional variation of CH<sub>4</sub> and N<sub>2</sub> production processes in deep aquifers associated with the accretionary prism in Southwest Japan. 14th Taiwan-Japan International Workshop on Hydrological and Geochemical Research for Earthquake Prediction. Tainan, Taiwan. 2015. 9.
- 木村浩之, 松下 慎, 石川修伍. 付加体の深部地下水循環と微生物メタン生成・脱窒ポテンシャル. 日本地球惑星科学連合 2015 年大会「同位体水文学 2015」セッション, 千葉, 2015 年 5 月.
- Kimura, H., Microbial methane production and carbon cycle in subterranean environment associated with the accretionary prisms. 9th Japanese-French Frontiers of Science (JFFoS) Symposium. Kyoto. 2015.1.
- Kimura, H., Makoto Matsushita, Shugo Ishikawa. Microbial methane production and carbon-nitrogen cycles in subterranean environments associated with the accretionary prism in Southwest Japan. 13th Japan-Taiwan International Workshop on Hydrological and Geochemical Research for Earthquake Prediction. Tsukuba,

Japan. 2014. 9.

木村浩之，付加体深部帯水層での地下圏微生物のポテンシャルと炭素・窒素循環．日本地球化学会年会，富山，2014年9月．

木村浩之，静岡県の地域資源を生かした自立分散型エネルギー生産システム．第7回静岡大学超領域研究会，浜松，2014年6月．

小杉素子 ふじのくに防災学講座，静岡県，災害にどう備えるかーリスクコミュニケーションの視点から，静岡県地震防災センター，2016年3月19日．

小山真人，静岡大学教育学部附属浜松中学校，附中夢講座，浜松市，「ある火山学者の栄光と挫折」，2014年5月21日．

小山真人，日本オリエンテーリング協会富士山麓ロゲイニング2014実行委員会，富士宮市，「火山学と防災の視点からみた世界遺産・富士山」，2014年6月1日．

小山真人，長泉町民図書館講座，長泉町，「伊豆半島ジオパークと長泉の大地の物語」，2014年6月4日．

小山真人，静岡大学教育学部附属浜松小学校 PTA 話の広場，浜松市，「南から来た火山の贈りもの，伊豆半島ジオパーク」，2014年6月23日．

小山真人，建設業労働災害防止協会静岡県支部浜松分会主催，平成26年度労働災害防止大会記念講演，浜松市，「富士山，大自然への道案内」，2014年6月23日．

小山真人，伊豆半島ジオパーク推進協議会，伊豆市，伊豆半島ジオガイド養成講座第1回「伊豆半島ジオパークの楽しみ方」，2014年7月1日．

小山真人，伊豆大島ジオパーク研究会，大島町，「伊豆大島の噴火史と土砂災害」，2014年7月12日．

小山真人，NPO法人「まちこん伊東」主催：まちづくり講座「伊豆を学ぶ，伊豆半島ジオパークを知る」，伊東市，「伊豆大島の噴火史からみた2013年10月の土石流災害」，2014年8月2日．

小山真人，静岡大学教員免許状更新講習，三島市，「火山と地震がつくった静岡県の大地」，2014年8月22日．

小山真人，富士市内科小児科講演会，富士市，「富士山，火山防災の現状と課題」，2014年9月4日．

小山真人，伊豆半島ジオパーク推進協議会幹事会，伊東市，「伊豆半島ジオパークの現状と世界認定に向けての課題」，2014年10月15日．

小山真人，伊豆半島ジオガイド養成講座修了式記念講演，伊豆市，「ジオガイドに期待すること」，2014年10月21日．

小山真人，富士宮市民カレッジ，富士宮市，「世界遺産・富士山の防災と保全を考える」，2014年10月29日．

小山真人，2014火山砂防フォーラム，富士吉田市，パネルディスカッション，「世界遺産富士山と火山防災対策」パネリスト，2014年11月6日．

小山真人，伊豆半島7市6町首長会議，伊東市，「伊豆半島ジオパークの現状と世界認定に向けての課題」，2014年11月21日。

小山真人，ふじのくに地域・大学コンソーシアム「富士山の自然と社会」講師，2014年12月6日。

小山真人，伊豆東部火山群火山防災協議会コアメンバー会議，伊東市，伊豆東部火山群の活動史と災害予測，2014年12月17日。

小山真人，環境省関東地方環境事務所・伊豆半島ジオパーク推進協議会主催シンポジウム「ジオパークでつながる人と地域」，沼津市，基調講演「火山がつくった富士箱根伊豆の大地」講師，ならびにパネルディスカッションのパネリスト，2015年1月10日。

小山真人，静岡芸術劇場 SPAC，静岡市，「グスコーブドリの伝記」アーティストトークゲスト，2015年1月24日。

小山真人，静岡大学教育学部附属静岡小学校附友会，静岡市，「世界遺産・富士火山の自然と防災」，2015年2月14日。

小山真人，静岡科学館る・く・る，静岡市，しずおか自然体験ミュージアム「富士山博士に聞く，富士山研究最前線」，2015年2月22日。

小山真人，原発再稼働を考える超党派の議員と市民の勉強会（第3回），東京都千代田区，「原子力規制-火山影響評価ガイドの問題点から考える」，2015年3月4日。

小山真人，伊豆半島ジオパーク国際県民学術シンポジウム，沼津市，パネルディスカッション「ジオパークで広がる伊豆半島の可能性」パネリスト，2015年3月21日。

小山真人，深田地質研究所第166回談話会，東京都文京区，「世界遺産富士火山の自然と防災」，2015年5月15日。

小山真人，NPO法人「まちこん伊東」主催：まちづくり講座「伊豆を学ぶ，伊豆半島ジオパークを知る」，伊東市，「世界ジオパークへ！盛り上がり伊豆半島」，2015年5月16日。

小山真人，静岡市山岳連盟主催講演会，静岡市，「火山噴火の脅威を学び、安全登山につなげよう」，2015年7月14日。

小山真人，第2回防災危機管理展，in，はままつ，浜松市，「世界遺産・富士火山の自然と防災」，2015年7月31日。

小山真人，湖西市校長会主催：湖西市校長・教頭合同研修会，湖西市，「最近の日本の火山活動状況、湖西市付近の地震・津波リスク」，2015年8月3日。

小山真人，駿東3市3町副市町長研修会，沼津市，「富士山と箱根山等の火山活動と防災について」，2015年8月21日。

小山真人，静岡県登録富士山世界遺産ガイド養成講座，富士市，「火山としての富士山」，2015年9月2日。

小山真人，美しい伊豆創造センター設立記念フォーラム，函南町，基調講演およびパネリスト，2015年9月6日。

小山真人, 2015 年度ふじのくに防災士養成講座 A コース, 静岡市, 「火山災害一般と富士山」, 2015 年 9 月 16 日.

小山真人, 伊豆半島ジオパーク推進協議会, 伊豆市, 伊豆半島ジオガイド養成講座第 1 回「伊豆半島ジオパークの楽しみ方」, 2015 年 9 月 8 日.

小山真人, 2015 年度ふじのくに防災士養成講座 B コース, 静岡市, 「火山災害一般と富士山」, 2015 年 10 月 3 日.

小山真人, Aon, Benfield, Analytics コンファレンス 2015, 東京都港区, 「富士山噴火に関する最新の知見と検討すべき想定外のシナリオ」, 2015 年 10 月 7 日.

小山真人, 神奈川大学生涯学習・エクステンション講座, 横浜市, 「富士山と箱根山の噴火史と火山防災」, 2015 年 10 月 10 日.

小山真人, 読売新聞・静岡第一テレビ記者勉強会, 静岡市, 「静岡県周辺の活火山と防災」, 2015 年 10 月 14 日.

小山真人, クリフエッジプロジェクト「半島の傷跡」講演会, 函南町, 「伊豆と丹那の大地の物語」, 2015 年 10 月 17 日.

小山真人, 静岡県防災教育推進委員会, 静岡市, 「静岡県の活火山と防災対策—学校教育としての視点も含めて—」, 2015 年 10 月 20 日.

小山真人, 市町村アカデミー主催平成 27 年度市町村議会議員特別セミナー～災害に強い地域づくり～, 千葉市, 「日本の火山活動と防災」, 2015 年 10 月 26 日.

小山真人, 東京海上日動「自然災害リスクセミナー」, 千代田区, 「富士山の噴火史と災害予測—現状と課題—」, 2015 年 11 月 4 日.

小山真人, キャノン裾野リサーチパーク, 裾野市, 「富士山・箱根山の噴火史と火山防災」, 2015 年 11 月 25 日.

小山真人, ふじのくに地域・大学コンソーシアム「富士山の自然と社会」講師, 2015 年 11 月 28 日.

小山真人, 長泉町民図書館講座, 長泉町, 「ジオパークとしての富士山」, 2015 年 12 月 2 日.

小山真人, 静岡県登録富士山世界遺産ガイド養成講座, 富士市, 「火山としての富士山」, 2016 年 1 月 9 日.

小山真人, 伊豆半島ジオガイド養成講座修了式記念講演, 伊豆市, 「ジオガイドに期待すること」, 2016 年 1 月 12 日.

小山真人, 三嶋大社崇敬会新年祭記念講演, 三島市, 「三島の大地の物語—伊豆半島ジオパークと三島—」, 2016 年 1 月 20 日.

小山真人, 伊豆東部火山群火山防災協議会コアメンバー会議, 伊東市, 富士山・箱根山の火山防災と伊豆東部火山群の課題, 2016 年 1 月 28 日.

小山真人, 函南町立函南西学校校内研修講師, 伊豆と函南の大地の物語, 2016 年 2 月 2 日.

小山真人, 富士山における適正利用推進協議会主催富士山ガイドダンス 2016, 東京都新宿区,



- 「火山がつくった世界遺産に登る」, 2016年2月4日.
- 小山真人, 千葉県代協木更津支部新春セミナー, 木更津市, 「富士山噴火のメカニズムとその影響」, 2016年2月5日.
- 小山真人, 高齢者学級「みのり大学」東部学級, 静岡市, 「東海地震と富士山噴火」, 2016年2月9日.
- 小山真人, NPO 法人静岡山の文化交流センター主催「南アルプス学概論+」, 静岡市, 「火山がつくった名峰・富士山登山の前に知っておきたいこと」, 2016年2月13日.
- 小山真人, 富士宮市主催富士山の日記念講演会, 富士宮市, 「火山がつくった世界遺産・富士山」, 2016年2月19日.
- 前田恭伸: 老人介護施設職員による被災シミュレーション, 東海圏減災研究コンソーシアム第1回シンポジウム, 東海圏減災研究コンソーシアム, 名古屋大学 (名古屋), 2014年4月.
- Maeda, Y., Kami Seo, Tadahiro Motoyoshi,: Risk perception of risk analysts in Japan after the 2011 disaster, 2014 Society for Risk Analysis Asia Conference, Society for Risk Analysis, Taiwan, National Taiwan University, Taipei, 2014年8月.
- 前田恭伸: 災害弱者のためのリスクマネジメント, 第76回「ふじのくに防災学講座」, 静岡県地震防災センター (静岡), 2015年3月.
- 前田恭伸: パネルディスカッション「産学官民の広域連携の実現に向けた課題と東海圏減災研究コンソーシアムの将来像」パネリスト, 東海圏減災研究コンソーシアム第2回シンポジウム, 東海圏減災研究コンソーシアム, 三重大学 (津), 2015年5月.
- 前田恭伸: リスクマネジメントと防災教育, 静岡大学社会教育主事講習, 2015年8月.
- 前田恭伸: 専門家と社会のリスク認知の違い, 日本原子力学会「2015年秋の大会」, 静岡大学 (静岡), 2015年9月.
- 増田俊明. 講義: 地球史と防災学習, 会場: 静岡大学. 御殿場市立原里中学校3年生155名 (教員8名含), 2015年9月18日.
- 三井 雄太, 公開講座サイエンスカフェ in 静岡 第104話「プレート境界地震の発生メカニズムー2011年東北地震後の進展ー」, 静岡大学理学部, ペガサート6F, 2016年3月24日.
- 森下 祐一, 鉱物資源研究と鉱山開発: 現状と将来. 東京大学生産技術研究所レアメタル研究会 (招待講演), 東京, 2015.7.17.
- 村越真・宮内佐季子, 公開講座「安心・安全登山のための読図とナビゲーション (中級編)」, 静岡大学, 2014年9月15日.
- 村越真・山田高志, 公開講座「トレイルランナーのためのナビゲーションとリスクマネジメント」, 静岡大学, 2016年2月20日.
- 村越真・小泉成行, 公開講座「安心・安全登山のための読図とナビゲーション (初級編)」, 静岡大学, 2014年5月10日.

村越真・山田高志，公開講座「トレイルランナーのためのナビゲーションとリスクマネジメント」，静岡大学，2014年11月15-16日。

村越真，福島県山岳連盟研修会，福島県山岳連盟，2014年11月29-30日。

村越真，救助科講義「山岳遭難」，消防大学校，2015年5月11日。

村越真，救助科講義「山岳遭難」，消防大学校，2015年9月18日。

村越真，「オレオレ詐欺対策金融関係者対象講演会」，静岡県警察本部，2015年5月27日。

村越真・宮内佐季子，公開講座「安心・安全登山のための読図とナビゲーション（中級編）」，静岡大学，2015年10月3日。

村越真，親子のための地図読み講座，静岡市生涯学習センターアイセル，2015年11月28日。

村越真・山田高志，公開講座「トレイルランナーのためのナビゲーションとリスクマネジメント」，静岡大学，2016年2月20日。

村越真・小泉成行，山岳救助隊読図訓練，静岡市消防局，2016年2月25日。

室崎益輝・小出治・守茂昭・堀口浩司・西澤雅道・矢守克也，「地区防災計画制度の可能性と今後のあり方」 地区防災学会設立シンポジウム ハービス大阪 2014.6.29.

中川和之，日本のジオパーク運動，月山ジオパーク構想学習会 in 羽黒町，2014年1月。

中川和之，日本のジオパーク運動と月山ジオパーク構想，山形ゆうキャンパス・ステーション やまがた夜話，2014年1月。

中川和之，地震や火山の恵みと子供たち，地震工学会第4回震災予防講演会，2014年2月。

中川和之，地象・気象の変化を読み解き伝える係から読み解ける人を育む係に＝総力戦の最前線は気象台＝20140212，気象大気象技術総合研修，2014年2月。

中川和之，助言、講評，気象庁地域防災力アップ支援プロジェクトミーティング，2014年2月。

中川和之，「いざ」に備え、情報の「受け手」から「つなぎ手」へ＝身近なリスクを読み解く力を，郡山地方消防防災協会 2014年防災の集い，2014年2月。

中川和之，日本のジオパーク（ネットワーク）運動＝課題と今後の展望，霧島ジオパーク推進連絡協議会「臨時総会」，2014年2月。

中川和之，災害時の情報提供における現状と課題，市町村アカデミー防災と危機管理，実践的防災講座），2014年2月。

中川和之，日本のジオパーク（ネットワーク）運動＝課題と今後の展望，銚子ジオパーク講演会，2014年2月。

中川和之，パネルディスカッション「白神山地の価値～大地の恵みと私たちの暮らし」コーディネーター，白神山地・ジオパークフォーラム「白神山地って何だろう？」，2014年2月。

中川和之，ジオパークフォーラム「魅力ある観光地の再建へ向けて」パネルディスカッションコーディネーター，伊豆大島ジオパーク，2014年2月。

中川和之, 日本のジオパーク運動, セミナー「この島で生きるために・ジオパークと防砂 IN 三宅島」, 2014年2月.

中川和之, 日本のジオパーク運動, 月山ジオパーク構想学習会 in 戸沢村, 2014年2月.

中川和之, パネルディスカッションコーディネーター, セミナー「この島で生きるために・ジオパークと防砂 IN 伊豆大島」, 2014年2月.

中川和之, 地域振興セッションコンビナー, おおいたジオ国際フォーラム, 2014年2月.

中川和之, パネルディスカッション「みんなで進めよう月山ジオパーク!」コーディネーター, 月山ジオパーク構想シンポジウム in 肘折, 2014年3月.

中川和之, シンポジウムパネラー, 「リスク社会のイノベーション 2014-災害リスク情報を活用した協働型防災を目指して」, 2014年3月.

中川和之, シンポジウム全体講評, 防災科学技術研究所第4回防災コンテスト, 2014年3月.

中川和之, 「復興とは時間がかかるものだ」地域の誇りを取り戻すために!, 時事通信社社友会, 2014年3月.

中川和之, パネルディスカッション「備えよう! これからの神奈川の災害に向けて」司会, 「これから起こりうる神奈川県地震と火山災害」, 2014年3月.

中川和之, 「覚悟を決めて腕を磨け」伝え手からみた311後の防災関連法制度の改定, 防災塾だるま第106回防災まちづくり談義の会, 2014年4月.

中川和之, 最先端の科学と住民とのコラボ=それが、ジオパーク, 静岡県立静岡高校「地学」授業, 2014年5月.

中川和之, ジオパーク=地域の真の持続可能性のために, 萩市ジオパーク構想推進プロジェクトに係る職員研修, 2014年5月.

中川和之, 受け手に合わせてメディアを使い分け=マスコミも使って上手に情報発信, 中国地方整備局広報対応実践セミナー, 2014年6月.

中川和之, 記者会見・レクは何のため? =報道対応に振り回されないために立ち位置を明確にする, 中国地方整備局危機管理広報セミナー, 2014年6月.

中川和之, ジオパーク=地域の真の持続可能性のために, 豊後大野市職員研修, 2014年7月.

中川和之, ワークショップコーディネーター, 日本地震学会・三陸ジオパーク推進協議会共催ガイド研修会, 2014年7月.

中川和之, 首長セッション「ジオパークと地域活性化」コーディネーター, 第3回東北ジオパークフォーラム, 2014年8月.

中川和之, 緊急時の報道対応と情報発信, 鳥取県広報研修, 2014年8月.

中川和之, 住民・マスコミから見たクライシス・コミュニケーション=行政は誰に対して何を伝える責務があるのか, 鳥取市職員広報研修, 2014年8月.

中川和之, 「覚悟」は定まっているか=伝える中身を考える-首長として、災害に備えて、

伝えねばならないことをイメージする, 危機管理ラボ・佐賀県防災トップセミナー, 2014年8月.

中川和之, ジオパークと自然災害アンケート結果報告, 第5回日本ジオパークネットワーク全国研修会, 2014年10月.

中川和之, 「覚悟を決めて腕を磨け」伝え手からみた行政の法制度, 第6回宇部市防災人づくり講座, 2014年10月.

中川和之, 災害法制度の見直しと、被災者支援策の今後の展開, 全労済協会マスコミ懇話会, 2014年11月.

中川和之, 鼎談・巨大自然災害に備える司会, はまぎんベストパートナー, 2014年11月.

中川和之, パネルディスカッション「蔵王山の火山活動と防災体制～巨大地震発生後の火山活動に備える」コーディネーター, 仙台管区気象台防災気象講演会, 2014年11月.

中川和之, 私の月山マイスターとジオパークの現状, 月山ジオパーク構想学習会, 2014年12月.

中川和之, 公開シンポジウム「鶴岡における学校防災-新潟地震と東日本大震災をふまえて」コメンテーター, 26年度東北地域自然災害科学研究集会, 2015年1月.

中川和之, レジリエントな社会をつくるために、どうやって自治体の本気にさせるか, メモリアル・カンファレンス in 神戸 2015, 2015年1月.

中川和之, 講演日本の防災教育、防災教育分科会進行役, JICA 中国・第4回日中 NGO シンポジウム-「災害対応及び NGO の国際化」, 2015年1月.

中川和之, 住民・マスコミから見たクライシス・コミュニケーション=行政は誰に対して何を伝える責務があるのか, 鹿児島県大隅地区自治体職員研修, 2015年1月.

中川和之, パネルディスカッション「神奈川県に係る地域の人材を活用し、いかに“我が事の防災教育”を推進するか?」司会, 神奈川県の学校防災教育研究集会, 2015年1月.

中川和之, 地象・気象のリスクコミュニケーターに=総力戦の最前線は気象台, 気象大学校気象技術総合研修, 2015年2月.

中川和之, 住民・マスコミから見たクライシス・コミュニケーション=行政は誰に対して何を伝える責務があるのか, 兵庫県広報研究大会, 2015年2月.

中川和之, パネルディスカッション司会, 神奈川県の企業防災・危機管理シンポジウム, 2015年2月.

中川和之, 講師, 三陸ジオパーク・海から観るガイドプログラムのエージェント評価会, 2015年2月.

中川和之, 基調講演「まるごと使おう ジオパーク」トークセッションコーディネーター, 第2回南紀熊野ジオパークフェスタ, 2015年2月.

中川和之, 災害など危機時に求められる情報発信のあり方, 本州四国連絡高速道路広報講演会, 2015年3月.

中川和之, パネルディスカッションコーディネーター, 第3回国連防災世界会議パブリッ

- ク・フォーラム・26年度「地域防災対策支援研究プロジェクト」成果報告会，2015年3月。
- 中川和之，その地での出来事を景観から読み解き、覚悟を決めておく-ジオパークの薦め，映像情報メディア学会アントレプレナーエンジニアリング研究会・シンポジウム「低頻度大規模災害のリスクマネジメント」，2015年3月。
- 中川和之，パネルディスカッション「ジオパークで広がる伊豆半島の可能性」コーディネーター，伊豆半島ジオパーク国際県民学術シンポジウム，2015年3月。
- 中川和之，「ジオパーク」の変化と現状，磐梯山ジオパーク再審査に向けての勉強会，2015年3月。
- 中川和之，そもそもジオパークってなに？～地域資源を見直すジオパークの魅力を考える，和歌山大学南紀熊野サテライト，2015年5月。
- 中川和之，サイエンスの力を借りて、身近なナゾを地域の宝に，勝山市平成27年度わがまち魅力発酵事業審査会，2015年5月。
- 中川和之，ジオパーク 地域の真の持続可能性のために，白山市職員研修，2015年5月。
- 中川和之，受け手に合わせてメディアを使い分け＝マスコミも使って上手に情報発信、災害・危機管理時の情報発信のあり方，中国地方整備局広報対応実践セミナー，2015年6月)。
- 中川和之，パネルディスカッション「巨大地震にどう向き合うか」コーディネーター，地震調査研究推進本部20周年特別シンポジウム，2015年6月)。
- 中川和之，悔しさと勇気と知恵を語り継ぎ、大地を読み解き、備えにつなげるジオパーク，鹿児島市職員研修，2015年6月。
- 中川和之，住民・マスコミから見たクライシス・コミュニケーション＝行政は誰に対して何を伝える責務があるのか，徳之島町，2015年6月。
- 中川和之，住民・マスコミから見たクライシス・コミュニケーション＝行政は誰に対して何を伝える責務があるのか，奄美大島町，2015年7月。
- 中川和之，「いざ」に備え、情報の「受け手」から「つなぎ手」へ＝身近なリスクを読み解く力を，徳島市市民防災研修会，2015年7月。
- 中川和之，日本のジオパークの現状，東北ジオパーク学術研究者会議，2015年7月。
- 中川和之，被災者支援の仕組み，災害時支援活動コーディネーター(D-sac)養成研修，2015年7月。
- 中川和之，大規模災害と危機管理＝自治体トップに求められること＝消防庁トップセミナー資料、首長メッセージの取材から，千葉県防災・危機管理トップセミナー＝平成27年度市町村長防災危機管理ラボ，2015年8月。
- 中川和之，日本のジオパークの現状，Mine秋吉台ジオカフェ，2015年9月。
- 中川和之，それぞれの活動の質を上げるための「地と知と智」の枠組み＝防災塾だるま，防災塾・だるま「第124回防災まちづくり談義の会」，2015年10月。

- 中川和之, 東日本大震災からまもなく5年、震災後の生活再建を考える パネルコーディネーター, 地震フォーラム in 北海道, 2015年10月.
- 中川和之, 東日本大震災からまもなく5年、震災後の生活再建を考える パネルコーディネーター, 地震フォーラム in 長野, 2015年11月.
- 中川和之, 東日本大震災からまもなく5年、震災後の生活再建を考える パネルコーディネーター, 地震フォーラム in 富山, 2015年11月.
- 中川和之, 東日本大震災からまもなく5年、震災後の生活再建を考える パネルコーディネーター, 地震フォーラム in 兵庫, 2015年11月.
- 中川和之, いざにそなえて、いまからやっておきたいこと=取材して発信する地元密着メディアになろう, 安城市減災まちづくり研究会, 2015年11月.
- 中川和之, 市町村長が語る「この大地に生きる覚悟」を聞く, 名古屋大学減災連携研究センター自治体受託研究員研究会, 2015年12月.
- 中川和之, 防災とジオパーク分科会・ネットワークで出来ることは コーディネーター, 第6回日本ジオパーク全国大会霧島大会, 2015年10月.
- 中川和之, 市町村長が語る「この大地に生きる覚悟」を聞く=首長版一日前プロジェクト, ひらつか防災まちづくりの会防災講演会, 2015年12月.
- 中川和之, 「ジオパーク」の変化と現状, 月山ジオパーク全体ワークショップ, 2015年12月.
- 野津憲治, 海底噴火から四半世紀後の手石海丘の火山活動。伊豆半島ジオパーク国際県民学術シンポジウム「ジオパークで広がる伊豆半島の可能性」, プラサヴェルデ(沼津市), 2015年3月21日.
- 野津憲治, 火山列島日本の最近の噴火と噴火に至る諸過程を考える。東京学芸大学附属小金井中学校2015年教養講座, 同校講堂(小金井市) 2015年12月5日.
- 佐藤健, 陸前高田市主催研修会にて「自主防災会組織の活性化について」と題して講演, 陸前高田市役所(陸前高田市), 2015年5月22日.
- 佐藤健, 日本安全教育学会研究会にて「第3回国連防災世界会議パブリックフォーラムについて」と題して講演, 東京大学研究安全研究センター(東京文京区), 2015年5月31日.
- 佐藤健, せんだい豊齢学園にて「国連防災世界会議を終えて～地域の自然と歴史の楽習(地元学)を防災に生かそう～」と題して講演, 仙台市健康福祉事業団いきがい推進課, 仙台市・仙台市シルバーセンター, 2015年6月5日.
- 佐藤健, せんだい豊齢学園にて「国連防災世界会議を終えて～地域の自然と歴史の楽習(地元学)を防災に生かそう～」と題して講演, 仙台市健康福祉事業団いきがい推進課, 仙台市・仙台市シルバーセンター, 2015年6月15日.
- 佐藤健, 郡山市立小・中学校教職員研修 防災教育講座にて「地域に根差した防災教育～確かな学力形成に向けた事例地の近接化と地域の教育力への期待」と題して講演, 郡山

- 市・郡山市労働福祉会館，2015年7月21日。
- 佐藤健，生きる力を育むには？：学術と現場のコラボレーションに向けて（第4回災害・認知・脳研究会）において「災害類型や災害サイクルによる「生きる力」の適用限界と発展性」と題して講演，仙台市・東北大学災害科学国際研究所，2015年7月24日。
- 佐藤健，多賀城高校模擬講義において「防災研究成果を社会に活かすために必要なこと」と題して講義，仙台市・東北大学災害科学国際研究所，2015年7月29日。
- 佐藤健，防災フォーラム in 長町において「地域に根差した学びを通じた防災コミュニティづくり」と題して講演，仙台市・仙台市太白区文化センター楽楽楽ホール，2015年8月19日。
- 佐藤健，仙台市立長町南小学校防災教育研修会において「ぼうさいノートの活用を前提とした防災教育に関する授業づくり」と題して講演，仙台市・仙台市立長町南小学校，2015年8月21日。
- 佐藤健，平成27年度山元町総合防災訓練防災研修会において「学校とともにある防災まちづくり」と題して講演，2015年8月29日。
- 佐藤健，仙台版・生きいき教員づくり構想において「学校における防災・減災の在り方」と題して講演，仙台市・仙台市教育センター，2015年9月8日。
- 佐藤健，山形県立鶴岡南高等学校鶴翔アカデメイア（大学講義体験）において「工学の中の都市・建築学の特徴と魅力」と題して講演，山形市・山形県立鶴岡南高等学校，2015年9月18日。
- 佐藤健，仙台市地域防災リーダー養成講習会において「自分の住んでいる地域の特性の理解」と題して講演，仙台市危機管理室 仙台市・若林消防署，2015年10月6日。
- 佐藤健，仙台市地域防災リーダー養成講習会において「自分の住んでいる地域の特性の理解」と題して講演，仙台市危機管理室 仙台市・宮城消防署，2015年10月7日。
- 佐藤健，仙台市地域防災リーダー養成講習会において「自分の住んでいる地域の特性の理解」と題して講演，仙台市危機管理室 仙台市・宮城野消防署，2015年10月8日。
- 佐藤健，災害対策について「伴に」考える研究会第4回定例会において「東日本大震災の教訓はどう活かされたか？」と題して講演，順天堂大学総合診療科/研究基盤センター，2015年10月9日。
- 佐藤健，仙台市地域防災リーダー養成講習会において「自分の住んでいる地域の特性の理解」と題して講演，仙台市危機管理室 仙台市・太白消防署，2015年10月21日。
- 佐藤健，平成27年度仙台市立長町南小学校総合防災訓練において「地域に根差した学びを通じた学校とともにある地域づくり」と題して講演，仙台市・仙台市立長町南小学校，2015年10月24日。
- 佐藤健，名取市防災教育研修会において「学校防災と地域防災の連携から融合へ」と題して講演，名取市・ゆりが丘小学校，2015年11月6日。
- 佐藤健，大崎市立岩出山小学校自主公開研究会・シンポジウムにおいて「地域を学び、地

- 域を愛する子どもを育てる防災教育に向けて」と題して講演，大崎市・大崎市立岩出山小学校，2015年11月24日。
- 佐藤健，仙台サイエンススクール東北大学出前授業において「地震危険予知アンテナを持っていますか？（室内のまき）」と題して講演，仙台市・仙台市立大和小学校，2015年11月25日。
- 佐藤健，豊橋技術科学大学安全安心地域共創リサーチセンター主催防災・減災シンポジウムにおいて「東北大学による被災地復興への取り組み」と題して講演，豊橋市・豊橋技術科学大学，2015年12月8日。
- 佐藤健，仙台市立七郷小学校中間公開研究会・シンポジウムにおいて「地域に根差した防災/復興教育を支援するための地域の教育力と情報共有プラットフォーム」と題して講演，仙台市・仙台市立七郷小学校，2015年12月9日。
- 佐藤健，平成27年高知県防災教育推進フォーラム・子ども防災フェアにおいて「わたしの防災教育・復興教育との関わりと実践」と題して講演，高知市・高知県警察本部，2016年1月31日。
- 佐藤健，宮城野区自主防災活動研修会において「SBL 養成と町内会の連携について」と題して講演，仙台市・宮城野区文化センターパトナホール，2016年2月9日。
- 佐藤健，平成27年度みやぎ防災教育推進協力校事業登米市立加賀野小講演会において「地域ぐるみの防災教育の推進」，登米市・登米市立加賀野小，2016年2月19日。
- 佐藤健，片平地区防災シンポジウムにおいて「地域防災の今後の在り方について」と題して講演，仙台市・東北大学片平キャンパス北門会館エスパス，2016年3月6日。
- 佐藤健，仙台防災未来フォーラム2016テーマセッションにおいて「東日本大震災の復興の方向性と内外への復興の発信」と題して講演，2016年3月12日。
- 佐藤健，平成28年電気学会全国大会シンポジウムにおいて「防災に関する技術とマネジメント」と題して招待講演，2016年3月17日。
- 土屋 智，地震・豪雨により発生した最近の大規模斜面災害，(社)斜面防災対策技術協会，2015年7月。
- 牛山素行，「地域を知り，防災を考える」，多治見市防災講演会，岐阜県多治見市，岐阜県多治見市，2014年4月20日。
- 牛山素行，「地域を知り，防災を考える」，陸前高田ロータリークラブ50周年記念講演，陸前高田ロータリークラブ，岩手県陸前高田市，2014年6月21日。
- 牛山素行，「豪雨災害と災害情報」，とよはし防災リーダー養成講座，豊橋市，豊橋市，2014年7月5日。
- 牛山素行，「豪雨災害と災害情報に関する最近の話題」，(岩手県)災害情報協議会，東北地方整備局岩手河川国道事務所，盛岡市，2014年7月9日。
- 牛山素行，「地域を知り，防災気象情報を活用する」，気象災害セミナー2014，三井住友海上火災保険株式会社・株式会社インターリスク総研，東京都千代田区，2014年7月10日。



日.

牛山素行,「地域を知り,防災を考える」,尾張旭市防災講演会,愛知県尾張旭市,愛知県尾張旭市,2014年7月12日.

牛山素行,パネルディスカッションパネリスト,県民公開シンポジウム 問い直そう福井 豪雨の教訓,NHK福井放送局・福井新聞社,福井市,福井市,2014年7月19日.

牛山素行,「豪雨災害と災害情報 ー最近の日本各地での災害事例から学ぶことー」,高知市防災ひとづくり塾,高知市,高知市,2014年7月23日.

牛山素行,「地域を知り,防災を考える」,海南市自主防災組織研修会,和歌山県海南市,和歌山県海南市,2014年8月3日.

牛山素行,「地域を知り,防災を考える」,防災気象講演会・平成26年度浜松市自主防災隊連合会第1回防災委員研修会,浜松市自主防災隊連合会・静岡地方气象台,浜松市,2014年8月9日.

牛山素行,「地域を知り,防災を考えるー近年の豪雨災害事例から学ぶことー」,市町村長のための危機管理セミナー,特定非営利活動法人地域交流センター,東京都港区,2014年8月18日.

牛山素行,「地域を知り,防災を考える」,「邑南町民の防災週間」防災講演会,島根県邑南町,島根県邑南町,2014年8月23日.

牛山素行,「地域を知り,防災を考える」,下田市総合防災訓練防災講演会,下田市,下田市,2014年8月31日.

牛山素行,「地域を知り,防災を考える」,『歴史から学ぶ 奈良の災害史』発行記念歴史から学び、未来につなげる防災講演会,奈良県,奈良市,2014年9月6日.

牛山素行,「風水害メカニズム」,防災スペシャリスト養成研修,内閣府,東京都江東区,2014年9月8日.

牛山素行,「風水害の基礎」,静岡県ふじのくに防災士養成講座,静岡県,静岡市,2014年9月9日.

牛山素行,「地域を知り,防災を考える」,女性のための防災・減災リーダー養成講座,御前崎災害支援ネットワーク,静岡県御前崎市,2014年9月27日.

牛山素行,「災害情報と避難 ー最近の豪雨災害・津波災害から学ぶことー」,長崎県防災推進員養成講座,長崎県,長崎県対馬市,2014年9月28日.

牛山素行,「地域を知り,防災を考える」,静岡県消防団員幹部教育指揮幹部科現場指揮課程,静岡県消防学校,静岡市,2014年10月4日.

牛山素行,「風水害の基礎」,静岡県ふじのくに防災士養成講座,静岡県,静岡市,2014年10月19日.

牛山素行,「地域を知り,防災を考える」,富山県防災気象講演会,富山県・富山地方气象台,富山市,2014年10月28日.

牛山素行,「地域を知り,防災を考える ー避難勧告等の判断・伝達をめぐってー」,管理職

のための災害に強い地域づくり特別講座，市町村アカデミー，千葉市，2014年10月30日。

牛山素行，「地域を知り，防災を考える」，防災・日本再生シンポジウム，福井大学，福井県敦賀市，2014年11月2日。

牛山素行，「豪雨災害と災害情報」，岐阜県総合防災リーダー育成講座，岐阜県，岐阜県関市，2014年11月3日。

牛山素行，「地域を知り，防災を考えるー最近の豪雨災害事例から学ぶことー」，尾張地区消防連絡協議会研修会，尾張地区消防連絡協議会，愛知県尾張旭市，2014年11月5日。

牛山素行，「地域を知り，防災を考えるー最近の豪雨災害事例から学ぶことー」，鹿児島県市町村長防災研修会，鹿児島県・消防科学総合センター，鹿児島市，2014年11月6日。

牛山素行，「地域を知り，防災を考えるー最近の豪雨災害事例から学ぶことー」，高知県トップセミナー，高知県・消防科学総合センター，高知市，2014年11月7日。

牛山素行，「災害情報と避難ー最近の豪雨災害・津波災害から学ぶことー」，長崎県防災推進員養成講座，長崎県，長崎県平戸市，2014年11月16日。

牛山素行，「地域を知り，防災を考える」，諏訪教育季節大学，諏訪季節大学，長野県富士見町，2014年11月19日。

牛山素行，「地域を知り，防災を考える」，石垣市防災講演会，石垣市・石垣島地方気象台，沖縄県石垣市，2014年11月21日。

牛山素行，「地域を知り，防災を考える」，石川県防災啓発研修，石川県・消防科学総合センター，金沢市，2014年11月24日。

牛山素行，「地域を知り，防災を考える」，壱岐市公民館大会，壱岐市公民館連絡協議会・壱岐市教育委員会，長崎県壱岐市，2014年11月29日。

牛山素行，「地域を知り，防災を考える」，NTT建築技術研究会，(株)NTTファシリティアーズ総合研究所，千代田区，2014年12月3日。

牛山素行，「地域を知り，防災を考えるー避難勧告等の判断・伝達をめぐってー」，災害に強い地域づくりと危機管理，市町村アカデミー，千葉市，2014年12月5日。

牛山素行，「地域を知り，防災を考える」，島根県自主防災リーダー研修会，島根県，島根県出雲市，2014年12月6日。

牛山素行，「地域を知り，防災を考えるー災害時の住民意識と情報提供」，国土交通大学校 危機管理対策〔自然災害・事故等〕，国土交通大学校，小平市，2014年12月16日。

牛山素行，「地域を知り，防災を考える」，防災フォーラム，島田市ゆめ・みらい百人会議 防災分科会，島田市，2014年12月21日。

牛山素行，「地域を知り，防災を考える」，公開講演会『環境災害リスクと地球水循環研究』，名古屋大学地球水循環研究センター，名古屋市，2015年1月10日。

牛山素行,「災害情報 ー豪雨災害を主な例としてー」,消防団幹部特別研修,日本消防協会,東京都港区,2015年1月15日.

牛山素行,「地域を知り,防災を考える」,防災講演会,下諏訪町,下諏訪町,2015年1月25日.

牛山素行,「地域を知り,防災を考える」,SKY交流圏 防災部会研修会,富士箱根伊豆交流圏市町村ネットワーク会議,2015年1月27日.

牛山素行,「災害の基礎概念」,防災スペシャリスト養成研修,内閣府,東京都江東区,2015年1月27日.

牛山素行,「風水害メカニズム」,防災スペシャリスト養成研修,内閣府,東京都江東区,2015年1月28日.

牛山素行,「災害情報 ー豪雨災害を主な例としてー」,消防団幹部候補特別研修,日本消防協会,東京都港区,2015年2月5日.

牛山素行,「地域を知り,防災を考える」,震災予防講演会,日本地震工学会,横浜市,2015年2月6日.

牛山素行,「地域を知り,防災を考える」,防災講演会,土岐市,土岐市,2015年2月14日.

牛山素行,「豪雨災害 情報で被害が減らせるのか?」,札幌管区気象台職員研修,札幌管区気象台,札幌市,2015年2月24日.

牛山素行,「地域を知り,防災を考える」,日赤東部ブロック病(産)院 院長・事務部長会議特別講演,山梨赤十字病院,富士河口湖町,2015年2月26日.

牛山素行,「地域を知り,防災を考える」,(長野県諏訪市)市民大学講座,諏訪市公民館,長野県諏訪市,2015年3月3日.

牛山素行,パネルディスカッションコーディネータ,「災害科学的基礎を持った防災実務者の養成」シンポジウム「ふじのくに防災フェローのあゆみ」,静岡大学,静岡市,2015年3月14日.

牛山素行,「豪雨災害と災害情報」,非常通信セミナー,中国総合通信局・中国地方非常通信協議会,広島市,2015年6月3日.

牛山素行,「豪雨災害と災害情報」,とよはし防災リーダー養成講座,豊橋市,豊橋市,2015年7月27日.

牛山素行,「豪雨災害と災害情報に関する最近の話題」,(岩手県)災害情報協議会,東北地方整備局岩手河川国道事務所,盛岡市,2015年7月9日.

牛山素行,「2014年広島豪雨災害時の人的被害の特徴とその影響」,ふじのくに防災学講座,静岡県,静岡市,2015年7月18日.

牛山素行,「地域を知り,防災を考える ー最近の豪雨災害事例から学ぶことー」,長崎県防災推進員養成講座,長崎県,長崎市,2015年7月19日.

牛山素行,「豪雨災害と災害情報 ー最近の日本各地での災害事例から学ぶことー」,高知

市防災ひとづくり塾，高知市，高知市，2015年7月27日。

牛山素行，「地域を知り、防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」，西宮市  
家庭防火クラブ大会記念講演，西宮市消防局，兵庫県西宮市，2015年7月30日。

牛山素行，「地域を知り、防災を考える」，神戸大学R C U S Sオープンゼミナール，神戸  
大学，神戸市，2015年8月22日。

牛山素行，「豪雨災害による人的被害」，水工学に関する夏期講習会，土木学会，横浜市，  
2015年8月24日。

牛山素行，「地域を知り、防災を考える」，広島市防災講演会，広島市・広島県・消防科学  
総合センター，広島市，2015年8月26日。

牛山素行，「危機管理総論」，防災スペシャリスト養成研修，内閣府，東京都江東区，2015  
年9月3日。

牛山素行，「風水害メカニズム」，防災スペシャリスト養成研修，内閣府，東京都江東区，  
2015年9月4日。

牛山素行，「風水害の基礎」，静岡県ふじのくに防災士養成講座，静岡県，静岡市，2015年  
9月10日。

牛山素行，「地域を知り、防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」，「20万区  
民の自助・共助による減災運動」推進大会，横浜市保土ヶ谷区，横浜市，2015年9月  
26日。

牛山素行，「地域を知り，防災を考える」，女性のための防災・減災リーダー養成講座，御  
前崎災害支援ネットワーク，静岡県御前崎市，2015年9月27日。

牛山素行，「地域を知り，防災を考える」，大阪ガス 防災講演会，大阪ガス株式会社，大  
阪市，2015年9月30日。

牛山素行，「風水害の基礎」，静岡県ふじのくに防災士養成講座，静岡県，静岡市，2015年  
10月18日。

牛山素行，「平成27年9月関東・東北豪雨による犠牲者の特徴」，関東・東北豪雨災害報告  
会，東海圏減災コンソーシアム，名古屋市，2015年10月29日。

牛山素行，「地域を知り，防災を考える」，(秋田県)防災気象講演会，秋田県・秋田地方気象  
台，秋田市，2015年10月30日。

牛山素行，「地域を知り，防災を考える」，たまの地域人づくり大学，岡山県玉野市，岡山  
県玉野市，2015年11月1日。

牛山素行，「地域を知り、防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」，防災力  
アップ人材育成講座，静岡県三島市，静岡県三島市，2015年11月7日。

牛山素行，「地域を知り，防災を考える」，静岡県消防団員幹部教育指揮幹部科現場指揮課  
程，静岡県消防学校，静岡市，2015年11月8日。

牛山素行，「地域を知り，防災を考える ―最近の豪雨災害事例から学ぶこと―」，島根県  
自主防災リーダー研修会，島根県，島根県出雲市，2015年11月14日。

牛山素行,「地域を知り、防災を考えるー最近の豪雨災害事例から学ぶことー」,長崎県  
防災推進員養成講座,長崎県,長崎県島原市,2015年11月15日.

牛山素行,「最近の豪雨災害事例から学ぶこと」,提言・実践首長会全体会合,提言・実践  
首長会,東京都港区,2015年11月17日.

牛山素行,「最近の豪雨災害事例から学ぶこと」,(北上川上流)トップセミナー,国土交通省  
岩手河川国道事務所,盛岡市,2015年11月18日.

牛山素行,「地域を知り,防災を考える」,気象大学校管理者研修,気象大学校,千葉県柏  
市,2015年11月19日.

牛山素行,「地域を知り,防災を考えるー最近の豪雨災害事例から学ぶことー」,福井県  
防災士養成講座,福井県,福井県越前市,2015年11月21日.

牛山素行,「地域を知り,防災を考える」,諏訪教育季節大学,諏訪季節大学,長野県下  
諏訪町,2015年11月25日.

牛山素行,「地域を知り,防災を考えるー豪雨災害と災害情報ー」,国土交通大学校 危機  
管理対策〔自然災害・事故等〕,国土交通大学校,小平市,2015年12月8日.

牛山素行,「地域を知り,防災を考えるー最近の豪雨災害事例から学ぶことー」,福井県  
防災士養成講座,福井県,福井県敦賀市,2015年12月12日.

牛山素行,鼎談コーディネータ,いわて三陸復興フォーラム in 静岡「東日本大震災津波の  
教訓を生かした災害に強い地域づくり」,岩手県,静岡市,2015年12月18日.

牛山素行,「地域を知り,防災を考えるー最近の豪雨災害事例から学ぶことー」,気象キ  
ャスター等との勉強会,東京管区気象台,東京都千代田区,2015年12月19日.

牛山素行,「地域を知り,防災を考えるー最近の豪雨災害事例から学ぶことー」,福井県  
防災士養成講座,福井県,福井県永平寺町,2015年12月20日.

牛山素行,「災害と情報ー最近の豪雨災害事例から学ぶこと」,消防団幹部特別研修,日本  
消防協会,東京都港区,2016年1月14日.

牛山素行,「地域を知り,防災を考えるー最近の豪雨災害事例から学ぶことー」,都市緑  
化技術研修会,公益財団法人都市緑化機構,東京都渋谷区,2016年1月14日.

牛山素行,「危機管理総論」,防災スペシャリスト養成研修,内閣府,東京都江東区,2016  
年1月26日.

牛山素行,「風水害メカニズム」,防災スペシャリスト養成研修,内閣府,東京都江東区,  
2016年1月27日.

牛山素行,「災害と情報ー最近の豪雨災害事例から学ぶこと」,消防団幹部候補特別研修,  
日本消防協会,東京都港区,2016年2月4日.

牛山素行,「地域を知り,防災を考えるー最近の豪雨災害事例から学ぶことー」,さいた  
ま市議会災害に強いまちづくり促進議員連盟主催講演会,さいたま市,さいたま市,2016  
年2月5日.

矢守克也,ゲーミング手法を活用した防災・減災ワークショップ 人と防災未来センター

平成 27 年度秋期「災害対策専門研修」 ，人と防災未来センター，2015.10.15.

矢守克也，災害リスク・コミュニケーションの手法 京都市消防学校 2015.10.8.

矢守克也，災害リスク・コミュニケーションの手法 大阪ガス防災講演会 大阪ガス本社  
2015.9.30.

矢守克也，学校と地域が連携した津波防災対策－高知県四万十町と静岡県焼津市の事例か  
ら－ 須崎高校南海地震フォーラム 高知県須崎高校 2015.9.18.

矢守克也，地区防災計画について 地区防災計画学会第 8 回研究会 新建新聞社，2015.9.13.

矢守克也，＜第 35 回＞ビブリオバトル in 有隣堂 防災週間スペシャル！『被災地デイズ』  
のジレンマから考える～正解のない問い～ 有隣堂伊勢佐木町本店 2015.9.6.

矢守克也，教える防災教育から共にする防災教育へ 第 7 回土木と学校教育フォーラム 土  
木学会 2015.8.30.

矢守克也，ゲーミングを通じた災害リスク・コミュニケーション 日本地震学会 2015 年度  
教員免許状更新講習 人と防災未来センター 2015.8.1.

矢守克也・孫英英・野嶋太加志・千々和詩織，家具固定・逃げトレ・夜間避難訓練 防災  
学習発表会 四万十町興津小学校 2015.7.11.

矢守克也，阿武山観測所サイエンス・ミュージアム化計画について 阿武山観測所リニ  
ューアルオープンイベント 阿武山観測所 2015.7.4.

矢守克也，被災地における地区防災計画のとりくみ－岩手県大槌町の例から－ 黒潮町芝  
地区地区防災計画勉強会 黒潮町芝地区地区町民館 2015/6/26.

矢守克也，講評 焼津高校津波避難調査発表会学習 焼津高校 2015.6.20.

矢守克也，ゲーミング手法を活用した防災・減災ワークショップ 人と防災未来センター  
平成 27 年度春期「災害対策専門研修」 人と防災未来センター 2015.6.18.

矢守克也，災害リスク・コミュニケーションの新しいかたち 長野県「地域の防災・減災  
を考えるシンポジウム」基調講演 長野県総合教育センター 2015.6.14.

矢守克也，「防災について：クロスロード実習」 NVNAD 災害ボランティアリーダー養成  
講座 西宮市職員会館 2015.6.13.

矢守克也，災害リスク・コミュニケーションについて 高槻市「けやきの森市民大学講座」  
高槻市生涯学習センター 2015.6.13.

矢守克也，JIAM 地域における防災体制の構築に向けて～災害のリスク・コミュニケーショ  
ン戦略～ 平成 27 年度「地域住民の防災力の向上」講座 全国市町村国際文化研修所  
2015.6.1.

矢守克也，災害リスク・コミュニケーションの新しいかたち－高知県での試みから－地方  
公共団体の危機管理に関する研究会 日本防火・危機管理促進協会講演会 2015.5.28.

矢守克也，地震がおこす複合災害 本山町連合小学校（本山小・吉野小）&いの町神谷小中  
学校 人と防災未来センター 2015.5.20.

矢守克也・孫英英・千々和詩織・柳澤航平，夜間避難と昼間避難の比較検証 四万十町興

津小学校防災授業 興津小学校 2015.5.18.

矢守克也, 被災地における地区防災計画のとりくみー岩手県大槌町の例からー 黒潮町防災地域担当職員研修会 黒潮町役場 2015.5.12.

矢守克也・畑山満則・中居楓子・万行地区自主防災会, 第4回万行地区防災勉強会 高知県黒潮町万行町民館 2015.4.5.

矢守克也, 防災・減災分野におけるアクションリサーチ 神戸大学社会科学系教育研究府セミナー 神戸大学 2015.3.18.

矢守克也, 総括コメント 内閣府地区防災計画モデル地区フォーラム 宮城県民会館, 2015.3.14.

矢守克也, 災害リスク・コミュニケーションの新しいかたちー想定を活かすためにー東京で学ぶ京大の知シリーズ17「変動する社会と激変する自然災害」 京都大学東京オフィス 2015.3.12.

矢守克也, 減災について 平成26年度マナビスト講座 枚方市南部生涯学習市民センター 2015.3.7.

矢守克也, 減災のことばを考え直す 京都大学防災研究所阿武山観測所「阿武山対話(第4回)」 高槻市役所総合センター 2015.3.7.

矢守克也, スマホ版個別避難訓練について 浜寺4校区津波避難訓練 堺市立浜寺中学校 2015.3.1.

矢守克也・宮本匠・野嶋太加志, 興津地区夜間避難訓練と家具固定実践報告 興津小学校学習発表会・防災学習会 四万十町立興津小学校 2015.2.14.

矢守克也, 防災対応ゲーム「クロスロード」から学ぶ マッセ OSAKA「平成26年度事例研究(ミニ講座) 防災対応ゲーム「クロスロード」から学ぶ」 ホテルプリムローズ 大阪 2015.2.2.

矢守克也, 「防災」セッション・コーディネーター NVNAD「ボランティアのつどい」企画(案) 西宮市役所東館 2015.1.31.

矢守克也, 「クロスロード」を使って楽しく!真剣に!学ぼう BOSAI 防災教育研究発表会(平成26年度「高知県実践的防災教育推進事業」) 宿毛市立咸陽小学校 2015.1.29.

矢守克也, 「てんでんこ」って何? 本山町立吉野小学校・本山小学校防災学習会 高知県本山町立吉野小学校 2015.1.28.

矢守克也, 「備える~大切な人を守るために~」 岸和田市防災シンポジウム「備える~大切な人のために~」 岸和田市立文化会館 2015.1.25.

矢守克也・近藤誠司・杉山高志, 真陽地区の津波とは?~最新の研究報告~ 小学生と一緒に地域防災を考えよう!~1.17「真陽防災の日」~ 神戸市立真陽小学校 2015.1.17.

矢守克也, パネルディスカッション「話したい、聞きたい 阪神・淡路大震災20年」コーディネーター 災害メモリアル KOBE2015 人と防災未来センター 2015.1.10.

矢守克也, 想定外のクロスロード/クロスロードの想定外 「1000人のクロスロード2014」

神戸国際展示場 2014.12.23.

矢守克也, 阪神・淡路大震災 20 年緊急防災会議 (シンポジウム) パネルディスカッション「備えあれば憂いなしー今日から備える」(コーディネーター) 大阪朝日ホール 2014.12.21.

矢守克也, 学校における実践的防災教育 静岡市教育委員会「平成 26 年度健康教育指導者講習会」 静岡市教育センター 2014.12.8.

矢守克也, 総括コメント 震災 20 年研究会「震災遺族と防災研究者の交流会」 兵庫国際交流会館, 2014.12.6.

矢守克也, 矢守克也先生と学ぼう「防災」 毎日新聞&人と防災未来センター「ぼうさい出前授業」 徳島県海陽町立穴喰中学校 2014.12.2.

矢守克也, 災害リスク・コミュニケーションの新しいかたち 第 14 回 京都大学宇治キャンパス産学交流会講演 京都大学宇治キャンパスおうばくプラザ 2014.12.1.

矢守克也, 防災に関する教育/防災を通じた教育 京都大学防災研究所平成 26 年度一般研究集会「総合的防災教育の構築に関する研究集会」 京都大学宇治キャンパスおうばくプラザ 2014.11.29.

矢守克也, クロスロードについて 「クロスロード大洗編」完成お披露目ワークショップ 大洗町ほげほげカフェ 2014.11.26.

矢守克也, 大災害! それまで・そのとき・それから～自助・共助の心構え～ 神奈川県西部広域行政協議会防災部会「平成 26 年度防災講演会」 小田原市民会館 2014.11.22.

矢守克也, 防災学習ゲーム「クロスロード」 第 8 期津市民防災大学 アスト津, 2014.11.17.

矢守克也, 津波避難について NVNAD 防災ウォークラリー 武庫川女子大学総合スタジオ アム 2014.11.16.

矢守克也, 災害リスク・コミュニケーションを再考する 第 189 回神戸大学都市安全研究センターオープンゼミナール 神戸市役所 4 号館 (危機管理センター) 2014.11.15.

矢守克也, 災害情報の生かし方: 巨大災害に備えるために 守口門真防火協会「平成 26 年度の防災フォーラム」講演会 守口市門真市消防組合消防本部 2014.11.13.

矢守克也, 防災ゲームで学ぶリスク・コミュニケーション 公益社団法人京都府栄養士会 災害支援チーム養成講座 京都テルサ 2014.11.9.

矢守克也, パネルディスカッション・コーディネーター フォーラム「アツイ協働 明日をつむぐ～阪神・淡路大震災から 20 年～」 ポートピアホテル 2014.11.6.

矢守克也, 特別授業「災害に備えるということ」 宮城県立多賀城高校 2014.10.22.

矢守克也, 防災教育に求められること 宮城県立多賀城高校 2014.10.21.

矢守克也, 防災を“わがこと”にするための 5 つの方法 平成 26 年度貝塚市防災講演会 貝塚市コスモシアター 2014.10.21.

矢守克也, ゲーミング手法を活用した防災・減災ワークショップ 人と防災未来センター 平成 26 年度秋期「災害対策専門研修」 人と防災未来センター 2014.10.21.



- 矢守克也, 地域での防災活動について 「こうべまちづくり学校」分野別講座 B コース」  
こうべまちづくり会館 2014.10.9.
- 矢守克也, 「リスクの想定」と「想定リスク」 地震・火山科学と総合防災学の両共同研  
究拠点主催シンポジウム「南海トラフ巨大地震の災害リスク評価ー社会の影響から地震  
発生まで振り返り, 評価の不確実性と影響について考えるー」 東京大学地震研究所  
2014.10.6.
- 矢守克也, 震災15年の台湾から10年の中越へのメッセージ 中越・台湾復興支援シンポ  
ジウム 長岡震災アーカイブセンターきおくみらい 2014.10.5.
- 矢守克也, 災害情報のコミュニケーション たつの女性が担う地域防災塾 竜野市御津図  
書館 2014.10.4.
- 矢守克也, 災害のリスク・コミュニケーション～何を、だれから、どうやって伝えるか～  
神戸市民夏季防災大学 神戸学院大学 2014.9.27.
- 矢守克也, 災害時のよびかけについて考えるー防災心理学の視点からー 平成26年度NHK  
近畿管内アナウンス災害報道研究会『“未災地”を知り、災害時の呼びかけ・表現を考察  
する』 NHK大阪放送局 2014.9.20.
- 矢守克也, 災害のリスク・コミュニケーション 第16回青森継続看護研究会・第3回放射  
線リスク・コミュニケーション教育部門講演会 弘前大学医学部コミュニケーションセ  
ンター 2014.9.14.
- 矢守克也, 災害情報のコミュニケーション 大阪大学 CSCD「シリーズ:科学技術イノベ  
ーション(第11回) 大阪中之島アートエリア B1 2014.9.9.
- 矢守克也, 災害リスク・コミュニケーションの新しいかたち JR西日本あんしん財団「安  
全セミナー:災害と危機管理」 あましんアルカイクホール 2014.9.4.
- 矢守克也, 「想定を受け止め方 被害は減らせる!」津波から命を守るには～最新のシミュ  
レーション結果の紹介～興津シミュレーション報告 四万十町立興津小学校体育館  
2014.8.30.
- 矢守克也, あきらめない、油断もしない、お任せしないー津波避難対策のポイントー第25  
回京都大学防災研究所公開講座ー地元目線で考える複合災害ー 高知サンピアシリーズ  
2014.8.29.
- 矢守克也, 災害のリスク・コミュニケーション 中越市民防災大学 長岡市消防本部,  
2014.8.9.
- 矢守克也, 南海トラフ地震を生き抜く 第60回安芸市夏季大学講座 安芸市民会館  
2014.7.28.
- 矢守克也, 大雨・地震の揺れから身を守るために 四万十町自主防災組織連絡協議会防災  
講演会 窪川四万十会館 2014.7.27.
- 矢守克也, 「個別訓練タイムトライアル」に見る津波避難の〈多様性〉 日本学術会議フォ  
ーラム「減災の科学を豊かに ～多様性・ジェンダーの視点の貢献と展望」 日本学術会

議 2014.7.20.

矢守克也, 小学校に地震計を置いてみたらー「満点計画」と学習プログラムー 日本地震学会主催教員免許状更新講習 京都大学防災研究所阿武山観測所 2013.7.19.

矢守克也, ゲーミング手法を活用した防災・減災ワークショップ 坂出市職員研修会坂出市教育会館 2014.7.3.

矢守克也, 「てんでんこ」って何? 吉野小学校平成 26 年度第 2 回防災学習会, 高知県本山町吉野小学校, 2014.7.3.

矢守克也, 減災特別講座「クロスロードとは～災害対応あなたならどうする～」 高槻市城内公民館 2014.7.1.

矢守克也, 講評 中島学区地域気象情報ワークショップ 伊勢市立中島小学校体育館 2014.6.29.

矢守克也, 想定は変えられる! 神戸市長田区真陽学区防災勉強会 真陽小学校体育館 2014.6.28.

矢守克也, 防災ゲーム「クロスロード」を体験しよう 舞子高校 2014.6.26.

矢守克也, クロスロードこの 1 年 クロスロードのつどい全国大会 in 仙台 仙台市役所 2014.6.21.

矢守克也, ゲーミング手法を活用した防災・減災ワークショップ 人と防災未来センター 平成 26 年度秋期「災害対策専門研修」 人と防災未来センター 2014.6.19.

矢守克也, 南海トラフの巨大地震・津波に備えるために 高槻市けやきの森市民大学講座 高槻市立生涯学習センター 2014.6.17.

矢守克也, リスク・コミュニケーションー動画で考える災害の伝え方いろいろー 日本災害救援ボランティアネットワーク第 1 回ボランティアリーダー養成講座 西宮市市民交流センター 2014.6.14.

矢守克也, 防災学習の効果的な進め方 大阪府教育センター平成 26 年度防災研修 大阪府教育センター 2014.6.9.

矢守克也・矢守研究室, 地震ザブトン体験・家具固定診断キャンペーン 四万十町立興津小学校体育館 2014.6.7.

矢守克也, 「クロスロード」を使って 楽しく! 真剣に! 学ぼう BOSAI 宿毛市立咸陽小学校体育館 2014.6.3.

矢守克也, 草の根の津波防災活動: 黒潮町と四万十町の取り組みから 東洋町自主防災組織学習会 東洋町役場 2014.6.2.

矢守克也, 防災の勉強「大雨・地震・土砂災害」 本山町連合小学校(本山小・吉野小) 修学旅行 人と防災未来センター 2014.5.21.

矢守克也, クロスロード・ゲームに挑戦 大野市有終西小学校 2014.5.21.

矢守克也, 災害リスク・コミュニケーションについて考えよう かんさい げんさいカフェ 人と防災未来センター 2014.4.12.

矢守克也, 今・ここで・みんなで考える防災～クロスロード・あなたは どうしますか～ 平成 26 年度本山町教育委員会教職員研修会 高知県本山町プラチナセンターふれあいホール 2014.4.10.

矢守克也・畑山満則・中居楓子・万行地区自主防災会, 巨大地震・津波から命を守るには～ 第 3 回万行地区防災勉強会 高知県黒潮町万行町民館 2014.3.30.

矢守克也, 東日本大震災のお話 岩手県野田村小学校 2014.3.11.

矢守克也, 高知県四万十町興津地区の事例 南海トラフ巨大地震にのぞむ～ICT を活用した地区の防災と BCP～ 大阪歴史博物館 2014.3.6.

Yamori, K., Gaming & participatory approach to disaster risk management. Welcome remarks at Youth Initiatives in Disaster Risk Reduction Workshops. Indonesia BDSG - DPRI Joint Meeting. Obaku Plaza, Kyoto Univ., 2014.3.1.

矢守克也, 個別訓練のご報告と津波避難シミュレーションのご紹介 興津小学校平成 25 年度学習発表会 四万十町立興津小学校 2014.2.23.

矢守克也, 「南海トラフ地震に備える」 西宮商工会議所「企業防災と事業継続を学ぶ」 西宮商工会館 2014.2.21.

矢守克也, 「生活防災について」 須磨区千歳地区連合自治会生活防災講演会 千歳地区センター 2014.2.15.

矢守克也, 「クロスロード」についてのコメント 第 7 回「クロスロード研究会」 マッセ OSAKA 2014.2.4.

矢守克也, 都市災害のリスク・コミュニケーション 防災研究フォーラム第 11 回シンポジウム 東京大学 2014.2.2.

矢守克也, 「暮らしの中の防災・減災：〈生活防災〉のすすめ」 近畿地区 7 高専連携シンポジウム：自主防災活動と防災教育 明石市立産業交流センター 2014.2.1.

矢守克也, 巨大災害への対応と防災教育 日本看護協会神戸研修センター平成 25 年度教育研修会－災害医療と看護－ 日本看護協会神戸研修センター 2014.1.30.

矢守克也, 夢みる防災教育を目指して：助かる教育／助ける教育 平成 25 年度 高知県実践的防災教育推進事業黒潮町立佐賀小学校・佐賀中学校合同防災教育研究発表会 黒潮町佐賀中学校 2014.1.28.

矢守克也, 逃げる人が主役の津波避難訓練をめざして 伊勢市北浜中学校区防災勉強会 伊勢市有滝町民会館 2014.1.26.

矢守克也, 「クロスロード」についてのコメント 第 6 回「クロスロード研究会」 マッセ OSAKA 2014.1.21.

## 5.2 マスメディア・新聞等への掲載

千木良雅弘, 神戸新聞, 経験、伝承生かして身を守れ, 2014 年 8 月 23 日.

千木良雅弘, 長崎新聞, 土地を知り身を守ろう, 2015 年 2 月 3 日.

藤井基貴，毎日新聞，高台移転考える契機に，2016年3月17日。

藤井基貴，読売新聞（静岡版），後悔しない選択どちら？ 防災道徳 正解ない問い判断力  
養う」，[概要]「防災道徳」授業に関する紹介，2016年3月17日。

藤井基貴，静岡だいいちテレビ，震災5年 静岡へのメッセージ，[概要]藤井研究室による  
防災教育の授業開発に関する特集，2016年3月12日。

藤井基貴，共同通信社「新聞 地域と連携 頼れる存在に」，[概要]外国人への防災教育の取  
組に関する識者コメント，2016年3月9日。

藤井基貴，中日新聞（知多版），小学生に身守る授業 半田 防災学ぶ静大生が講師，2016  
年2月18日。

藤井基貴，毎日新聞（中部版），＜静岡大生＞出前防災授業「ぼうさい甲子園」大賞受賞機  
に，2016年2月17日。

藤井基貴，静岡新聞，朝日新聞（静岡版），中日新聞，「ぼうさい大賞」大学生の部 静岡  
大・藤井研究室が受賞，2016年1月11日。

藤井基貴，朝日新聞（静岡版），Shizuoka リポート 35 災害対策、悩んで学ぼう，[概要]  
「防災道徳」授業に関する紹介，2016年1月。

藤井基貴，静岡だいいちテレビ，地震防災チェック、災害遺構，2016年1月9日。

藤井基貴，毎日新聞，静大・藤井研究室が大賞 ぼうさい甲子園 活動広がり評価，2015  
年12月11日。

藤井基貴，静岡だいいちテレビ，news every しずおか：被災地で初「究極の選択」を授業  
で，2015年12月10日。

藤井基貴，NHKしずおか，たっぷり静岡：年代別の防災教育，2015年11月9日。

藤井基貴，静岡新聞，幼い子どもの防災力どう高める？遊び感覚で行動喚起 静岡大藤井  
ゼミ 紙芝居やダンス，2015年10月11日。

藤井基貴，静岡だいいちテレビ，news every しずおか：あなたはどう判断、考える防災教  
育，2015年10月9日。

藤井基貴，朝日新聞（静岡版），身守るポーズ踊って おぼえて 静岡大生ら今日披露，2015  
年9月20日。

藤井基貴，静岡だいいちテレビ，地震防災チェック：子ども防災教室，2015年8月15日。

藤井基貴，日本経済新聞（静岡版） 静岡きらり人材 災害時 子供の判断力育成 楽しく  
学ぶ防災 大切に，2015年6月13日。

藤井基貴，中日新聞，防災知識 ゲームで楽しく，2015年3月18日， [概要]研究室所属  
学生による防災講座の紹介。

藤井基貴，中日新聞（西三河版），防災知識 ゲームで楽しく，[概要]研究室の所属学生に  
よる高浜市立翼小での出前防災授業の紹介，2015年3月18日。

藤井基貴，共同通信社，【防災新指針】お年寄り，外国人どう守る 配慮明記へ， [概要]  
静岡市内の日本語学校における防災授業の紹介，2015年3月15日。

藤井基貴，毎日新聞，防災教育の出前授業，[概要]愛知県高浜市翼小学校での出前授業，2015年3月13日。

藤井基貴，静岡新聞，市内在住外国人地震対処法学ぶ，[概要]静岡市内に暮らす外国人向けの防災講座の実施，2015年2月5日。

藤井基貴，NHK，Tomorrow「命を考える防災教室」，[概要]研究室で取り組む「防災道徳」授業の開発・実践に関するドキュメンタリー番組，2015年1月21日。

藤井基貴，静岡新聞，留学生向け防災教材 静大准教授月内完成へ 避難地など紹介，2015年1月6日。

藤井基貴，静岡新聞，毎日新聞，中日新聞，静大・藤井研究室優秀賞 ぼうさい甲子園要援護者向け教材開発，2014年12月17日。

藤井基貴，朝日新聞（静岡版），改革に揺れる教室，[概要]教師の多忙化や子どもの貧困の問題，2014年12月2日。

藤井基貴，静岡だいいちテレビ，地震防災チェック：外国人への防災授業，2014年11月20日。

藤井基貴，朝日新聞（静岡版），日本語苦手な留学生，[概要]留学生向けの防災授業の実践，2014年7月22日。

秦康範，毎日新聞，山梨防災教育研究会，2014年11月12日。

秦康範，防災インフォメーション，YBS山梨放送，山梨防災教育研究会，2014年12月9日。

秦康範，YBSワイドニュース，YBS山梨放送，土砂災害，2015年8月20日。

秦康範，K-MIX，実践的な防災訓練，2015年9月16日。

秦康範，防災インフォメーション，YBS山梨放送，学校の防災訓練，2015年11月17日。

秦康範，ニュース7，NHK，通電火災，2016年1月17日。

秦康範，NHKスペシャル，NHK，通電火災，2016年1月17日。

秦康範，news every，日本テレビ，学校の防災訓練，2016年3月7日。原田賢治，震災5分あれから・・・8分で沼津市に来る津波-対策に課題，とびつきり静岡，静岡朝日テレビ，2016.3.10。

原田賢治，津波対策 住民と協働で，いのち守る防災しずおか，提言減災，静岡新聞（朝刊），2016.2.14。

原田賢治，防潮堤整備住民参加を，いのち守る防災しずおか，提言減災，静岡新聞（朝刊），2015.9.27。

原田賢治，津波対策と景観保全考える，松崎で防災シンポ，想定高上昇受け，静岡新聞（朝刊），2015.9.6。

原田賢治，「地域で津波対策を」県，賀茂1市5町で講演会，静岡新聞（朝刊），2015.7.14。

原田賢治，津波の周期にも注意を，いのち守る-防災しずおか，「提言」減災，静岡新聞（朝刊），2015.5.24。

原田賢治, 警戒区域 重要性説明を, いのちを守る-防災しずおか, 「提言」減災, 静岡新聞 (朝刊), 2014.7.27.

橋本 岳, NHK, 『レポート: 未来を作る研究室「土砂災害の前兆を捉えろ」』, 2015年10月27日.

本間基寛, THE PAGE, <特別警報> “空振り” でも……運用1年で見えてきた意義と課題, 2014年8月30日.

本間基寛, 読売テレビ「ウェークアップ!ぷらす」, 2014年「災害」, 2014年12月27日.

本間基寛, 読売テレビ「ウェークアップ!ぷらす」, 出なかった「津波注意報」, 2015年2月21日.

本間基寛, 読売新聞(朝刊)14面, 解説スペシャル 御嶽山と豪雨の教訓 行政の発信 避難直結せず 防災情報伝わってこそ わかりやすさ 行動促す, 2015年9月26日.

池田恵子, 西日本新聞朝刊24面, 「自治会 女性役員増やせ」 防災の観点から, 多様な立場の人々が地域活動の意思決定にかかわることの重要性を指摘, 2016年3月15日.

池田恵子, 復興釜石新聞, 「防災力アップは男女の視点で」 市民による避難所運営マニュアル改定の提言ワークショップ実施, 2016年3月9日.

池田恵子, 中日新聞朝刊12面, バングラ支援活動紹介 静岡大学生 現地取材時の写真展, 2016年1月17日.

池田恵子, 静岡新聞朝刊23面, 家族, 地域の課題は 湖西でセミナー 静大生ら解決策を議論, 2015年9月23日.

Ikeda, Keiko, NHK World 'Radio Japan Focus' :Reviewing Disaster Management from the Women's Point of View, 2015年9月23日.

池田恵子, 朝日新聞朝刊28面, 避難生活 女性の視点生かすには 普段の訓練から取り入れる工夫を, 2015年9月1日.

池田恵子, 中日新聞朝刊17面, 避難所運営に女性視点 浜松で防災講演会, 2015年6月22日.

池田恵子, 静岡新聞夕刊4面, 国連世界会議市民シンポ 防災も男女共同参画 団体同士の連携重要 コーディネーターをつとめる, 2015年4月30日.

池田恵子, 静岡新聞夕刊1面, こちら女性編集室×東日本大震災の教訓 「家族 命を守る」-中 炊き出しは主婦の役割? ”女性の視点”道半ば, 2015年3月5日.

池田恵子, 読売新聞東京朝刊19面, 阪神大震災20年 災害弱者を守る:防災対策に女性の視点, 2015年1月16日.

池田恵子, 静岡新聞朝刊22面, 女性防災リーダー育成へ「防災力パワーアップ講座」開催 池田教授による講演など, 2015年1月6日.

池田恵子, 読売新聞大阪朝刊31面, 男女共同参画の視点を取り入れた避難生活の体制について, 2014年12月19日.

池田恵子, 静岡新聞朝刊22面, 藤枝=防災リーダー対象に研修会 「多様な人々の視点を

生かした地域の防災対策」と題して講演, 2014年6月15日.

石橋秀巳, おちゃのこサイサイサイエンス! ⑧富士山のマグマはどこからやってくる? 静岡新聞, 2015年11月2日掲載.

石橋秀巳, ブラタモリ#20 富士山的美~富士山はなぜ美しい~. NHK.

岩崎一孝, NHK, NHK BS プレミアム「驚き! 地球! グレートネイチャー “虹の滝” ビクトリア~アフリカ 光と水の神秘」への資料提供, 2014年6月6日.

岩田孝仁: 静岡新聞(朝) 9面 特集「命を守る防災」犠牲者ゼロ追及 35年, 2015/04/12.

岩田孝仁: 静岡新聞(朝)時評「危険察知する力」取り巻く自然を知る, 2015/05/20.

岩田孝仁: 静岡新聞(朝)時評「ネパール地震に学ぶ」自助・共助は不可欠, 2015/07/09.

岩田孝仁: 静岡新聞(朝)時評「東海地震の予知」国民とデータ共有を, 2015/09/23.

岩田孝仁: 中日新聞(朝)備える 3・11 から御前崎で地震多発「迅速な説明が必要」, 2015/10/19.

岩田孝仁: 静岡新聞(朝)時評「高齢化社会の防災力」若者の活動参加必要, 2015/11/19.

岩田孝仁: 静岡新聞(特集) 警戒宣言への自治体対応, 2016/01/21.

岩田孝仁: 静岡新聞(時評)「津波警戒区域指定 推進を」防災アピールの好機, 2016/02/18.

岩田孝仁: 静岡新聞 ネパール地震被災地調査, 2015/06/10.

岩田孝仁: 静岡新聞 藤枝市が防災研修, 2015/06/22.

岩田孝仁: 中日新聞 静岡市の津波防災地域づくり, 2015/07/30.

岩田孝仁: 静岡新聞 静岡市の津波防災地域づくり推進計画, 2015/07/31.

岩田孝仁: 静岡新聞(朝)地震、津波の最新情報解説 来月1日焼津で防災講演会, 2015/09/23.

岩田孝仁: 読売新聞(朝) 気象予報士の自治体派遣, 2015/11/12.

岩田孝仁: 毎日新聞 地方版静岡 ネパール・防災コミュニティセンター: 住民の意識向上促す 県ボランティア協、ノウハウ根付かせ, 2016/02/17.

岩田孝仁: 毎日新聞(朝) 地方版静岡 P 27 web ショートメール: 防災意識, 2016/03/18.

岩田孝仁: 日本経済新聞(朝刊) 静岡経済 P 41 ズームアップ静岡 南海トラフの津波に警鐘 浜名湖上の新幹線や国道1号 津波の衝撃対策 構造計算基準まだなく, 2016/03/24.

岩田孝仁: S B S ラジオ「IPPO」インタビュー 箱根山の噴火警戒レベル, 2015/05/12.

岩田孝仁: 静岡第一テレビ ネパール地震被害調査, 2015/06/17.

岩田孝仁: テレビ静岡 富士山火山防災 登山者の安全 対策, 2015/07/17.

岩田孝仁: NHK ラジオ第1 夕方ニュース 富士山登山者の安全, 2015/08/03.

岩田孝仁: S B S テレビ イブアイ静岡 防災最前線 懸念される津波への対策を 子どもたちが避難マップを作成, 2015/08/19.

岩田孝仁: S B S テレビ イブアイ静岡 防災最前線 最大1万人の富士登山者 噴火警戒レベルがあがったら, 2015/08/26.

岩田孝仁: S B S ラジオ 防災の日特集, 2015/08/30.

岩田孝仁: テレビ静岡 とびっきり静岡 御前崎の地震, 2015/09/04.

岩田孝仁：テレビ静岡 皆のニュース静岡 豪雨災害対策,2015/09/11.  
岩田孝仁：SBS IPPPO 地域防災を考える,2015/09/17.  
岩田孝仁：テレビ静岡てっぺんアワーみんなのニュース 御嶽山に学ぶ教訓,2015/09/28.  
岩田孝仁：テレビ静岡てっぺんアワーみんなのニュース 夜間の地震への備え,2015/11/17.  
岩田孝仁：テレビ朝日 とびっきり静岡 浜松の豪雨災害の教訓,2015/12/21.  
岩田孝仁：テレビ静岡てっぺんアワーみんなのニュース 今年一年の災害,2015/12/22.  
岩田孝仁：NHK 静岡 今年の防災の課題,2016/01/04.  
岩田孝仁：静岡第1テレビ news every 我が家の防災対策,2016/01/15.  
岩田孝仁：SBS ラジオ, SBS×K-mix 共同制作 防災特別番組 ラジオと一緒に～その時に備えて,2016/03/20.  
岩田孝仁：K-mix おひるま協同組合, SBS×K-mix 共同制作 防災特別番組 ラジオと一緒に～その時に備えて,2016/03/23.  
笠原順三, Friday, 十和田湖大噴火, 2014年3月14日号.  
笠原順三, TBS, ひるおび, 2014/5/5.  
笠原順三, フジテレビ, とくダネ, 2014/5/5.  
笠原順三, フジテレビ, スーパーニュース, 2014/5/5.  
笠原順三, フジテレビ, スーパーニュース, 2014/6/9.  
笠原順三, フジテレビ, ニュース Japan, 2014/6/9.  
笠原順三, フジテレビ, スーパーニュース, 2014/9/16.  
笠原順三, フジテレビ, とくダネ, 2014/9/17.  
笠原順三, フジテレビ, 新報道 2001, 2014/9/28.  
笠原順三, 女性セブン, 地震, 2014年10月.  
笠原順三, Friday, 富士山噴火と直下地震, 2014年10月24日号.  
笠原順三, Friday, 桜島噴火と川内原発, 2014年10月31日号.  
笠原順三, フジテレビ, スーパーニュース, 2015/2/17.  
笠原順三, フジテレビ, めざましテレビ, 2015/2/18.  
笠原順三, フジテレビ, とくダネ, 2015/2/18.  
笠原順三, TBS, ひるおび, 2015/2/18.  
笠原順三, フジテレビ, Mr.サンデー, 2015/4/26.  
笠原順三, フジテレビ, みんなのニュース, 2015/4/26.  
笠原順三, 日本テレビ, スッキリ, 2015/5/1.  
笠原順三, フジテレビ, みんなのニュース Weekend, 2015/5/3.  
笠原順三, フジテレビ, 直撃 Live グッデイ, 2015/5/13.  
笠原順三, フジテレビ, みんなのニュース Weekend, 2015/5/16.  
笠原順三, フジテレビ, Live あしたのニュース, 2015/5/25.  
笠原順三, フジテレビ, みんなのニュース, 2015/5/25.



笠原順三, フジテレビ, 直撃 Live グッデイ, 2015/5/25.  
笠原順三, TBS, あさチャン, 2015/5/26.  
笠原順三, TBS, とくダネ, 2015/5/25.  
笠原順三, 日本テレビ, スッキリ, 2015/5/26.  
笠原順三, フジテレビ, 直撃 Live グッデイ, 2015/5/29.  
笠原順三, フジテレビ, みんなのニュース, 2015/5/29.  
笠原順三, フジテレビ, Live あしたのニュース&すぽると, 2015/5/29.  
笠原順三, フジテレビ, めざまし, 2015/6/1.  
笠原順三, フジテレビ, FNN スピーク, 2015/6/16.  
笠原順三, フジテレビ, みんなのニュース, 2015/6/16.  
笠原順三, フジテレビ, めざましどようび, 2015/6/20.  
笠原順三, フジテレビ, 直撃 Live グッデイ, 2015/9/14.  
笠原順三, フジテレビ, めざまし, 2015/9/15.  
笠原順三, フジテレビ, アウト x デラックス, 2016/2/8.  
笠原順三, フジテレビ, 熊本地震特番 (アウト x デラックス), 2016/4/14.  
笠原順三, フジテレビ, 熊本地震特番 (ユアタイム), 2016/4/14.  
笠原順三, フジテレビ, 熊本地震特番 (MATSU ひとりぼっち), 2016/4/15.  
笠原順三, フジテレビ, 熊本地震特番 (報道特別番組), 2016/4/15.  
笠原順三, フジテレビ, めざまし, 2016/4/16.  
笠原順三, フジテレビ, とくダネ, 2016/4/15.  
笠原順三, フジテレビ, ノンストップ, 2016/4/15.  
笠原順三, フジテレビ, FNN スピーク, 2016/4/15.  
笠原順三, フジテレビ, 直撃 Live グッデイ, 2016/4/15.  
笠原順三, フジテレビ, みんなのニュース, 2016/4/15.  
笠原順三, フジテレビ, 熊本地震特番 (事前 SP), 2016/4/16.  
笠原順三, フジテレビ, 熊本地震特番 (ラブソング), 2016/4/16.  
笠原順三, フジテレビ, 熊本地震特番 (D1 モノフェスタ), 2016/4/16.  
笠原順三, フジテレビ, 熊本地震特番 (新週間フジ批評), 2016/4/16.  
笠原順三, フジテレビ, 熊本地震特番 (めざまし土曜), 2016/4/16.  
笠原順三, フジテレビ, 緊急みんなのニュース, 2016/4/17.  
笠原順三, フジテレビ, FNN みんなのニュース, 2016/4/17.  
笠原順三, フジテレビ, めざましテレビ, 2016/4/18.  
笠原順三, フジテレビ, 直撃 Live グッデイ, 2016/4/18.  
笠原順三, フジテレビ, みんなのニュース, 2016/4/18.  
笠原順三, フジテレビ, ユアタイム～あなたの時間, 2016/4/18.  
笠原順三, フジテレビ, めざましテレビ, 2016/4/19.

笠原順三, フジテレビ, とくダネ, 2016/4/19.

笠原順三, フジテレビ, みんなのニュース, 2016/4/20.

笠原順三, フジテレビ, みんなのニュース, 2016/4/21.

笠原順三, フジテレビ, みんなのニュース, 2016/4/28.

笠原順三, フジテレビ, みんなのニュース, 2016/4/29.

笠原順三, Friday, 熊本地震, 2016年5月6日号.

木村浩之, 静岡新聞 朝刊 7ページ, 産学連携展開に貢献 研究者を表彰, 2014年4月15日.

木村浩之, 中日新聞 朝刊 11ページ, 産学連携に貢献 3研究者を表彰, 2014年4月15日.

木村浩之, 静岡新聞 朝刊 7ページ, サイエンスブックカフェ 研究者の本棚, 2014年6月23日.

木村浩之, 日本経済新聞 朝刊 15ページ, 地下温水に微生物 メタン水素生産, 2016年1月18日.

木村浩之, 静岡新聞 夕刊 3ページ, 川根温泉ガス 発電に活用, 2016年3月3日.

北村晃寿, 静岡放送 静岡県のニュース 焼津市の調査, 平成28年3月9日.

北村晃寿, テレビ静岡 静岡県のニュース 焼津市の調査, 平成28年2月23日.

北村晃寿, 静岡第一テレビ 静岡県のニュース 焼津市の調査, 平成28年2月9日.

北村晃寿, 静岡朝日テレビ 静岡県のニュース 焼津市の調査, 平成28年2月8日.

北村晃寿, 静岡放送 静岡県のニュース, 平成28年2月8日.

北村晃寿, NHK 静岡県のニュース 焼津沿岸で地層追加調査始まる, 平成28年2月8日.

北村晃寿, NHK 静岡県のニュース 焼津市沿岸で地滑り跡見つかる, 平成28年2月1日.

北村晃寿, NHK ニュース7 沖縄・先島諸島 大津波 過去に繰り返し発生か?, 平成27年4月23日.

北村晃寿, 静岡新聞 朝刊 P26 焼津浜当日 津波跡2層 レベル1地震 仁和, 明応と推察 静岡大調査, 平成28年2月9日.

北村晃寿, 毎日新聞 朝刊 887年の仁和地震 焼津沖で海底地滑りか 津波規模増幅も 静岡大調査/静岡, 平成28年2月5日.

北村晃寿, 中日新聞 朝刊 P28 「海底地滑り 海岸後退? 887年仁和地震「レベル1でも影響」, 平成28年2月2日.

北村晃寿, 静岡新聞 朝刊 P29 「安政東海型地震 発生間隔推定「150~230年焼津の堆積物解析」, 平成28年1月30日.

北村晃寿, 静岡新聞 朝刊 P23 「巨大津波 犠牲者ゼロへ 焼津市防災講演会 昨年度の調査結果報告」, 平成27年10月3日.

北村晃寿, 静岡新聞 朝刊 P21 「おちゃのこサイサイサイエンス」に「②津波の跡は高潮の跡とどう違うの?」が掲載. 平成27年9月21日.

北村晃寿, 静岡新聞 朝刊 P27 浜当目の津波有無検証 官学連携で堆積物調査 焼津,  
平成 27 年 9 月 1 日.

北村晃寿, 静岡新聞 朝刊 P 19 面, 中日新聞 朝刊 P 12 津波堆積物調査で講演「レベル  
2」相当未発見 焼津, 平成 27 年 6 月 2 日.

北村晃寿, 静岡新聞 朝刊 P 2 9 下田沖に海底活断層か 隆起貝層から推定, 平成 27  
年 5 月 22 日.

北村晃寿, 静岡新聞 朝刊 津波堆積物を本年度も調査 焼津市, 平成 27 年 4 月 2 日.

小山真人, 毎日新聞, わかる:火山巨大噴火、高リスク 原発再稼働・安全審査、川内 1 番  
なぜ, 2014 年 4 月 18 日.

小山真人, 西日本新聞, 川内に噴火リスク, 最多, 火山研究者原発アンケート, 29 人中  
18 人が指摘, 巨大噴火, 無いと言えぬ, 原発再稼働へ議論不足, 火山研究者, 批判続々  
2014 年 4 月 21 日.

小山真人, 静岡新聞, 時評: 原発安全審査への疑問, 火山リスク過小評価★, 2014 年 4 月  
30 日.

小山真人, 伊豆新聞, 世界加盟向け"手応え", 公開審査で魅力アピール-伊豆半島ジオ, 2014  
年 5 月 1 日.

小山真人, 朝日新聞東京版, 伊豆半島、いざ世界認定へ, ジオパーク候補地指名めざして  
訴え, 2014 年 5 月 1 日.

小山真人, サライ, 6 月号, よし、この夏は富士山に登ろう, 日本一の霊山は、如何なる山  
なのか, 2014 年 5 月 10 日.

小山真人, 静岡新聞, シネマ情報「ポンペイ」, ヴェスヴィオ火山の噴火とポンペイの壊滅  
★, 2014 年 5 月 22 日.

小山真人, 伊豆新聞, 奥伊豆の地形、風景解説 ジオマップ第 5 弾あす発売-本社発行, 2014  
年 6 月 5 日.

小山真人, 静岡新聞, 長泉 = 「ジオパーク」テーマに公開講座, 2014 年 6 月 7 日.

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオガイド養成講座に 38 人 10 月まで座学と実習 12 回, 2014  
年 7 月 2 日.

小山真人, 静岡新聞, プロガイドへ 38 人挑戦 伊豆で養成講座スタート, 2014 年 7 月 2  
日.

小山真人, 毎日新聞静岡版, 伊豆半島ジオガイド養成講座: 開講 伊豆半島ジオパークの,  
伝道師に, 2014 年 7 月 3 日.

小山真人, 静岡新聞, 川内原発(鹿児島) 秋にも再稼働 地震、津波想定浜岡より小規模,  
インタビュー小山真人氏: 噴火リスクの評価甘い, 2014 年 7 月 19 日.

小山真人, 伊豆新聞, 世界レベル意識を JGC、伊豆ジオ審査完了, 2014 年 7 月 23 日.

小山真人, 中日新聞, ジオパーク現地審査が終了, 伊豆半島, 推薦なるか, 2014 年 7 月 23  
日.

小山真人，毎日新聞静岡版，伊豆半島ジオパーク：審査員「レベル高かった」，2014年7月23日。

小山真人，伊豆新聞，ジオ知る講座 2日に伊東市役所，2014年7月31日。

小山真人，静岡新聞，時評：伊豆半島ジオパーク 世界への挑戦なるか★，2014年8月20日。

小山真人，伊豆新聞，観光組織を将来統合、道路は各期成同盟会存続 伊豆半島首長会議，2014年8月22日。

小山真人，日本経済新聞，伊豆半島、ジオパーク推薦決定で集客増に弾み，2014年8月28日。

小山真人，静岡新聞，伊豆半島・世界ジオパーク推薦 一体感醸成課題に，2014年8月29日。

小山真人，伊豆新聞，伊豆ジオ、世界へ一歩前進 日本委が推薦決定 申請は阿蘇の結果次第，2014年8月29日。

小山真人，毎日新聞静岡版，世界ジオパーク：伊豆半島は2位推薦 加盟申請先送りも，2014年8月29日。

小山真人，朝日新聞静岡版，伊豆半島 世界ジオパーク推薦 条件付きの「2位」「阿蘇」の結果待ち，2014年8月29日。

小山真人，中日新聞，ジオパーク条件付き推薦 世界の伊豆「一歩前進」準備2年、喜びと困惑，2014年8月29日。

小山真人，静岡新聞，「地域学・富士山」裾野高でスタート，静大教授が講演，2014年9月11日。

小山真人，朝日新聞，原発地元 範囲どこまで 同意手続き首長ら「30キロ圏も」，2014年9月11日。

小山真人，中日新聞，富士山噴火時に警戒区域指定 防災対策協が骨子案提示，2014年9月13日。

小山真人，静岡新聞，富士山火山対策協 警戒区域指定「慎重に」 広域避難計画10項目示す 富士山火山対策協，2014年9月13日。

小山真人，産経新聞，立ち入り制限の警戒区域の指定も 富士山噴火時の避難計画具体策骨子を提示 対策協，2014年9月13日。

小山真人，静岡新聞，伊豆半島ジオパーク 世界認定へ15市町正念場「1年後」，気引き締め 保全、地域活性化、教育…すべての課題解決急務，2014年9月24日。

小山真人，読売新聞静岡版，伊豆半島 世界ジオ 国内推薦確定「阿蘇」認定受け 来秋の認定目指す，2014年9月24日。

小山真人，朝日新聞，噴火 予知は困難 微動観測から12分後，2014年9月28日。

小山真人，静岡新聞，＜御嶽山噴火＞「前兆なし」、富士山も同様の恐れ，2014年9月28日。

小山真人，中日新聞，300年沈黙 富士山は大丈夫か，2014年9月30日。

小山真人, 東京新聞, 火山列島どう向き合う 大災害前提に備える意識を 東日本大震災後 火山活動活発に?, 2014年9月30日.

小山真人, 朝日新聞, 火砕流2方向に 火山ガスなお勢い 専門家が見た山頂付近, 2014年10月1日.

小山真人, 中日新聞, 進まぬ火山対策 噴火頻度低く 研究者・予算少なく, 2014年10月1日.

小山真人, 中日新聞, 火山大国 弱い観測体制 御嶽山噴火で露呈 「人材育成・専門機関を」, 2014年10月4日.

小山真人, AERA, 10月13日号, 御嶽山噴火 マツの根元で助かった 生存者の証言 生死分けた一瞬の行動/なぜ観測体制は不十分だったのか, 2014年10月6日.

小山真人, 静岡新聞, 御嶽山噴火災害、富士山への教訓 ヘルメット持参を, 2014年10月12日.

小山真人, 中日新聞, 噴火に備える(上): 登山を登録制に, 2014年10月15日.

小山真人, 毎日新聞, 噴火警戒:最低の「レベル1」実は「安全」ではない, 2014年10月15日.

小山真人, 毎日新聞山梨版, フォーラム: 富士と火山防災考える 現状、課題で意見交換 富士吉田で来月6月, 2014年10月16日.

小山真人, 東京新聞神奈川版, 3県合同 19日に富士山避難訓練, 2014年10月17日.

小山真人, 東京新聞, 降灰で首都圏まひ 大停電や東名寸断も, 2014年10月20日.

小山真人, 神奈川新聞, 富士山噴火初の合同訓練: 御嶽教訓に意識新た 備え不足痛感, 2014年10月20日.

小山真人, 読売新聞静岡版, 富士山噴火訓練に2000人, 2014年10月20日.

小山真人, 共同通信, 「富士山噴火に備え」「現状では手の打ちようがない」 突発噴火への対策急務 約30地点に観測機器, 2014年10月21日.

小山真人, 静岡新聞, <伊豆半島ジオパーク>36人がジオガイドプロヘー歩, 2014年10月22日.

小山真人, 伊豆新聞, 36人に修了証書, 伊豆市でジオガイド養成講座, 2014年10月22日.

小山真人, 信濃毎日新聞, 御嶽山噴火「噴火が襲う」(5) 異変観測から11分後, 2014年10月22日.

小山真人, 静岡新聞, 御嶽山噴火 27日で1カ月 警戒レベル 運用に課題, 2014年10月25日.

小山真人, 読売新聞静岡版, 富士山噴火への備え 加速, 2014年10月26日.

小山真人, 東京新聞・中日新聞, 伊東、避難計画まだ 市街地や近海で噴火可能性も, 2014年10月27日.

小山真人, 静岡新聞, 原発の火山対策 「問題点」発表へ 静大・小山教授, 2014年10

月 30 日.

小山真人, 共同通信・静岡新聞, 南海トラフ地震 遺跡からの警告-仁和地震: 火山の起こした大洪水, 2014 年 10 月 31 日.

小山真人, 朝日新聞山梨版, 火山防災 意見交換へ 来月、富士吉田など 自治体・研究者, 2014 年 10 月 31 日.

小山真人, としょかん通信 [中高高校生版], 2014 年 11 月号附録, 「富士山 大自然への道案内」, 2014 年 11 月.

小山真人, 時事通信・ウォールストリートジャーナル日本版, 巨大噴火予測「楽観的」=火山学者、川内原発審査を批判—福岡, 2014 年 11 月 2 日.

小山真人, 西日本新聞, 噴火前に核燃料搬出困難 静岡大の小山教授 きょう学会発表, 川内原発の火山対策批判, 2014 年 11 月 2 日.

小山真人, 東京新聞・中日新聞, 川内, 噴火予測「楽観的過ぎる」火山学会、基準見直し提言, 2014 年 11 月 3 日.

小山真人, 中日新聞, 備える 3.11 から, 富士山噴火を考える下: 初の 3 県合同訓練 避難態勢づくりに課題, 2014 年 11 月 3 日.

小山真人, 朝日新聞, 太陽のまちから 福島原発事故を忘れた川内原発再稼働, 2014 年 11 月 4 日.

小山真人, 共同通信・静岡新聞, 南海トラフ地震 遺跡からの警告-仁和地震: 「甲斐路」溶岩流 免れる, 2014 年 11 月 4 日.

小山真人, 共同通信・東京新聞, 富士山の避難対策紹介 フォーラムで噴火対応提案, 2014 年 11 月 6 日.

小山真人, 中日新聞, 活火山の噴火対策 富士山モデル紹介 山梨でフォーラム, 2014 年 11 月 7 日.

小山真人, 毎日新聞山梨版, 火山フォーラム: 静大教授、富士山噴火「前兆出にくい」富士吉田で 840 人参加, 2014 年 11 月 7 日.

小山真人, 静岡新聞, 富士山の噴火対応提案「ジオパーク化で観光両立」山梨でフォーラム, 2014 年 11 月 7 日.

小山真人, 静岡新聞, 伊豆東部, 噴火への備え上: 避難計画急ぐ自治体 御嶽教訓 危機感再び, 2014 年 11 月 7 日.

小山真人, 読売新聞山梨版, 富士山観光と噴火対策 両立議論, 2014 年 11 月 7 日.

小山真人, 静岡新聞, 伊豆東部, 噴火への備え中: 警戒見極め なお課題「89 年」教訓 監視を強化, 2014 年 11 月 8 日.

小山真人, 山梨日日新聞, 富士山突発噴火 どう対応 富士吉田市でフォーラム, 2014 年 11 月 8 日.

小山真人, 共同通信, 川内原発再稼働「宿題、残したまま合格 難題は基準と燃料搬出」, 2014 年 11 月 10 日.

小山真人, ジオルジュ 2014 年後期号, 孤高の山 富士山, 2014 年 11 月 10 日.

小山真人, 産経新聞, 「だから火山学会は寝ないで観測してくれよ」 V S 火山学会、怒り爆発した規制委トップ, 2014 年 11 月 28 日.

小山真人, しんぶん赤旗, 川内原発火山審査一何が問題か (上) あいまいで恣意的になる, 2014 年 12 月 22 日.

小山真人, しんぶん赤旗, 川内原発火山審査一何が問題か (中) 規則性は見かけ上, 2014 年 12 月 23 日.

小山真人, しんぶん赤旗, 川内原発火山審査一何が問題か (下) 被害直視して想定を, 2014 年 12 月 24 日.

小山真人, しずおか保険医新聞, no.371, 新春鼎談 富士山噴火の可能性は 火山の噴火と原発再稼働 小山真人静岡大学教授に聞く, 2015 年 1 月 1 日.

小山真人, 静岡新聞, 時評: 富士山噴火の登山者対策 シェルター頼み 危険★, 2015 年 1 月 7 日.

小山真人, 静岡新聞, 保全活用へ連携 ジオパーク推進協などシンポ 沼津, 2015 年 1 月 11 日.

小山真人, 伊豆新聞, 「ジオでつながる人と地域」資源保全・活用探る-伊豆推進協, 2015 年 1 月 11 日.

小山真人, 朝日新聞静岡版, 演出家×火山学者 対談 宮沢賢治テーマきょう S P A C 講演, 2015 年 1 月 24 日.

小山真人, 週刊朝日, 再稼働一番手 川内原発は日本一危なかった 住民を見捨てた避難計画 地震、火山 大甘な新規制基準, 2015 年 2 月 10 日.

小山真人, 静岡新聞, <伊豆東部火山群>小山真人静岡大教授に聞く, 2015 年 2 月 18 日.

小山真人, 中日新聞, 噴火備え 伊東市が初の避難計画 伊豆東部火山群 安全圏まで徒歩, 2015 年 2 月 18 日.

小山真人, 静岡新聞, 火山学から富士山考察 駿河区 小山教授 (静岡大) が講演, 2015 年 2 月 23 日.

小山真人, TMDC MATE, 富士山噴火の可能性と予知, 2015 年 3 月 1 日.

小山真人, AERA, 3 月 9 日号, リスク社会を生きる リスク最前線で闘う 日本のリスク 50, 2015 年 3 月 2 日.

小山真人, 静岡新聞, 原発の火山影響評価「活断層と同様の基準を」小山静大教授、国会内で講演, 2015 年 3 月 5 日.

小山真人, 朝日新聞静岡版, 広域避難計画を承認, 3 県の富士山防災対策協, 2015 年 3 月 17 日.

小山真人, 毎日新聞山梨版, 富士山防災対策協:「広域避難」了承, 県内 4 エリアに分散, 2015 年 3 月 17 日.

小山真人, 静岡新聞, 世界に誇る要点明確に ユネスコ部長、認定へ助言, 2015 年 3 月 22

日.

小山真人, 伊豆新聞, 沼津市でジオパークシンポ ユネスコ幹部招く, 2015年3月22日.

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオ書籍2冊発行 静岡新聞出版部-トレッキング案内と英語版, 2015年3月28日.

小山真人, 産経新聞静岡版, 防災 訓練に若者巻き込め, 2015年4月9日.

小山真人, 河北新報 (共同通信配信記事、他に西日本新聞、信濃毎日新聞、室蘭民友新聞など), つたえる教訓を未来へ (2) 火山 常に意識し生活を, 2015年4月15日.

小山真人, 静岡新聞, <川内原発差し止め却下>浜岡と想定に大差, 2015年4月23日.

小山真人, 西日本新聞, 「絶対的安全」司法割れる「重大事故確率低い」火山評価 専門家から批判, 2015年4月23日.

小山真人, 静岡新聞, 「噴火なら水蒸気爆発」箱根山 県内専門家機敏対応呼びかけ, 2015年5月7日.

小山真人, 東京新聞, 箱根山 周辺規制 群発地震ハイペース 01年時の倍 水蒸気爆発を警戒, 2015年5月8日.

小山真人, 中日新聞, 地震・爆発数ヶ月は注意 箱根山「御嶽より小規模」と予測, 2015年5月8日.

小山真人, IWJ Independent Web Journal, 【IWJ ブログ】「明らかなごまかしだ」——火山性地震が止まない箱根山 観光客離れを危惧する自治体が用いた「視覚的トリック」に火山学者が苦言, 2015年5月10日.

小山真人, 伊豆新聞, 世界ジオ加盟へ、現地審査リハーサル開始 小山静大教授ら案内, 2015年5月11日.

小山真人, AERA, No.21 (5月18日号), 噴火への備え大丈夫か, 2015年5月11日.

小山真人, 静岡新聞, 時評: 災害リスクを数値化 対策の必要性明確に★, 2015年5月13日.

小山真人, 伊豆新聞, 「箱根山2001年に似る」ジオ講座開講で小山静大教授-まちこん伊東, 2015年5月17日.

小山真人, 朝日新聞北海道版, 震災5年目の教訓 大噴火柏原発は安全か 火山学会、規制委の審査基準を疑問視, 2015年5月21日.

小山真人, 静岡新聞, <箱根山噴火警戒>半径300メートル規制に懸念, 2015年5月23日.

小山真人, 静岡新聞, 1989年噴火の海底火山「手石海丘」3D画像化 下田の海洋調査会社が開発, 2015年5月25日.

小山真人, 朝日新聞, 箱根山「噴火の可能性4%」静岡大、過去のデータ元に推計, 2015年5月27日.

小山真人, 人民日報, 日本大学教授称箱根山火山噴火確率高低, 2015年5月27日.

小山真人, 静岡新聞, 静岡新聞 (朝刊)「伊豆はひとつ」13首長が発信 地元6FM, 合



同企画，2015年5月29日。

小山真人，伊豆新聞，「伊豆はひとつ!」キャンペーン 来月13首長がCM-伊豆のFM6局，  
2015年5月30日。

小山真人，毎日新聞静岡版，「伊豆はひとつ!」呼びかけ 来月中、FM6局 小山真人教授によるジオパーク解説など，2015年5月30日。

小山真人，山梨日日新聞，富士噴火の歴史、防災担当者が学ぶ，2015年5月30日。

小山真人，朝日新聞，(ニュースの本棚) 火山列島 噴火史と実力を知り、減災へ，2015年5月31日。

小山真人，読売新聞，伊豆世界ジオ現地審査 9～11日 堂ヶ島、城ヶ崎など，2015年6月1日。

小山真人，静岡新聞，箱根山火山活動 人的被害確率0.8%未満 噴火自体は4% 静大の小山教授ら，2015年6月3日。

小山真人，神奈川新聞，噴火へ移行「4%」火山シナリオ推計静岡大教授/箱根山，2015年6月6日。

小山真人，毎日新聞，箱根山：「警戒レベル2」1ヶ月 深部の変動続く 地震や噴気は減少，2015年6月6日。

小山真人，伊豆新聞，品切れで第2版 研究成果、情報を一新 ジオマップ「伊東の風景」，2015年6月7日。

小山真人，産経新聞，伊豆半島ジオパーク、GGN加盟へあすから現地調査，2015年6月8日。

小山真人，朝日新聞静岡版，世界的価値認定なるか 伊豆半島ジオパーク 明日から現地調査，2015年6月8日。

小山真人，静岡新聞，ジオパーク現地審査開始 伊豆半島の概要説明，2015年6月9日。

小山真人，静岡新聞，ジオ認定へ「良い感触」現地審査初日 伊豆6ヶ所訪問 ガイドら奮闘「熱意伝える」，2015年6月10日。

小山真人，毎日新聞静岡版，伊豆半島ジオパーク:現地審査始まる 見どころや施設訪ね，2015年6月10日。

小山真人，伊豆新聞，伊豆ジオ、現地審査開始 達磨山で半島衝突説明—世界加盟へ，2015年6月10日。

小山真人，朝日新聞静岡版，ジオパーク認定へ現地審査終了 ガイドのつながり 審査員「感動した」，2015年6月12日。

小山真人，産経新聞，伊豆半島ジオパーク 推進協、認定に手応え 審査終了「ガイドに感動」，2015年6月12日。

小山真人，静岡新聞，ジオパーク現地審査終了 伊豆半島ガイドに「感動」 推進組織体制「説明不足」も，2015年6月12日。

小山真人，読売新聞静岡版，世界ジオ認定に手応え 伊東市長，2015年6月12日。

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆ジオ、世界加盟審査が終了 小山顧問「80点、合格?」, 2015年6月12日.

小山真人, 静岡新聞, コラム湧水 伊豆半島活性化へ ジオパーク活動継続を, 2015年6月17日.

小山真人, 毎日新聞高知版(共同通信配信記事) つたえる: 教訓を未来へ/2 「火山」 小山真人・静岡大教授, 2015年6月19日.

小山真人, 静岡新聞(共同通信配信記事) 南海トラフ地震 遺跡からの警告 永長東海地震、康和南海地震(5)完 列島各地 噴火や大津波, 2015年6月23日.

小山真人, 朝日新聞, 箱根山新たな噴気孔 周辺に土砂降下か 噴火と考えるべき, 2015年6月30日.

小山真人, 読売新聞, 箱根山観光に打撃も 警戒レベル3「夏休み前最悪」「水蒸気爆発」の可能性, 2015年6月30日.

小山真人, 朝日新聞 WEBRONZA, 噴火に地震 日本列島活動期? 不思議な地震 3・11はプレート深部にも影響?, 2015年6月30日.

小山真人, 毎日新聞, いのちを守る防災: 富士山もしもへの対策, 2015年7月1日.

小山真人, 静岡新聞, 箱根山 地元の不安強まる「生活の行方見えない」 土砂災害にも注意 県内識者、梅雨期に警戒感, 2015年7月1日.

小山真人, 中日新聞, 箱根山「未知の段階」 マグマ噴火移行の恐れも, 2015年7月1日.

小山真人, 東京新聞, 遅れた「噴火」判断 箱根山警戒レベル上げ 気象庁、降下物確認でも, 2015年7月1日.

小山真人, 共同通信, 【箱根山の水蒸気噴火】小規模、でも警戒を マグマ活発化の恐れも, 2015年7月1日.

小山真人, 中国新聞(共同通信配信記事) 箱根山噴火の確率4%, 静岡大、活動歴から算出 リスク知る手掛かりに(同記事は7月9日岐阜新聞, 7月14日福井新聞, 7月14日山陰中央新報, 7月20日大分合同新聞), 2015年7月5日.

小山真人, 週刊現代, 専門家が緊急警告 箱根大噴火で1,000人死亡の確率, 2015年7月6日.

小山真人, 神奈川新聞, レベル運用に課題 箱根山、噴火1週間, 2015年7月8日.

小山真人, 山梨日日新聞, 富士山防災 噴火に備える(7) 静岡大学防災総合センター副センター長小山真人教授に聞く, 2015年7月9日.

小山真人, 週刊朝日, 箱根駅伝に暗雲「大涌谷噴火」動き出した日本の地下, 2015年7月7日.

小山真人, 朝日新聞, (耕論) 火山国の私たち 小山真人さん、保立道久さん、服部文祥さん, 2015年7月14日.

小山真人, 毎日新聞群馬版, 火山撮影:「ドローン」が活躍 浅間山・箱根山 状況把握、噴火警戒に期待, 2015年7月18日.

小山真人, 毎日新聞, 火山撮影: 浅間山・箱根山で「ドローン」活躍, 2015年7月19日.

小山真人, 信濃毎日新聞, 活火山登山 心構えは 火山学ぶ動き 登山者らに広がる, 2015年7月27日.

小山真人, 静岡新聞, 「伊豆はひとつ」番組を審議 ボイス・キュー, 2015年7月28日.

小山真人, 日刊工業新聞, 第2部 地球環境特集 日本列島の火山は「活動期」に入ったか? ジオパークで火山学んで備えよう★, 2015年7月31日.

小山真人, 静岡新聞, 防災グッズ 浜松で危機管理展, 2015年8月1日.

小山真人, 静岡新聞, 時評: 富士山が美しい理由 重なった7つの奇跡★, 2015年8月26日.

小山真人, 毎日新聞静岡版, 富士山世界遺産ガイド: 県、養成講座を開始, 2015年9月3日.

小山真人, 静岡新聞, 伊豆半島一体化、前へ 地域振興策を提言 函南, 2015年9月7日.

小山真人, 伊豆新聞, 美しい伊豆創造センター 函南で設立フォーラム, 2015年9月7日.

小山真人, 静岡新聞, 座学や野外研修 ジオガイド養成スタート 伊豆, 2015年9月9日.

小山真人, 伊豆新聞, ガイド目指し38人ジオ推協伊豆市で養成講座開講, 2015年9月9日.

小山真人, 伊豆新聞, 記者コラム=伊豆での活動、ジオに関連, 2015年9月12日.

小山真人, 伊豆新聞, 伊豆半島ジオパーク 世界認定ならず, 2015年9月19日.

小山真人, 静岡新聞, 伊豆半島、世界ジオ先送り 11月までに可否再発表, 2015年9月20日.

小山真人, Yomiuri, Online, 深読みチャンネル 続発する火山噴火…阿蘇山の次は富士山か?★, 2015年9月24日.

小山真人, 毎日新聞高知版(共同通信配信記事) 遺跡からの警告: 南海トラフ編 平安京巨大地震 5止 列島各地で地震や大津波, 2015年10月2日.

小山真人, 伊豆新聞, 総合力で「世界一」に 美しい伊豆創造センター設立記念フォーラム, 2015年10月3日.

小山真人, 伊豆経済新聞, 伊豆・丹那盆地を舞台にした展覧会 トークショーや「お焚き上げ」イベントも, 2015年10月9日.

小山真人, 静岡新聞, 丹那断層モチーフ 対のモニュメント 函南で現代アート展, 2015年10月14日.

小山真人, 静岡新聞, 時評: 箱根山の2015年噴火 火山対策検証の機会★, 2015年10月21日.

小山真人, 読売新聞静岡版, 富士山噴火 予測難しい 火山の現状 小山教授に聞く, 2015年10月24日.

小山真人, 静岡新聞, 伊豆ジオパーク認定、2018年春以降に大幅遅れ, 2015年11月20日.

小山真人, 中日新聞・東京新聞, 伊豆の世界ジオパーク認定、18年春以降か, 2015年11月20日.

小山真人, 伊豆新聞, GGN加盟 最短でも18年4月—伊豆ジオ推協働会長見通し, 2015年11月20日.

小山真人, 毎日新聞静岡版, 世界ジオパーク:伊豆半島ジオパーク加盟、早くも18年 推進協, 2015年11月20日.

小山真人, 朝日新聞静岡版, 伊豆半島ジオパーク保留 年内の認定「無理」 推進協会会長らが見通し, 2015年11月20日.

小山真人, 産経新聞静岡版, 伊豆ジオパーク認定 30年以降に持ち越し ユネスコ「イルカ漁辞退を」, 2015年11月20日.

小山真人, 朝日新聞, 噴火警戒 精度に差 基準 数値ない山も, 2015年11月30日.

小山真人, 静岡新聞, 時評:気象庁の火山監視 予知よりも大切なこと★, 2015年12月17日.

小山真人, 中日新聞(朝刊), 備える3.11から 第122回富士山の噴火対策 シェルター設置に壁 世界遺産の景観阻害 山小屋補強も難しく 静岡大小山教授(火山学)に聞く 防げぬ火砕流、溶岩流, 2015年12月21日.

小山真人, 伊豆新聞, ジオ中央拠点施設 愛称は「ジオリア」伊豆推協臨時総会 世界認定へ努力継続, 2015年12月25日.

小山真人, 読売新聞静岡版, 保留10項目に回答方針 世界ジオ 再申請「来年11月末までに」, 2015年12月25日.

小山真人, 伊豆新聞, ジオガイド養成講座38人全員に修了証書 伊豆推協, 2016年1月13日.

小山真人, 伊豆新聞, 「地質資産で地域振興」静大・小山教授「ジオパーク」解説—伊東・対島中, 2016年1月22日.

小山真人, 静岡新聞, 富士登山の注意点学ぶ 都内でガイダンス 旅行会社など参加, 2016年2月5日.

小山真人, 毎日新聞静岡版, 講演:富士山の日(23日)記念 火山が作った世界遺産 富士宮で静岡大・小山教授, 2016年2月21日.

小山真人, 中日新聞静岡版, 火山が作った世界遺産 静大教授 富士山、構成資産語る, 富士宮, 2016年2月21日.

小山真人, 静岡新聞, 富士山の自然、文化討論 ジオパーク提案も 富士宮, 2016年2月21日.

小山真人, 伊豆新聞, 富士箱根伊豆国立公園80周年祝う 式典で美伊豆の活動報告, 2016年3月7日.

小山真人, 毎日新聞静岡版, 静岡の備え ハザードマップ更新を 小山・静岡大教授に聞く 避難計画修正も必要, 2016年3月9日.

小山真人，静岡新聞，時評：火山防災協議会の役割 国と地域つなぐ場所★，2016年3月10日。

小山真人，朝日新聞静岡版，富士山噴火 県が登山者避難マップ 夏までに周知 課題，2016年3月25日。

小山真人，大坂朝日放送，ワンダーアース-地球はアートの満ちている- 富士山が美しいワケ 2014年4月29日。

小山真人，静岡あさひテレビ，世界ジオパーク認定めざし 伊豆ジオ推進協がプレゼン，2014年4月30日。

小山真人，静岡あさひテレビ，とびっきり静岡，浜岡原発 周辺の火山対策協議，2014年8月6日。

小山真人，NHKテレビ（たっぷり静岡）ならびに静岡民法各局，伊豆半島の世界ジオパークへの推薦決定，2014年8月28日。

小山真人，IWJ，【御嶽山噴火】現在の火山予知の限界「モニタリングで川内原発周辺の巨大噴火を予知するなど夢物語」と火山学者・小山真人氏が緊急直言，2014年9月29日。

小山真人，静岡あさひテレビ，とびっきり静岡，御嶽山と富士山 火山学的特徴は 富士山噴火への備え、教訓にすべきことは（スタジオ生出演），2014年9月29日。

小山真人，NHKテレビ（たっぷり静岡），防災特集：県内の火山の噴火は，2014年9月29日。

小山真人，静岡第一テレビ，〇ごとワイド 富士山への影響・専門家に聞く，2014年9月29日。

小山真人，静岡あさひテレビ，情報局，御嶽山噴火（スタジオ生出演），2014年9月30日。

小山真人，SBS（静岡放送），イブニングアイ，防災最前線 御嶽山噴火，2014年9月30日。

小山真人，静岡あさひテレビ，情報局，御嶽山噴火，2014年9月30日。

小山真人，テレビ朝日，報道ステーション SUNDAY，想定”富士山大噴火”初の合同訓練 舞台裏，2014年10月19日。

小山真人，テレビ静岡，FNN テレビ静岡スーパーニュース，富士山噴火への備え 3県合同訓練の課題は，2014年10月20日。

小山真人，静岡あさひテレビ，とびっきり静岡，検証!富士山噴火避難訓練(2)御嶽山が迫る 課題は？，2014年10月21日。

小山真人，テレビ静岡，FNN テレビ静岡スーパーニュース，富士山噴火への備え・登山者を守る対策は？，2014年10月22日。

小山真人，NHKテレビ（山梨ローカル），火山フォーラムで防災話し合う，2014年11月6日。

小山真人，SBS（静岡放送），イブニングアイ，御嶽山噴火で急浮上の課題 国と自治体で意識の差，2014年11月10日。

小山真人, 静岡あさひテレビ, とびっきり静岡, 御嶽山 県内登山者が語る真実, 2014年11月10日.

小山真人, 静岡あさひテレビ, とびっきり静岡, 御嶽山災害から考える富士山噴火対策の現状と課題, 2014年11月11日.

小山真人, 静岡あさひテレビ, とびっきり静岡, 防災空白地帯を埋めろ (伊豆東部火山群関連部分), 2014年11月13日.

小山真人, テレビ朝日, スーパーJチャンネル, 沈黙3世紀…追跡 富士山噴火“その時”, 2014年11月19日.

小山真人, SBS (静岡放送), 防災特別番組, 富士山鳴動す 火の山の危機と予知, 2014年12月13日.

小山真人, 静岡第一テレビ, news every.しずおか, 御嶽山噴火と富士山噴火対策について, 2014年12月18日.

小山真人, NHKテレビ (たっぷり静岡) 伊豆東部火山群の避難計画案, 2015年2月17日.

小山真人, 静岡朝日テレビ, とびっきり静岡, 伊豆東部火山群避難計画, 2015年2月17日.

小山真人, SBS (静岡放送), イブニングアイ, 防災最前線 どこが噴火するかわからない 伊豆東部噴火避難を検証, 2015年2月25日.

小山真人, 静岡朝日テレビ, とびっきり静岡, 富士山の登山者避難対策, 2015年3月9日.

小山真人, 静岡第一テレビ, 防災特番「富士山 その時～命を守るために何をすべきか～」, 2015年3月28日.

小山真人, SBS (静岡放送), イブニングアイ, 火山活動が活発化 箱根山 県内への影響は?, 2015年5月6日.

小山真人, 静岡第一テレビ, news every.しずおか, 噴火警戒レベル2に 箱根山警戒 富士山は大丈夫か, 2015年5月6日.

小山真人, 静岡あさひテレビ, とびっきり静岡, 噴火警戒レベル2 箱根山 県内影響の可能性低い, 2015年5月8日.

小山真人, NHKテレビ (静岡ローカル), ニュース, ジオパークの現地審査前に確認, 2015年5月17日.

小山真人, 静岡だいいちテレビ, ニュースエブリィ静岡 世界ジオパークへ 審査リハーサル, 2015年5月18日.

小山真人, TBSラジオ, 荻上チキ Session 22, 崎山敏也記者の原発ニュース・スペシャル (探求モード), 2015年5月21日.

小山真人, NHKテレビ (山梨ローカルニュース) 「富士山も同様噴火に備えよ」, 2015年5月29日.

小山真人, 静岡第一テレビ, ニュースエブリィ静岡, 伊豆半島ジオパーク あす現地審査

開始, 2015年6月8日.

小山真人, NHK総合, たっぷり静岡, なるか世界ジオパークの加盟 現地審査ポイント解説, 2015年6月9日.

小山真人, SBSテレビ, イブアイしずおか, 登録へ山場 世界ジオパークで視察, 2015年6月9日.

小山真人, 静岡第一テレビ, ニュースエブリィ静岡 高校生も大役 緊張の現地審査初日は, 2015年6月9日.

小山真人, 静岡あさひテレビ, とびっきり!しずおか, 伊豆半島ジオパーク現地調査, 伊豆の特異性伝える, 2015年6月9日.

小山真人, テレビ静岡, みんなのニュースしずおか, 伊豆 世界ジオパークなるか「最後の関門」現地審査, 2015年6月9日.

小山真人, 静岡第一テレビ, ニュースエブリィ静岡, 伊豆半島ジオパーク世界へ 南伊豆町で現地審査, 2015年6月10日.

小山真人, テレビ静岡, みんなのニュースしずおか, ジオパーク審査2日め関連, 2015年6月10日.

小山真人, NHK総合, たっぷり静岡, 世界ジオパーク現地審査終わる, 2015年6月11日.

小山真人, SBSテレビ, イブアイしずおか, ジオパーク伊豆の現地審査終了 伊豆の悲願実るか 審査員から今後の指摘も, 2015年6月11日.

小山真人, 静岡第一テレビ, ニュースエブリィ静岡 どうなった!?地元ガイド奔走の審査, 2015年6月11日.

小山真人, テレビ静岡, みんなのニュースしずおか, 世界ジオパークへ「伊豆」をどう評価?審査員が会見, 2015年6月11日.

小山真人, 静岡第一テレビ, ニュースエブリィ静岡, 伊豆半島ジオパーク世界認定に向けて 審査員は現地で何を感じた?, 2015年6月15日.

小山真人, SBS(静岡放送)ラジオ, 情報三枚おろし 伊豆半島ジオパークについて, 2015年6月18日.

小山真人, 静岡あさひテレビ, とびっきり!しずおか, 御嶽山の今と富士山噴火対策 防災の現場から(1)火山災害 御嶽山噴火の影響と”備え”, 2015年6月23日.

小山真人, SBSテレビ, イブアイしずおか, 命を守る!富士山噴火への備え 防災最前線 登山シリーズ前に検証 富士山”噴火対策”の現状は, 2015年6月24日.

小山真人, 静岡第一テレビ, ニュースエブリィ静岡, 箱根山「ごく小規模な噴火起きた」噴火警戒レベル3に 火山学の専門家に聞く 今後箱根山はどうか?, 2015年6月30日.

小山真人, SBSテレビ, イブアイしずおか, 箱根山の噴火について, 2015年6月30日.

小山真人, テレビ朝日, 報道ステーション, 箱根山の噴火について, 2015年6月30日.

小山真人, TBSラジオ, 荻上チキ Session 22, 箱根山で小規模噴火、噴火警戒レベル3に引き上げ 山への立ち入りを規制, 2015年6月30日.

小山真人, TBSテレビ, ひるおび, 箱根山の噴火について, 2015年7月1日.

小山真人, 静岡第一テレビ, ニュースエブリィ静岡, 富士山噴火対策 山小屋と初の訓練, 2015年7月15日.

小山真人, SBSテレビ, イブアイしずおか, 登山者への対応目的に 富士山で噴火警戒訓練, 2015年7月15日.

小山真人, 静岡あさひテレビ, とびっきり!しずおか 富士山噴火に備え, 登山者避難を初訓練, 2015年7月15日.

小山真人, NHK総合, おはよう静岡, 噴火から登山者を守れ 富士山の新たな対策, 2015年9月8日.

小山真人, NHK総合(名古屋放送局) 徹底取材"中部の火山" あなたの備えは, 2015年9月11日.

小山真人, テレビ静岡, みんなのニュースしずおか, 伊豆半島世界ジオパーク審査結果関連, 2015年9月18日.

小山真人, 静岡第一テレビ, ニュースエブリィ静岡, 噴火に備える 富士山の現状と課題, 2015年9月25日.

小山真人, NHK総合, ブラタモリ #19 富士山~富士山はなぜ美しい(前編)?~, 2015年10月10日.

小山真人, NHK総合, ブラタモリ #20 富士山の美~富士山はなぜ美しい(後編)?~, 2015年10月24日.

小山真人, NHK総合, ブラタモリ #21 富士山頂~人はなぜ富士山頂をめざすのか?~, 2015年10月31日.

小山真人, SBSテレビ, イブアイしずおか, 富士山噴火を考える, 2015年11月18日.

小山真人, SBSテレビ, イブアイしずおか 世界認定には再申請が必要に, 2015年11月19日.

小山真人, NHK総合, たっぷり静岡, 世界加盟は早くて3年後か, 2015年11月19日.

小山真人, テレビ静岡, みんなのニュースしずおか, 加盟は早くても18年春に, 2015年11月19日.

小山真人, 静岡あさひテレビ, とびっきり!しずおか, 伊豆半島ジオパーク, 世界審査保留理由の一つに「イルカ漁」, 2015年11月19日.

小山真人, 静岡第一テレビ, ニュースエブリィ静岡, 伊豆半島ジオパーク, 「世界」は2018年春か, 2015年11月19日.

小山真人, SBSテレビ, 静岡発そこ知り, 富士山が噴火!?大予測 これが悪魔のシナリオ 科学者が恐れる大災害 火山列島に何が!, 2015年11月23日.

小山真人, SBSテレビ, イブアイしずおか, 富士山にシェルターは有効か 国が噴火避



難場所の手引, 2015年12月1日.

小山真人, SBSテレビ, イブアイしずおか, 防災最前線 富士山噴火の被害は?, 2015年12月9日.

小山真人, TBSテレビ, 報道特集 富士山噴火「最悪のシナリオ」を検証, 2015年12月19日.

小山真人, NHK総合, たっぷり静岡, 世界ジオパーク認定目指す方針, 2015年12月24日.

小山真人, 静岡第一テレビ, ニュースエブリィ静岡, 伊豆半島ジオパーク推進協議会 臨時総会, 2015年12月24日.

小山真人, NHK BS プレミアム, 英雄たちの選択「富士山大噴火 現場指揮官・復興への葛藤」, 2016年3月3日.

小山真人, NHK総合, ローカルニュース, ジオパークミュージアム内覧会, 2016年3月5日.

小山真人, 静岡あさひテレビ, とびっきり!しずおか, 富士山噴火したら・・・県が6つの避難ルート設定, 2016年3月16日.

前田恭伸: 静岡新聞, 東海圏減災研究コンソーシアム開催シンポジウムにて高齢者介護施設の被災シミュレーション結果を解説, 2014年4月26日.

前田恭伸: 静岡新聞, 災害弱者対策主題 14日に防災学講座 講師をつとめる, 2015年3月7日.

前田恭伸: アエラ, 早急に備えを充実させるべきリスク (記事題名「リスク評価を曲げる科学者」), 2015年3月9日.

前田恭伸: 静岡新聞, 原発のリスク評価「技術だけでない」静岡で講演 日本原子力学界秋の大会, 2015年9月11日.

中川和之, ラジオ日本「岩瀬恵子のスマートNEWS」首都直下地震, 2014年4月4日.

中川和之, ラジオ日本「岩瀬恵子のスマートNEWS」台風8号と特別警報, 2014年7月11日.

中川和之, ラジオ日本「岩瀬恵子のスマートNEWS」広島土砂災害と御嶽山噴火, 2014年10月3日.

中川和之, ラジオ日本「岩瀬恵子のスマートNEWS」雪害, 2015年2月13日.

中川和之, ラジオ日本「岩瀬恵子のスマートNEWS」国連防災会議, 2015年3月13日.

中川和之, ラジオ日本「岩瀬恵子のスマートNEWS」台風11号と最近の火山活動, 2015年7月17日.

中川和之, ラジオ日本「岩瀬恵子のスマートNEWS」東日本大震災から5年、ボランティアはいま, 2016年3月4日.

野津憲治, 朝日新聞, 「火山ガス噴出期間見通せず」, 2014年9月30日.

佐藤健, 新聞(地方紙), 河北新報朝刊, 資料提供, 学校防災強化へ推進会議新態勢, 2015

年 4 月 29 日.

佐藤健, 新聞 (地方紙), 河北新報朝刊, 資料提供, 広域防災拠点構想整備手法違い鮮明, 2015 年 5 月 12 日.

佐藤健, 新聞 (地方紙), 岩手日報朝刊, 資料提供, 【陸前高田】自主防災どうけん引震災後初のリーダー研修会, 2015 年 5 月 24 日.

佐藤健, 新聞 (地方紙), 東海新報朝刊, 資料提供, 地域力の重要性再認識震災後初の自主防災リーダー研修, 2015 年 5 月 24 日.

佐藤健, 新聞 (地方紙), 河北新報朝刊, 資料提供, 広域防災拠点の利活用に期待, 2015 年 11 月 1 日.

佐藤健, テレビ, 東北放送, 出演・執筆, 特集シリーズ防災・減災②, 2015 年 11 月 17 日.

佐藤健, 新聞 (地方紙), 中日新聞, 資料提供, 研究者が取り組み紹介豊橋で防災・減災シンポ, 2015 年 12 月 9 日.

佐藤健, 新聞 (地方紙), 河北新報朝刊, 資料提供, 防災教育の在り方探る公開研究会, 2015 年 12 月 10 日.

佐藤健, 新聞 (地方紙), 河北新報朝刊, 資料提供, 地域の防災教育実践自然、歴史の理解重要, 2016 年 1 月 11 日.

土屋 智, 読売新聞朝刊 31 面, 土砂崩れ崩落危険性 県内各地に 日本地すべり学会会長 静大・土屋教授に聞く, 2015 年 2 月 8 日.

土屋 智, 中日新聞朝刊 1 面, 花こう岩風化「まさ土」か 静岡大大学院土屋教授が推測, 2015 年 2 月 3 日.

牛山素行, 県の災害史: 冊子に 古文書の引用や証言 / 奈良, 毎日新聞(奈良), 2014 年 4 月 2 日.

牛山素行, ◎深夜でも避難勧告発令を 京滋など豪雨時の対応遅れ 国、伝達指針見直し 早めの情報提供促す, 京都新聞, 2014 年 4 月 2 日.

牛山素行, リニューアル施設公開ー静岡・地震防災センター, 静岡新聞, 2014 年 4 月 9 日.

牛山素行, 災害理解し対策を 多治見 防災考える講演会, 中日新聞, 2014 年 4 月 23 日.

牛山素行, 津波避難の意識不十分 介護施設被災予測、静大教授が発表ー減災シンポ, 静岡新聞, 2014 年 4 月 26 日.

牛山素行, 災害大国 あすへの備え) 避難所退避、住民の 4% 水害、自治体指示出ても, 朝日新聞, 2014 年 5 月 19 日.

牛山素行, 大雨シーズン間近 避難発令 基準作り急げ 自治体 人手足りず遅れも, 読売新聞, 2014 年 5 月 24 日.

牛山素行, ひまわり 8 号、性能向上 特別警報も特集ー気象白書, 静岡新聞, 2014 年 5 月 28 日.

牛山素行, 津波警戒区域指定に温度差ー県「円滑避難へ早期に」 / 市町「住民理解には時間」, 静岡新聞, 2014 年 6 月 17 日.

牛山素行, どうすれば安全安心: 気象情報の読み方 「大気不安定」で積乱雲や竜巻, 毎日新聞, 2014年6月19日.

牛山素行, 時評=あらためて「避難」を考えるー災害別の対応 理解を, 静岡新聞, 2014年6月25日.

牛山素行, 豪雨と闘う〜「七夕」から40年(下)=災害の危険変わらずー情報集め身の安全を, 静岡新聞, 2014年7月6日.

牛山素行, (いちからわかる!) 気象庁の特別警報、どんな時に出るの?, 朝日新聞, 2014年7月10日.

牛山素行, 台風8号 「何事もなく過ぎて」 避難のお年寄りら不安, 読売新聞, 2014年7月10日.

牛山素行, 特別警報 解除・再発令 “乱発”、混乱も, 産経新聞, 2014年7月10日.

牛山素行, 危険! 豪雨時の田畑見回り 用水路に近づくな/自分の安全第一 死は地域の痛手, 日本農業新聞, 2014年7月10日.

牛山素行, 避難勧告は土石流後 長野1人死亡、過去何度も被害 台風8号, 朝日新聞, 2014年7月11日.

牛山素行, 長野・南木曽の土石流: 直前に豪雨、警報遅れ 県と協議手間取り, 毎日新聞, 2014年7月12日.

牛山素行, ★表層深層★ 特別警報 混乱続き 台風8号 「数十年に一度」の災害 事前察知難しく, 岩手日報・秋田魁新報・東奥日報・信濃毎日新聞・宮崎日日新聞・四国新聞ほか, 2014年7月12日.

牛山素行, 南木曽の土石流 避難勧告新基準適用開始 災害直後、厳しい見直し 頻繁な発令も, 信濃毎日新聞, 2014年7月15日.

牛山素行, 南木曽の土石流: 1週間 経験則通用せず 専門家「少しの異変で避難を」 / 長野, 毎日新聞(長野), 2014年7月17日.

牛山素行, ◎福井豪雨から10年 「命を守る避難」どう実践 福井でシンポ 専門家、被災市民ら300人 情報伝達や心構え助言 手段多く/勧告なくても警戒を, 福井新聞, 2014年7月20日.

牛山素行, 三井住友海上とインターリスク総研、気象災害セミナー開催, 保険毎日新聞, 2014年7月28日.

牛山素行, 〈オピニオン〉「事業継続へ障害をどう乗り越えるか」三井住友海上・インターリスク総研セミナー, 日刊自動車新聞, 2014年7月28日.

牛山素行, 南木曽の土石流 町が避難勧告基準を緩和 「1時間雨量10ミリ」を「20ミリ」に, 信濃毎日新聞, 2014年7月29日.

牛山素行, 神奈川・山北の水難事故: 丹沢3人死亡 危険、中州キャンプ場 専門家驚き 「川の中と同じ」, 毎日新聞, 2014年8月3日.

牛山素行, [論説] 大雨への警戒/増水時の見回りは厳禁, 日本農業新聞, 2014年8月8日.

日.

牛山素行, 不要な見回り避けて 河川・水路事故対策／静岡大・牛山教授が呼び掛け, 日本農業新聞, 2014年8月9日.

牛山素行, 全市避難指示に戸惑い 台風11号、四日市・鈴鹿51万人対象 【名古屋】, 朝日新聞, 2014年8月12日.

牛山素行, 【水平垂直】広島土砂崩れ エリア狭く特別警報発表されず 見直し求める声, 産経新聞, 2014年8月21日.

牛山素行, ★表層深層★ 99年の惨事再び 広島土砂災害 避難勧告 対応遅れる, 岩手日報ほか地方紙各紙, 2014年8月21日.

牛山素行, ■高知地震新聞 震災の教訓生かして 陸前高田市が検証報告, 高知新聞, 2014年8月21日.

牛山素行, 広島土砂災害 避難所 募る不安 「怖くて帰れない」, 読売新聞, 2014年8月22日.

牛山素行, 広島土砂災害 また雨 二次災害警戒 迫る72時間 捜索難航 新たに避難指示 不明52人に, 中日新聞, 2014年8月22日.

牛山素行, [論点スペシャル] 広島土砂災害, 読売新聞, 2014年8月23日.

牛山素行, 広島土砂災害 複合要因で最大級被害に, 産経新聞, 2014年8月24日.

牛山素行, 防災意識の向上訴え 江津と島根県邑南 豪雨1年で講演会, 中国新聞, 2014年8月24日.

牛山素行, 広島土砂災害 年1000回発令、土砂警戒情報の役割9割「?」, 産経新聞, 2014年8月26日.

牛山素行, 運用1年基準巡り混乱も、特別警報「正確な知識を」、「発表までは安全」誤解, 日本経済新聞, 2014年8月30日.

牛山素行, 現地視察の牛山素行教授に聞く 静大防災総合センター 情報収集でも自助、共助ー広島土砂災害, 静岡新聞, 2014年8月30日.

牛山素行, 運用開始1年、「特別警報」に課題 局地的豪雨には対応できず, 産経新聞, 2014年8月30日.

牛山素行, 特別警報 1年で4件 解除後に再発表 混乱も, 読売新聞, 2014年8月31日.

牛山素行, 大雨、土砂災害 心構えは\*自らも情報収集、安全な避難路の把握を, 北海道新聞, 2014年8月31日.

牛山素行, 地域の災害知って 静大総合防災センター牛山教授が講演ー下田, 伊豆新聞, 2014年9月1日.

牛山素行, 県内の土砂災害避難勧告発令基準 地形・土質、設定難しさも, 信濃毎日新聞, 2014年9月2日.

牛山素行, 土砂災害:警戒区域を考慮せず 自治体の半数、避難勧告発令で, 毎日新聞, 2014

年 9 月 3 日.

牛山素行, 3 割が防災専任職員なし 静岡大が市区町村調査, 共同通信・西日本新聞ほか  
地方紙各紙, 2014 年 9 月 3 日.

牛山素行, ◎ 3 割で防災専任職員ゼロ = 市区町村アンケート調査 - 静岡大, 時事通信, 2014  
年 9 月 3 日.

牛山素行, 防災専任職員、市区町村の 3 割不在 小規模自治体は兼任で対応, 産経新聞,  
2014 年 9 月 4 日.

牛山素行, 避難勧告「積極的に」 8 割 防災担当不在は 3 割 - 牛山静岡大教授 全国自治体  
調査, 静岡新聞, 2014 年 9 月 4 日.

牛山素行, 月内の最終決定目指す 土砂災害対策も課題 - 下田市新庁舎建設, 静岡新聞,  
2014 年 9 月 5 日.

牛山素行, 県と専用回線結ぶ・電話でも二重確認 / 情報見落とし防げ、鹿児島県内自治体・  
災害対策 = 担当職員少なく不安も, 南日本新聞, 2014 年 9 月 8 日.

牛山素行, 港区に 118カ所急傾斜地 都会に潜む危険箇所、東京に 3700 超, AERA,  
2014 年 9 月 8 日.

牛山素行, てんでんこの先に 災害避難を考える / 警戒区域 活用不十分 / 豪雨時の  
避難勧告 「早めの発令」 慎重 / 静岡大自治体調査 / <面名 = 総合>, 神奈川新聞,  
2014 年 9 月 8 日.

牛山素行, 防災・減災奈良: 奈良で「防災講演会」 歴史生かし未来へ 専門家 3 人講演、  
200 人が参加 / 奈良, 毎日新聞, 2014 年 9 月 10 日.

牛山素行, 広島土砂災害: 細密な予測、不活用指摘 「何があったか整理を」 - 市の初  
動検証部会 / 広島, 毎日新聞, 2014 年 9 月 12 日.

牛山素行, 道央集中豪雨 \* 早い勧告 生かされたか \* 札幌市、新基準で対応 \* 避難所開設に  
遅れも, 北海道新聞, 2014 年 9 月 12 日.

牛山素行, 防災計画の「古さ」 批判 広島市の検証部会 広島土砂災害 避難の促し方焦  
点, 中国新聞, 2014 年 9 月 12 日.

牛山素行, 情報膨大 行政後手に 広島土砂災害 初動対応 専門家育成訴える声, 岩手  
日報ほか地方紙各紙(共同配信), 2014 年 9 月 21 日.

牛山素行, 論 自主防災組織 論説委員・高橋清子 住民が自ら動いてこそ, 中国新聞,  
2014 年 9 月 25 日.

牛山素行, クローズアップ 2014: 御嶽山死者、戦後最悪に 小規模噴火で、なぜ 季節  
や時間帯、重なった不運, 毎日新聞, 2014 年 10 月 2 日.

牛山素行, 台風、首都圏に傷痕 土砂崩れ・浸水、神奈川で深刻被害, 朝日新聞, 2014 年  
10 月 7 日.

牛山素行, 台風 18 号、割れた避難勧告 4 自治体が発令、土砂災害警戒情報は 21 /  
東京都, 朝日新聞, 2014 年 10 月 7 日.

牛山素行, 台風 3 人死亡 4 人不明 18 号 首都圏を横断 愛知・三重で 6 人軽傷＝中部, 読売新聞, 2014 年 10 月 7 日.

牛山素行, 避難勧告ばらつき 静岡、ピーク過ぎ 浜松「空振り恐れず」－台風 18 号県内横断, 静岡新聞, 2014 年 10 月 7 日.

牛山素行, 運休判断 JR 東海「前日」 私鉄は「始発前」, 中日新聞, 2014 年 10 月 7 日.

牛山素行, 台風 18 号: 静岡市、対応後手後手 ピーク後、避難勧告 部署間の連携不足、情報発信・収集に課題 / 静岡, 毎日新聞, 2014 年 10 月 10 日.

牛山素行, 計画にない運用、専門家から指摘 土砂災害、市の検証部会 / 広島県, 朝日新聞, 2014 年 10 月 12 日.

牛山素行, 緊急メール発信を再検討 広島土砂災害で市検証部会 域外へも通知で発信せず 「それでは使えぬ」の声相次ぐ, 中国新聞, 2014 年 10 月 12 日.

牛山素行, 御嶽山噴火: 「噴火警戒レベル 1＝安全」誤解 専門家「0」導入求める 気象庁も見直し検討, 毎日新聞, 2014 年 10 月 15 日.

牛山素行, 県内 1200 人避難「史上最多」 18 号教訓 市町、早めの判断－台風 19 号, 静岡新聞, 2014 年 10 月 15 日.

牛山素行, 島の復興、信じて前へ 伊豆大島土石流災害 1 年, 朝日新聞, 2014 年 10 月 16 日.

牛山素行, 広島土砂災害を追う 第 1 部 残された課題 < 3 > 避難勧告に慣例の壁 区長不在中で決断できず, 中国新聞, 2014 年 10 月 17 日.

牛山素行, 台風避難勧告: 対応迷い 人口 370 万横浜「逃げ場少ない」慎重 17 万人の鎌倉「避難は少数」積極的, 毎日新聞, 2014 年 10 月 25 日.

牛山素行, 集中豪雨など学ぶ 富山市で防災気象講演会, 北國新聞, 2014 年 10 月 29 日.

牛山素行, 専門家「2 時間前に可能」 土砂災害、広島市の避難勧告判断 検証部会会合 / 広島県, 朝日新聞, 2014 年 10 月 30 日.

牛山素行, 減災条例制定へ 行政支援の素案 検討委初会合＝広島, 読売新聞, 2014 年 10 月 30 日.

牛山素行, 減災運動: 災害時の行動を条例に 検討委、初会合 / 広島, 毎日新聞, 2014 年 10 月 30 日.

牛山素行, ハザードマップ作製・防災メール登録促進 具体策めぐり意見交換 広島県「災害死ゼロ」検討委初会合, 中国新聞, 2014 年 10 月 30 日.

牛山素行, 午前 2 時半に「避難勧告の判断できた」 広島土砂災害 雨量データもとに専門家指摘 市の避難対策等検証部会, 中国新聞, 2014 年 10 月 30 日.

牛山素行, 備えや避難法議論 県が減災へ条例、検討委発足 / 広島県, 朝日新聞, 2014 年 10 月 31 日.

牛山素行, 原発立地と津波 調査遅れ指摘も 敦賀で防災シンポ, 中日新聞, 2014 年 11 月 3 日.

牛山素行, 避難勧告の在り方学ぶ 県 首長ら対象にセミナー, 高知新聞, 2014 年 11 月 8 日.

牛山素行, 災害リスクの事前点検「大切」 富士見で静岡大教授が講演, 信濃毎日新聞, 2014 年 11 月 21 日.

牛山素行, 警戒区域には前もって勧告も 広島土砂災害の避難検証部会 最終報告へ議論, 中国新聞, 2014 年 11 月 24 日.

牛山素行, 広島土砂災害: 避難対策、在り方議論 専門家ら、市初動対応検証部会 / 広島, 毎日新聞, 2014 年 11 月 24 日.

牛山素行, 「発令対象 細かく」 広島土砂災害、検証部会で提案 / 広島県, 朝日新聞, 2014 年 11 月 24 日.

牛山素行, 避難「動き方発信すべき」 広島市 対策検証部会で指摘=広島, 読売新聞, 2014 年 11 月 25 日.

牛山素行, 復興祈念公園有識者委 基本計画、検討の方向性示す, 東海新報, 2014 年 11 月 26 日.

牛山素行, 地域を把握し平時に準備を / 石垣 牛山氏が防災講演, 琉球新報, 2014 年 11 月 29 日.

牛山素行, 自然災害に備えよう / 石垣 研究成果や事例学ぶ, 沖縄タイムス, 2014 年 11 月 29 日.

牛山素行, 適切な勧告時間、結論記さぬ方針 土砂災害検証部会 / 広島県, 朝日新聞, 2014 年 12 月 8 日.

牛山素行, 避難の難しさ 理解深める一島田で防災フォーラム, 静岡新聞, 2014 年 12 月 22 日.

牛山素行, 発表自治体 4 割で土砂災害 浸水半数、道路損壊 63% 記録的短時間大雨情報-静岡大など調査, 静岡新聞ほか地方紙各紙(共同配信), 2014 年 12 月 24 日.

牛山素行, 土砂災害広島市検証、部局横断体制を提言 危機管理見直し強調 / 広島県, 朝日新聞, 2014 年 12 月 25 日.

牛山素行, 津波犠牲、市街地で割合高く 静岡大、東日本大震災を分析, 朝日新聞(全国), 2015 年 1 月 9 日.

牛山素行, 防災フェロー講座継続 人材活用し内容充実-静岡大中心に来年度, 静岡新聞, 2015 年 1 月 13 日.

牛山素行, 「多数の命」どう守る 危機意識 施設側に迫る-宮城・教習所津波訴訟, 静岡新聞ほか地方紙各紙(共同配信), 2015 年 1 月 14 日.

牛山素行, 故郷へのまなざし(5) = 静岡大防災総合センター・牛山素行さん 地元で起き得る災害、知って, 信濃毎日新聞, 2015 年 1 月 15 日.

牛山素行, 下諏訪町第 1 区「防災計画」作りへ 危険箇所を現地視察 言い伝えや住民体験を反映, 信濃毎日新聞, 2015 年 1 月 27 日.

牛山素行, 防災情報伝達、課題検証 昨年の台風18号事例ー静岡連絡会, 静岡新聞, 2015年2月4日.

牛山素行, 気象庁ツイッター: 防災情報はつぶやかない 「やる意味ない」批判次々, 毎日新聞(全国), 2015年2月5日.

牛山素行, 避難に災害情報活用 土岐市で地域防災講演会, 岐阜新聞, 2015年2月15日.

牛山素行, 防災へ 各地で講演会, 中日新聞, 2015年2月15日.

牛山素行, 意識と行動の落差鮮明 防災世論調査 避難促す手段課題 【識者の見方】, 中国新聞ほか地方紙各紙, 2015年3月1日.

牛山素行, 自然災害の研究発表 牛山静岡大教授ら講演ー静岡, 静岡新聞, 2015年3月8日.

牛山素行, 時評=東日本大震災 私の教訓ー嫌われても対策発信, 静岡新聞, 2015年3月11日.

牛山素行, ★忘れない 震災4年★ 遺族アンケート 回答分析編(下) 津波への意識変化 堤防越える/減少 すぐに避難/維持, 岩手日報, 2015年3月12日.

牛山素行, 津波予測「漏れ」防ぐ新手順 気象庁 同時多発の地震に対応, 読売新聞, 2015年5月3日.

牛山素行, <「備え」の点検>日本海中部地震から32年(下) [豪雨災害] 住民自ら情報収集を, 秋田魁新報, 2015年5月28日.

牛山素行, 災害時の情報収集 データ放送活用を 総合通信局セミナー, 読売新聞, 2015年6月25日.

牛山素行, 災害大国 あすへの備え 孤立化 どう乗り切る, 朝日新聞, 2015年6月29日.

牛山素行, 時評 豪雨災害 犠牲減らすには 実態把握して対策を, 静岡新聞, 2015年7月2日.

牛山素行, 話題を追って=大雨で避難勧告2回ー長野市安茂里 悩みつつ残った人も 普段から危険箇所把握を, 信濃毎日新聞, 2015年7月3日.

牛山素行, 九州7県 豪雨、台風「避難1%」 「迅速な勧告」動かぬ市民 広範囲、危機感伝わらず, 西日本新聞, 2015年7月11日.

牛山素行, [論説] 広島土砂災害1年 地域防災力は大丈夫か, 日本農業新聞, 2015年8月19日.

牛山素行, 備える: 広島土砂災害1年/中 模索続く避難勧告, 毎日新聞, 2015年8月20日.

牛山素行, ★表層深層★ 避難情報 悩む自治体 広島土砂災害1年 時間、場所 どう適切に, 岩手日報他地方紙各紙, 2015年8月21日.

牛山素行, 「危険箇所の事前把握を」 防災テーマに講演会 広島市中区, 中国新聞, 2015年8月27日.



牛山素行, [防災の知恵] 記録的短時間大雨情報 土砂・浸水 災害発生に直結＝愛知, 読売新聞, 2015年9月3日.

牛山素行, (時時刻刻) 豪雨の帯、居座る 鬼怒川決壊「あまりにも水量多い」, 朝日新聞, 2015年9月11日.

牛山素行, 安全確保へ 地域特性頭に 静大防災総合センター・牛山素行教授＝静岡, 読売新聞, 2015年9月11日.

牛山素行, 豪雨1年 防災見直し\*道内自治体\*警報周知へ対策強化, 北海道新聞, 2015年9月11日.

牛山素行, 「洪水警戒区域 必要」 静岡大・牛山教授－鬼怒川決壊, 静岡新聞, 2015年9月11日.

牛山素行, クローズアップ2015: 関東・東北豪雨 遅すぎた避難指示, 毎日新聞, 2015年9月13日.

牛山素行, 東日本豪雨 浸水想定周知足りず 専門家「ハザードマップの理解促進必要」, 産経新聞, 2015年9月13日.

牛山素行, 豪雨、遅れた避難指示 決壊後に発令、謝罪 茨城・常総, 朝日新聞, 2015年9月15日.

牛山素行, 濁流 南の低地へ 東日本豪雨1週間＝特集, 読売新聞, 2015年9月17日.

牛山素行, 時評 案外奥が深い「降水量」 捉えにくい「激しさ」, 静岡新聞, 2015年9月17日.

牛山素行, 豪雨被害 利根川・荒川が氾濫したら…首都圏100万～200万人 被災の恐れ, 読売新聞, 2015年9月20日.

牛山素行, 御嶽山噴火きょう1年 支え合い、手を携え 識者2氏に聞く, 信濃毎日新聞, 2015年9月27日.

牛山素行, 各市町データ検討を一牛山教授(静岡大), 静岡新聞, 2015年10月3日.

牛山素行, 「発表待たず、住民は早めの行動を」 静岡大の牛山教授が講演 自治体担当者ら災害対応を学ぶ, 秋田魁新報, 2015年10月31日.

牛山素行, 水害時の対応素早く 岩手河川国道事務所 首長らにセミナー, 岩手日報, 2015年11月19日.

牛山素行, 時評 自治体防災部署 厳しい立場－人材の育成は不可欠, 静岡新聞, 2015年11月21日.

牛山素行, 震災の教訓つなぐ 静岡で復興フォーラム 地域超え、課題共有, 岩手日報, 2015年12月19日.

牛山素行, ★てんでんこ 未来へ★ 遺族の声から 教訓どう伝え、行動, 岩手日報, 2016年1月8日.

牛山素行, てんでんこ 認知度に地域差 「忘れない」遺族アンケート 陸前高田低く36.8% 宮古、大船渡50%超 大震災前 被災体験影響か, 岩手日報, 2016年1月

8日.

牛山素行, [検証危機対応力 阪神大震災21年] (中) 専門職 自治体で格差 (連載), 読売新聞, 2016年1月15日.

牛山素行, 防災人材育成に手応え 有料化で出願減懸念一県と静大「フェロー講座」6期目, 静岡新聞, 2016年1月16日.

牛山素行, 時評=自然災害に伴う犠牲一人ごとでない責任論, 静岡新聞, 2016年1月20日.

牛山素行, 危険度と切迫度明確化 防災気象情報の変更点説明一静岡气象台, 静岡新聞, 2016年1月22日.

牛山素行, 災害時激務: どう解消 鬼怒川決壊の茨城・常総市職員、平均残業139時間, 毎日新聞, 2016年1月22日.

牛山素行, 太田川・原野谷川事前防災計画 県の行動素案を検討一袋井, 静岡新聞, 2016年2月4日.

牛山素行, ★企画特集★ とともに築く復興と備え 静岡、盛岡で県フォーラム, 岩手日報, 2016年2月6日.

牛山素行, 沼津市: 海岸近くの人口流出 震災後に傾向強まる 静大と調査 /静岡, 毎日新聞, 2016年3月5日.

牛山素行, 薄れる「怖さ」踏まえ対策, 岩手日報, 2016年3月10日.

牛山素行, 「想定外想定して」震災アンケート研究者の警句, 静岡新聞, 2016年3月20日.

牛山素行, 防災フェロー講座、8人修了一県と静岡大が授与式, 静岡新聞, 2016年3月21日.

牛山素行, 特別警報出たら「一人一人が判断すべき」, NHK テレビ「おはよう日本」, 2014年4月7日.

牛山素行, 内閣府の「避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成ガイドライン」について, NHK ラジオ第一放送(全国)NHK ジャーナル, 2014年4月15日.

牛山素行, 国土地理院の避難所記号制定についてのコメント, NHK テレビ「ニュースウォッチ9」, 2014年4月24日.

牛山素行, 特集 ガイドライン市町村は, NHK テレビ「ほっとイブニング」(東海3県), 2014年6月4日.

牛山素行, 大雨災害対策, NHK ラジオ第一放送(長野)信州防災ラジオ「大雨災害に備える」, 2014年6月4日.

牛山素行, 平成18豪雨災害に学ぶ①, NHK テレビ「イブニング信州」(長野県内), 2014年6月10日.

牛山素行, 平成18豪雨災害に学ぶ②, NHK テレビ「イブニング信州」(長野県内), 2014年6月11日.

牛山素行, 「土砂災害一刻も早く避難を」, NHK テレビ「おぼんですいわて」, 2014年7月

9日.

牛山素行, 南木曾町の土石流災害などについて, NHK テレビ「首都圏ネットワーク」, 2014年7月10日.

牛山素行, 台風に伴う特別警報について, TOKYO FM「タイムライン」, 2014年7月10日.

牛山素行, 台風8号の特別警報などについて, NHK ラジオ第一放送(全国)NHK ジャーナル, 2014年7月10日.

牛山素行, 台風に伴う特別警報についてなど, TBS テレビ「報道特集」, 2014年7月12日.

牛山素行, 防災気象情報のレベル化に向けて, NHK テレビ「視点・論点」, 2014年7月23日.

牛山素行, 豪雨災害の実態から何ができてきたのか?, TBS ラジオ 荻上チキ・Session-22, 2014年8月11日.

牛山素行, 広島豪雨災害について, テレビ東京「NEWS アンサー」, 2014年8月20日.

牛山素行, 広島豪雨災害について, NHK ラジオ第一放送(全国)NHK ジャーナル, 2014年8月20日.

牛山素行, 広島豪雨災害について, テレビ朝日「報道ステーション」, 2014年8月20日.

牛山素行, 広島豪雨災害について, TBS ラジオ 荻上チキ・Session-22, 2014年8月20日.

牛山素行, 複数箇所同時多発 何が起きた? 専門家と現場検証, テレビ東京「NEWS アンサー」, 2014年8月21日.

牛山素行, 広島豪雨災害について, TOKYO FM「タイムライン」, 2014年8月21日.

牛山素行, 広島豪雨災害について, 静岡朝日テレビ「とびっきりしずおか」, 2014年8月21日.

牛山素行, 広島豪雨災害について, TBS「あさチャン!」, 2014年8月22日.

牛山素行, 広島豪雨災害について, テレビ朝日「ワイド!スクランブル」, 2014年8月22日.

牛山素行, 広島豪雨災害について, テレビ静岡「テレビ静岡スーパーニュース」, 2014年8月22日.

牛山素行, 土砂災害 現地で見えたものは, NHK テレビ「NEWS WEB」, 2014年8月22日.

牛山素行, 防災情報をどう伝えるか. 新・週刊フジテレビ批評, フジテレビ, 2014年8月23日.

牛山素行, 広島豪雨災害について, 広島ホームテレビ 報道特別番組, 2014年8月23日.

牛山素行, 広島豪雨災害について, NHK テレビ「情報まるごと」, 2014年8月27日.

牛山素行, 広島土砂災害. 現地取材から見てきたこと, TBS ラジオ 荻上チキ・Session-22,

2014年8月28日.

牛山素行, 特別警報一年 課題は?, NHK ラジオ第一放送(全国)NHK ジャーナル,2014年8月29日.

牛山素行, 静岡県内の真砂土と土砂災害について, NHK「たっぷり静岡」, 2014年8月29日.

牛山素行, 命守るための避難～福井豪雨からの教訓～(公開収録のパネルディスカッション), NHK テレビ(福井), 2014年8月31日.

牛山素行, 防災の日特集, NHK テレビ「情報まるごと」, 2014年9月1日 スタジオ生出演.

牛山素行, 広島土砂災害レポート, NHK テレビ「あさいち」, 2014年9月3日.

牛山素行, 市区町村の防災についてのアンケート結果について, SBS 静岡放送「イブアイしずおか」, 2014年9月3日.

牛山素行, 静岡県内で起こりうる土砂災害と対策, 静岡朝日テレビ「とびっきりしずおか」, 2014年9月4日.

牛山素行, 土砂災害・避難勧告 自治体44%超が「警戒区域」未考慮 静岡大調査, NHK テレビ「おはよう日本」, 2014年9月4日.

牛山素行, 豪雨・台風からどう身を守るか, NHK テレビ「東海北陸スペシャル」(東海北陸のみ放送), 2014年9月5日.

牛山素行, 大雨・台風 災害リスクにどう備える?, NHK テレビ「週刊ニュース深読み」, 2014年9月6日.

牛山素行, 都市を襲う土砂災害 ～広島の教訓をどういかす～, NHK テレビ「クローズアップ現代」, 2014年9月9日.

牛山素行, 広島・土砂災害で検証部会 専門家 改善点の早期実現を 他地域の教訓にも, NHK テレビ定時ニュース, 2014年9月11日.

牛山素行, 相次ぐ記録的な大雨, NHK テレビ「NEWS WEB」, 2014年9月11日.

牛山素行, 札幌市での9月11日の避難勧告について, NHK テレビ「ほっとニュース北海道」, 2014年9月12日.

牛山素行, 広島豪雨災害 住宅購入に潜むリスク, NHK テレビ「お好みワイドひろしま」, 2014年9月12日.

牛山素行, 陸前高田市震災検証についてのコメント, TBS「報道特集」, 2014年9月13日.

牛山素行, 命を守るために ～土砂災害1か月 被災地からの報告～, NHK テレビ「プライムS」(中国地方のみ放送), 2014年9月19日.

牛山素行, 「“異常気象” 身近に迫る危機 一命・暮らしを守るために」, NHK テレビ「金曜 eye」, 2014年9月26日.

牛山素行, 台風18号接近時の避難勧告等について, TBS ラジオ 荻上チキ・Session-22, 2014年10月6日.

牛山素行, 台風 18 号接近時の避難勧告等について, NHK テレビ「ニュースウォッチ 9」,  
2014 年 10 月 6 日.

牛山素行, 台風 18 号災害についての現地調査コメント, 静岡あさひテレビ とびっきり!  
しずおか,2014 年 10 月 7 日.

牛山素行, 台風 18 号災害についての現地調査コメント, テレビ静岡「テレビ静岡スーパー  
ニュース」, 2014 年 10 月 7 日.

牛山素行, 台風 18 号災害についての現地調査コメント, SBS 静岡放送「イブアイしずお  
か」,2014 年 10 月 7 日.

牛山素行, 広島市土砂災害犠牲者発生状況についての聞き取り調査, NHK テレビ「お好み  
ワイドひろしま」, 2014 年 10 月 21 日.

牛山素行, 検証 静岡市の避難勧告, SBS 静岡放送「イブアイしずおか」, 2014 年 10 月  
22 日.

牛山素行, 両副区長 勧告判断の経緯説明, NHK テレビ「お好みワイドひろしま」, 2014  
年 10 月 29 日.

牛山素行, 減災に向け専門家らが初会合, NHK テレビ「お好みワイドひろしま」, 2014 年  
10 月 29 日.

牛山素行, 土砂災害検証部会 「避難勧告の判断基準見直しを」, TSS スーパーニュース,  
2014 年 10 月 29 日.

牛山素行, 土砂災害対応検証部会 来月 7 日中間報告, RCC 中国放送, 2014 年 10 月 29  
日.

牛山素行, 「みんなで減災」検討委 初会合, RCC 中国放送, 2014 年 10 月 29 日.

牛山素行, 国土強靱化計画で専門家が意見, NHK テレビ ニュース(東海圏), 2015 年 2 月  
5 日.

牛山素行, 風水害の防災についてのコメント, NHK ラジオ第一放送(高知) ラジオ防災特  
番「南海地震に備えちょき」,2015 年 2 月 27 日.

牛山素行, 大雨の季節前に「防災特集～土砂災害への備え」, NHK 「たっぷり静岡」,2015  
年 4 月 20 日.

牛山素行, “雨の降り方” 注意の季節に, NHK ニュースウォッチ 9, 2015 年 6 月 12 日.

牛山素行, 教訓から学ぶ 奈良の防災, 奈良テレビ「奈良!そこが知りたい」, 2015 年 6  
月 20 日.

牛山素行, 防災の現場から (3) 大雨・台風 住民の命を守る避難勧告の課題, 静岡あさ  
ひテレビ とびっきり静岡, 2015 年 6 月 25 日.

牛山素行, どう出す避難勧告 模索する自治体, NHK テレビ「ニュースウォッチ 9」, 2015  
年 8 月 19 日.

牛山素行, 広島豪雨災害から 1 年を迎えてのコメント, RCC 中国放送「イマなまっ!×ニ  
ュース 6 知る・防ぐ豪雨災害」, 2015 年 8 月 20 日.

牛山素行, 広島豪雨災害から1年を迎えてのコメント, TSS テレビ新広島「TSSみんなのテレビ 広島土砂災害から一年〜つなぐ〜」, 2015年8月20日.

牛山素行, 実効性のある避難勧告を 新しい試み始めた三重県に学ぶ, 静岡あさひテレビ とびっきり!しずおか, 2015年9月2日.

牛山素行, 鬼怒川の堤防決壊・静岡は?, SBS(静岡放送)ラジオ「情報3枚おろし」, 2015年9月11日.

牛山素行, 拡大した大雨被害, NHK テレビ「特報首都圏」, 2015年9月11日.

牛山素行, 北関東・東北豪雨災害関係, NHK ラジオ第一放送(全国)NHK ジャーナル, 2015年9月11日.

牛山素行, 栃木茨城宮城豪雨関係、テレビ朝日「報道ステーション」、2015年9月11日.

牛山素行, 鬼怒川氾濫 どう避難する?, 毎日放送ラジオ「ネットワーク1・17」, 2015年9月14日.

牛山素行, 関東・東北水害関連情報, NHK テレビ「あさいち」, 2015年9月14日.

牛山素行, 堤防決壊 その時住民は,NHK テレビ「クローズアップ現代」, 2015年9月14日.

牛山素行, 北関東・東北豪雨災害関係, NHK テレビ「たっぷり静岡」, 2015年9月14日.

牛山素行, 北関東・東北豪雨災害関係, 静岡あさひテレビ とびっきり!しずおか, 2015年9月14日.

牛山素行, 茨城県・常総市の豪雨災害、取材報告 荻上チキが見た、聴いた、現場の声, TBS ラジオ 荻上チキ・Session-22, 2015年9月15日.

牛山素行, 関東・東北豪雨災害から二週間。あの時どうした?あその後どうした?, K-Mix(静岡エフエム放送) おひるま協同組合, 2015年9月24日.

牛山素行, 適切な避難行動, 静岡第一テレビ「地震防災チェック」, 2015年10月3日.

矢守克也「流行語大賞:防災風」(連載コラム:現代のことば) 京都新聞 (2015年12月24日).

矢守克也「夜間防災マップ作りはじまる」 NHK ニュース「こうち情報いちばん」(2015年9月28日).

矢守克也「夜間避難訓練」(連載コラム:現代のことば) 京都新聞 (2015年5月1日).

矢守克也「夜間避難を学ぶ小学生が提言」 NHK ニュース高知 (2015年7月11日).

矢守克也「夜間マップへ危険箇所確認」 NHK ニュース「おはよう四国」 (2015年10月3日).

矢守克也「夜間マップへ危険箇所まとめる」 NHK ニュース「こうち情報いちばん」 (2015年9月29日).

矢守克也「夜の避難 5分が命取り」高知新聞 (2015年2月18日).

矢守克也「夢持って:阪神・淡路経験の女性 岩手の児童にエール」 神戸新聞 2014年3月11日.

矢守克也「未来を思い描いて」産経新聞 2014年3月18日.

矢守克也「防災特集:スマホアプリが“津波避難”を変える」NHK ラジオジャーナル(2015年9月2日).

矢守克也「防災の知恵:企業・自治体開発PR」読売新聞(2015年6月18日).

矢守克也「防災ゲーム通じ価値観共有」産経新聞(2015年1月14日).

矢守克也「方向転換避難訓練」産経新聞(2014年5月20日付).

矢守克也「変わる防災訓練」NHK ニュースおうみ発610 2014年6月26日放送.

矢守克也「備えあれば憂いなし-今日から備える」産経新聞(2015年1月16日).

矢守克也「避難率アップに挑む」朝日新聞(2014年5月19日).

矢守克也「避難準備情報の課題」NHK ニュースほっと関西(2015年7月21日).

矢守克也「避難の『常識』見直しも」読売新聞(2014年5月31日付).

矢守克也「被災者自ら語り継ぐ」読売新聞(2015年1月16日).

矢守克也「被害想定 国と府県で格差」読売新聞 2014年4月27日.

矢守克也「日本海沿岸:津波への備えは?」NHK 総合テレビ「京いちにち」(京都クローズアップ) (2015年3月13日).

矢守克也「日本海沿岸:津波への備えは?」NHK 総合テレビ「ニューステラス関西」(2015年3月17日).

矢守克也「二つの短歌と巨大津波」(連載コラム:現代のことば)京都新聞(2015年3月3日).

矢守克也「南海トラフ地震 国・自治体 なぜ想定に差」中日新聞(2014年5月31日付).

矢守克也「津波避難訓練アプリで実験」NHK ニュース高知「こうち情報いちばん」(2015年6月29日).

矢守克也「津波避難訓練 スマホで気軽に」京都新聞(2015年10月15日).

矢守克也「津波避難アプリ本格実験」NHK ニュース「おはよう四国」(2015年8月31日).

矢守克也「津波避難 命山 各地に」読売新聞(2015年9月16日).

矢守克也「津波をスマホで可視化:京大開発、初の実証実験」共同通信配信(京都新聞、産経新聞、河北新報、京都新聞、四国新聞、西日本新聞、中日新聞、千葉日報、徳島新聞、下野新聞ほか)(2015年3月2日).

矢守克也「津波に向き合う高校生」NHK 静岡ニュース「たっぷり静岡」(2015年6月24日).

矢守克也「津波てんでんこ四つの意味提唱」神戸新聞 2014年3月6日.

矢守克也「津波で2000人超逃げ遅れのおそれ」NHK ニュース「おはよう日本」 2014年5月9日.

矢守克也「地震体験装置と電光表示板」(連載コラム:現代のことば)京都新聞 2014年4月15日.

矢守克也「地震時どうする？考えて 宿毛市咸陽小 京大教授が防災授業」 高知新聞 (2014年6月4日付).

矢守克也「地震感じたら高台へ／自責の念和らげる 『てんでんこ』の教え」 大分合同新聞 2014年3月9日.

矢守克也「地震の時にどっち選ぶ？」高知新聞 (2014年12月\*日).

矢守克也「地形と人文学の融合を」京都新聞 (2015年5月29日).

矢守克也「誰が助ける、山間部で苦悩」 毎日新聞 2014年4月5日.

矢守克也「第2の避難場所考えておく必要」朝日新聞 (2015年3月6日).

矢守克也「大野市の児童が災害時の対応の仕方をゲーム形式で学ぶ」福井放送 FBC・NNN ストレイトニュース (2014年5月21日).

矢守克也「大阪平野の断層鮮明：京大阿武山地震観測所が三次元映像化」 産経新聞 2014年3月12日.

矢守克也「大雨+地震＝？」(連載コラム：現代のことば) 京都新聞 (2014年6月18日付).

矢守克也「多賀城高 災害対応事例で検討」河北新報 (2014年10月23日).

矢守克也「想定リスク受け止め行動」産経新聞 (2015年1月12日).

矢守克也「想定にとらわれない避難を」NHK ニュース「こうち情報いちばん」(2015年10月14日).

矢守克也「成功事例/失敗事例」京都新聞 (2015年6月29日).

矢守克也「震災を伝えるために」ラジオ関西「時間です！林編集長」(2015年9月1日).

矢守克也「震災 20年次代へ 災の国 13 脅威と恩恵 表裏一体に」神戸新聞 (2015年1月14日).

矢守克也「震災 20年次代へ 災の国 11 防災を日常に取り込む」神戸新聞 (2015年1月12日).

矢守克也「震災 20年、関連フォーラム続々と 検証の機運高まる」 (神戸新聞 2014年10月28日).

矢守克也「神戸生まれの災害対応ゲーム」サンテレビ 震災 19年特別番組「忘れないあの日」(2014年1月17日).

矢守克也「神戸生まれの災害対応ゲーム」サンテレビニュースポート(2014年1月8日).

矢守克也「消防団員確保 県が応援制度」読売新聞 (2014年8月1日付).

矢守克也「小学校で大雨防災を学ぶ授業」 NHK 福井 ニュースザウルスふくい 2014年5月21日.

矢守克也「女性目線の減災宣言」毎日新聞(2015年7月17日).

矢守克也「書評：被災地デイズ」 神戸新聞 (2014年7月7日).

矢守克也「住民の交流で顔の見える関係」 長野県北部地震で地震調査委員会にまた疑問 一回り小さいは「想定外」 AERA No54, p75 (2014年12月8日).

矢守克也「車による避難で命を守る」 NHK おはよう日本 (2015年8月30日).



矢守克也「自慢の対策学んでね」毎日新聞（2014年12月17日）.

矢守克也「自助と共助両立を」高知新聞（2015年6月30日）.

矢守克也「時計の情報／地図の情報」（連載コラム：現代のことば）京都新聞（2014年8月20日付）.

矢守克也「山間部の小学校で防災学習会」NHKニュース「こうち情報いちばん」2014年7月3日放送.

矢守克也「堺市浜寺4校区津波避難訓練」NHKニューステラス関西（2015年3月5日）.

矢守克也「堺市浜寺4校区津波避難訓練」NHKおはよう関西（2015年3月6日）.

矢守克也「阪神・淡路大震災19年 救助が来ない巨大地震 その時あなたは」NHKスペシャル（2014年1月17日）.

矢守克也「災害前日」産経新聞 2014年1月22日.

矢守克也「災害時の対応ゲームで疑似体験」NHK関西のニュース（2014年12月23日）.

矢守克也「災害時の決断磨く ゲームに注目」朝日新聞（2014年1月20日）.

矢守克也「災害時の決断ゲームで演習 神戸発仙台高知の1000人 12月に開催ネットで結ぶ」神戸新聞（2014年6月3日付）.

矢守克也「災害時 正解なき二択」朝日新聞（2014年12月20日）.

矢守克也「災害の記憶のゆがみ」（連載コラム：現代のことば）京都新聞（2015年10月20日）.

矢守克也「災害と文明：世代を超え受け渡す防災文化を」聖教新聞（2014年7月10日付）.

矢守克也「黒潮町 津波避難 時間意識を」高知新聞（2015年4月5日）.

矢守克也「黒潮町 小中学校で防災の発表会」NHK高知「こうち情報いちばん」ほか 2014年1月29日.

矢守克也「広まれ てんでんこ」毎日新聞 2014年4月17日.

矢守克也「公営住宅活用を」朝日新聞（2014年10月20日）.

矢守克也「語ることが生きる力」神戸新聞（2014年12月26日）.

矢守克也「語り部 若い世代も」読売新聞（2014年12月18日）.

矢守克也「決壊止めた土のう積み」毎日新聞（2014年9月18日）.

矢守克也「訓練増やし助け合いを」高知新聞（2014年1月29日）.

矢守克也「京大防災研が公開講座」NHKニュースこうち情報いちばん（2014年8月29日）.

矢守克也「巨大地震にどう備えるか」NHK香川「かがわ防災ラジオ」（2015年6月20日）.

矢守克也「巨大災害に備える」NHK「ニュース845」2014年3月15日.

矢守克也「巨大災害 MEGA DISASTER II 日本に迫る脅威（第2集）大避難 ～命をつなぐシナリオ～」NHKスペシャル（2015年9月6日）.

矢守克也「危険情報楽しく学んで」京都新聞（2014年8月16日付）.

矢守克也「関西発いのちのラジオ：“巨大地震訓練” 試されるあなたの判断」 NHK ラジオ  
オ (2014年9月1日放送).

矢守克也「学校から地域『一体感』拡大」産経新聞 (2014年12月30日).

矢守克也「科学の扉：災害の風化」 朝日新聞 2014年3月10日.

矢守克也「映像 15 スペシャル：あの日からあしたへ～震災 20年・何が変わり何を変える  
のか」 MBS テレビ (2015年1月18日).

矢守克也「一人でも多くの命を救いたい～高校生が模索する究極の津波避難」 NHK 名古屋  
屋「ナビゲーション」(2015年7月17日).

矢守克也「伊予灘地震 住民7割が車避難」 NHK おはよう高知 2014年5月15日.

矢守克也「阿武山アースダイバー」NHK ラジオ「関西ラジオワイド」 2014年1月30日  
放送.

矢守克也「阿武山アースダイバー」(連載コラム：現代のことば) 京都新聞 2014年2月  
20日.

矢守克也「リスク直視 減災へ備え」読売新聞 (2015年1月12日).

矢守克也「リアルな訓練 高まれ防災力」産経新聞 (2014年11月8日).

矢守克也「ラジオ防災特番：南海地震に備えちよき」 NHK 高知放送局 (2015年2月27  
日).

矢守克也「ラジオ特集：阪神・淡路大震災から20年 あの日を伝える新しいカタチ」 NHK  
ラジオ第1放送 (全国) (2015年1月17日).

矢守克也「てんでんこの知恵生かせ：京大矢守教授が提唱する4つの意味」 京都新聞  
2014年3月10日.

矢守克也「てんでんこに4つの意味 京大・矢守教授 多面的解釈を提唱」高知新聞 2014  
年3月2日.

矢守克也「てんでんこ4つの意味 京大教授が提唱」 デーリー東北 2014年3月2日.

矢守克也「てんでんこ4つの意味 ツナミに続く国際語に」 秋田さきがけ 2014年3月  
7日.

矢守克也「てんでんこ、四つの意味」 岐阜新聞 2014年3月11日.

矢守克也「つなごう！1・17希望のバトン～20年の思いを『ひょうご』から～」 午  
前9時から12時 ラジオ関西 (2015年1月16日).

矢守克也「シリーズ巨大災害に備える(1)～子どもを防災の担い手に」 NHK おはよう関西  
(2015年8月31日).

矢守克也「コーヒー・山菜・カツオ缶詰」(連載コラム：現代のことば)京都新聞 (2014年  
10月16日).

矢守克也「ゲストコメント」ラジオ関西「時間です！ 林編集長」(2015年8月11日).

矢守克也「ゲストコメント」 ラジオ関西「時間です！ 林編集長」(2015年7月15日).

矢守克也「ゲストコメント」 ラジオ関西「時間です！ 林編集長」(2015年6月16日).

矢守克也「ゲームで災害訓練 決断をシミュレーション：京大防災研・矢守教授ら考案」 読売新聞 (2015年3月5日).

矢守克也「ゲームで学ぶ 1000人規模の防災イベント」 サンテレビニュース (2014年12月23日).

矢守克也「ゲームで学ぶ 1000人規模の防災イベント」 サンテレビ NEWS PORT (2014年12月23日).

矢守克也「いのちを守る物語：アニメで学ぶ"災害を生き抜くチカラ"」 NHKE テレ「シサイミライ学校」 (2014年9月13日).

矢守克也「いつか来る日のために～証言記録スペシャル 命を守る避難とは～ NHK 総合テレビ (2015年3月7日、同11日再放送).

矢守克也「イエス？ノー？ 分かれ道を議論 経験基にゲーム化」 毎日新聞 (2014年9月1日付).

矢守克也「あれから10年、20年」 NHK ラジオ防災こらむ 2014年5月29日放送.

矢守克也「あなたはいつ地震に遭う？」朝日新聞 (2015年7月4日).

矢守克也「YES・NOの間防災のヒントが」 朝日新聞 (2014年6月25日).

矢守克也「NHKラジオ特集：南海トラフ巨大地震 命を守るために」 NHK ラジオ (2015年9月1日).

矢守克也「BK ぼうさい未来フェア」 NHK ラジオワイド 2014年3月28日放送.

矢守克也「3月の伊予灘地震、住民大部分が「車避難」 事前調査で「徒歩」回答も… 京都大防災研調査」 2014.5.10 産経新聞 (夕刊).

矢守克也「2つの短歌に見る巨大想定を受けとめ」NHK ラジオ防災こらむ 2014年3月27日放送.

矢守克也「2860校 津波浸水の恐れ」読売新聞 (2014年10月29日).

矢守克也「1.16/3.10 日常を見つめ」 産経新聞 2014年3月11日.

矢守克也「1・16と1・17」(連載コラム：現代のことば) 京都新聞 (2015年1月16日).

矢守克也「【広島土砂災害の記憶】矢守克也教授の目」 大分合同新聞 (2015年8月23日).

矢守克也「『想定外』こそ防災力向上の鍵」 河北新聞 2014年4月11日.

矢守克也「『居合わせた人々』で助け合う」産経新聞 2014年2月18日.

矢守克也「“突然の大災害” その時あなたは？」 NHK ニュースウォッチ9 (2014年12月23日).

矢守克也『明日へ 支えあおう 復興サポート> ～防潮堤から考えるまちづくり 岩手・大槌町～』NHK 総合 2014年2月16日.

矢守克也 「想定にとらわれない避難を」 NHK おはよう日本 (2015年10月11日).

### 5.3 公的な委員会等

千木良雅弘, 京都市行財政局 京都市災害時アドバイザー, 2014年4月01日～2015年3月

31日.

千木良雅弘, 深地層の研究施設計画検討委員会 委員, 2014年6月02日~2015年3月31日.

千木良雅弘, 東通原子力発電所敷地内断層評価検討委員会 委員, 2014年6月14日~2015年3月31日.

千木良雅弘, 大阪府土砂災害対策審議会 委員, 2014年8月22日~2016年3月31日.

千木良雅弘, 京都市防災会議 専門委員, 2014年9月01日~2017年3月31日.

千木良雅弘, 日本学術会議高レベル廃棄物の処理に関するフォローアップ検討委員会 連携会員, 2014年12月02日~2015年5月31日.

千木良雅弘, 鉄道技術研究所戦略的イノベーション創造プログラム関連課題「局地的短時間強雨による災害に関する減災技術」の開発における技術指導など 研究協力者, 2015年2月02日~2016年3月31日.

千木良雅弘, 京都市災害時アドバイザー アドバイザー, 2015年4月01日~2016年3月31日.

千木良雅弘, 深地層の研究施設計画検討委員会, 2015年7月30日~2016年3月31日.

藤井基貴, 文部科学省「中央教育審議会・初等中等教育分科会」専門委員, 2011年~.

藤井基貴, 静岡県教育委員会「道徳教育推進協議会」会長, 2009年度~.

藤井基貴, 白川町教育委員会「外部評価委員会」委員, 2011年度~.

古橋裕子, 科学研究費委員会委員(奨励研究部会生物系小委員会), 科学研究費奨励研究書面審, 2014年12月~2016年2月.

秦康範, 山梨県総合評価委員会, 委員, 2013年4月~.

秦康範, 第3次長野県地震被害想定策定検討委員会, 委員, 2013年5月~2015年3月.

秦康範, 内閣官房情報セキュリティセンター「分野横断的演習検討会」, 委員, 2014年6月~2015年3月, 2015年6月~2016年3月.

秦康範, 東京消防庁「地震火災時における消防力を考慮した被害軽減対策に関する調査研究委員会」, 委員, 2014年6月~2015年3月.

秦康範, 昭和町教育委員会, 学校防災アドバイザー, 2014年7月~2015年3月.

秦康範, 山梨市教育委員会, 学校防災アドバイザー, 2014年7月~2015年3月.

秦康範, 内閣府「大規模地震時の電気火災の発生抑制に関する検討会」, 委員, 2014年9月~2015年3月.

秦康範, 長野県防災会議, 委員, 2014年12月~2016年11月30日.

秦康範, 神奈川県「地震防災戦略策定検討委員会」委員, 2015年5月~2016年3月.

秦康範, 損害保険料率算出機構「災害科学研究会火災部会」, 委員, 2015年5月~2017年4月.

秦康範, 甲斐市教育委員会, 学校防災アドバイザー, 2015年7月~2016年3月.

秦康範, 国土交通省千曲川河川事務所「千曲川・犀川流域を対象としたタイムライン検討

会委員」, 委員, 2015年10月~2016年3月.

原田賢治, 駿河海岸保全検討委員会, 委員, 国土交通省中部地方整備局静岡河川事務所, 2016/3/7-2018/3/31.

原田賢治, 伊豆市津波防災地域づくり推進協議会, 副会長, 伊豆市, 2016/2/10-2017/3/31.

原田賢治, 静岡県津波災害警戒区域指定検討委員会, 委員, 静岡県, 2015.9-2016.3.

原田賢治, 静岡県海岸保全基本計画検討委員会, 委員, 静岡県, 2015.9-2016.3.

原田賢治, 静岡市津波防災地域づくり推進協議会, 委員, 静岡市, 2015.7.29-2017.3.31.

原田賢治, 静岡県社会資本整備重点計画・推進会議, 委員, 静岡県, 2015.4.1-2017.3.31.

原田賢治, 馬込川河口津波対策技術検討委員会, 委員, 静岡県浜松土木事務所, 2015.2-2016.3.

原田賢治, 袋井市津波防災地域づくり推進計画策定協議会, 委員, 袋井市, 2015.2.9-2016.3.

原田賢治, 磐田市津波防災地域づくり計画策定協議会, 委員, 磐田市, 2014.11-2015.3.

原田賢治, 静岡県学校防災アドバイザー事業, アドバイザー, 静岡県, 2014.10-2015.3.

原田賢治, 焼津市都市計画マスタープラン検討会, 委員, 焼津市, 2014.6-2016.3.

原田賢治, 静岡県防災・原子力学術会議津波対策分科会, 委員, 静岡県, 2013.4-2016.3.

原田賢治, 静岡県津波災害警戒区域指定検討委員会, 委員, 静岡県, 2013-2015.3.

林能成, 国立台湾大学, 訪問学者, 2015.

林能成, 静岡大学総合科学技術研究科, 非常勤講師, 2015.

林能成, 日本金属プレス工業協会, 安全環境委員会, 委員, 2013-.

林能成, 中部電力 原子力安全技術研究所 アドバイザリ・コミッティ 委員, 2013-.

本間基寛, 社会システム改革と研究課発の一体的推進「気候変動に伴う極端気象に強い都市創り」監視・予測技術ワーキンググループ委員, 2013年10月1日~2015年3月31日.

本間基寛, 京都市消防局防災行動マニュアルについての検討会議 オブザーバー, 2014年6月10日~2015年3月31日.

本間基寛, 特定非営利活動法人防災のことば研究会 理事, 2015年4月1日~現在.

池田恵子, JICA「ジェンダー・多様性からの災害リスク削減」国内支援委員会 委員, 2015年9月 - 2017年8月.

池田恵子, 静岡県男女共同参画会議 委員, 2015年12月 - 2017年12月.

池田恵子, 静岡市男女共同参画審議会 委員, 2015年6月 - 2017年5月.

池田恵子, 静岡県スーパーグローバルハイスクール運営指導委員会 委員, 2014年4月 - 2016年3月.

池田恵子, 日本学術会議 東日本大震災復興支援委員会産業振興・就業支援分科会 特別連携委員, 2013年10月 - 2015年3月.

池田恵子, 静岡県湖西市男女共同参画懇話会 委員長, 2013年6月 - 2015年3月.

池田恵子, 静岡県掛川市防災会議 委員, 2013年2月 - 2016年3月.

池田恵子, 静岡県ふじのくに男女共同参画防災ネットワーク会議 アドバイザー, 2012年

1月 - 2017年3月.

今泉文寿, 地震時斜面変動発生危険地域調査要領案の試行調査に関する有識者意見聴取会議委員 (2014年12月~).

今泉文寿, 安倍川総合土砂管理計画フォローアップ作業部会委員 (2014年10月~).

伊藤 潔・地球環境産業技術研究機構 (RITE) 研究推進委員会委員, H26年度~H27年度.

岩松 暉, 公益社団法人鹿児島県地質調査業協会理事, ~現在.

岩松 暉, 特定非営利活動法人地質情報整備・活用機構顧問, ~現在.

岩松 暉, 霧島ジオパーク推進協議会顧問, ~現在.

岩松 暉, 桜島・錦江湾ジオパーク推進協議会学術顧問, ~現在.

岩田孝仁: 戦略的イノベーション創造プログラム (sip2014) 「レジリエントな防災・減災機能の強化」プログラム会議 (内閣府) 委員, 2014~2018 (予定).

岩田孝仁: 火山防災エキスパート (内閣府), 2009~.

岩田孝仁: 防災スペシャリスト検討委員会 (内閣府) 委員, 2013~.

岩田孝仁: 静岡市津波防災地域づくり推進協議会 (静岡市) 委員長 2015~2016.

岩田孝仁: 国難に対処できる危機管理組織に関する研究会 (人と防災未来センター) 委員, 2015~.

岩田孝仁: 人と防災未来センター事業評価委員会 (人と防災未来センター) 委員, 2014~.

岩田孝仁: 東海地震に備えた災害ボランティアネットワーク委員会 (静岡県ボランティア協会) 委員, 2015~.

岩田孝仁: 安倍川治水に関する意見交換会 (静岡市), アドバイザー, 2015.

岩田孝仁: 平成 25 年伊豆大島土砂災害第三者調査委員会 (大島町), 委員, 2015.

岩田孝仁: 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催都市セキュリティ検討委員会 (東京都), 専門アドバイザー (災害対策), 2015~.

岩田孝仁: 静岡県災害ボランティア活動ファンド運営委員会 委員長, 2015~.

狩野謙一, 静岡県環境審議会委員, 2008.4~現在.

狩野謙一, 同温泉部会副部長, 2008.4~現在.

狩野謙一, 同自然公園部会委員, 2008.4~現在.

狩野謙一, 静岡市環境影響評価専門家会議委員 2013.9~2015.3.

狩野謙一, 南アルプスジオパーク登録検討委員会委員 2013.8~現在.

狩野謙一, 伊豆市・伊豆の国市広域一般廃棄物処理施設建設候補地選定委員会委員 2013.12~2014.7.

狩野謙一, 南伊豆町 地熱資源利活用検討委員会委員, 2014.11~2016.3.

狩野謙一, 伊豆半島ジオガイド認定試験 (南伊豆・西伊豆エリア) 審査員 2014.12.

笠原順三, JOGMEC 「メタンハイドレート海洋産出試験事前掘削作業に係る環境影響評価有識者会議」委員, 2014.

笠原順三, 大水深海底鉱山保安対策調査「大水深海底環境影響検討調査委員会」委員長,

2014年.

風間聡, 最上川水系流域委員会委員長.

風間聡, 最上川水系流域委員会専門小委員会委員長.

風間聡, 東北地方整備局最上川堤防調査委員会委員長.

風間聡, 東北地方整備局赤川堤防調査委員会委員長.

風間聡, 林業地域におけるマイクロ水力発電活用方策の検討に関する研究評価委員会委員長.

風間聡, アセアン工学系高等教育ネットワークプロジェクト・フェーズ3国内支援委員会委員.

木村浩之, 日本地球掘削科学コンソーシアム(J-DESC)活動強化委員会委員, 2014年9月~2015年3月.

小山真人, 伊東市史編さん委員会編集委員, 2000年4月~.

小山真人, 中部圏開発整備地方協議会委員, 2009年10月~.

小山真人, 伊豆半島ジオパーク推進協議会顧問, 2011年4月~.

小山真人, 火山噴火予知連絡会伊豆部会委員, 2011年12月~.

小山真人, 伊豆東部火山群防災協議会委員, 2012年3月~.

小山真人, 静岡県防災・原子力学術会議, 地震・火山対策分科会委員, 2012年5月~.

小山真人, 富士山火山防災対策協議会委員, 2012年6月~.

小山真人, 静岡県史編さん特別調査委員, 2014年2月~.

小山真人, 静岡県「富士山おしやれヘルメット」選定委員, 2015年7月のみ.

前田恭伸, 一般社団法人浜松公園緑地協会評議員, 2013年4月~.

前田恭伸, 静岡県立朝霧野外活動センター指定管理者候補者選定委員会, 2014年4月~2015年3月.

前田恭伸, 平成27年度静岡県三ヶ日青年の家指定管理者外部評価委員会, 2015年4月~2016年3月.

三井 雄太, 地球惑星科学連合代議員, 2014年度-2015年度.

森下祐一, 独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構湿式製錬技術開発委員会委員, 2015年度(継続中).

森下祐一, 国土交通省静岡国道事務所建設発生土処理対策会議委員, 2015年度(継続中).

村越真, 東京都自然公園利用検討委員会委員, 平成26年度.

村越真, 静岡市消防学校安全検討委員会委員長, 平成26年度.

村越真, 静岡県いじめ問題連絡協議会委員, 平成26年度~現在.

村越真, 環境省自然公園等事業における事業評価便益改善に係る検討委員会, 平成27年度.

村越真, 環境省トレイルラン大会モニタリング手法検討会議, 平成27年度.

村越真, 静岡市スポーツ振興審議会(会長), 平成24年度~現在.

中川和之, 文部科学省「国立研究開発法人審議会」委員, 2015~継続中.

中川和之,月山ジオパーク推進協議会「アドバイザー」,2015～継続中.

中川和之,総合科学技術会議 戦略的イノベーション創造プログラム(S I P)「レジリエントな防災・減災機能の強化」プログラム会議委員,2014～継続中.

中川和之,「防災教育普及協会」理事,2014～継続中.

中川和之,月山ジオパーク推進協議会「設立準備会アドバイザー」,2014.

中川和之,日本財団特別基金「人材育成プログラム策定委員会」委員,2014.

中川和之,文部科学省「文部科学省独立行政法人評価委員会」委員,2014.

中川和之,総務省消防庁「消防力の整備指針及び消防水利の基準に関する検討会」委員,2013-2014.

中川和之,「第4回アジア太平洋ジオパークネットワークシンポジウム(APGN)組織委員会」委員,2013-2014.

中川和之,国立研究開発法人海洋研究開発機構 文部科学省委託研究「南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト」運営委員会委員,2013～継続中.

中川和之,宮城県「みやぎ景観アドバイザー」,2013～継続中.

中川和之,京都府「危機管理アドバイザー」,2009～継続中.

中川和之,「日本ジオパーク委員会」委員,2008～継続中.

中川和之,「東海地震等に備えた災害ボランティアネットワーク委員会」委員,2008～継続中.

中川和之,気象庁「気象業務の評価に関する懇談会」委員,2007～継続中.

中川和之,国立研究開発法人建築研究所国際地震工学センター「国際地震工学研修・普及会議」委員,2007～継続中.

中川和之,内閣府「防災教育チャレンジプラン」実行委員会委員,2007～継続中.

野津憲治,科学研究費委員会専門委員(日本学術振興会)2012.1.1～2014.12.31.

佐藤健,文部科学省指定研究開発学校運営指導委員,委員長,2015-2016.

佐藤健,石巻市学校防災推進会議,委員長,2015-2016.

佐藤健,大崎市みやぎ防災教育推進協力校事業,大崎市防災教育アドバイザー,2015-2016.

佐藤健,震災対策技術展第6回「震災対策技術展」宮城実行委員会,委員,2015.

佐藤健,内閣府防災教育チャレンジプラン実行委員会,委員,2015-2016.

佐藤健,松島自然の家再建に係る懇話会,委員,2015-2016.

佐藤健,新防災教育副読本有識者会議,編集アドバイザー,2015-2016.

佐藤健,平成27年度「防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業」推進委員会,委員,2015-2016.

佐藤健,仙台市地域防災リーダー養成事業次期計画研究会,研究委員,2015-2016.

佐藤健,災害に強いコミュニティのための市民フォーラム実行委員会,実行委員,2015-2016.

佐藤健,教育出版株式会社編集委員会,編集委員,2015-2016.



佐藤健, NPO 法人防災白熱アカデミィ, 理事, 2014-2016.

佐藤健, みやぎ防災・減災円卓会議, 委員, 2014-2015.

佐藤健, 大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター共同研究員, 2015-2016.

土屋 智, 土砂災害時の救助活動のあり方に関する検討会(消防庁)委員, 2014-2015年.

土屋 智, 浜松市廃棄物処理施設設置等調整委員, 2014-2017年.

土屋 智, 浜松市原田橋関連技術検討会技術検討会座長, 2015年.

土屋 智, 静岡県森林審議会委員, 2014-2015年.

牛山素行, 岩手河川国道事務所, 災害情報協議会, 委員(アドバイザー), 2005年7月～.

牛山素行, 国土交通省中部地方整備局, 東海・東南海・南海地震対策中部圏戦略会議, 委員, 2011年10月～.

牛山素行, 静岡県下田市, まちづくり懇話会, 委員, 2013年2月～2016年3月.

牛山素行, 静岡県浜松市, 再生可能エネルギー等導入推進基金事業, 外部専門家, 2013年10月～2016年3月.

牛山素行, 内閣府, 防災スペシャリスト養成研修企画検討会, 委員, 2013年10月～.

牛山素行, 国土交通省, 土砂災害対策の強化に向けた検討会, 委員, 2013年12月～2015年3月.

牛山素行, 静岡県, 津波災害警戒区域指定検討委員会, 委員, 2013年12月～2016年3月.

牛山素行, 国土交通省東北地方整備局, 岩手県における復興祈念公園基本計画検討調査有識者委員会, 委員, 2014年8月～2015年3月.

牛山素行, 広島市, 8.20 豪雨災害における避難対策等検証会, 委員, 2014年9月～2015年.

牛山素行, 静岡県牧之原市, 牧之原市命を守る防潮堤検討会, 委員, 2014年9月～2015年.

牛山素行, 広島県, 広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動検討委員会, 委員長, 2014年10月～2015年3月.

牛山素行, 消防庁, 突発的局地的豪雨による土砂災害時における防災情報の伝達のあり方に関する検討会, 委員, 2014年10月～2015年3月.

牛山素行, 内閣府, 総合的な土砂災害対策検討ワーキンググループ, 委員, 2014年11月～2015年8月.

牛山素行, 内閣府, 防災研修コーディネーター, 2014年12月～.

牛山素行, 袋井市, 津波防災地域づくり推進計画策定協議会, 委員長, 2015年2月～2016年3月.

牛山素行, 静岡県, 太田川・原野谷川事前防災行動計画(タイムライン)検討会, 委員長, 2015年10月～2017年3月.

牛山素行, 気象庁, 地方公共団体の防災対策における気象情報利活用検討会, 委員長, 2016年2月～2017年3月.

牛山素行,静岡県,津波防災地域づくり推進アドバイザー, 2016年2月~2017年3月.

牛山素行,陸前高田市,陸前高田市防災会議, 委員, 2016年2月~2018年3月.

渡辺俊樹, 東京大学地震研究所 地震・火山噴火予知研究協議会企画部, 副部長・部長, 2014年4月~2016年3月.

渡辺俊樹, 東京大学地震研究所 地震・火山噴火予知研究協議会研究戦略室員, 2014年4月~現在.

渡辺俊樹, 防災科学技術研究所 日本海溝海底地震津波観測網の整備に関する運営委員会, 2015年4月~2016年3月.

渡辺俊樹, 石油天然ガス・金属鉱物資源機構 技術ソリューション事業技術評価部会, 委員, 2014年4月~現在.

渡辺俊樹, 地震予知総合研究振興会東濃地震科学研究所 地殻活動研究委員会, 委員, ~現在.

矢守克也, 滋賀県地域防災計画の見直しにかかる検討委員会委員 (2011年~現在).

矢守克也, 愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査「教育・啓発合同ワーキンググループ」委員 (2011年~現在).

矢守克也, 大阪府防災会議専門委員 (2012年10月~現在).

矢守克也, 京都府実践的防災教育総合支援事業推進委員会委員 (2013年2月~現在).

矢守克也, 文部科学省地震調査研究推進本部専門委員 (2013年3月~現在).

矢守克也, 文部科学省学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議「災害に強い学校施設づくり検討部会」委員 (2013年3月~2015年3月).

矢守克也, 高知県防災関連製品認定審査会審査委員 (2013年5月~2015年3月現在).

矢守克也, 長野県地震被害想定策定検討委員会委員 (2013年5月~現在).

矢守克也, 人と防災未来センター将来像検討委員会委員 (2013年5月~現在).

矢守克也, 宮城県教育委員会宮城県防災専門教育アドバイザー (2013年6月~現在).

矢守克也, 大阪府都市計画審議会委員 (2013年10月~現在).

矢守克也, 高知県南海トラフ地震における応急期対策のあり方懇談会委員 (2013年11月~2015年3月).

矢守克也, 独立行政法人防災科学技術研究所地震津波観測研究検討委員会委員 (2014年9月~現在).

矢守克也, 内閣府避難所の確保と質の向上に関する検討会委員(座長) (2015年9月~現在).

矢守克也, 堺市避難判断マニュアル更新に関する意見聴取会委員 (座長) (2015年1月~現在).

矢守克也, 内閣府 SIP プログラム (レジリエントな防災・減災機能の強化) 課題①「津波被害軽減のための基盤的研究に関する運営委員会」委員 (2014年10月~).

矢守克也, 内閣府 SIP プログラム (レジリエントな防災・減災機能の強化) 課題⑦「地域連

携による地域災害対応アプリケーション技術の研究開発」運営委員会委員（2014年10月～）。

#### 5.4 学会活動

千木良雅弘，地球惑星科学委員会 IGU 分科会 IAG 小委員会 委員，2014年11月21日～2017年9月30日。

千木良雅弘，日本地形学連合 委員，2015年4月01日～2017年3月31日。

藤井基貴，中部教育学会，理事。

秦康範，地域安全学会学術委員会，委員，2009年5月～。

秦康範，日本災害情報学会企画委員会，委員，2009年10月～。

秦康範，日本災害情報学会編集委員会，委員，2011年10月～。

秦康範，地域安全学会，理事，2014年5月～。

原田賢治，土木学会海岸工学委員会，津波作用に関する研究レビューおよび活用研究小委員会，WG1 主査，2015/7-2018/6。

原田賢治，土木学会海岸工学委員会・土木計画学委員会，減災アセスメント研究小委員会，委員，2015/7-2018/6。

原田賢治，土木学会地震工学委員会，水循環施設の合理的な災害対策研究小委員会，WG5 主査，2015/4-2017/3。

原田賢治，土木学会地震工学委員会，水循環ネットワーク災害軽減対策研究小委員会，WG5 主査，2014/5-2015/3。

原田賢治，土木学会地震工学委員会，論文編集委員，2014～。

原田賢治，土木学会地震工学委員会，運営幹事，委員，2013/4-2017/3。

林能成，公益社団法人日本地震学会，代議員，2006-。

林能成，公益社団法人日本地震学会，大会企画委員会委員，2014-2016。

林能成，公益社団法人日本地震学会，「地震」編集委員会委員，2014-。

林能成，歴史地震研究会，総務幹事，2015-。

本間基寛，日本自然災害学会 企画委員会委員，2015年4月1日～現在。

池田恵子，国際ジェンダー学会 会長 2015年9月～，同理事 2012年9月～2015年8月，同2014年度年次大会実行委員長 2014年9月6，7日。

生田領野，日本地震学会広報委員，2014年4月～2016年5月現在。

生田領野，日本地震学会広報紙なみふる編集長，2014年4月～2016年3月。

今泉文寿，日本地形学連合 総務幹事 2015年6月～。

今泉文寿，第5回中部森林学会大会実行委員 2015年4月・2016年3月。

今泉文寿，砂防学会 砂防学会 JABEE 等対応委員会委員 2014年7月～。

今泉文寿，砂防学会 総務部会幹事 2014年7月～。

今泉文寿，砂防学会 事業部会委員 2012年6月～。

今泉文寿, 砂防学会 砂防学会英文誌編集委員 2011年5月～.

岩松 暉, 九州応用地質学会顧問, ～現在.

岩松 暉, 一般社団法人日本応用地質学会名誉会員, ～現在.

岩松 暉, 公益社団法人東京地学協会伊能忠敬没後 200 年記念事業構想委員会委員, ～現在.

岩崎一孝: 日本地理学会, E-journal GEO 編集専門委員会, 2014年4月～2016年3月.

岩田孝仁: 日本災害情報学会, 監事, 廣井賞表彰委員会幹事, 2012/10～2015/09.

岩田孝仁: 日本災害情報学会, 理事, 予算委員長, 2015/10～.

岩田孝仁: 日本災害復興学会, 理事, 2014/06～.

岩田孝仁: 地域安全学会 理事 (1995/06 から 2015/05 まで).

風間聡, 水文・水資源学会出版編集委員会委員長委員長.

風間聡, 水文・水資源学会理事.

風間聡, 土木学会水工学委員会幹事.

風間聡, 土木学会水工学委員会水文部会長.

木村浩之, 静岡生命科学若手フォーラム会計委員, 2014年1月～2015年3月.

木村浩之, 第15回静岡ライフサイエンスシンポジウム実行委員, 2014年3月.

木村浩之, 環境微生物系学会合同大会 2014 実行委員, 2014年10月.

木村浩之, 日本微生物生態学会 2014 年度論文賞選考委員会委員長, 2014年1月～2014年12月.

木村浩之, 第16回静岡ライフサイエンスシンポジウム実行委員, 2015年4月.

木村浩之, 日本微生物生態学会 第16期評議員, 2015年1月～2016年3月.

木村浩之, 静岡生命科学若手フォーラム 副代表, 2015年4月～2016年3月.

木村浩之, 日本微生物生態学会誌 編集幹事, 2015年6月～2016年3月.

北村晃寿, 日本地球惑星科学連合環境災害対応委員会委員(2015～).

北村晃寿, 防災学術連携体 (日本古生物学会担当委員) (2015～).

小杉素子, 日本リスク研究学会誌編集委員, 2014年11月～現在.

小山真人, 日本地震学会普及行事委員, 2003年5月～2015年3月.

小山真人, 日本建築学会火山噴火対策テック・フォース委員, 2015年4月～2016年3月.

前田恭伸, 日本リスク研究学会副会長, 2014年6月～2016年6月.

前田恭伸, 日本リスク研究学会東日本大震災調査特別委員会委員長, 2011年6月～2016年3月.

前田恭伸, 日本リスク研究学会第28回全国大会実行委員会, 2015年11月.

森下祐一, 資源地質学会 評議員, 2015年度 (継続中).

森下祐一, Resource Geology 編集委員, 2015年度 (継続中).

村越真, 日本国際地図学会, 昭和63年10月－現在 (2005－ 評議員).

村越真, 日本野外教育学会, 平成19年4月－ 現在 (平成26年度より評議員).

村越真, 登山医学会, 平成 26 年度～ (評議員).

中川和之, 日本地震学会理事, 2014～継続中.

中川和之, 日本地震学会地震学を社会に伝える連絡会議委員, 2014～継続中.

中川和之, 日本地震学会広報委員会「ないふるメーリングリスト」世話人代表, 1999～継続中.

中川和之, 日本災害情報学会広報委員会副委員長, 2013～継続中.

中川和之, 日本災害情報学会広井賞委員会副委員長, 2015～継続中.

佐藤健, 日本安全教育学会, 常任理事, 2011 年～継続中.

佐藤健, 日本地震工学会, 編集委員会, 2012 年～継続中.

佐藤健, 日本建築学会, 代議員, 2015 年～継続中.

佐藤健, シェルと空間構造に関する国際会議 IASS2016 プレシンポジウムセミナー, 幹事, 2015 年～継続中.

土屋 智, (公社) 日本地すべり学会会長, 2014-2016 年.

土屋 智, (公社) 砂防学会理事, 2014-2015 年.

牛山素行, 日本自然災害学会, 編集委員会, 委員, 2005 年 5 月～.

牛山素行, 日本自然災害学会, 災害情報委員会, 委員長, 2008 年 4 月～.

牛山素行, 水文・水資源学会, 研究調整委員会, 委員, 2008 年 9 月～.

牛山素行, 日本災害情報学会, 学会誌編集委員会, 委員長, 2013 年 10 月～.

牛山素行, 日本自然災害学会, 理事, 2014 年 4 月～.

渡辺俊樹, (社) 物理探査学会 理事, 2012 年 5 月～現在.

渡辺俊樹, (社) 物理探査学会 企画開発委員会, 副委員長, 2014 年 5 月～現在.

矢守克也, 日本グループ・ダイナミックス学会, 常任理事 (2013 年 4 月～現在).

矢守克也, Asian Association of Social Psychology, Consulting Editor (2001 年 10 月～現在).

矢守克也, 自然災害学会, 理事 (2011 年 4 月～現在).

矢守克也, 自然災害学会, 「自然災害科学」編集委員会委員 (2003 年 4 月～現在).

矢守克也, 自然災害学会, 「Journal of Natural Disaster Science」編集委員 (2005 年 10 月～現在).

矢守克也, 自然災害学会, 災害情報委員会委員 (2009 年 4 月～現在).

矢守克也, 自然災害学会, 学会賞審査委員会委員 (2012 年 9 月～現在).

矢守克也, 日本質的心理学会, 常任理事 (2010 年 4 月～現在), 理事 (2004 年 3 月～現在).

矢守克也, 日本心理学会, 代議員 (2013 年 4 月～現在).

矢守克也, 日本シミュレーション&ゲーミング学会, 理事 (2007 年 4 月～現在).

矢守克也, 日本災害復興学会, 理事 (2011 年 1 月～現在), 総務委員会副委員長 (2013 年 3 月～現在).

矢守克也, 日本災害情報学会, 「災害情報」編集委員 (2009 年 10 月～現在).

矢守克也, 日本災害情報学会, 「廣井賞」選考委員会委員 (2009 年 10 月～現在).

矢守克也, 日本災害情報学会, 理事 (2013 年 10 月～現在).

矢守克也, **International Society of Integrated Disaster Risk Management** (国際総合防災学会), 理事 (2011 年 12 月～現在).

矢守克也, 地区防災計画学会, 副会長 (2014 年 6 月～現在), 広報・編集委員会委員長 (2014 年 10 月～現在).



防災総合センター年報 第4号

---

2016年7月発行

著者・発行者

静岡大学防災総合センター

〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836

電話：054-238-4502

E-mail：sbosai@sakuya.ed.shizuoka.ac.jp

URL：http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/sbosai/